

特別史跡

# 一乗谷朝倉氏遺跡発掘調査報告 18

第 60・67・100・106・109 次調査

2 0 2 0

福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館

## 序 文

特別史跡一乗谷朝倉氏遺跡の発掘調査事業は、昭和42年(1967)の諏訪館跡・湯殿跡・南陽時跡庭園の調査を皮切りに、現在も継続して行われており、昭和46年に山城を含む278haが特別史跡に、平成3年に4つの庭園が特別名勝に、平成19年に出土資料の2,343点が重要文化財に指定され、令和元年5月に一乗谷朝倉氏遺跡等が日本遺産に認定されました。半世紀を超える発掘調査で得られた多種多様な遺構・出土品は、戦国期の生活・文化の様子を明らかにしてきました。

本報告書は、第60・67・100・106・109次の調査成果をまとめたものです。第60次は諏訪館跡庭園と湯殿跡庭園に水を引き込む導水路を確認し、第67次は朝倉館跡外濠の規模を調べました。第100次は土塁に仕切られた武家屋敷群を発見し、第106次でも屋敷跡を確認しました。第109次は朝倉館跡の南西側を調査し、屋敷跡の状況は良くありませんでしたが、陶磁器やサザエの貝殻を廃棄した土坑が見つかり、当時の宴の風景を想起させてくれます。

本報告が、今後の戦国期の城下町の調査・研究を進めるにあたって、一助となれば幸いです。

最後になりましたが、正報告書の刊行が遅くなりましたことをお詫びするとともに、文化庁をはじめ関係機関、地元の皆様から多大なご支援とご協力をいただきましたことに対し、深く感謝申し上げます。

令和2年3月

福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館

館長 向出 宏二

## 例 言

- 1 本書は、福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館が、特別史跡一乗谷朝倉氏遺跡(福井県福井市)における計画的な発掘調査の結果を報告したものであり、第18冊目にあたる。発掘調査事業概要は「I. 事業概要」で報告する。
- 2 本書で報告する調査は、国庫補助事業として、福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館が昭和62年(1987)度から平成12年(2000)度までに実施したものである。各調査次の発掘調査期間、主な担当者は下記のとおりである。

|       |             |                |      |      |      |
|-------|-------------|----------------|------|------|------|
| 第60次  | 昭和62年(1987) | 12月8日～同年12月24日 | 吉岡泰英 | 水野和雄 | 月輪泰  |
| 第67次  | 平成元年(1989)  | 9月8日～同年10月7日   | 南洋一郎 |      |      |
|       | 平成2年(1990)  | 1月10日～同年1月11日  | 南洋一郎 |      |      |
| 第100次 | 平成9年(1997)  | 4月1日～同年12月21日  | 岩田隆  | 南洋一郎 | 佐藤圭  |
| 第106次 | 平成11年(1999) | 11月2日～同年12月1日  | 南洋一郎 | 佐藤圭  |      |
| 第109次 | 平成12年(2000) | 11月2日～同年12月20日 | 佐藤圭  | 水村伸行 | 宮永一美 |
- 3 本書を刊行するための出土遺物整理作業は、平成29年度から令和元年度まで福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館で実施した。
- 4 本書は、当時の発掘調査の記録類をもとに、鈴木篤英(福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館主任)が編集・作成を担当した。調査日誌の作成および記録類の再整理等については川越光洋(同館主任)が担当した。
- 5 本書掲載にした各次の発掘調査・整備事業概報(以下、概報と略す)やこれまでの成果発表の中で齟齬がある場合は、本書をもって訂正したものと了解されたい。
- 6 本書の遺構写真撮影は発掘調査担当者による。遺物写真撮影は鈴木が担当した。
- 7 写真図版・挿図・表の遺物番号は符合する。写真の縮尺は不同である。
- 8 本書における水平レベルの表示は海拔高(m)を示し、方位は座標北を用いた。ただし、各調査次の記録類に不備な点が少なくなく、標高や座標の数値が判明したものだけ記載した。挿図の方位は、国土平面直角座標第VI系を使用している。
- 9 本書で用いた遺構の略記号は次の通りである。

|    |        |    |      |    |     |    |      |    |        |    |      |    |      |    |         |    |      |    |        |
|----|--------|----|------|----|-----|----|------|----|--------|----|------|----|------|----|---------|----|------|----|--------|
| SA | : 土塁石垣 | SB | : 建物 | SD | : 溝 | SE | : 井戸 | SF | : 石積遺構 | SK | : 土坑 | SS | : 道路 | SV | : 石垣・石列 | SZ | : 暗渠 | SX | : 石敷遺構 |
|----|--------|----|------|----|-----|----|------|----|--------|----|------|----|------|----|---------|----|------|----|--------|
- 10 本書に掲載した遺物と、調査に際して作成した図面・写真は、一括して福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館に保管してある。
- 11 本書の作成にあたり、下記の方々、機関からご指導・ご教示をいただいた。

|      |      |      |      |                   |        |
|------|------|------|------|-------------------|--------|
| 岩田 隆 | 熊谷 透 | 田中祐二 | 藤田若菜 | 福井県教育庁埋蔵文化財調査センター | (五十音順) |
|------|------|------|------|-------------------|--------|
- 12 発掘調査では、地元・地権者の方々の参加・協力を得た。遺物整理作業は、福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館の整理作業員が行った。

# 目 次

|   |    |
|---|----|
| I. 事業概要                                 |    |
| 1. 調査の目的と経過                             | 1  |
| 2. 調査の方法および組織                           | 1  |
| 3. 本報告書作成年度における組織および経費                  | 3  |
| II. 調査の概要と経過                            |    |
| 1. 調査の概要                                | 5  |
| 2. 調査日誌                                 | 7  |
| III. 第 60 次調査【1 区諏訪館跡庭園導水路、2 区湯殿跡庭園導水路】 |    |
| 1. 1 区の遺構                               | 9  |
| 2. 1 区の遺物                               | 11 |
| 3. 2 区の遺構                               | 14 |
| IV. 第 67 次調査【朝倉館跡外濠 1～5 区】              |    |
| 1. 朝倉館跡外濠                               | 17 |
| 2. 館跡外濠 1 区                             | 18 |
| 3. 館跡外濠 2 区                             | 19 |
| 4. 館跡外濠 3 区                             | 20 |
| 5. 館跡外濠 4 区                             | 22 |
| 6. 館跡外濠 5 区                             | 23 |
| 7. 遺 物                                  | 24 |
| V. 第 100 次調査【城戸ノ内町字川合殿、藤兵衛川原】           |    |
| 1. 遺構の概要                                | 29 |
| 2. 武家屋敷 A 群                             | 32 |
| 3. 武家屋敷 B 群                             | 36 |
| 4. 武家屋敷 C 群                             | 39 |
| 5. 遺 物                                  | 42 |
| VI. 第 106 次調査【城戸ノ内町字瓜割流】                |    |
| 1. 遺 構                                  | 73 |
| 2. 遺 物                                  | 75 |
| VII. 第 109 次調査【城戸ノ内町字新御殿】               |    |
| 1. 遺 構                                  | 81 |
| 2. 遺 物                                  | 81 |
| VIII. ま と め                             | 99 |

## 写真図版目次

- PL. 1 第 60 次調査 諏訪館跡庭園  
(1) 第 60 次調査 1 区 諏訪館跡庭園下段(北東から)  
(2) 第 60 次調査 1 区 諏訪館跡庭園上段(東から)
- PL. 2 第 60 次調査 諏訪館跡庭園  
(1) 庭園上段導水路(北東から)  
(2) 庭園上段土塁石垣(西から)  
(3) 庭園上段導水路(北西から)  
(4) 庭園上段導水路(北西から)  
(5) 庭園上段導水路(南東から)  
(6) 庭園上段導水路(南東から)
- PL. 3 第 60 次調査 湯殿跡庭園  
(1) 第 60 次調査 2 区 湯殿跡庭園(南から)  
(2) 第 60 次調査 2 区 遺構全景(北東から)
- PL. 4 第 60 次調査 湯殿跡庭園  
(1) 庭園導水路(北から)  
(2) 庭園導水路(北東から)  
(3) 庭園導水路(北東から)  
(4) 庭園導水口手前屈曲部(東から)  
(5) 庭園導水口(北東から)
- PL. 5 第 67 次調査 朝倉館跡外濠  
(1) 第 67 次調査区 朝倉館跡外濠遠景(北西から)  
(2) 館跡外濠 1 区(南東から)  
(3) 館跡外濠 1 区(南東から)
- PL. 6 第 67 次調査 朝倉館跡外濠  
(1) 館跡外濠 2 区(北東から)  
(2) 館跡外濠 3 区石垣(北東から)  
(3) 館跡外濠 4 区(東から)  
(4) 館跡外濠 4 区石垣(南西から)  
(5) 館跡外濠 4 区出土笏谷石(南から)  
(6) 館跡外濠 5 区唐門前石垣(北西から)  
(7) 館跡外濠 5 区唐門前石垣(北から)
- PL. 7 第 100 次調査 城戸ノ内町字川合殿・藤兵衛川原  
(1) 第 100 次調査区遠景(北東から)  
(2) 第 100 次調査区遺構全景(南東から)
- PL. 8 第 100 次調査 城戸ノ内町字川合殿・藤兵衛川原  
武家屋敷 A 群  
(1) 第 100 次調査区東側遺構全景(北東から)  
(2) 第 100 次調査区西側遺構全景(北東から)
- PL. 9 第 100 次調査 城戸ノ内町字川合殿・藤兵衛川原  
武家屋敷 A 群  
(1) SB4634(南西から)  
(2) 武家屋敷 A 群北端遺構全景(南東から)  
(3) 武家屋敷 A 群北東隅遺構全景(南西から)  
(4) 武家屋敷 A 群南東側遺構全景(北西から)  
(5) SD4644、SS4684、SX4692(南東から)  
(6) SE4684(南東から)  
(7) 東側土塁石垣 SA4632(南西から)
- PL. 10 第 100 次調査 城戸ノ内町字川合殿・藤兵衛川原  
武家屋敷 A 群  
(1) 北側土塁石垣 SA4631(南東から)  
(2) 南側土塁石垣 SA4633(南東から)  
(3) 東側土塁石垣 SA4632 内 SI4668(北西から)
- PL. 11 第 100 次調査 城戸ノ内町字川合殿・藤兵衛川原  
武家屋敷 A 群  
(1) 東側土塁石垣 SA4632、SD1439(北西から)  
(2) SD1439(南東から)  
(3) SF4652(南西から)  
(4) SF4653(南東から)  
(5) SF4654・4656(南東から)  
(6) SE4651、SF4657(南西から)  
(7) SS1425、SD1439、SE1455・4651、SF4657(北東から)
- PL. 12 第 100 次調査 城戸ノ内町字川合殿・藤兵衛川原  
武家屋敷 A 群  
(1) 東側土塁石垣 SA4632、下層遺構 SF4662・1474(南から)  
(2) 東側土塁石垣 SA4632、下層遺構 SF4663(南西から)  
(3) SF4658～4661(南から)  
(4) 東側土塁石垣 SA4632、下層遺構 SF4663・1475(南東から)
- PL. 13 第 100 次調査 城戸ノ内町字川合殿・藤兵衛川原  
武家屋敷 B 群  
(1) 武家屋敷 B 群遺構全景(北東から)  
(2) 武家屋敷 B 群遺構全景(南西から)
- PL. 14 第 100 次調査 城戸ノ内町字川合殿・藤兵衛川原  
武家屋敷 B 群  
(1) SB4635、SX4697(南東から)  
(2) SB4634、SX4699(南東から)
- PL. 15 第 100 次調査 城戸ノ内町字川合殿・藤兵衛川原  
武家屋敷 B 群  
(1) SB4637、SE4649(南東から)  
(2) SB4637、SF4666、SX4708(北東から)  
(3) SK4672(東から)  
(4) SF4666(北東から)  
(5) SE4649(南東から)

- PL. 16 第100次調査 城戸ノ内町字川合殿・藤兵衛川原  
武家屋敷C群  
(1)武家屋敷C群遺構全景(南西から)  
(2)SE4650(南東から)  
(3)SX4707(南東から)  
(4)SX4706(南東から)
- PL. 17 第106次調査 城戸ノ内町字瓜割流  
(1)第106次調査区遺構全景(北西から)  
(2)調査区遺構全景(南から)  
(3)調査区北東隅遺構全景(西から)  
(4)調査区南西隅遺構全景(西から)
- PL. 18 第109次調査 城戸ノ内町字新御殿  
(1)第109次調査区遺構遠景(南西から)  
(2)第109次調査区遺構全景(南東から)
- PL. 19 第109次調査 城戸ノ内町字新御殿  
(1)第109次調査区遺構遠景(北西から)  
(2)SA4952(南西から)  
(3)調査区南西側遺構全景(南東から)  
(4)SI4953(南東から)  
(5)SA4954(南東から)  
(6)SX4958(北東から)  
(7)SX4959(北東から)
- PL. 20 第109次調査 城戸ノ内町字新御殿  
(1)SX4956・4957(北東から)  
(2)SA4960(西から)  
(3)SF4961(北東から)  
(4)SF4962(北東から)  
(5)SF4963(南東から)  
(6)SK4967(北西から)  
(7)SE4955(南東から)
- PL. 21 第60・67次調査 出土遺物  
(1)第60次調査出土陶磁器類、石製品  
(2)第67次調査出土陶磁器類、石製品
- PL. 22 第67次調査 出土遺物  
(1)第67次調査出土木製品
- PL. 23 第100次調査 武家屋敷A群出土遺物  
(1)武家屋敷A群包含層出土陶磁器類
- PL. 24 第100次調査 武家屋敷A群出土遺物  
(1)SA4631 出土越前焼播鉢他  
(2)SA4632 出土陶磁器類  
(3)SF4653・4658 出土陶磁器類  
(4)SS4684 出土土師器小皿  
(5)SK4669 出土越前焼大甕・壺・捏鉢
- PL. 25 第100次調査 武家屋敷A・B群出土遺物  
(1)SF4660 出土越前焼播鉢  
(2)SK4683 出土越前焼大甕  
(3)SK4678 出土陶磁器類  
(4)武家屋敷B群 SF4649 出土越前焼播鉢  
(5)武家屋敷B群 SK4672 出土陶磁器類
- PL. 26 第100次調査 武家屋敷A・B群出土遺物  
(1)SE4646 出土青磁輪花皿  
(2)SD4644 出土土師器小皿  
(3)SD4642 出土青磁盤・皿、白磁碗・皿、中国製天目碗  
(4)SX4692 出土土師器小皿・4695 出土朝鮮白磁碗  
(5)武家屋敷B群包含層出土越前焼鉢類  
(6)武家屋敷B群包含層出土土師器小皿
- PL. 27 第100次調査 武家屋敷B群出土遺物  
(1)武家屋敷B群包含層出土陶磁器類
- PL. 28 第100次調査 武家屋敷B群出土遺物  
(1)武家屋敷B群包含層出土陶磁器類  
(2)SB4635 出土越前焼大甕、白磁皿、染付皿  
(3)SA4632 出土染付皿  
(4)SF4663 出土土師器小皿  
(5)SF4664 出土陶磁器類  
(6)SK4671 出土灰釉小皿
- PL. 29 第100次調査 武家屋敷B群出土遺物  
(1)SK4672 出土越前焼大甕
- PL. 30 第100次調査 武家屋敷B・C群出土遺物、  
その他遺物  
(1)SK4672 出土越前焼大甕  
(2)224 押印文  
(3)SK4672 出土越前焼壺、武家屋敷C群出土陶磁器類・土製品  
(4)第100次調査出土金属器  
(5)第100次調査出土勾玉  
(6)第100次調査出土石製品
- PL. 31 第106次調査 出土遺物  
(1)第106次調査出土陶磁器類  
(2)第106次調査出土金属器  
(3)第106次調査出土石製品
- PL. 32 第109次調査 出土遺物  
(1)包含層出土陶磁器類
- PL. 33 第109次調査 出土遺物  
(1)SK4967 出土越前焼甕・鉢類・土師器小皿
- PL. 34 第109次調査 出土遺物  
(1)SK4967 出土陶磁器類  
(2)SF4955 出土土師器小皿・羽釜  
(3)SK4967 出土貝殻  
(4)第109次調査出土石製品  
(5)第109次調査出土金属器  
(6)第109次調査出土銭貨

## 挿図目次

|        |                                   |        |   |
|--------|-----------------------------------|--------|---|
| 第 1 図  | 特別史跡一乗谷朝倉氏遺跡調査地点 …… 2             | 第 31 図 | 武家屋敷 B 群 …… 37                                    |
| 第 2 図  | 第 60・67・100・106・109 次調査位置図 …… 6   | 第 32 図 | 武家屋敷 B 群 SA4632、SX1527、SK4672 …… 38               |
| 第 3 図  | 第 60 次調査 1・2 区位置図 …… 10           | 第 33 図 | 武家屋敷 C 群 …… 40                                    |
| 第 4 図  | 第 60 次調査 1 区諏訪館跡庭園図 …… 折込         | 第 34 図 | 武家屋敷 A 群包含層出土陶磁器類 …… 43                           |
| 第 5 図  | 第 60 次調査 1 区導水路遺構図 …… 折込          | 第 35 図 | 武家屋敷 A 群包含層・遺構出土陶磁器類 …… 44                        |
| 第 6 図  | 第 60 次調査 1 区出土遺物 …… 12            | 第 36 図 | 武家屋敷 A 群遺構出土陶磁器類 …… 45                            |
| 第 7 図  | 第 60 次調査 2 区湯殿跡庭園図 …… 折込          | 第 37 図 | 武家屋敷 A 群遺構出土陶磁器類、B 群遺構<br>出土陶磁器類 …… 46            |
| 第 8 図  | 第 60 次調査 2 区遺構全体図 …… 折込           | 第 38 図 | 武家屋敷 A 群遺構出土陶磁器類 …… 47                            |
| 第 9 図  | 第 60 次調査 2 区導水路・排水路遺構図 …… 15      | 第 39 図 | 武家屋敷 A 群包含層出土陶磁器類 …… 48                           |
| 第 10 図 | 第 67 次調査朝倉館跡外濠 1～5 区位置図 …… 17     | 第 40 図 | 武家屋敷 B 群包含層出土陶磁器類 …… 49                           |
| 第 11 図 | 館跡外濠 1 区平面図 …… 18                 | 第 41 図 | 武家屋敷 B 群包含層・遺構出土陶磁器類 …… 50                        |
| 第 12 図 | 館跡外濠 1 区土塁石垣 …… 18                | 第 42 図 | 武家屋敷 B 群遺構出土陶磁器類 …… 51                            |
| 第 13 図 | 館跡外濠 1 区断面図 …… 19                 | 第 43 図 | 武家屋敷 B 群遺構出土陶磁器類 …… 52                            |
| 第 14 図 | 館跡外濠 2 区平面図・断面図 …… 20             | 第 44 図 | 武家屋敷 B・C 群出土陶磁器類、第 100 次<br>調査出土土製品、金属器、石製品 …… 53 |
| 第 15 図 | 館跡外濠 3 区平面図・断面図 …… 21             | 第 45 図 | 第 100 次調査出土銭貨 …… 54                               |
| 第 16 図 | 館跡外濠 4 区平面図 …… 22                 | 第 46 図 | 第 106 次調査区と周辺の調査区 …… 73                           |
| 第 17 図 | 館跡外濠 4 区土塁石垣・断面図 …… 22            | 第 47 図 | 第 106 次調査区遺構全体図 …… 74                             |
| 第 18 図 | 館跡外濠 5 区平面図 …… 23                 | 第 48 図 | 第 106 次調査区南北・東西遺構断面図 …… 75                        |
| 第 19 図 | 館跡外濠 5 区断面図 …… 23                 | 第 49 図 | 第 106 次調査出土陶磁器類、金属器 …… 76                         |
| 第 20 図 | 第 67 次調査出土陶磁器類、石製品 …… 24          | 第 50 図 | 第 106 次調査出土石製品 …… 77                              |
| 第 21 図 | 第 67 次調査出土木製品 …… 26               | 第 51 図 | 第 109 次調査区遺構全体図 …… 82                             |
| 第 22 図 | 第 67 次調査出土木製品 …… 27               | 第 52 図 | 第 109 次調査包含層出土陶磁器類 …… 83                          |
| 第 23 図 | 第 100 次調査区と周辺の調査区 …… 30           | 第 53 図 | 第 109 次調査包含層出土陶磁器類 …… 84                          |
| 第 24 図 | 第 100 次調査遺構全体図 …… 折込              | 第 54 図 | 第 109 次調査包含層・遺構出土陶磁器類 …… 85                       |
| 第 25 図 | 第 100 次調査南北・西東遺構断面図 …… 折込         | 第 55 図 | 第 109 次調査遺構出土陶磁器類 …… 86                           |
| 第 26 図 | 第 100 次調査グリッド配置図 …… 31            | 第 56 図 | 第 109 次調査遺構出土陶磁器類、金属器、<br>石製品、銭貨 …… 87            |
| 第 27 図 | 武家屋敷 A 群 …… 32                    |        |   |
| 第 28 図 | 武家屋敷 A 群 SF4654・4656、SD4641 …… 33 |        |   |
| 第 29 図 | 武家屋敷 A 群 SI4668 …… 34             |        |   |
| 第 30 図 | 武家屋敷 A 群・第 31 次調査区 …… 35          |        |   |

## 表目次

|       |                          |       |                        |
|-------|--------------------------|-------|------------------------|
| 第 1 表 | 第 60 次調査出土遺物観察表 …… 13    | 第 5 表 | 第 100 次調査出土遺物観察表 …… 55 |
| 第 2 表 | 第 67 次調査出土遺物観察表 …… 24    | 第 6 表 | 第 106 次調査出土遺物観察表 …… 78 |
| 第 3 表 | 第 67 次調査出土遺物木製品観察表 …… 28 | 第 7 表 | 第 109 次調査出土遺物観察表 …… 88 |
| 第 4 表 | 第 100 次調査主要遺構観察表 …… 41   |       |                        |

# I. 事業概要

## 1. 調査の目的と経過

戦国大名越前朝倉氏の拠点である特別史跡一乗谷朝倉氏遺跡は、朝倉館を中心として山城、城戸、武家屋敷、町屋、寺院等の遺構が一体となって保存されており、国の歴史を知るうえで欠くことのできない国民共有の文化遺産として、永久に保存するため、特別史跡に指定して公有地化を進めている。

発掘調査で明らかになった遺構は保護するだけにとどまらず、その調査成果を広く公開し、歴史認識の醸成に活用されることを重視している。来園者が遺跡の中に身を置いて「歴史と生きた対話」ができる史跡公園の完成を目指している。

既に、一乗谷朝倉氏遺跡の発掘調査と整備に着手して半世紀以上を経たが、地道な調査の積み重ねが一乗谷の町並みの規模や構造、そこで生きる人々の暮らしぶりを多彩な角度から解明してきたと自負している。

計画的かつ連続的に進めた発掘調査の成果に基づいて環境整備が実施され、適切な維持管理のもとに遺跡を公開するという基本理念は今日まで一貫しているところである。

一乗谷朝倉氏遺跡の計画的な調査は、昭和42年度から旧足羽町教育委員会を事業主体として始め、昭和46年度からは、福井県教育委員会が発掘調査と環境整備事業実施し、福井市が用地取得と遺跡の管理を担当して事業を進めてきた。同年7月に278haという広大な区域が国の特別史跡に格上げ指定されると、県・福井市は昭和47年(1971)3月に「朝倉氏史跡公園基本構想」を策定し、さらに「基本構想」に基づく事業遂行の指導体制の万全を期すため、「特別史跡一乗谷朝倉氏遺跡調査研究協議会」を発足させた。同年3月に福井県教育庁朝倉氏遺跡調査研究所を設置し、以後5ヶ年計画を策定して、継発掘調査と環境整備を継続的に実施し、昭和56年(1980)4月に研究所は福井県立朝倉氏遺跡資料館に改組し、平成4年4月、福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館に改称した。

発掘調査は「計画調査」と「現状変更に伴う調査」に対応しており(第1図)、計画調査は複数年にわたる調査区の遺構が一定の面積にまとまる毎に、報告書を刊行してきた。現状変更を前提とした道路・河川整備事業や中山間事業等に伴う発掘調査については、事業別に報告書を刊行してきた。

また、史跡内の個人宅地の新・改築等に伴う発掘調査については、各年度の「発掘調査整備事業概報」で報告を行ってきた。それらの成果については平成29年度に『特別史跡一乗谷朝倉氏遺跡発掘調査報告14』を刊行した。本書については、計画調査として実施した第60・67・100・106・109次の調査成果について報告するものである。

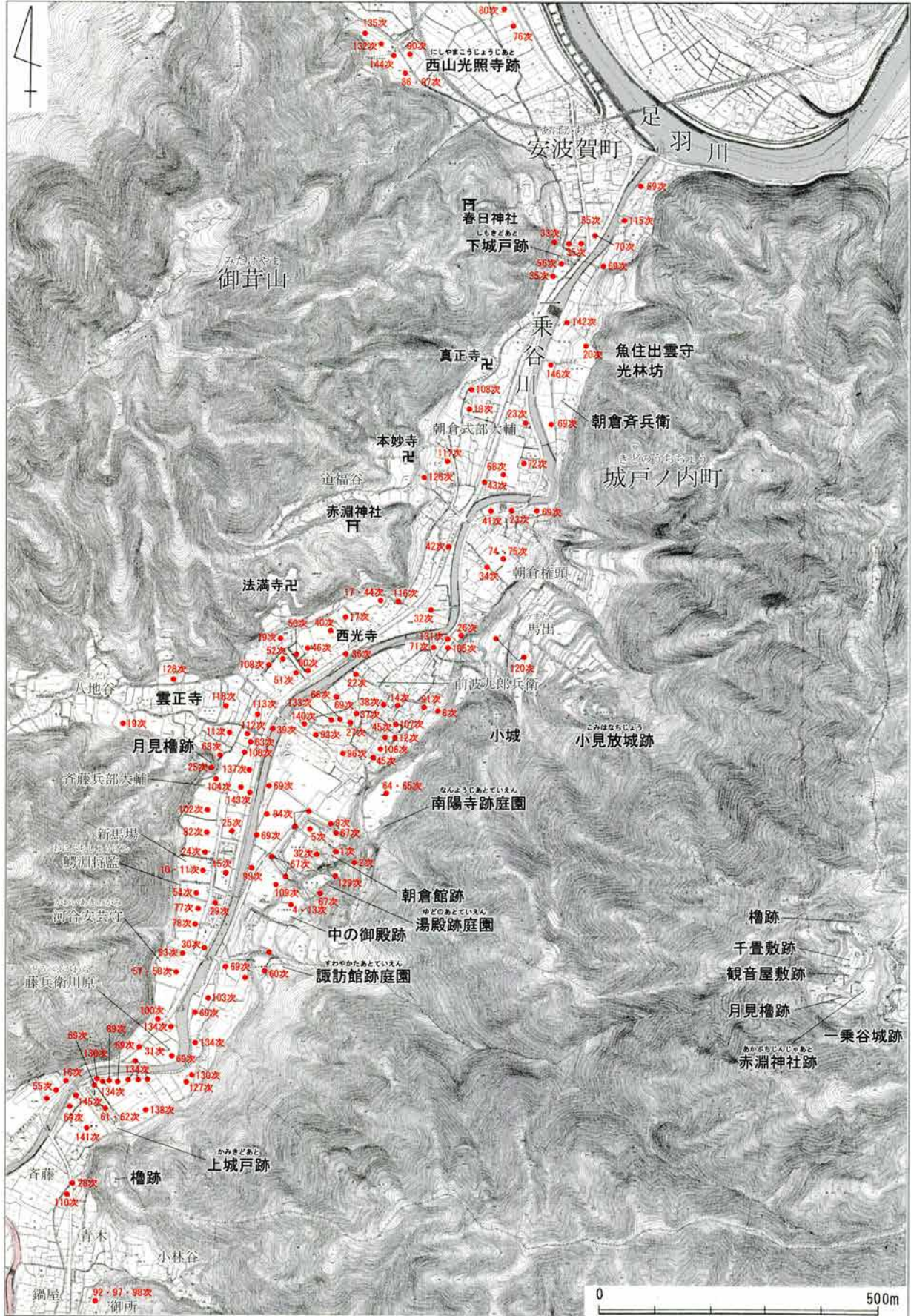
## 2. 調査の方法および組織

一乗谷朝倉氏遺跡の発掘調査・環境整備は、国庫補助事業として県が直接行っており、その実施機関として、福井県教育庁朝倉氏遺跡調査研究所(昭和47年4月1日～昭和56年8月19日)、福井県立朝倉氏遺跡資料館(昭和56年8月20日～平成3年3月31日)、福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館(平成4年4月1日～現在、以下、資料館に略)が設置され、組織を改変して今日に至る。

平成24年度に、県の機構改革によって、資料館は教育庁から知事部局に移管されたため、発掘調査、遺物整理は、一時、福井県教育庁埋蔵文化財調査センターが朝倉氏遺跡グループを設置して対応したが、平成29年度に発掘調査・遺物整理は再び資料館の業務となった。なお、資料館の業務については、「朝倉氏史跡公園基本構想」に基づいて設置された研究協議会(旧福井県朝倉氏遺跡調査研究協議会)から適切な指導と助言を得て進めている。



1. 事業概要



第1図 特別史跡一乗谷朝倉氏遺跡調査地点(縮尺1/10,000)

### 3. 本報告書作成年度における組織および経費

平成 29 年～令和元年度

#### 朝倉氏遺跡研究協議会

- 会長 小野正敏 (国立歴史民俗博物館名誉教授・中世考古学)  
 副会長 高妻洋成 (奈良文化財研究所埋蔵文化財センター長・保存科学)  
 委員 池上裕子 (成蹊大学名誉教授・中世史)  
 委員 久保智康 (京都国立博物館名誉館員・美術工芸)  
 委員 富島義幸 (京都大学大学院准教授・建築史)  
 委員 小野健吉 (和歌山大学教授・遺跡整備)  
 委員 小浦久子 (神戸芸術工科大学教授・都市計画)  
 委員 杉本 宏 (京都造形芸術大学教授・庭園整備)  
 委員 神吉紀世子 (京都大学大学院教授・環境計画)  
 委員 岸田 清 ((社)朝倉氏遺跡保存協会長)  
 委員 網谷克彦 (元福井県陶芸館長・考古)  
 委員 吉田 智 (福井県教育博物館長・歴史)

(神吉委員の任期は平成 30 年 1 月 24 日まで、杉本委員の任期は同年 1 月 25 日から)

#### 福井県立一乗谷朝倉氏資料館

##### 平成 29 年度

- 館長 向出宏二 (事務)  
 副館長 月輪 泰 (考古)  
 次長 下山淳子 (事務)  
 主任 川越光洋 (考古)  
 主任 宮永一美 (歴史)  
 主任 田中祐二 (考古)  
 主査 木村孝一郎 (考古)  
(併勤 県埋蔵文化財調査センター)  
 主査 松本泰典 (考古)  
 主査 熊谷 透 (建築)  
 学芸員 藤田若菜 (庭園)  
 学芸員 徳満 悠 (歴史)  
(県埋蔵文化財調査センター)  
 学芸員 石川美咲 (歴史)  
 学芸員 渡邊英明 (保存科学)  
 学芸員 大竹桃子 (史跡整備)  
 (兼務) 堀田恵美  
(観光営業部文化振興課)  
 (併任) 西村任代  
(教育庁生涯学習・文化財課)  
 非常勤嘱託 花川洋介 (事務)  
 非常勤嘱託 眞保弘恵 (事務)  
 非常勤嘱託 富阪昌代 (事務)  
(併勤 県埋蔵文化財調査センター)

##### 平成 30 年度

- 館長 向出宏二 (事務)  
 副館長 月輪 泰 (考古)  
 次長 下山淳子 (事務)  
 主任 川越光洋 (考古)  
 主任 宮永一美 (歴史)  
 主任 田中祐二 (考古)  
 主任 有馬香織 (歴史)  
 主査 松本泰典 (考古)  
 主査 熊谷 透 (建築)  
 主査 藤田若菜 (庭園)  
 学芸員 石川美咲 (歴史)  
 学芸員 渡邊英明 (保存科学)  
 学芸員 大竹桃子 (史跡整備)  
 (兼務) 藤井亜衣 (事務)  
(観光営業部文化振興課)  
 非常勤嘱託 花川洋介 (事務)  
 非常勤嘱託 眞保弘恵 (事務)  
 非常勤嘱託 富阪昌代 (事務)

##### 令和元年度(6月より)

- 館長 向出宏二 (事務)  
 副館長 月輪 泰 (考古)  
 次長 下山淳子 (事務)  
 主任 鈴木篤英 (考古)  
(併勤 県埋蔵文化財調査センター)  
 主任 川越光洋 (考古)  
 主任 宮永一美 (歴史)  
 主任 宮崎 認 (考古)  
 主任 田中祐二 (考古)  
 主任 有馬香織 (歴史)  
 主査 熊谷 透 (建築)  
 主査 藤田若菜 (庭園)  
 学芸員 石川美咲 (歴史)  
 学芸員 渡邊英明 (保存科学)  
 学芸員 大竹桃子 (史跡整備)  
 (兼務) 藤井亜衣 (事務)  
(交流文化部文化課)  
 非常勤嘱託 花川洋介 (事務)  
 非常勤嘱託 眞保弘恵 (事務)  
 非常勤嘱託 富阪昌代 (事務)

**経 費**

平成 28 年度 発掘調査費 3,150 千円 (報告書遺物整理)

平成 29 年度 発掘調査費 3,109 千円 (報告書遺物整理)

令和 元 年度 発掘調査費 855 千円 (報告書刊行)

発掘作業には、地元の方々の参加・協力を得た。遺物整理作業については、資料館整理作業員が行った。

## II. 調査の概要と経過

### 1. 調査の概要(第2図)

**第60次調査**【1区諏訪館跡庭園導水路、2区湯殿跡庭園導水路】 第60次調査は1・2区合計で70㎡を対象とした。調査期間は昭和62年(1987)12月8日～同年12月24日である。1区諏訪館跡は城戸ノ内町字上蛇谷に所在し、朝倉館跡から南へ約200m隔てた山林中腹に立地し、標高67～69mを測る。庭園は上・下段で構成され、昭和5年(1930)に湯殿跡、南陽寺跡、朝倉館跡と共に史跡・名勝に指定された。諏訪館跡は5代朝倉義景の夫人である小少将<sup>こしょうしょう</sup>の居館と伝えられ、昭和42年(1967)に旧奈良国立文化財研究所が調査を行い、庭園は池泉回遊式の庭園と位置付けられた。第60次調査では、上段庭園の山側で庭園導水路を検出し、導水路は諏訪館跡の西側土塁石垣を切って構築されていた。

2区湯殿跡は城戸ノ内町字水谷に所在し、朝倉館跡から南東へ40m隔てた山林中腹に立地し、標高63～66mを測る。調査の結果、庭園南東側の山際において、開渠で構築した延長23mの導水路を検出した。庭園南西側では排水路も検出した。

**第67次調査**【朝倉館跡外濠1～5区】 調査区は城戸ノ内町字新御殿に所在し、朝倉館跡を囲む外濠330㎡を対象とした。調査期間は平成元年(1989)9月8日～同年10月7日、同2年(1990)1月10日～同年1月11日である。館跡の外濠は昭和48年(1973)の第9次調査で将棋の駒をはじめとする多種多様な遺物が出土した。

第67次調査は、外濠の規模を把握するために実施し、外濠の四隅と唐門前に1～5区の調査区を設定した。北東隅の外濠1区では、館跡の土塁石垣を検出した。北西隅の外濠2区では外濠外側の岸は確認できなかった。外濠3区では、西濠外側の岸を部分的に確認し、西濠外側から一乗谷川に向かって幅5.0mの濠が新たに存在することを確認した。外濠4区では土塁石垣と朝倉館跡南門に架かる橋脚柱2を検出した。外濠5区では西濠外側の岸と、底面で門幅に対応する橋の石列らしき遺構を確認した。

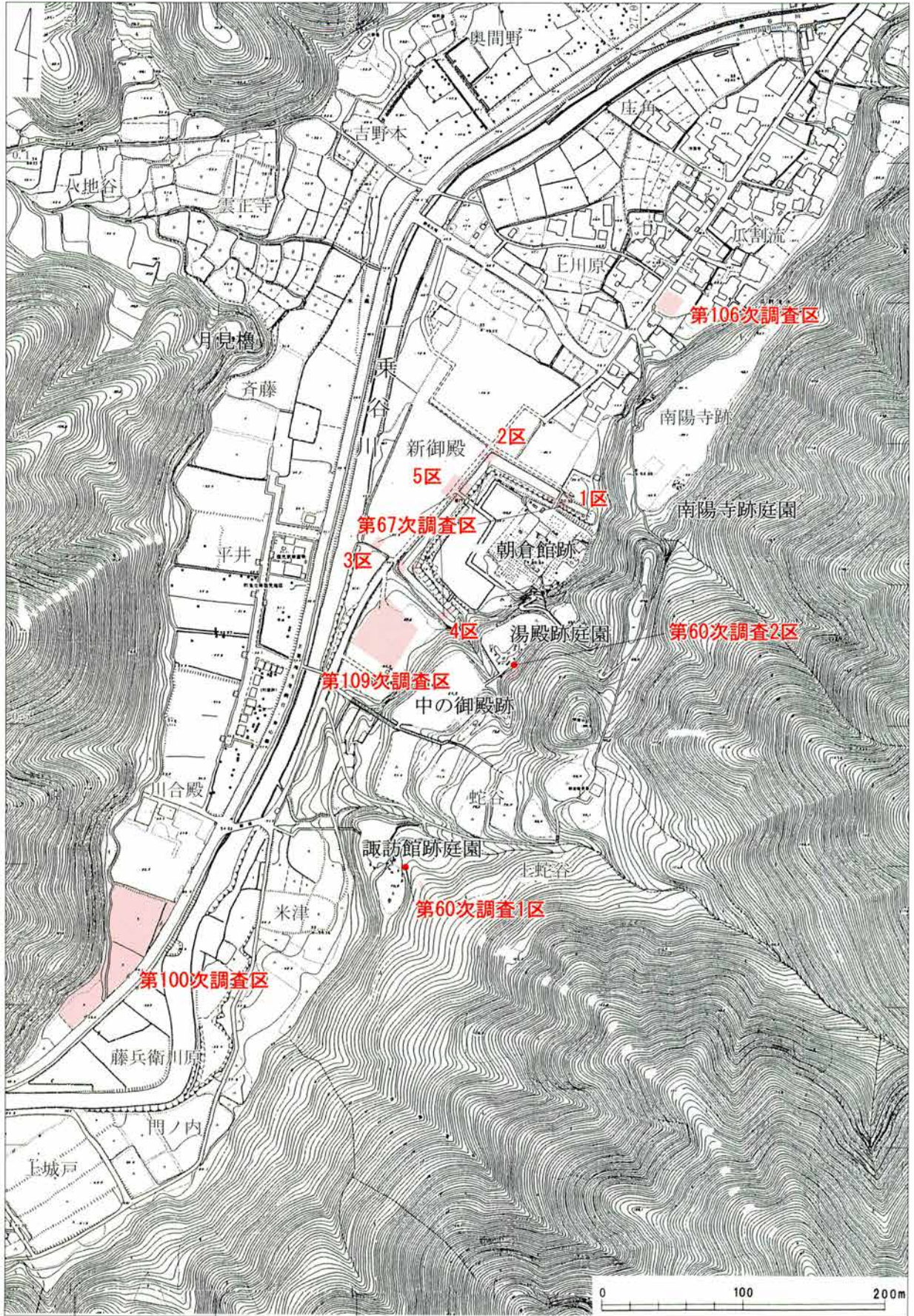
**第100次調査**【城戸ノ内町川合殿、藤兵衛川原】 調査区は城戸ノ内町字川合殿、藤兵衛川原に所在し、一乗谷川左岸平地2,600㎡を対象とした。調査期間は、平成9年(1997)4月1日～同年12月21日である。武家屋敷は北からA～C群に区分され、北側は第57・58次の調査区、東側は第31次調査区と接合する。A群は北側を幅1.8m、東側を幅1.8mの土塁石垣で区画し、南側を幅1.0mの土塁石垣で区画して、B群との境としていた。C群はB群の南西に位置し、北側を幅5.0～6.0mの通路で区画していると考えられる。第100次で検出した遺構は、土塁石垣の他に、礎石建物、掘立柱建物、石積遺構、井戸、石敷遺構、土坑等が検出され、前後の切り合い関係から、上層(Ⅲ期)、下層(Ⅱ・Ⅰ期)に区分することができた。遺物は、包含層と遺構から陶磁器を主体とする遺物が豊富に出土し、戦国期の城下町の実態を解明する良好な資料を得た。

### 第106次調査【城戸ノ内町瓜割流】

調査地点は、城戸ノ内町字瓜割流に所在し、朝倉館跡から北へ約160m隔てた瓜割清水の東側宅地225㎡を対象とした。調査期間は、平成11年(1999)11月2日～同年12月1日である。礎石建物と通路が検出されたが、屋敷跡は近世～近代に属すと考える。遺物は若干の陶磁器類、石製品等が出土した。

### 第109次調査【城戸ノ内町新御殿】

調査地点は、城戸ノ内町字新御殿に所在し、朝倉館跡の外濠を挟んだ南西の平地2,000㎡を対象とした。調査期間は、平成12年(2000)11月2日～同年12月20日である。大きな屋敷跡の土塁石垣と門跡、石敷遺構が検出されたが、屋敷跡自体は大規模に削平されていた。不定形の大型土坑から大量の土師器小皿、陶磁器が出土し、サザエの貝殻も多く含まれていた。



第2図 第60・67・100・106・109次調査位置図(縮尺1/4,000)

## 2. 調査日誌

## 第 60 次調査 昭和 62 年(1987)

- 12月8日【1区諏訪館跡庭園】庭園導水路の検出作業開始。滝口の底石付近を中心に精査。2段の石垣検出。
- 12月10日【1区諏訪館跡庭園】1/1,000 図地形図と調査区を照合。土塁を切って構築した暗渠導水路検出。
- 12月11日【1区諏訪館跡庭園】下段石垣精査。石垣構築面から青磁盤、播鉢、白磁皿等が出土。導水路精査。  
【2区湯殿跡庭園】湯殿跡庭園導水路検出作業開始。導水路は庭園滝口から南へ20m程直線状に残存。
- 12月12日【1区諏訪館跡庭園】導水路の上流部を調査。後世の石列による破壊を確認。  
【2区湯殿跡庭園】湯殿跡庭園導水路を20m精査。
- 12月15日【1区諏訪館跡庭園】写真撮影。新たに山側にトレンチを設定したが、導水路の延長は確認できず。  
【2区湯殿跡庭園】滝口から南へ約23m進んだ地点で導水路は消失。
- 12月18日【1区諏訪館跡庭園】諏訪館の導水路の延長を最終確認すべく、上流域に第5・6トレンチを設定。  
【2区湯殿跡庭園】導水路の南端は空堀で削平された可能性を検討する。写真撮影。
- 12月19日【1区諏訪館跡庭園】諏訪館の導水路の第5トレンチで畑地に伴う石垣検出。  
【2区湯殿跡庭園】撤収準備
- 12月22日【1区諏訪館跡庭園】第6トレンチにおいて深さ50cmの位置で焼土面と石を検出。第6トレンチの横に第7トレンチ設定。  
【2区湯殿跡庭園】排水溝精査後、調査終了。
- 12月24日【1区諏訪館跡庭園】第6・7トレンチ写真撮影を行い調査終了。

## 第 67 次調査 平成元年(1989)

- 9月8日 朝倉館跡北門前の外濠に1区、外濠北西隅に2区を設定。
- 9月9日 外濠南西隅に3区設定。表土除去後、炭化面の展開を確認。炭化層は新御殿側から外濠側へ流れ込んでいることを確認。近世以降のゴミを含む。
- 9月11日 2・3区掘削。3区b-b'間断面の北側で河原石を斜めに葺いたような状態の石列確認。石列下層は砂利層となり、これを地山と判断。砂利層を切り外濠が掘削されたと推定。
- 9月12日 1~3区の掘削。2区a-a'間断面を観察。外濠外側の傾斜面は水道管布設で破壊。外濠の傾斜面は不明。b-b'間断面北側において、列状に2~3段で埋まっている川原石の石列検出。石列面までの覆土には室町時代~近世の遺物が混在。
- 9月21日 朝倉館跡南門前の外濠に4区を設定。1区と同様、土塁側のa-a'間断面で2段以上の割石積みの石垣確認。
- 9月25日 4区掘削。表土下から、b-b'間断面の南側で、中の御殿調査時に埋没したと考えられる川原石を多く確認。1区の掘削。c-c'間断面を外濠の外側に1m拡張したところ、旧田中氏宅の便所跡らしき埋桶と黄色の粘土覆土を検出。
- 9月26日 2区掘削。北側に追加トレンチ設定。表土下50cmで旧道と水田畔野の石列確認。夕刻、水野九右エ門氏の通夜。

- 9月27日 1区b-b'間断面の土塁石垣を精査。濠の外側(北側)の傾斜面は不明。小野正敏氏来跡。  
2区掘削終了。
- 9月28日 雨天中止。園路の除草作業。
- 9月29日 1区のa-a'間断面の土塁石垣を精査。北門直下にかかる箇所は状態悪し。  
4区のa-a'間断面の土塁石垣精査終了。石垣は、1区と同様、巨石を垂直に2段以上積み上げた割石積み。石垣の上部は攪乱で残存せず。裏込め石を確認。
- 10月3日 外濠の傾斜面を確認するため、1区c-c'間断面の北側部分を西に向かって大きく拡張。
- 10月5日 4区のb-b'間断面の外濠外側斜面下で笏谷石の石材検出。写真等の記録後、更に下層掘削。朝倉滅亡時期の濠埋土の確認と濠の傾斜面の検出を行う。外濠外側で柱根2本確認。表土下2m付近で濠傾斜面と覆土の境界確認。
- 10月6日 1区a-a'間断面において外濠外側の傾斜面を確認。文化庁土肥孝氏調査官来跡。本日で調査を終了。

## 第 100 次調査 平成 9 年(1997)

- 4月1日 発掘調査準備。旧地割を利用し、北からU・V・Wの大地区を設定。最終的に武家屋敷A・B・C群にほぼ相当した。
- 4月11日 調査区北側0~K19~31表土剥ぎ作業。
- 5月6日 ベルトコンベア設置。J~F19~30表土剥ぎ作業。
- 5月7日 0~H24~29の床土面検出。
- 5月13日 F25で焼土が混在する包含層から土師器小皿が多く出土。
- 5月19日 大地区U・Vの境となるBグリッドまで表土剥ぎ完了。0~G17~20表土剥ぎ作業開始。
- 5月29日 0~G17~20表土剥ぎ完了。
- 5月30日 地形が複雑で、遺構の配列がU、V、W大地区で異なっていることから、北側の57次や東側の31次調査グリッドとは関連しない、任意グリッドを設定。
- 6月2日 20列で東側土塁石垣SA4632を検出。B21で石敷遺構SX1527検出。
- 6月9日 25列で耕作土10cm下から遺構面確認。N25で礎石列SX4717、I26でSX4692検出。
- 6月13日 調査区北西部で武家屋敷A群の遺構面を検出。北辺部で確認した土塁石垣SA4631は基底石のみが残存。SD4641を伴う。その内側で井戸SE4646や石積施設SF4654・4656、砂利敷遺構SX4716を確認。
- 7月7日 調査区北西部の遺構面検出作業。床土下より炭化粒・焼土層を確認。最上層は削平を受けたと推定。
- 7月14日 29~31列の遺構精査。上層の土塁や溝が破壊された後で検出され、下層の遺構面と判断。
- 7月15日 床土(黄褐色土)を除去後、炭化粒・焼土を含む整地土を確認。M30で井戸SE4647、I30で井戸SE4648、N29で石積遺構SF4655検出。山際寄り範囲は上層が複数回削平されたと推定。
- 7月16日 調査区北西部の遺構面検出。切り合いから、028のSF4656→N29の石積遺構SF4655の前後関係、028のSF4656→溝SD4643→北側土塁石垣SA4631の構築

|  |   |
|--|---|
| <p>順が判明。武家屋敷 A 群には 3 時期の遺構が存在することを確認。床土下の遺構面で礎石の抜き取り穴や土坑 SK4674・4675 検出。削平を受けていることが判明。</p> <p>7 月 18 日 M27 で大型井戸 SE4646 検出。天端石は抜かれ、焼土混在する覆土が粗雑に充填されていた。H・I25 で建物を取り巻く砂利敷通路 SS4684 検出。</p> <p>7 月 25 日 F~J25~30 遺構精査。I・H25 で溝 SD4644 検出。覆土は礫が混在する灰褐色土。E 列で東西に延びる南側土塁石垣 SA4633 確認。</p> <p>7 月 28 日 G26 の土坑 SK4669、H28 の土坑 SK4677、F26 の石積遺構 SX4695 精査。周辺に焼土が展開。</p> <p>7 月 29 日 F~J25~30 遺構精査。25 列で砂利敷通路遺構 SS4684 に付随する溝 SD4644 検出。</p> <p>7 月 30 日 K~O25~28 遺構精査。床土直下で南北方向の礎石列 SX4717 検出。SX4717 直下約 20cm で下層遺構の井戸 SE4646、石積遺構 SX4690 検出。</p> <p>7 月 31 日 M25 で石積遺構 SF4652 確認</p> <p>8 月 4 日 O~G19~22 遺構精査。O~M28~31 遺構精査を博物館実習生 7 名が担当。M29 の石積遺構 SF4655 から完形の土師器小皿 1 点出土。N29 で土師器小皿の口縁部を入子状に重ねた地鎮の痕跡を確認。</p> <p>8 月 6 日 東側土塁石垣 SA1553・4632 検出。N21 で第 31 次調査で確認した石積遺構 SF4653 再検出。</p> <p>8 月 7 日 19・20 列の遺構検出。20 列で南北に延びる東側土塁石垣 SA1553・4632、L20 で門跡 SI4668、B21 で石敷遺構 SX1527 確認。</p> <p>8 月 8 日 E 列の南側土塁石垣 SA4633 精査。E23 の石積遺構 SF4663 は SA4633 を切って構築。</p> <p>8 月 19 日 O~B17~19 遺構精査。第 31 次調査との接続部を調査。</p> <p>8 月 20 日 武家屋敷 A 群の東側土塁石垣 SA1553・4632 の上半分は後世の積み直しと判断。基底石~2 段目の石垣は朝倉期の石垣と判断。土塁石垣の下層で石積遺構 SF4662・1474、H・G19 で礎石建物 SB4640 検出。</p> <p>8 月 21 日 O~G17~20 遺構精査。東側土塁石垣 SA4632 に接して I~K19 で石積遺構 SF4658・4659・4660・4661 検出。石積遺構 SF4658 の上部はほぼ削平。</p> <p>8 月 28 日 北側土塁石垣 SA4631 検出。</p> <p>9 月 11 日 東側土塁石垣 4632 の内側、F~J21 おいて石垣基底石検出。2~3 段の石垣列確認。</p> <p>9 月 12 日 南側土塁石垣 SA4633 精査。</p> <p>9 月 18 日 武家屋敷 A 群南側、C~F19~30 遺構検出。</p> <p>10 月 1 日 武家屋敷 C 群(大地区 W)の表土剥ぎ開始。</p> <p>10 月 9 日 武家屋敷 C 群は遺構・遺物密度希薄。炉跡と推定される SX4706・4707、井戸 SE4650 確認。山際を表土中から硬玉製勾玉 1 点発見。</p> <p>10 月 17 日 武家屋敷 B 群、S・T24~27 で礎石建物 SB4637 確認。</p> <p>10 月 21 日 武家屋敷 B 群、V・B25~27 で焼土展開。下層から礎石建物 SB4636、道路側で砂利敷遺構 SX4710 確認。</p> <p>10 月 23 日 武家屋敷 B 群 SB4636 の北西で土師器小皿多く出土。B 群西側に焼土が広く展開。</p> <p>11 月 7 日 武家屋敷 B 群越前焼大甕を埋設した SK4672 精査。</p> <p>11 月 12 日 写真撮影終了。</p> <p>12 月 21 日 調査終了</p> | <p><b>第 106 次調査 平成 11 年(1999)</b></p> <p>11 月 2 日 調査開始。瓜割清水の周辺に排土用の防護柵設置。福井市と公有地境界線確認。</p> <p>11 月 4 日 表土は約 20cm の厚さで、表土下に宅地解体時のゴミが 20~30cm 前後堆積。調査区南側に近接した消防ポンプ車小屋は、第 45 次調査の対象地であり、過去に石列、溝、井戸等を検出。</p> <p>11 月 5 日 表土は砂利を含む黒褐色土。産廃多し。調査区に層位を観察するため、南北に a-a' 間断面、東西に b-b' 間断面を設定。4 分割した区画に南西隅から時計回りに A~D 区設定。</p> <p>11 月 9 日 A・D 区の表土剥ぎ。A~D 区かけて東西方向に延びる通路状の砂利敷 SS4877 検出。C・D 区では近世~近代の陶磁器出土。C 区で土坑 SK4873 検出。</p> <p>11 月 10 日 表土下 40cm まで掘削して黄色粘質土確認。その下位に近世以降の建物を構築した面を確認。</p> <p>11 月 11 日 A・D 区の遺構精査。C・D 区で近世の遺構面である黄色粘土面精査。礎石建物 SB4871 は近世~近代の上坂家の屋敷跡と推定。</p> <p>12 月 1 日 調査終了</p> <p><b>第 109 次調査 平成 12 年(2000)</b></p> <p>8 月 18 日 発掘調査開始</p> <p>8 月 22 日 西側を区画する土塁石垣 SA4952 検出。</p> <p>9 月 5 日 土塁石垣 SA4952 検出。</p> <p>9 月 14 日 土塁石垣 SA4952 検出。</p> <p>10 月 24 日 重機搬入、表土剥ぎ続行。</p> <p>11 月 7 日 遺構検出。</p> <p>11 月 13 日 井戸 SE4955、礎石検出。</p> <p>11 月 14 日 G・H5・6 で炭化物検出。遺物少量。G8 では土師器小皿やサザエの貝殻検出。H7 で銭貨 7~8 枚出土。</p> <p>11 月 16 日 G・H9~11 の礫を除去。礫中に多量の土師器小皿と少量の貝を含む。礫除去後、不定形な土坑 SK4967 確認。作業員間の喧嘩仲裁。</p> <p>11 月 20 日 G11~13 での炭化粒が混在する包含層から土師器小皿が多量に出土。白磁、天目、越前焼も含む。上層の遺構面に伴う遺物と判断。</p> <p>11 月 24 日 土坑 SK4967 精査。下層遺構面より更に 30cm 程度掘削。</p> <p>11 月 28 日 土坑 SK4967 精査。E15 の 4 トレンチ付近で石列を検出。礎石ではないが、朝倉館跡南門に関連する可能性を検討。</p> <p>11 月 29 日 調査区北東隅精査。遺物僅少。土塁らしき石列検出。朝倉館南門跡に向かい直列に並ぶ。L5 の井戸 SE4955 精査。土師器小皿、越前焼播鉢出土。</p> <p>12 月 1 日 屋敷の北門と想定される調査区北東隅精査。2・3 トレンチ設定。明確な遺構は確認できず。</p> <p>12 月 4 日 井戸 SE4955、石積遺構 SF4962・4963 精査。</p> <p>12 月 5 日 朝倉館跡南門にかかる橋の遺構確認のため 2~4 トレンチ設定。播鉢、カワラケ出土。</p> <p>12 月 6 日 2 トレンチ西側で朝倉館跡南門にかかる橋柱と考えられる柱穴確認。</p> <p>12 月 7 日 C~D4 で 1~2 段の石垣検出。</p> <p>12 月 12 日 SK4967 で土師器小皿が大量に出土。その他貝殻、瀬戸・美濃天目茶碗、越前焼播鉢等出土。</p> <p>12 月 20 日 器材洗浄、撤収作業して調査終了</p> |
|--|---|

### III. 第60次調査【1区諏訪館跡庭園導水路、2区湯殿跡庭園導水路】

朝倉館跡の南方には、一乗城山の小扇状地及び山裾を削った河岸段丘が発達して広がり、今回報告する第60次調査の諏訪館跡庭園、湯殿跡庭園の他、標高を同じくして第4・13次調査の中の御殿跡などが蛇谷地区に近在する。後述する第109次調査の屋敷跡も朝倉館跡南東に位置し、中の御殿跡の西側直下に立地しており、遺構群を検討する上で各調査区が一定のまとまりを見せている(第3図)。

ここで一乗谷朝倉氏遺跡の調査の軌跡を振り返ると、福井県のみならず、国の歴史を語る重要な文化財として、公的に朝倉館跡と庭園の価値が認識されたのは、昭和5年(1930)7月8日朝倉館跡、湯殿跡、諏訪館跡、南陽寺跡を含む1.4haが国の史跡と名勝に指定されたことを嚆矢とする。

昭和42年(1967)、文化財保護委員会の黒坂昌夫、吉川需、牛川喜幸の3氏と足羽町長、同町教育長、同町文化財保護委員が「朝倉氏遺跡整備事業委員会」を結成し、同年8月、国庫補助の措置を受けて、旧足羽町から依頼を受けた旧奈良国立文化財研究所が実施した、湯殿跡、諏訪館跡、南陽寺跡の3庭園を対象にした調査をもって本格的な発掘調査のはじまりとなった(文1)。

昭和43年(1968)には、朝倉館跡東南部を調査して庭園、花壇を発見し、我が国初の戦国大名居館調査として注目され、整備の中で露出展示を導入したことは日本の史跡整備の手本となった。同44年(1969)には、朝倉館跡東北部を調査して会所(常御殿)、台所、風呂を発見した(文2)。昭和45年(1970)からは調査主体が福井県となって足利義昭を迎えた伝承をもつ御所・安養寺を調査した。遺跡の保護と開発で揺籃期はあったものの、地元の理解を得て、昭和46年(1971)7月29日に西山光照寺を含めた278haが国の特別史跡になり、名称も「一乗谷朝倉氏遺跡」となった。同年に朝倉館跡土塁の調査を実施し、これを県が主体となって着手した第1～3次調査(文1)と位置づけて、以降、環境整備事業と並行して取り組んできた経緯がある。

第60次調査(文3)は、国の特別名勝に指定されている諏訪館跡庭園と湯殿跡庭園の導水路を検出することを目的として実施し、ここでは便宜上、諏訪館跡庭園を1区、湯殿跡庭園を2区として報告する(第3図)。両庭園にとって57年ぶりの発掘調査になり、調査期間は、昭和62年(1987)12月8日から12月24日を要した。

#### 1. 1区の遺構(PL.1・2 第3～5図)

1区の諏訪館跡は、城戸ノ内町字上蛇谷に位置し、朝倉館跡から南へ約200m隔てた山林中腹に立地する(第3図)。一乗谷朝倉氏遺跡の中で最も大きな規模を誇る庭園であり、標高は67～69m、比高約9mを測る。諏訪館は、5代朝倉義景の夫人である小少将<sup>こしょうしょう</sup>の館跡と伝えられ、昭和42年度(1967)に庭園に主眼をおいた調査によって、上段・下段からなる庭園であることが明らかになった。

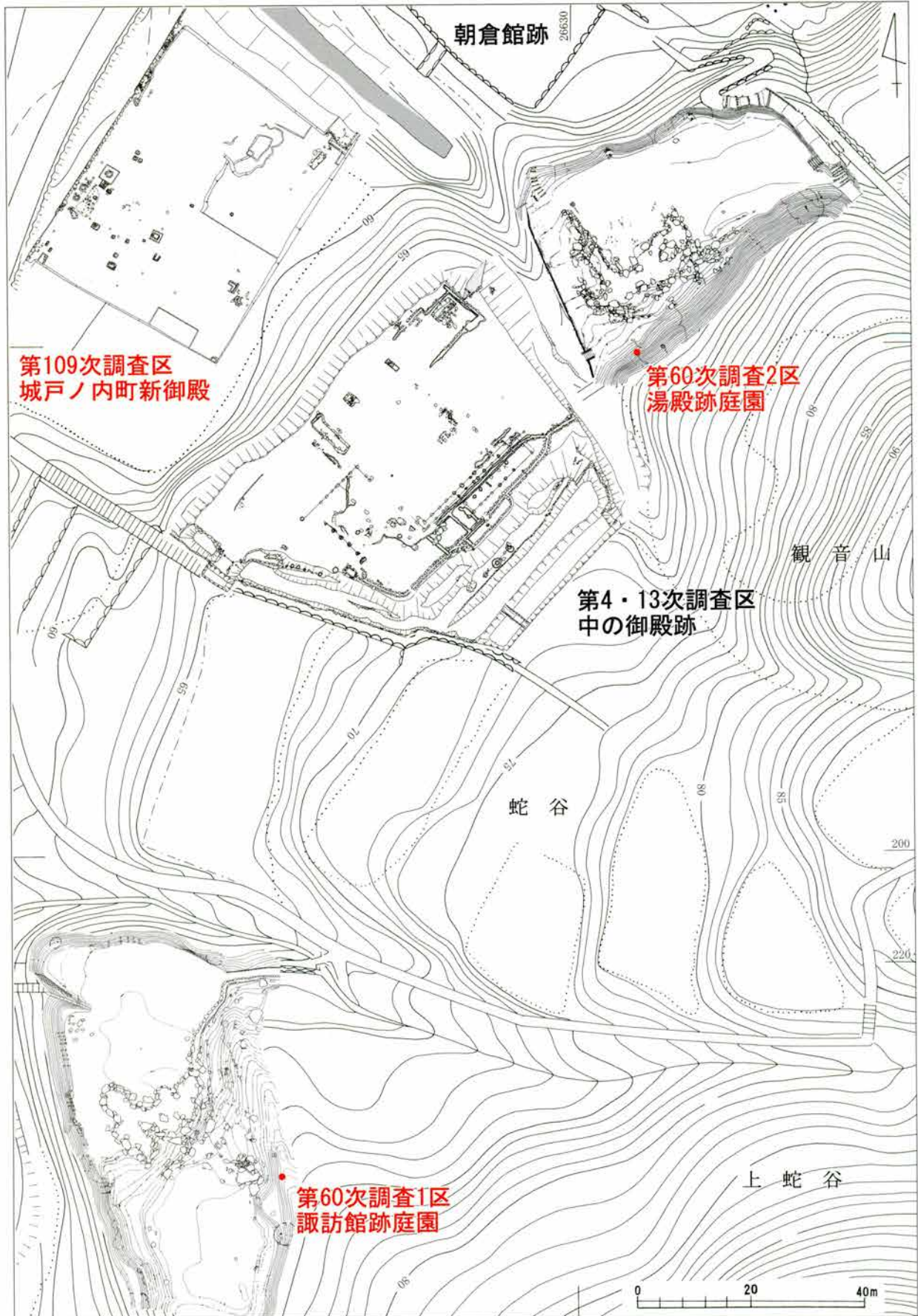
調査の結果から、庭園上段の底石を敷いた泉状の石組から溢れた水が、長径14～40cm大の平石を敷き詰めた曲水部を伝い、滝石組<sup>たきいしぐみ</sup>から下段の庭園に流れる構造を採用した整備が実施された。下段は汀<sup>みぎわ</sup>の出入りが変化に富む園池となり、護岸石は上面が平坦で丸みを帯びた巨岩を据えていた。

滝石組右方<sup>たきぞえいし</sup>の滝副石は高さ4mを測り、有に朝倉館跡庭園の滝副石の2倍の規模を有していた。北側の池尻には石橋が掛けられ、排水路との境になっていた(文2)。

今回の調査では、谷川から庭園に給水するための導水路を検出することを目的とし、上段の奥まった所にある滝石組付近から谷川までの間に1～7のトレンチを設定して状況を観察した(第4図)。

その結果、導水路は、滝口付近から2.0m分は削平されていたが、さらに山側に設定した1・2トレンチにおいて、内寸幅約0.3m、内寸高0.2m、内寸長6.0m規模の石組の溝を検出した(第5図)。

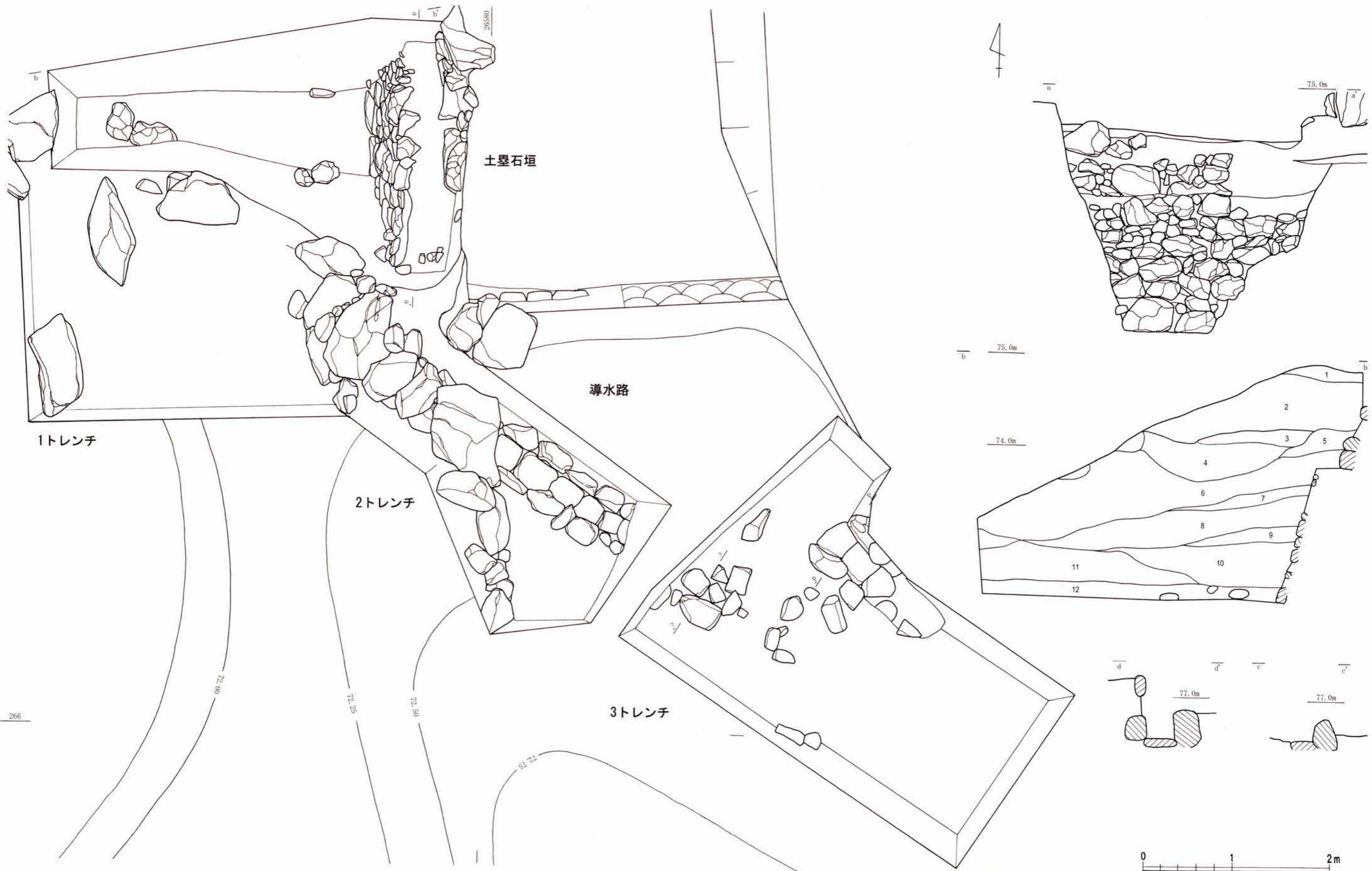




第3図 第60次調査1・2区位置図(縮尺1/1,000)



第4図 第60次調査1区諏訪館跡庭園図(縮尺 1/200)



第5図 第60次調査1区導水路遺構図(縮尺 1/40)

溝の底面には20～40cm大の平石が一行に敷かれており、滝口側から2.8mの範囲は暗渠構造となっており、60～100cm大の面長の石を蓋石として横位に架けた礫石を5つ検出した。

石組の溝は庭園への導水路と考えられ、N56°W方向に向き、勾配は、約20度38分と急な傾斜角で据えられていた。蓋石がない部分は厚さ約0.6mの山土で埋められていた。これは、庭園の石橋を通り、上蛇谷へ登る山道として利用された時に整地されたことが原因と考える。

3トレンチでは導水路の続きが若干検出されたが、大部分が消失していた。北側で同規模の別の石組の溝を検出したが、導水路より後世に構築されたものとする。導水路からさらに山側に4～7トレンチを設定した。第5トレンチで畑地の石垣、第6トレンチで深さ50cmの位置で焼土面と石を検出したが、導水路に関連する遺構は確認できなかった。

1トレンチ北側において暗渠構造の導水路の下層を調査すると、2段積みの階段状の土塁石垣を検出した。土塁石垣の基底石はN0°方向に延び、上段庭園滝口より約0.6m深く据えられ、基底面は固く締まった砂利層であった。

土塁石垣1段目の高さは1.45m、2段目は0.7mを測り、主に30～50cm大の礫石を用いて、野面積みの工法でほぼ垂直に構築していた。2段目は0.25m程奥まって構築され、この土塁石垣を壊して導水路を構築していることが明らかになった(第5図)。

諏訪館は、本来、土塁石垣を巡らせた館であったが、その後、庭園を作庭する際に土塁石垣を完全に埋め、築山の中を暗渠で導水したと判断した。

## 2. 1区の遺物(PL.21 第6図 第1表)

1区の遺物は、陶磁器類として越前焼播鉢・甕・鉢、土師器小皿、青磁碗・皿が出土し、石製品として石盤、バンドコ、砥石が出土した。

**越前焼** 1～5は播鉢片である。1～3は、1トレンチ導水路下層の土塁石垣基底部から出土し、4・5は2トレンチ導水路暗渠の上から出土した。6～9は越前焼の大甕片であり、6・8は6トレンチで出土し、7・9は2区導水路暗渠の上から出土した。10は底が深い半球形の鉢であり、手水鉢と考える。口径26.4cm、高さ12.0cmを測る。1区土塁石垣基底部から出土した。

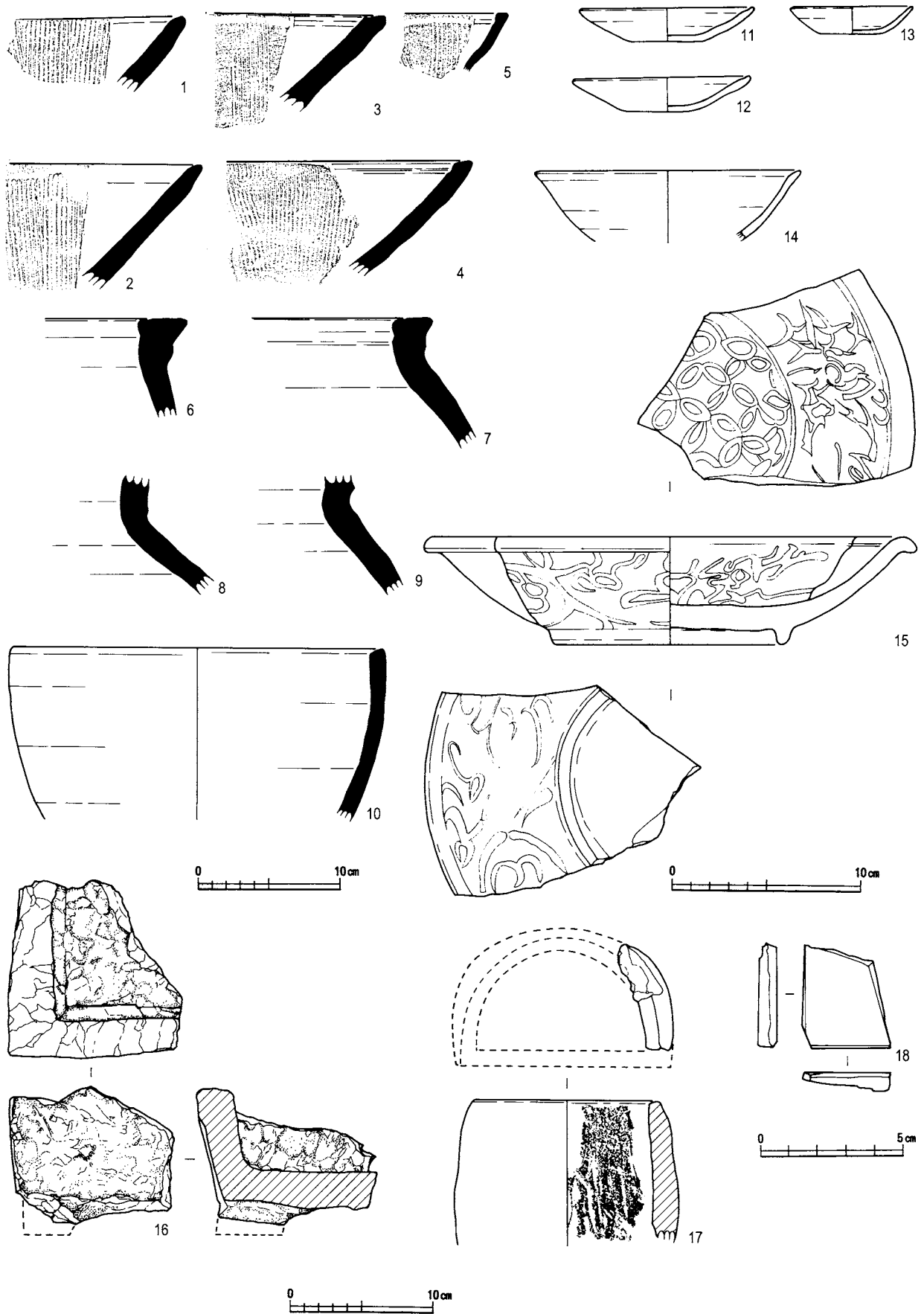
**土師器小皿** 11～13は1トレンチ土塁石垣基底部から出土した。11・12は口径9.2～9.5cm、器高1.8～1.9cm、底径3.5～3.7cmを測る。底部は平底である。13は口径6.4cm、器高1.5cm、底径3.2cmの小型品であり、口縁部にスス付着する。

**青磁** 14は青磁碗であり、6トレンチから出土した。口径14.0cmを測る。口端部はやや外方へ屈曲して口唇部は丸く収める。15は青磁皿であり、1トレンチ土塁石垣基底部から出土した。口径26.0cm、器高5.7cm、底径12.2cmを測る。口縁部はやや内湾して外方に立ち上がる。口端部は外方下へ屈曲し、口唇部は丸く収める。内外面に精緻な陰刻花文が施された優品である。

**石盤** 16は平面が方形を呈す石盤である。笏谷石製。1トレンチ土塁石垣基底部から出土した。厚さは3.3cmを測る。内面はタタキで調整し、底部に方形の脚部を有す。内面および断面は被熱してススが付着している。

**バンドコ** 17は平面形がD形を呈すと推定。笏谷石製。5トレンチから出土した。外面は平滑で内面にタタキ痕が残る。全体が被熱している。

**砥石** 18は薄い板状を呈す。赤茶色の凝灰岩製。6トレンチから出土した。表裏面、左側面、下端面に砥面が残る。



第6図 第60次調査1区出土遺物(縮尺 1/3、1/4)

## 2. 1区の遺物

第1表 第60次調査出土遺物観察表(PL.21第6図)

陶磁器類(PL.21第6図)

単位:cm

| No | 器種        | 法量/焼成/色調   | 胎土<br>残存                    | 形 状  | 調整 / 文様                               | 出土地点                           |  |
|----|-----------|--|-----------------------------|--|---------------------------------------|--------------------------------|--|
|    |           |  |                             |  |                                       | 備 考                            |  |
| 1  | 越前焼<br>播鉢 | 焼: 良好<br>色: 灰褐色                                  | 微砂粒<br>白色粒子<br>堅緻<br>1/10以下 | 口縁部:直線状に外方へ開く/口端部<br>内側に端面をもつ/口唇部は丸く収める  | 外:ナデ<br>内:ナデ<br>内面に幅2.9cm・9条の卸目       | 1トレンチ土壘石垣下                     |  |
| 2  | 越前焼<br>播鉢 | 焼: 良好<br>色: コゲ茶色                                 | 微砂粒<br>白色粒子<br>堅緻<br>1/10以下 | 口縁部:直線状に外方へ開く/口端部<br>内側に端面をもつ/口端部外側はやや<br>浅く凹む/口唇部は丸く収める                                   | 外:ヨコナデ<br>内:ヨコナデ<br>内面に幅3.0cm・8条の卸目   | 1トレンチ土壘石垣下                     |  |
| 3  | 越前焼<br>播鉢 | 焼: 良好<br>色: 淡茶色                                  | 極砂粒<br>白色粒子<br>堅緻<br>1/10以下 | 口縁部:直線状に外方へ開く/口端部<br>は浅く凹む/口端部外側はやや浅く凹<br>む  | 外:強いヨコナデ<br>内:ヨコナデ<br>内面に幅2.5cm・9条の卸目 | 1トレンチ土壘石垣下                     |  |
| 4  | 越前焼<br>播鉢 | 焼: 良好<br>色: 淡橙褐色                                 | 微砂粒<br>白色粒子<br>軟質<br>1/10以下 | 口縁部:ゆるやかに内湾して外方へ開<br>く/口端部は平坦/口端部内側はシャ<br>ープな段をもつ  | 外:ヨコナデ<br>内:ナデ<br>内面に幅3.4cm・13条の卸目    | 2トレンチ土壘暗渠上                     |  |
| 5  | 越前焼<br>播鉢 | 焼: 良好<br>色: 淡茶色                                  | 極砂粒<br>白色粒子<br>堅緻<br>1/10以下 | 口縁部:中位でゆるやかに屈曲して外<br>方へ開く/口端部は平坦/口端部内側<br>は凹状の段をもつ   | 外:ヨコナデ<br>内:ナデ<br>内面に幅2.5cm・8条の卸目     | 2トレンチ土壘暗渠上                     |  |
| 6  | 越前焼<br>甕  | 焼: 良好<br>須恵質<br>色: 淡灰色                           | 微砂粒<br>白色粒子<br>精緻<br>1/10以下 | 口縁部:内傾して立ち上がる/口端部<br>は平坦/口端部外端・内端は突出し、<br>直下に条線をもつ   | 外:ヨコナデ<br>内:ヨコナデ                      | 6トレンチ                          |  |
| 7  | 越前焼<br>甕  | 焼: 良好<br>色: 淡灰色                                  | 微砂粒<br>白色粒子<br>精緻<br>1/10以下 | 口縁部:内傾して立ち上がる/口端部<br>は平坦/口端部外端は突出し、直下に<br>浅い凹面をもつ/口端部内側に浅い凹<br>線をもつ                        | 外:ヨコナデ<br>内:ヨコナデ                      | 2トレンチ土壘暗渠上                     |  |
| 8  | 越前焼<br>甕  | 焼: 良好<br>色: 明赤茶色                                 | 極砂粒<br>白色粒子<br>堅緻<br>1/10以下 | 口縁部:内傾して立ち上がる/口端部<br>欠損しているが口端部外端は突出し、<br>直下に浅い凹面をもつ                                       | 外:ヨコナデ<br>内:頸部ナデ、ヘラナデ                 | 6トレンチ<br>外面に自然釉                |  |
| 9  | 越前焼<br>甕  | 焼: 良好<br>色: 灰白色                                  | 極砂粒<br>白色粒子<br>精緻<br>1/10以下 | 口縁部:内傾して立ち上がる/口端部<br>欠損しているが口端部外端は突出し、<br>直下に浅い凹面をもつ                                       | 外:ヨコナデ<br>内:ヨコナデ                      | 2トレンチ土壘暗渠上<br>外面に自然釉           |  |
| 10 | 越前焼<br>鉢  | 口: 26.6<br>高: 12.0<br>焼: 良好<br>色: 赤茶色            | 微砂粒<br>白色粒子<br>軟質<br>1/10以下 | 口縁部:内湾して立ち上がる/口端部<br>は平坦   | 外:ヨコナデ<br>内:ヨコナデ                      | 1トレンチ土壘石垣下<br>器面粗い             |  |
| 11 | 土師器<br>小皿 | 口: 9.2<br>高: 1.8<br>底: 3.7<br>焼: 良好<br>色: 橙褐色    | 極砂粒<br>軟質<br>3/4            | 口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上<br>がる/口唇部は丸く収める<br>底部:平底  | 外:口縁部~底部ナデ<br>内:口縁部~底部ナデ              | 1トレンチ土壘石垣下<br>口唇部スス付着          |  |
| 12 | 土師器<br>小皿 | 口: 9.5<br>高: 1.9<br>底: 3.5<br>焼: 良好<br>色: 淡橙褐色   | 極砂粒<br>軟質<br>4/5            | 口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上<br>がる/口唇部は丸く収める<br>底部:平底  | 外:口端部ヨコナデ/体部ナデ<br>内:口縁部~底部ナデ          | 1トレンチ土壘石垣下<br>底部剥離             |  |
| 13 | 土師器<br>小皿 | 口: 6.4<br>高: 1.5<br>底: 3.2<br>焼: 良好<br>色: 淡橙褐色   | 極砂粒<br>軟質<br>4/5            | 口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上<br>がる/口唇部は丸く収める   | 外:口縁部~底部ナデ<br>内:口縁部~底部ナデ              | 1トレンチ土壘石垣下<br>口唇部スス付着          |  |
| 14 | 青磁<br>碗   | 口: 14.0<br>高: 4.0<br>焼: 良好<br>色: 透灰緑色            | 精緻<br>1/10以下                | 口縁部:やや内湾して外方へ立ち上<br>がる/口端部は外方へやや屈曲する/口<br>唇部は丸く収める<br>底部:平底                                |                                       | 6トレンチ                          |  |
| 15 | 青磁<br>皿   | 口: 26.0<br>高: 5.7<br>底: 12.2<br>焼: 良好<br>色: 透灰緑色 | 精緻<br>1/5                   | 口縁部:やや内湾して外方へ立ち上<br>がる/口端部は外方下へ屈曲する/口唇<br>部は丸く収める<br>底部:高台端面は丸く収める/端面内<br>側で接地<br>内外面に陰刻花文 |                                       | 1トレンチ土壘石垣下<br>底部:外面釉ハゲ<br>漆接ぎ痕 |  |

石製品(PL. 21 第6図)

単位:cm

| No | 器種   | 法量(最大値) |       |      |     | 残存   | 石材<br>色調<br>材質    | 調整・特徴                  | 備考                 | 出土地点       |
|----|------|---------|-------|------|-----|------|-------------------|------------------------|--------------------|------------|
|    |      | 長       | 幅     | 高    | 厚   |      |                   |                        |                    |            |
| 16 | 石盤   | 12.7    | 12.3  | 9.6  | 3.3 | 1/10 | 笏谷石<br>淡緑灰色<br>軟質 | 内面:タタキ<br>底部に1脚の方形脚部あり | 内面および断面被熱・<br>スス付着 | 1トレンチ土墨石垣下 |
| 17 | バンドコ | 13.0    | (9.6) | 10.2 | 1.8 | 1/10 | 笏谷石<br>淡緑灰色<br>軟質 | 外面:平滑<br>内面:タタキ        | 平面D型<br>全体被熱       | 5トレンチ      |
| 18 | 砥石   | 3.5     | 3.5   |      | 0.6 | 1/2  | 凝灰岩<br>赤茶色<br>硬質  | 砥面:表裏面、左側面、下<br>端面     |                    | 6トレンチ      |

### 3. 2区の遺構(PL. 3・4 第7～9図)

2区の湯殿跡庭園は、城戸ノ内町字水谷に位置し、朝倉館跡から南東へ40m隔てた山林中腹に立地する(第3図)。一乗谷朝倉氏遺跡の中で最も古い庭園と考えられ、標高は63～66m、比高約12mを測る。湯殿跡は朝倉館全体を囲む外濠の内側に含まれ、朝倉館を南東から俯瞰する高台にある。

昭和42年度の旧奈良国立文化財研究所が実施した調査では、諏訪館跡庭園と同様な池泉回遊式庭園であると推定された。

「湯殿跡」の呼称は「湯殿風呂屋布ノ跡に泉水の跡、庭石等があった」という江戸時代の記録『越藩拾遺録』に由来する。庭園の東側には傾斜30°の急傾斜面をもつ「観音山」が位置し、庭園東側の平場は大きく削平を受けているが、庭園を鑑賞できる建物が存在した可能性が指摘されている。

『朝倉始末記』に「東楼」という記録があり、朝倉館跡南東の高台にある湯殿跡もしくは観音山に比定して、俯瞰の景色を眺望していたという推測もできる。

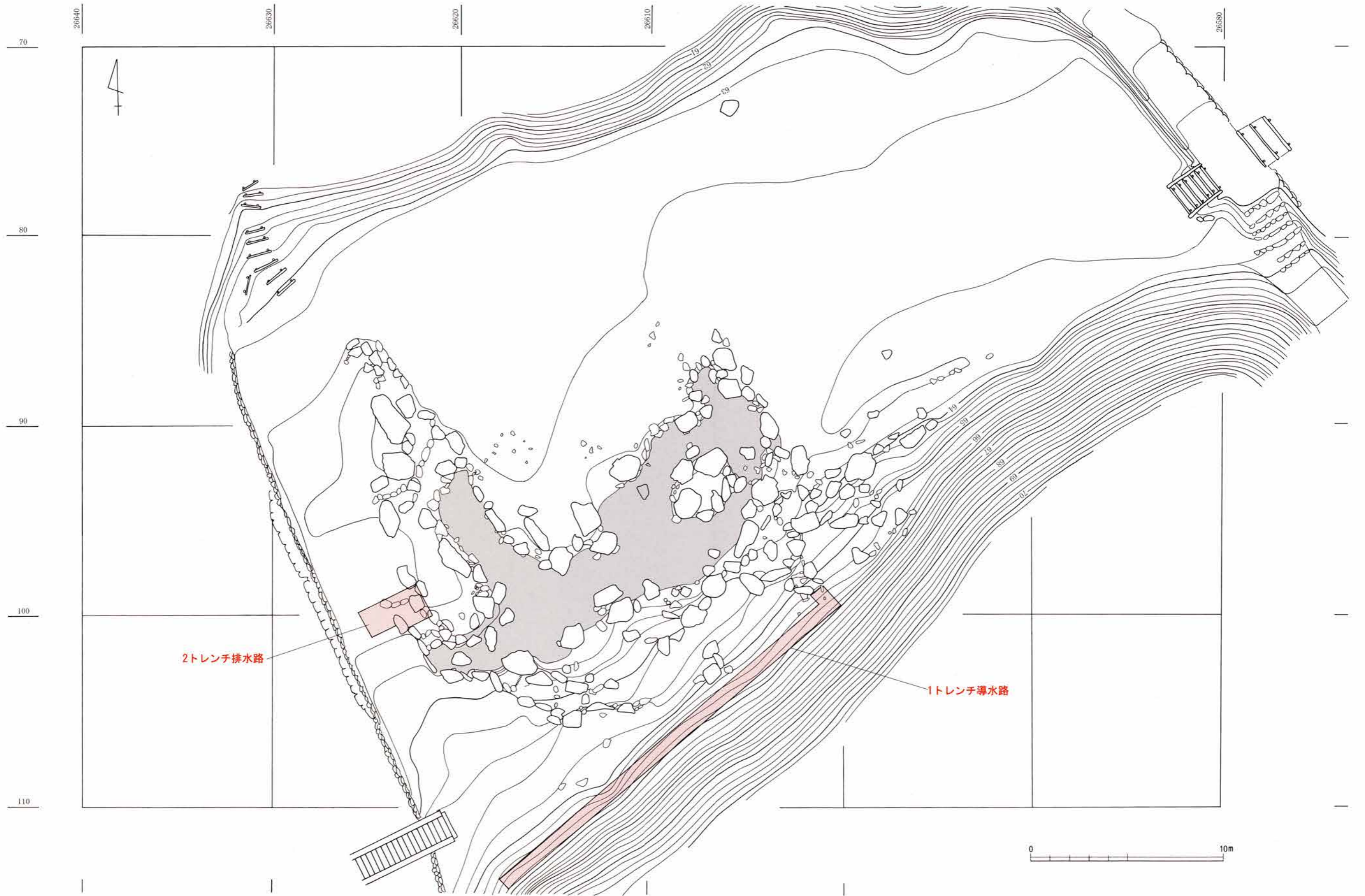
昭和42年度の調査の結果、標高66mに位置する東の滝石組から流れた水は、汀線が複雑に入り組んだ園池に落差約1.0mをもって注がれ、滝石組がある北側から中島の脇を流れた後、南西側の池尻から排水されたと推定された。また、『作庭記』(文4)に記述される、3石を各々仏身に見立てた三尊石組も確認され、石組は横一直線に配置され、山の字形を呈し、中央の本尊石には長大な石を用いていたようである。庭石の一部は、戦後、西南側に忠魂碑が建てられた際に改変を受けた可能性も指摘された。

今回の調査も諏訪館跡と同じく、57年ぶりの発掘調査となり、諏訪館跡と並行して調査を実施した。調査期間は、昭和62年(1987)12月8日から12月24日を要した。調査は、庭園の導水路および排水路を確認することを目的として、庭園内に2箇所の特レンチを設定した(第7図)。

1トレンチは、庭園導水路を確認するため、標高66mに位置する滝石組から山裾に沿って、南西方向に直線状に設定し、長さ23m、幅0.8mの範囲を掘削した。2トレンチは庭園排水路を確認するため、標高63.5mに位置する庭園南西側の鉤状に延びた汀線の先端に設定し、長さ2.5m、幅1.5mの範囲を掘削した。

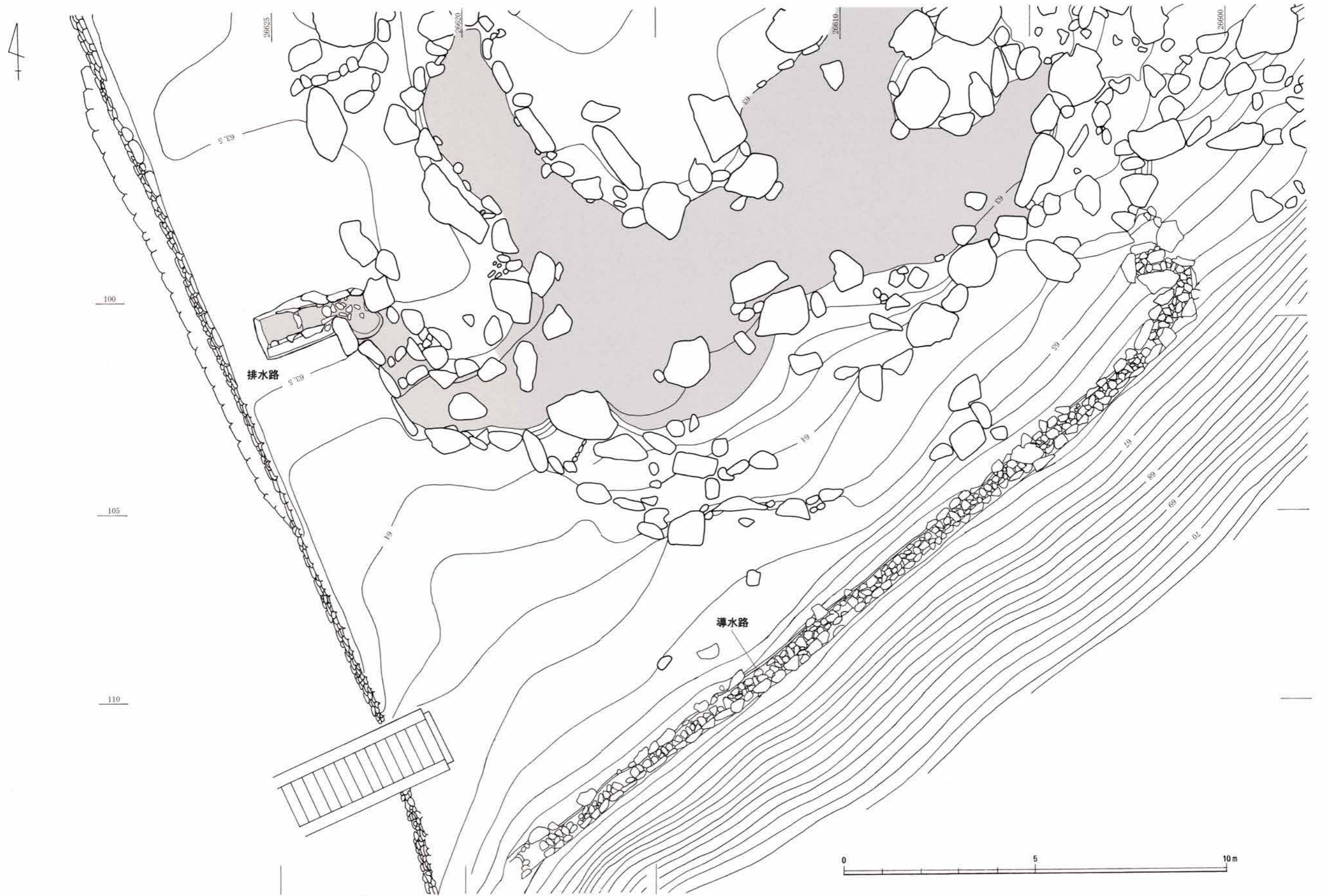
調査の結果、想定どおり、1トレンチにおいては導水路が23m分ほぼ良好な状態を保って検出された(第8図)。導水路は自然石を用いた開渠であり、側石と底石を組み合わせ、断面はコの字を呈し、方位はN50°Eに向けていた。導水路の勾配は北へ1度13分傾斜し、水は滝口近くに至ると、遣水のようなせせらぎとなって流れていたと考える。

全体を観察すると、北東側の滝石組に接続する導水路屈曲部は、内寸幅0.5m、内寸高0.4mを測り、0.7～1.0m大の石をコの字に組み、15～20cm大の平坦な石を底面に3列敷き詰めていた(第9図)。屈曲部からa-a'までの6.5mの範囲は、内寸幅0.2～0.3m、内寸高0.2mを測り、30～90cm大の大型の石を側石に多用し、



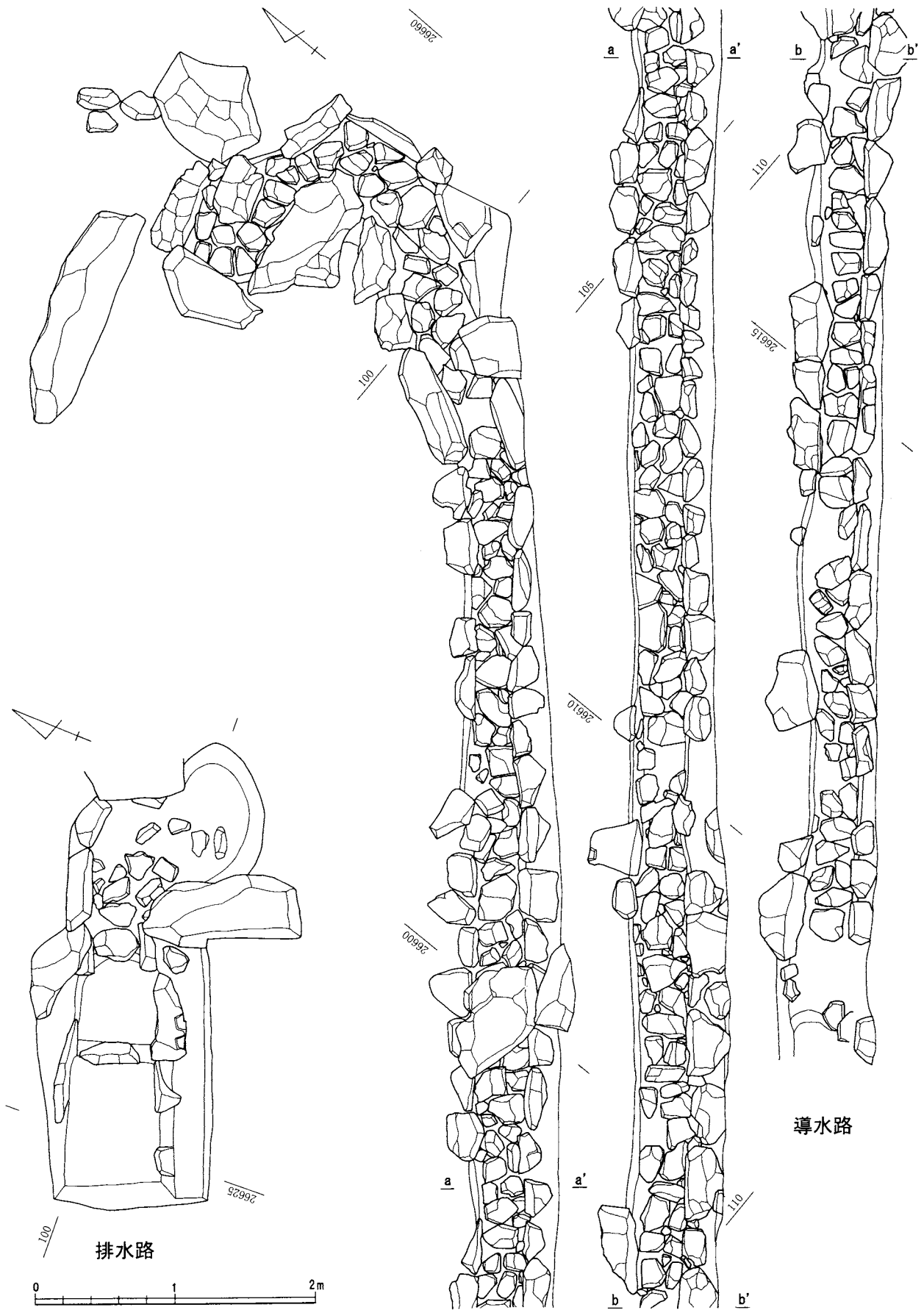
第7図 第60次調査2区湯殿跡庭園図(縮尺 1/200)





第8図 第60次調査2区遺構全体図(縮尺 1/100)

3. 2区の遺構



第9図 第60次調査2区導水路・排水路遺構図(縮尺1/40)

底面には15～20cm大の石を1・2列敷き詰めていた。a-a'手前1.0mのところでは90cm大の平坦な大石が側石に架けられており、通路のような踏石として据えられたと考える。

a-a'から5.0m進んだ範囲は、内寸幅0.1～0.3m、内寸高0.15mを測り、15～30cm大の小型の石を側石に用い、10～20cm大の底石を丁寧に敷き詰めていた。b-b'前後3.0mの範囲において再び大型の石を側石に使用するが、以降の南西側は、庭園側の側石の抜きとりが著しい状態になっていた。導水路は空濠近くになると、削平を受けており、観音山の西裾を巡って導水路が延びていたか確認できなかった。

2トレンチにおいては排水路を3.0m分検出することができた(第8図)。排水路は、標高63.5mに位置し、鉤状に北西側に延びた汀線からN110°Wに方向をとり、空濠に向けてほぼ直角に構築されていた。自然石を用いた開渠であり、側石と底石を組み合わせ、断面はコの字を呈していた。

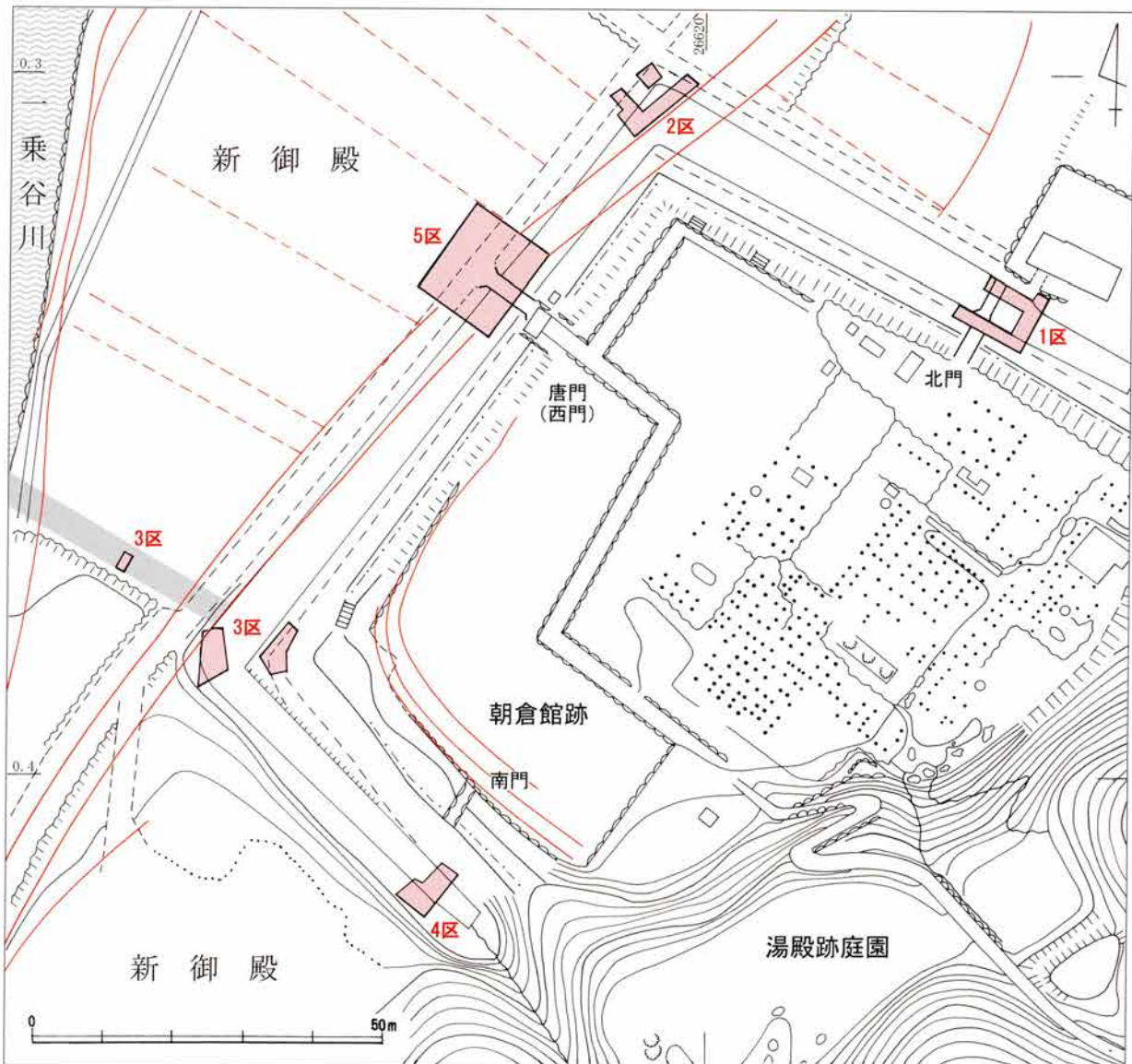
汀線左岸先端に据えた1.1m大の石を基点にすると、内寸幅0.3m、内寸高0.4mを測り、30～70cm大の石を側石に用い、10～20cm大の底石を敷き詰めていた(第9図)。空濠の近くでは削平を受け、排水路の先端は確認できなかった。

## IV. 第67次調査【朝倉館跡外濠 1～5区】

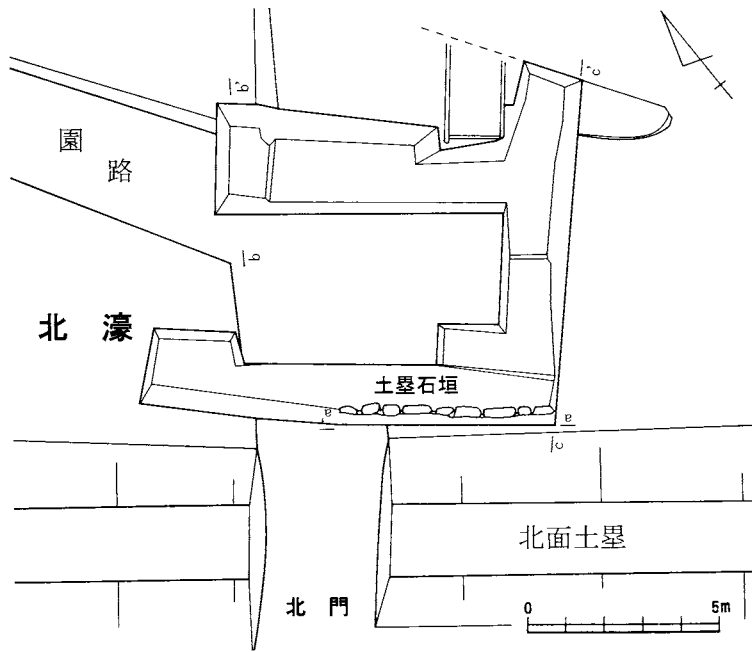
### 1. 朝倉館跡外濠(PL.5 第3・10図)

第67次調査は朝倉館跡外濠を対象とした。朝倉館跡は、城戸ノ内町字新御殿に位置し、土塁を含む館内の地番は城戸ノ内町22番8号となる。東側を一乗城山、西側を一乗谷川に挟まれた標高51～52mを測る河岸段丘上に立地している。

館跡の東は、山を削った崖面となり、南・北・西の三方は、幅7.0m、高さ2.0mの土塁に囲まれている。外濠は土塁の周囲だけでなく、山の斜面にまで空濠として延び、湯殿跡と中の御殿の間を通り、観音山の背後を北に進んで南陽寺跡の東南隅に達している。そして、山の斜面を西方に下って北濠に続いて、館跡を台形に一巡していることが地形図からも読み取れる。土塁の長さは西面土塁が約90m、北面土塁も約90mを測り、昭和46年度(1971)の第1～3次の調査によって、西面土塁の唐門(旧松雲院の門)が西門の位置とほぼ重複する可能性が指摘され、埋没していた北門SB55、南門SB56の存在が明らかになった『朝倉亭御成記』では御門、裏御門、中門と記載。『朝倉始末記』では西ノ門、北ノ門、中門と記載。



第10図 第67次調査朝倉館跡外濠1～5区位置図(縮尺1/1,000)



第11図 館跡外濠1区平面図(縮尺 1/200)

2. 館跡外濠1区(PL.5 第10~13図)

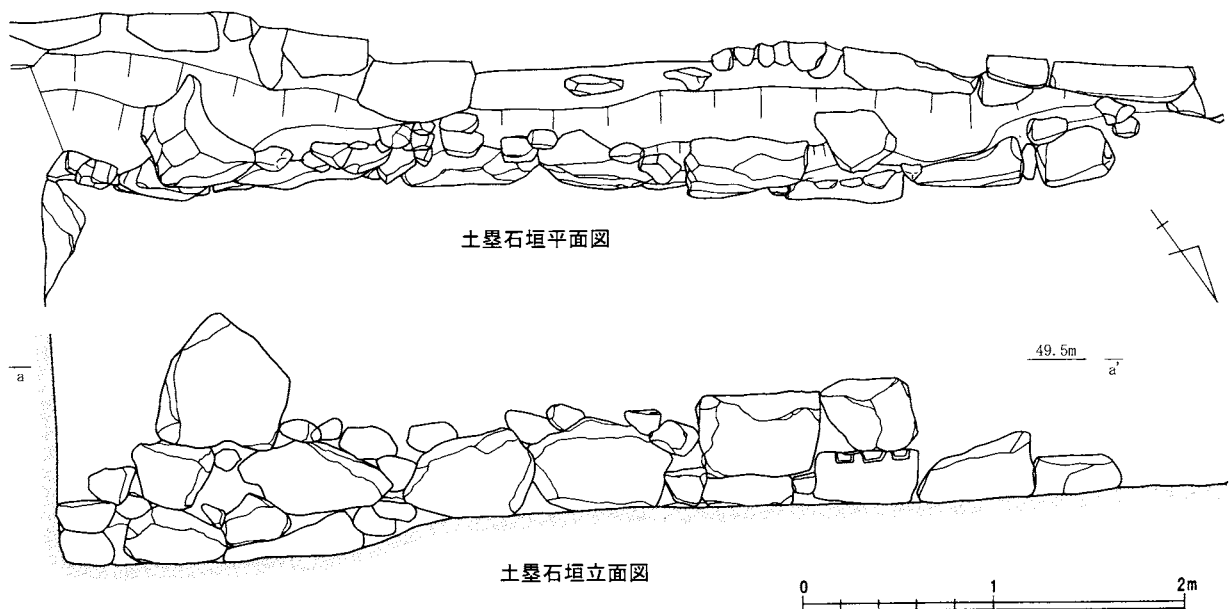
1区は朝倉館跡北門前の北濠に設定した(第10図)。全体の地形を概観すると、北門の北側には宅地が存在し、地籍図でもこの部分は全体の濠幅より狭くなっていた。

1区の北西側は第9次の調査区と近接し、当時の調査結果から、北側土塁側に石組の暗渠 SX86 が検出され、外濠は素掘りの箱堀式で、規模は上幅 8.5m、底幅 3.6m を測り、深さは現地表から 3.4m、土塁上部から 6.4m を測る規模を有していたことが判明した。また土塁石垣の基底は濠底には達していなく、濠底から 1.0m までは地山を露出させ、その上に石垣を積み上げていたことが明らかになった。ただ、土塁石垣の対岸にも 1ヶ所石垣が存在し、それらは濠底から石を積み上げていた。

館跡の遺構は、永正9年(1512)に4代城主となった孝景が新造した居館を、天文12年(1543)頃、5代義景が引き継ぎ、永禄10年(1567)足利義秋越前下向に際し、翌11年(1568)に再整備したものと考えられている。

今回の調査は、朝倉館跡の外濠に関連する調査として、昭和48年(1973)の第9次調査(文6)以来、16年ぶりとなった。

調査方法は、水田跡となっている外濠に1~5区の調査区を設定し、合計 330 m<sup>2</sup>の面積を調査した(第10図)。調査期間は1~4区が平成元年(1989)9月8日~同年10月7日、5区が平成2年(1990)1月10日~同年1月11日である。



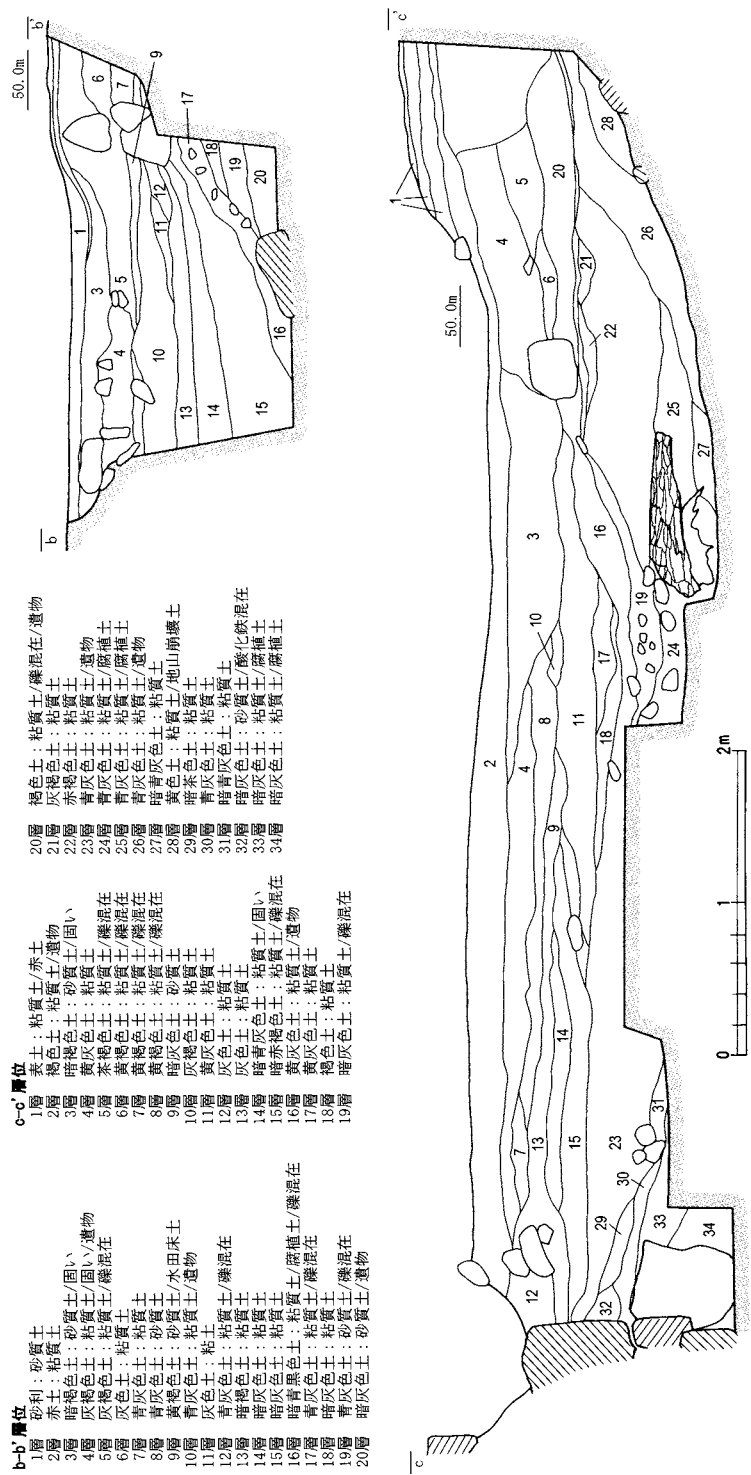
第12図 館跡外濠1区土塁石垣(縮尺 1/40)

濠底には第Ⅲ層の暗灰褐色粘質土、第Ⅳ層の褐色礫混在土、第Ⅴ層黒灰色粉殻混在土、第Ⅵ層灰褐色砂利混在土が 2.0m の厚さで堆積しており、櫛・将棋の駒・曲物・墨書木製品・人形・玩具・下駄といった木製品が 500 点以上、さらに種子や貝殻、香道具の雲母も加わり、戦国期の生活を解明する一級の資料が出土した。

今回の調査では、a-a' 間断面(第 11 図)で北門に関連する土塁石垣を検出した。土塁石垣は全長 5.8m を測り、標高 48.5m 付近の確認面から、2 段以上の石積みを確認した。

土塁石垣(第 12 図)には 50~80cm 大の自然石を主に用いており、矢穴が残る石材も一部検出された。ただし、調査は石垣の有無に重点をおいていたため、基底石の検出までは行わなかった。よって、石積は 2 段以上存在している可能性が高い。b-b' 間断面(第 13 図)では北濠外側の石垣は確認できなかった。

c-c' 間断面(第 13 図)は北濠の断面を確認するために設定した。15 層は暗赤褐色の酸化鉄と礫を多く含んだ層であり、この層より上層は水田耕作土等の堆積と観察され、15 層より下層が朝倉氏滅亡時までの堆積層と考えられる。北側から流れ込む 23 層の青灰色土からは土師器小皿が多く出土した。

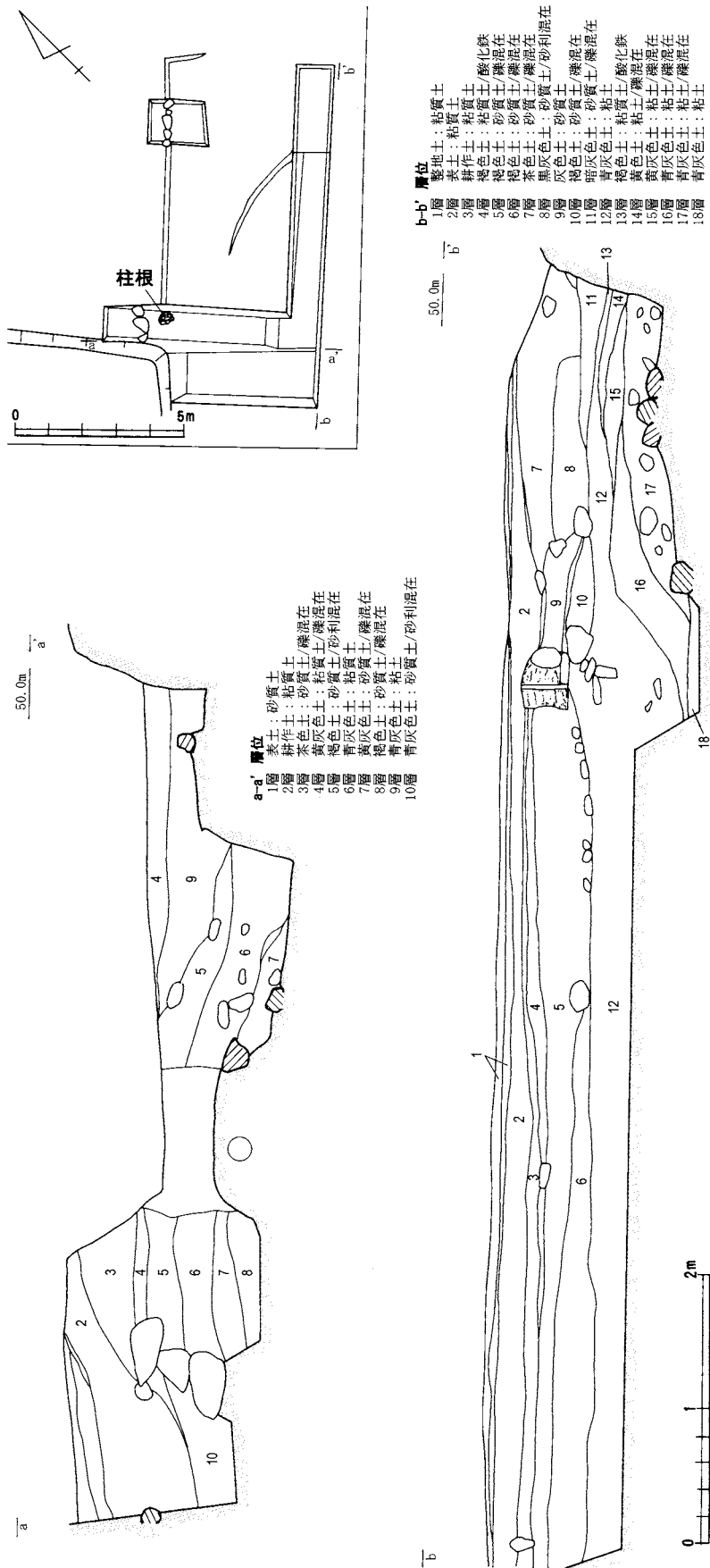


第 13 図 館跡外濠 1 区断面図(縮尺 1/50)

3. 館跡外濠 2 区(PL.6 第 10・14 図)

2 区は朝倉館跡外濠北西隅に設定した(第 10 図)。全体の地形を概観すると、調査当時は西濠の外側に沿って旧県道が通り、唐門付近から西濠北東隅の部分は旧県道と重複していた。周辺の標高は約 49.5m を測る。

今回の調査では、L 字状にトレンチを設定し(第 14 図)、a-a' 間断面で西濠外側の岸、b-b' 間断面で北濠外側の岸を確認することを目的とした。



調査の結果、a-a' 間断面では、中央付近で表土下1.2mの深度で水道管が検出され、西濠外側の位置で旧水田畦畔の石垣が3段検出された。石垣と水道管の間には、表土下1.4mで柱根が検出されたが、柱穴の断面は確認できなかった。石垣から土塁にかけて表土下1.4mまで掘削したが、堆積土は西側からの流れ込みで占められ、西濠外側の岸を検出することはできなかった。

b-b' 間断面では、表土下1.4mまで掘削した。1～4層までは旧道と旧水田の堆積層であった。7・8層は旧道に沿った溝であり、笏谷石を溝石としていた。濠内には5・6・12・16層に見られるような礫石が混在する褐色土、青灰色土が堆積していた。北濠外側の岸は確認できなかった。これらの層の下層は、a-a' 間の7・8層に見られる黄灰色土、褐色土の砂礫層と考える。なお、追加で設定した北西のトレンチでは、旧道、西濠外側の岸の一部を平面で確認した。

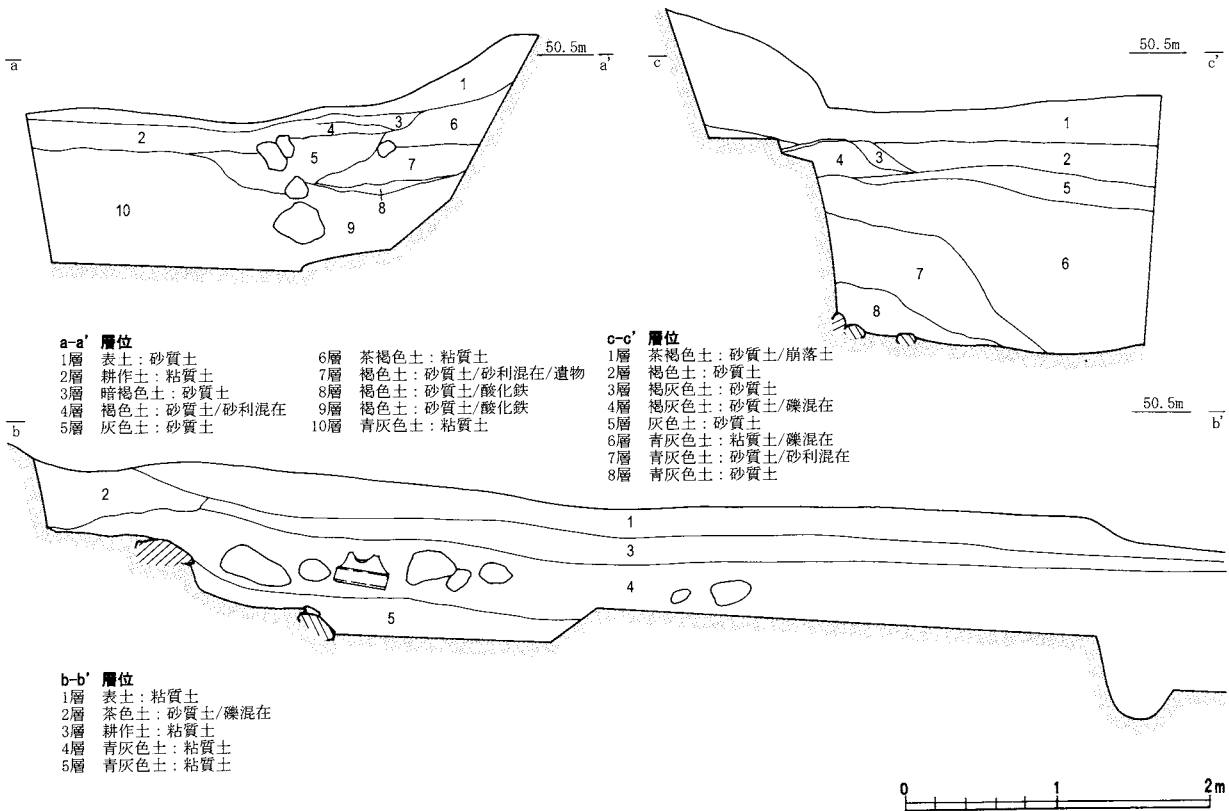
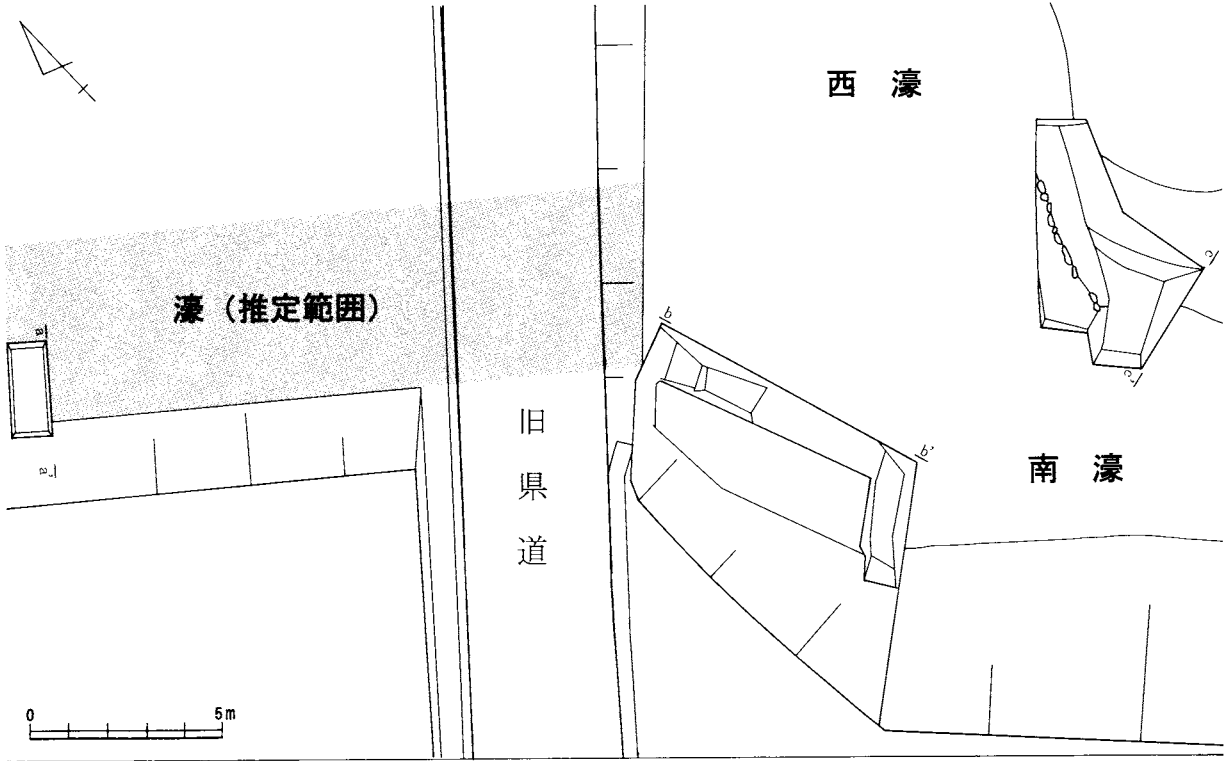
**4. 館跡外濠3区(PL.6 第15図)**

3区は朝倉館跡外濠南西隅に設定した(第10図)。旧地形を概観すると、調査当時は西濠のすぐ外側に沿って旧県道が通っていた。標高は約49.8mを測る。

今回の調査では、濠外に1ヶ所、濠内に2ヶ所のトレンチを設定した(第15図)。

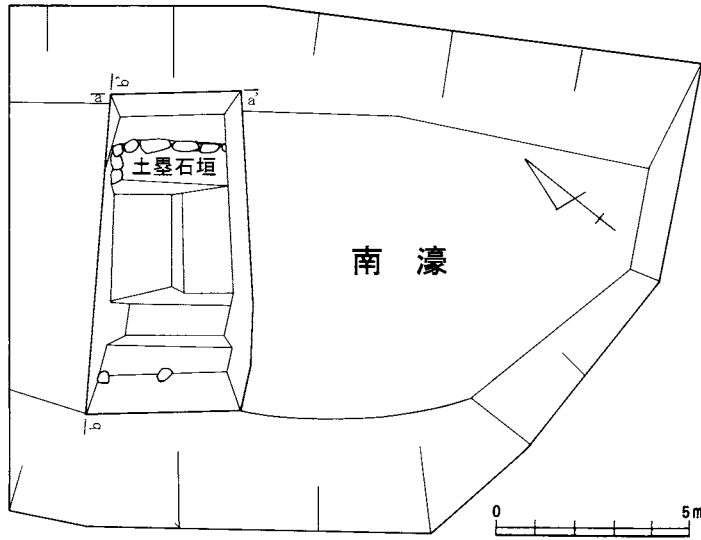
a-a' 間断面は、西濠から西に向かう、幅約5.0mの濠が工事に発見され、急遽設定し、濠の堆

積土である10層を確認した。b-b' 間断面は西から約1.0mの位置で4層が東に落ち込むことを確認した。5層は地山となる。4層から五輪塔の火輪が出土した。c-c' 間断面は土塁裾に設定し、表土下約1.6mまで掘削した。堆積土は土塁の崩落土であり、本来の土塁裾の検出はできなかった。



第15図 館跡外濠3区平面図・断面図(縮尺1/50、1/200)





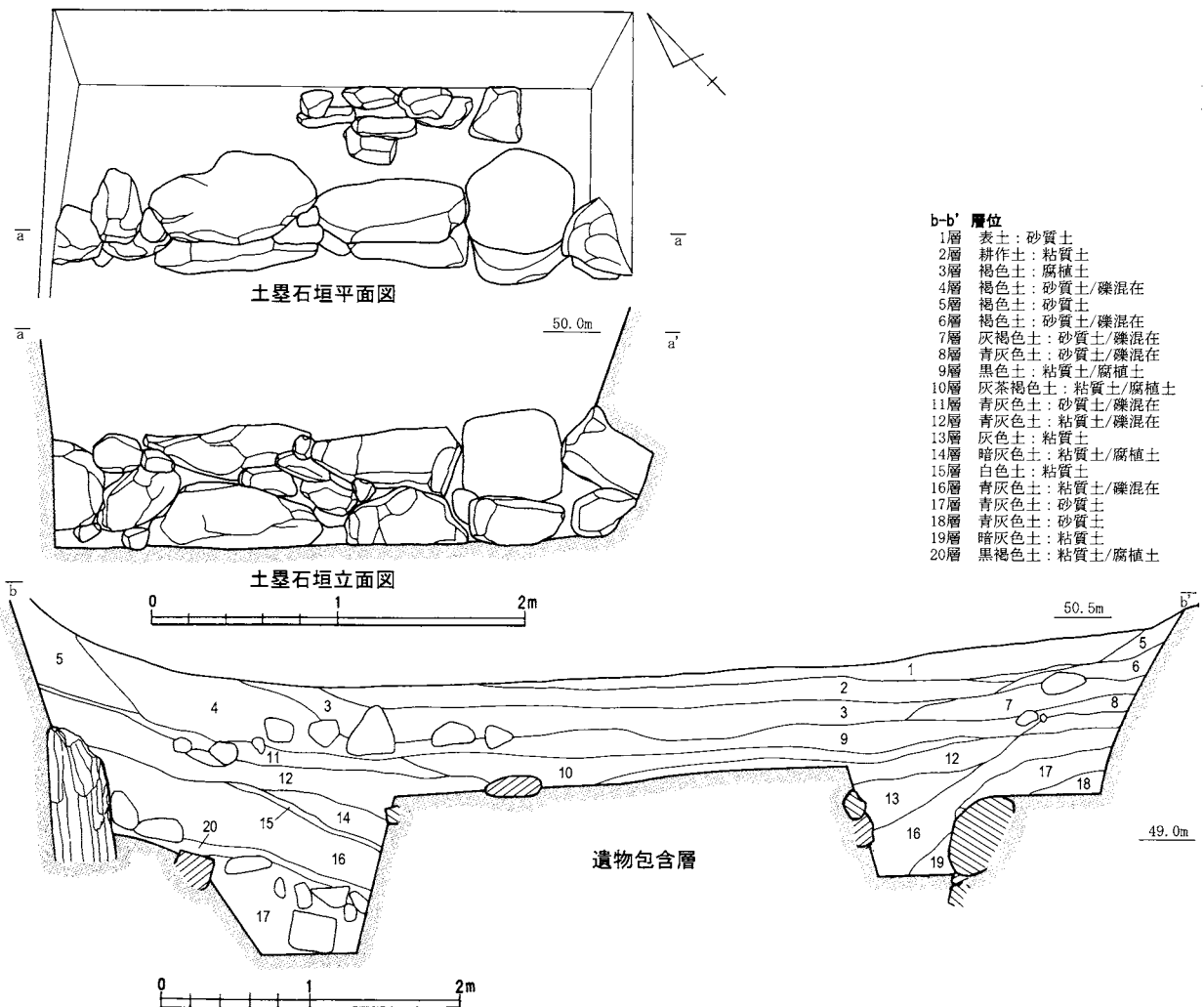
第16図 館跡外濠4区平面図(縮尺1/200)

16層は両岸で確認され、13~16層で越前焼、土師器小皿、中国製陶磁器、漆器碗等が少量含まれていた。南濠外側の表土下1.8mで確認した20層の黒褐色土は腐植土であり、朝倉氏の時期の堆積土と考えた。

### 5. 館跡外濠4区(PL.6 第10・16・17図)

4区は朝倉館跡南門前の南濠に設定した(第10・16図)。周辺の標高は約50.5mを測る。調査の結果、a-a'間断面で、南門に関連する土塁石垣を検出した(第17図)。土塁石垣は全長4.0mを測り、標高48.8m付近の確認面から、2段以上の石積みを確認した。土塁石垣(同図)には50~80cm大の自然石を主に用い、20cm大の石を裏込にして、野面積みで垂直に積んでいた。

b-b'間断面(同図)では、層位は2つに大別され、3・9層の腐植土以上の層と、下層の12~17層に分かれた。



第17図 館跡外濠4区土塁石垣・断面図(縮尺1/40、1/50)

南濠外側の17層では笏谷石の切石が2点検出され、一つは123cm×31cm×20cmを測る構造材で、ホゾを有し、一つは86cm×37cm×20cmを測り、欠損していた。

表土下1.4mの深さからは、さらに、館跡南門に架かる対岸の橋柱と推定される柱根が2本検出された。柱は径40cmを測り、柱芯間距離は1.8mを測った。

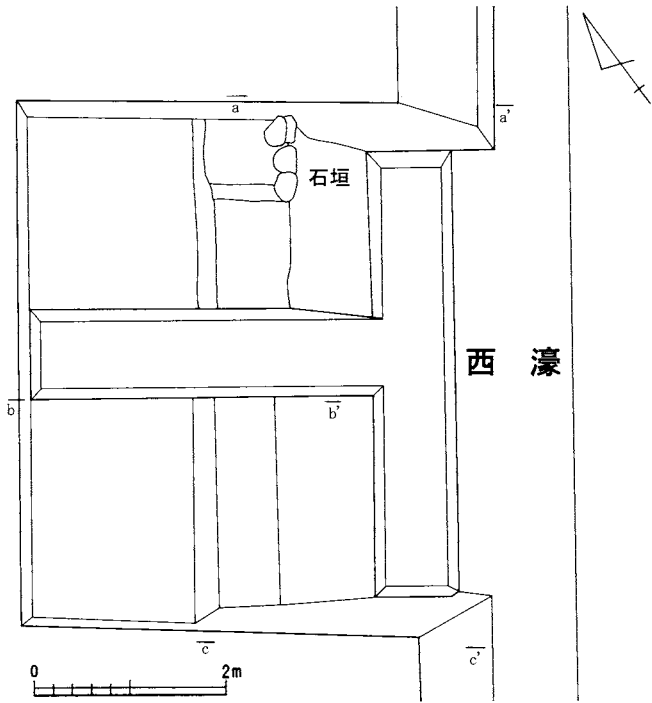
6. 館跡外濠5区(PL.6 第18・19図)

5区は朝倉館跡唐門前の西濠外側に設定した(第10・18図)。周辺の標高は、約49.7mを測る。西濠外側の状況を東西で確認できる断面を3ヶ所精査した。

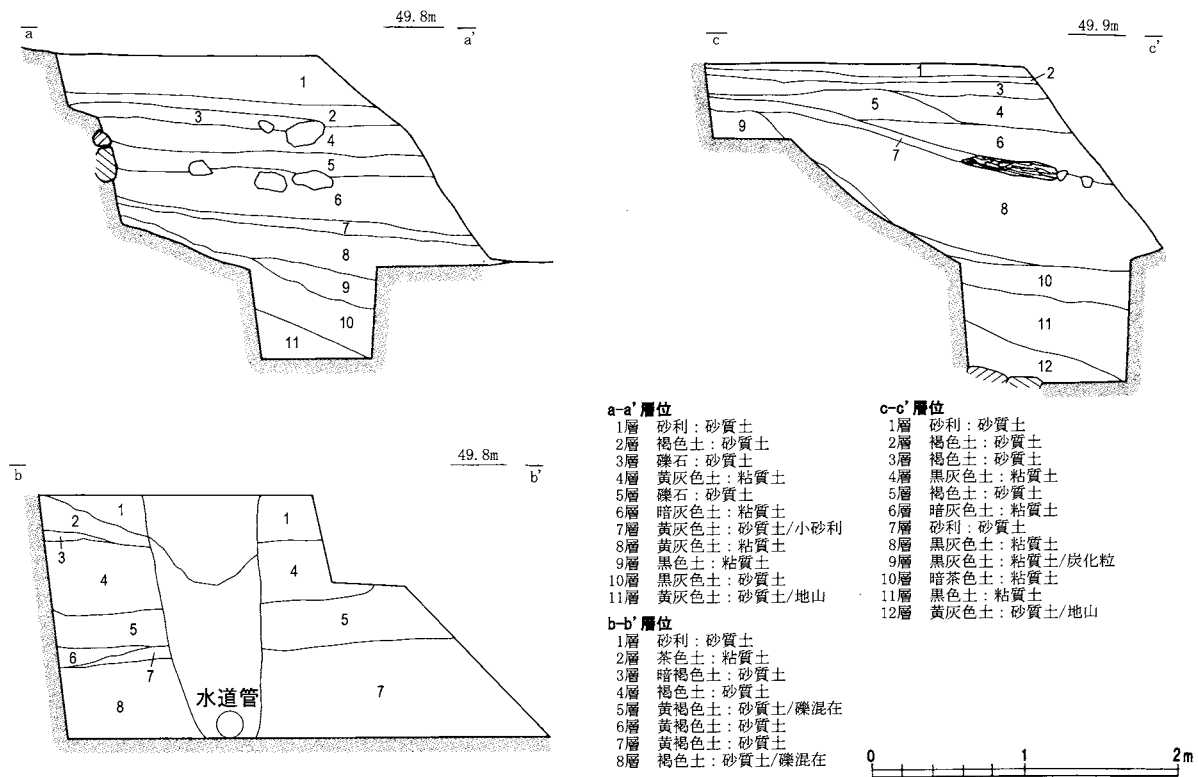
調査の結果、a-a'間断面(第19図)で、西側から西濠外側の石垣の一部が検出され、11層の地山である黄灰色土上面を岸と判断した。

b-b'間断面(同図)では、4・5層の水平堆積をした褐色土・黄褐色土の砂質土は客土と考えられ、濠内の堆積土ではなかった。断面中央は表土下1.5mまでおよぶ水道管布設の攪乱を受けていた。

c-c'間断面(同図)では、最下層の12層がa-a'間断面の11層に相当する地山と考えられ、西濠外濠の岸の一部を検出することができた。また、西門前の底面で、門幅に対応する橋の石列らしき遺構も確認した(PL.6)。



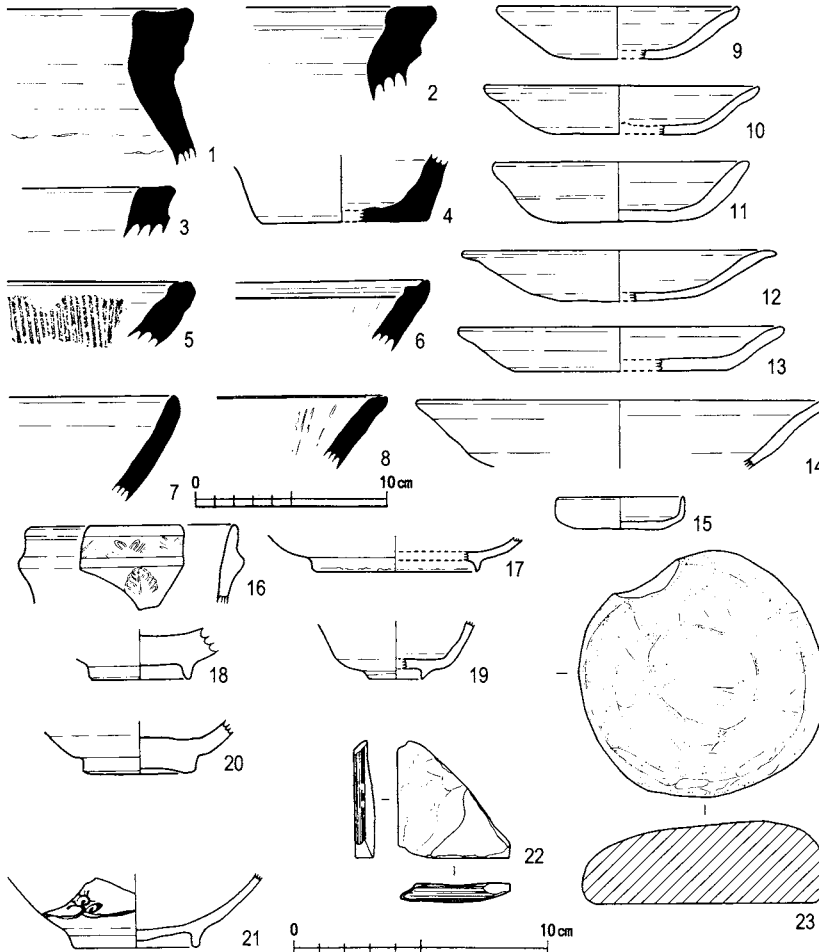
第18図 館跡外濠5区平面図(縮尺1/80)



第19図 館跡外濠5区断面図(縮尺1/50)

7. 遺物 (PL. 21・22 第20~22図 第2・3表)

第67次調査の遺物は、陶磁器類は天箱3箱分の量にとどまる。越前焼甕・壺・鉢、土師器小皿、青磁花入、白磁碗・皿、鉄釉天目碗、染付碗が出土し、石製品として石硯、不明石製品が出土した。全体的に3区出土のものが多い。ここでは特徴的なものについて述べる。



**越前焼** 1~3は甕の口縁部である。4は壺の底部である。5・6・8は播鉢、7は捏鉢である。

**土師器小皿** 9は口唇部を上方へツマミあげている。15は手捏ね成形である。

**青磁** 16は青磁花入であり、平面形は隅丸方形となる。口端部上位に綾杉文、下位に葉脈文を陰刻している。第24次調査の建物SB834内のSX855(文7)で全体が復元できる個体が出土している。

**白磁** 18はやや青みを帯びた朝鮮白磁の碗底部である。

**染付** 21は碗の底部であり、断面に漆接ぎの痕が残る。

**石製品** 22は石硯であり、23は擦痕が残る用途不明の石器である。

**木製品** 24は木錘、25・26は井戸杵の転用材であり、先端をU字形に加工している。30~41は桶と考える。

第20図 第67次調査出土陶磁器類、石製品(縮尺1/3、1/4)

第2表 第67次調査出土遺物観察表(PL. 21 第20図)

陶磁器類(PL. 21 第20図)

単位:cm

| No | 器種    | 法量/焼成/色調                             | 胎土<br>残存                    | 形状  | 調整 / 文様                            | 出土地点<br>備考      |
|----|-------|--------------------------------------|-----------------------------|---|------------------------------------|-----------------|
| 1  | 越前焼甕  | 焼: 良好<br>色: 淡茶灰色                     | 極砂粒<br>堅緻<br>1/10以下         | 口縁部:内傾して立ち上がる/口端面は浅い凹面/口端部外・内端に浅い凹面をもつ/シャープなつくり             | 外:ヨコナデ<br>内:ヨコナデ                   | 5区              |
| 2  | 越前焼甕  | 焼: 良好<br>色: 青灰色                      | 微砂粒<br>堅緻<br>1/10以下         | 口縁部:短く外反して立ち上がる/口端面は浅い凹面/口端部外端に浅い凹面をもつ/口端部内側に段差を有す。シャープなつくり | 外:ヨコナデ<br>内:ヨコナデ                   | 5区              |
| 3  | 越前焼甕  | 焼: 良好<br>色: 暗赤茶色                     | 極砂粒<br>堅緻<br>1/10以下         | 口縁部:短く外反して立ち上がる/口端面は浅い凹面/口端部外端に浅い凹面をもつ/シャープなつくり             | 外:ヨコナデ<br>内:ヨコナデ                   | 排土<br>口端面に自然釉付着 |
| 4  | 越前焼壺  | 高: 3.6<br>底: 9.0<br>焼: 良好<br>色: 暗赤茶色 | 極砂粒<br>白色粒子<br>堅緻<br>1/10以下 | 底部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/底面は平坦/シャープなつくり                            | 外:ヨコナデ/底面外縁に回転糸切り痕<br>内:ヘラナデ       | 3区              |
| 5  | 越前焼播鉢 | 焼: 不良<br>色: 淡褐白色                     | 極砂粒<br>軟質<br>1/10以下         | 口縁部:やや内湾して外方へ開く/口端面は平坦/口端部内側に浅い凹線をもつ                        | 外:摩耗<br>内:ヨコナデ<br>内面に幅4.7cm・15条の卸目 | 3区              |
| 6  | 越前焼播鉢 | 焼: 良好<br>色: 橙褐色                      | 極砂粒<br>軟質<br>1/10以下         | 口縁部:直線状に外方へ開く/口端面は凹面/口端部内側に段をもつ                             | 外:ヨコナデ<br>内:ヨコナデ<br>内面の卸目不鮮明       | 2区              |

7. 遺物

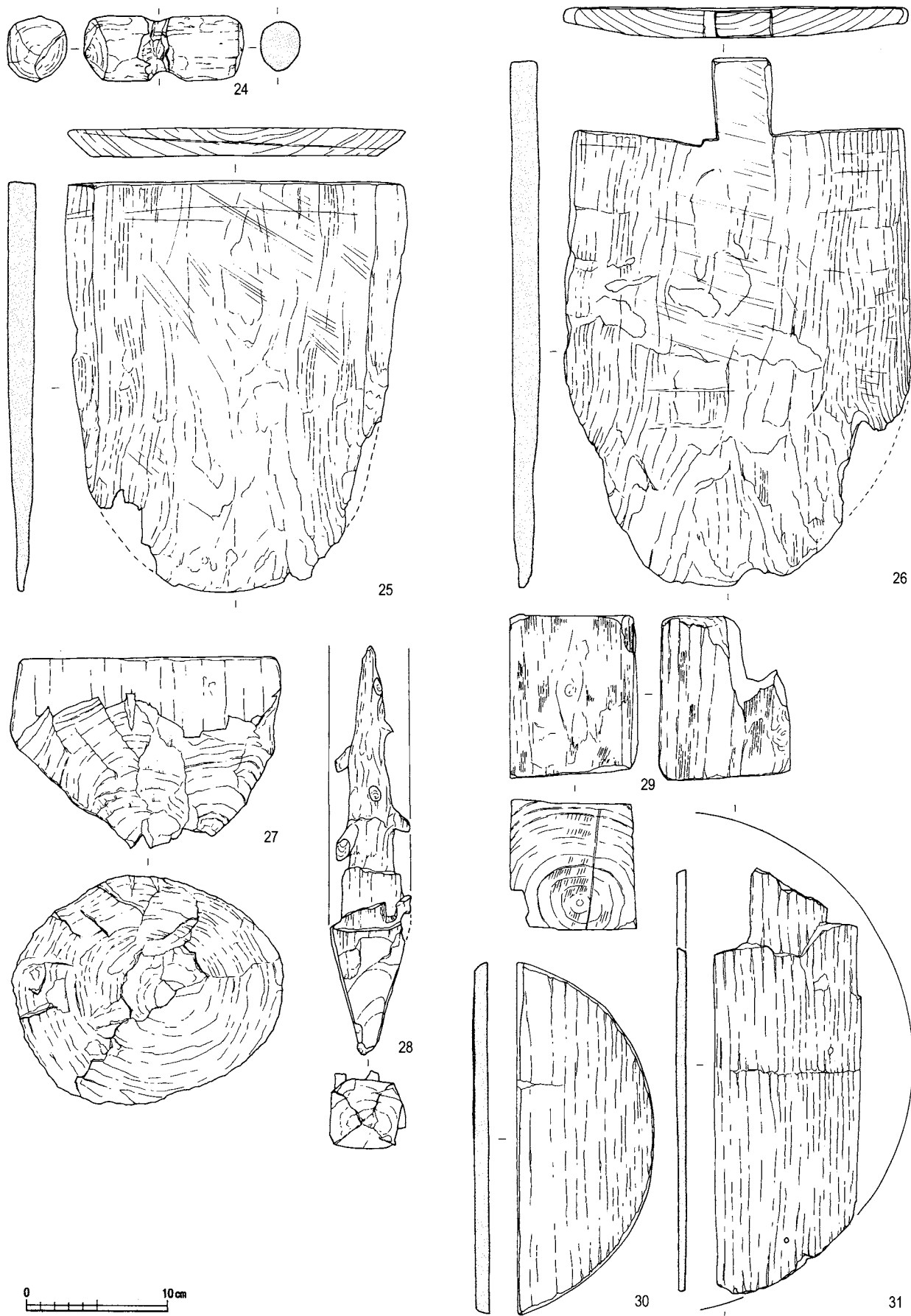
単位:cm

| No | 器種         | 法量/焼成/色調                                     | 胎土<br>残存            | 形 状   | 調整 / 文様                            | 出土地点                    |
|----|------------|--|---------------------|---|------------------------------------|-------------------------|
|    |            |  |                     |   |                                    | 備 考                     |
| 7  | 越前焼鉢       | 焼色: 良好<br>淡茶色                                | 極砂粒<br>堅緻<br>1/10以下 | 口縁部:直線状に外方へ開く/口端面は鋭角                              | 外:回転ナデ<br>内:回転ナデ                   | 3区                      |
| 8  | 越前焼播鉢      | 焼色: 良好<br>赤茶色                                | 極砂粒<br>堅緻<br>1/10以下 | 口縁部:直線状に外方へ開く/口端面は平坦                              | 外:回転ナデ<br>内:回転ナデ<br>内面の釘目不鮮明       | 5区<br>外:ヤキムラ<br>口縁部:自然釉 |
| 9  | 土師器<br>小皿  | 口: 9.4<br>高: 2.1<br>底: 4.0<br>焼色: 良好<br>橙褐色  | 極砂粒<br>軟質<br>1/5    | 口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/口唇部は短くツمامミ上げる<br>底部:平底        | 外:口縁部ヨコナデ/底部ナデ<br>内:口縁部~底部ナデ       | 5区                      |
| 10 | 土師器<br>小皿  | 口: 10.8<br>高: 1.9<br>底: 6.0<br>焼色: 良好<br>橙褐色 | 極砂粒<br>軟質<br>1/8    | 口縁部:ゆるやかに内湾して立ち上がる/口端部やや外方へ屈曲/口唇部は丸く収める<br>底部:平底  | 外:口縁部ナデ/底部ナデ<br>内:口縁部ヨコナデ/底部ヨコナデ   | 3区                      |
| 11 | 土師器<br>小皿  | 口: 10.0<br>高: 2.4<br>底: 5.3<br>焼色: 良好<br>橙褐色 | 極砂粒<br>軟質<br>4/5    | 口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/<br>口唇部は丸く収める<br>底部:平底           | 外:口縁部ヨコナデ/底部ナデ<br>内:口縁部強いヨコナデ/底部ナデ | 5区<br>外:口縁部スス付着         |
| 12 | 土師器<br>小皿  | 口: 12.4<br>高: 1.9<br>底: 4.5<br>焼色: 良好<br>白褐色 | 極砂粒<br>軟質<br>1/5    | 口縁部:やや内湾して外方へ立ち上がる/口端部は外方へ弱く屈曲/口唇部は丸く収める<br>底部:丸底 | 外:摩耗<br>内:摩耗                       | 3区                      |
| 13 | 土師器<br>小皿  | 口: 12.9<br>高: 1.7<br>底: 8.0<br>焼色: 良好<br>橙褐色 | 極砂粒<br>軟質<br>1/6    | 口縁部:やや外反して短く立ち上がる/<br>口唇部は丸く収める<br>底部:平底          | 外:口縁部ナデ/底部ナデ<br>内:口縁部ナデ/底部ナデ       | 3区                      |
| 14 | 土師器<br>小皿  | 口: 16.0<br>高: 2.6<br>焼色: 不良<br>白褐色           | 極砂粒<br>軟質<br>1/10以下 | 口縁部:中位からやや外反して立ち上がる/<br>口唇部は丸く収める                 | 外:口縁部ナデ<br>内:口縁部ナデ                 | 3区                      |
| 15 | 土師器<br>小皿  | 口: 4.8<br>高: 1.2<br>底: 3.0<br>焼色: 不良<br>白褐色  | 極砂粒<br>軟質<br>1/10以下 | 口縁部:中位から上方へ立ち上がる/<br>口唇部は丸く収める                    | 外:口縁部ナデ<br>内:口縁部ナデ                 | 5区                      |
| 16 | 青磁<br>花生   | 口: 8.2<br>高: 3.1<br>焼色: 良好<br>透オリブ灰色         | 精緻<br>1/10以下        | 口縁部:やや外傾して立ち上がる/口唇部は丸く収める/口端部下端が張る/口縁部の平面形は隅丸方形   | 外:口縁部上位に綾杉文、下位に葉脈文の陰刻              | 5区<br>外:口唇部釉剥離          |
| 17 | 白磁<br>皿    | 高: 1.3<br>底: 6.4<br>焼色: 良好<br>透白色            | 精緻<br>1/10以下        | 口縁部:内湾して立ち上がる<br>底部:高台端面は鋭角/釉ハゲ                   |                                    | 3区                      |
| 18 | 朝鮮白磁<br>皿  | 高: 2.0<br>底: 4.0<br>焼色: 良好<br>淡緑白色           | 堅緻<br>1/8           | 底部:高台端面は丸く収める/釉ハゲ                                 |                                    | 3区                      |
| 19 | 白磁<br>碗    | 高: 2.3<br>底: 2.0<br>焼色: 良好<br>透白色            | 精緻<br>1/10以下        | 底部:高台端面は鋭角/釉ハゲ                                    |                                    | 3区<br>内:底部外縁釉ハゲ         |
| 20 | 鉄釉<br>天目茶碗 | 高: 2.0<br>底: 4.4<br>焼色: 良好<br>茶色             | 極砂粒<br>堅緻<br>1/10以下 | 底部:高台は蛇の目高台                                       |                                    | 3区                      |
| 21 | 染付<br>碗    | 高: 3.0<br>底: 5.0<br>焼色: 良好<br>透青白色           | 精緻<br>1/8           | 口縁部:内湾して立ち上がる<br>底部:高台端面は丸く収める/釉ハゲ                | 漆接ぎの痕                              | 3区                      |

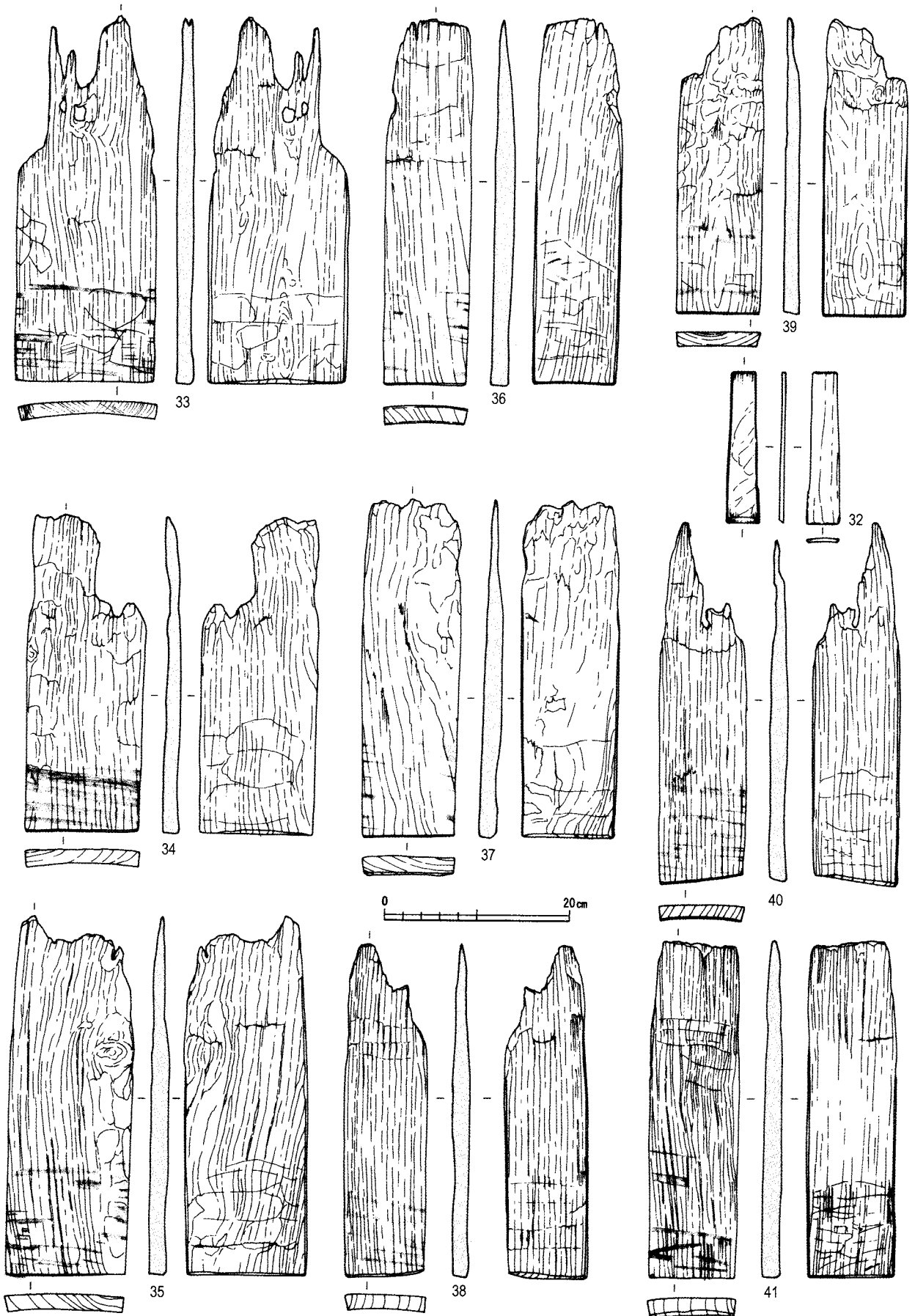
石製品(PL. 21 第20図)

単位:cm/g

| No | 器種        | 法量(最大値) |     |     |       | 残存  | 石材<br>色調<br>材質    | 調整・特徴                  | 備 考                  | 出土地点 |
|----|-----------|---------|-----|-----|-------|-----|-------------------|------------------------|----------------------|------|
|    |           | 長       | 幅   | 厚   | 重     |     |                   |                        |                      |      |
| 22 | 石硯        | 4.5     | 4.3 | 0.8 | 18.0  | 1/2 | 安山岩<br>淡緑灰色<br>硬質 | 整形面:左側面、下端面            | 左側面、下端面に墨汚れ<br>石材は緻密 | 2区   |
| 23 | 不明<br>石製品 | 9.6     | 9.5 | 3.2 | 328.0 | 1/1 | 笏谷石<br>淡緑黄色<br>軟質 | 外面:平滑、擦痕多し<br>底面:平坦、平滑 | 砥石?                  | 5区   |



第21図 第67次調査出土木製品(縮尺1/4)



第 22 図 第 67 次調査出土木製品(縮尺 1/6)

第3表 第67次調査出土遺物木製品観察表(PL. 22 第21・22図)

単位: cm/g

| No | 種類       | 法量(最大値) |         |       | 残存  | 木取樹種 | 特 徴  | 出土地点 |
|----|----------|---------|---------|-------|-----|------|--|------|
|    |          | 長<br>幅  | 高<br>材厚 | 重量    |     |      |  |      |
| 24 | 木錘       | 11.3    | —       | 139.6 | —   | 枝材同心 | 形状: 鼓形/中央に紐をかける袂りを入れる/両端面切断  | 4区   |
|    |          | 4.3     | 4.7     |       |     | —    |  |      |
| 25 | 不明<br>板材 | 29.7    | —       | —     | —   | 板目   | 形状: スコップ形/上端面に鋸による切断面の段差が残る/下端に向けて削られ薄くなる<br>表裏面: 擦痕   | 5区   |
|    |          | 24.3    | 2.0     |       |     | 針葉樹  |  |      |
| 26 | 不明<br>板材 | 38.2    | —       | —     | —   | 板目   | 形状: スコップ形/上端中央に、長さ5.5cm、幅4.2cmの突起をもつ/下端に向けて削られ薄くなる<br>表裏面: 擦痕、手斧痕  | 5区   |
|    |          | 24.5    | 2.0     |       |     | 針葉樹  |  |      |
| 27 | 部材       | 18.5    | 13.5    | —     | —   | 芯持丸木 | 形状: 円錐状の端材/平面形は楕円形/伐採痕が残る  | 1区   |
|    |          | 16.3    | —       |       |     | 針葉樹  |  |      |
| 28 | 杭材       | 29.4    | —       | —     | —   | 枝材同心 | 形状: 先端部は4面方錐状に成形/断面方形の棒状部が付く/棒状辺材周辺は水中で腐食し、節が残る  | 5区   |
|    |          | 4.9     | 5.0     |       |     | 針葉樹  |  |      |
| 29 | 部材       | 11.7    | 9.1     | —     | —   | 芯持丸木 | 形状: 方柱状/上下端面: 平滑/下端面に鋸による切断の段あり  | 5区   |
|    |          | 8.8     | —       |       |     | 針葉樹  |  |      |
| 30 | 桶        | 25.4    | —       | —     | 1/3 | 板目   | 底板/形状: 半月形/表面: 辺材側(外面)/裏面: 心材側(内面)<br>全体平滑/表面外縁は裏面に掛けて斜めに削られる  | 5区   |
|    |          | 9.7     | 1.1     |       |     | 針葉樹  |  |      |
| 31 | 桶        | 36.0    | —       | —     | 1/3 | 板目   | 底板/形状: 半月形/表面: 心材側(外面)/裏面: 辺材側(内面)<br>全体平滑/表面外縁は裏面に掛けて斜めに削られる/木釘2箇所                                      | 5区   |
|    |          | 10.4    | 0.7     |       |     | 針葉樹  |  |      |
| 32 | 桶        | 16.4    | —       | —     | 1/1 | 板目   | 側板/形状: 長方形/左側辺欠損<br>全体平滑/裏面(内面)に手斧痕<br>下端は裏面に掛けて片刃状に斜めに削られる  | 4区   |
|    |          | 3.7     | 0.5     |       |     | 針葉樹  |  |      |
| 33 | 桶        | 39.5    | —       | —     | 2/3 | 準柱目  | 側板/形状: 長方形/上位欠損/心材側(左側辺)/辺材側(右側辺)<br>全体平滑/表裏面に手斧痕/表面下位にタガ痕/下端に鋸痕<br>表裏面上端1/4の範囲が削られ、畦畔材に転用されている可能性あり     | 1区   |
|    |          | 15.0    | 1.9     |       |     | 針葉樹  |  |      |
| 34 | 桶        | 34.1    | —       | —     | 3/4 | 板目   | 底板/形状: 長方形/表面: 心材側(外面)/裏面: 辺材側(内面)<br>全体平滑/表裏面に手斧痕/表面(外面)にタガ痕  | 1区   |
|    |          | 12.6    | 1.9     |       |     | 針葉樹  |  |      |
| 35 | 桶        | 38.7    | —       | —     | 4/5 | 板目   | 底板/形状: 長方形/表面: 心材側(外面)/裏面: 辺材側(内面)<br>全体平滑/左右側辺・裏面に手斧痕/表面下位にタガ痕<br>表裏面上端1/4の範囲が削られ、畦畔材に転用されている可能性あり      | 1区   |
|    |          | 13.0    | 1.7     |       |     | 針葉樹  |  |      |
| 36 | 桶        | 39.6    | —       | —     | 4/5 | 準正目  | 側板/形状: 長方形/上位欠損/心材側(右側辺)/辺材側(左側辺)<br>全体平滑/表面下位にタガ痕/裏面下位に手斧痕/表裏面下端面取り<br>表裏面上端1/3の範囲が削られ、畦畔材に転用されている可能性あり | 1区   |
|    |          | 9.2     | 2.2     |       |     | 針葉樹  |  |      |
| 37 | 桶        | 36.4    | —       | —     | 4/5 | 板目   | 底板/形状: 長方形/表面: 心材側(外面)/裏面: 辺材側(内面)<br>全体平滑/表面下位にタガ痕/裏面下位は浅く凹む<br>表裏面上端1/4の範囲が削られ、畦畔材に転用されている可能性あり        | 1区   |
|    |          | 10.6    | 2.0     |       |     | 針葉樹  |  |      |
| 38 | 桶        | 35.9    | —       | —     | 4/5 | 柱目   | 側板/形状: 長方形/上位欠損/心材側(左側辺)/辺材側(右側辺)<br>全体平滑/表面下位にタガ痕/裏面下位は浅く凹む<br>表裏面上端1/3の範囲が削られ、畦畔材に転用されている可能性あり         | 1区   |
|    |          | 8.9     | 1.8     |       |     | 針葉樹  |  |      |
| 39 | 桶        | 32.1    | —       | —     | 4/5 | 板目   | 底板/形状: 長方形/表面: 心材側(外面)/裏面: 辺材側(内面)<br>全体平滑/表裏面に手斧痕/表面下位にタガ痕<br>表裏面上端1/4の範囲が削られ、畦畔材に転用されている可能性あり          | 1区   |
|    |          | 9.2     | 1.8     |       |     | 針葉樹  |  |      |
| 40 | 桶        | 34.1    | —       | —     | 2/3 | 準正目  | 側板/形状: 長方形/上位欠損/心材側(左側辺)/辺材側(右側辺)<br>全体平滑/表面下位にタガ痕/裏面下位に手斧痕<br>表裏面上端1/3の範囲が削られ、畦畔材に転用されている可能性あり          | 1区   |
|    |          | 9.4     | 2.0     |       |     | 針葉樹  |  |      |
| 41 | 桶        | 36.3    | —       | —     | 4/5 | 柱目   | 側板/形状: 長方形/上位欠損/心材側(右側辺)/辺材側(左側辺)<br>全体平滑/表面下位にタガ痕/裏面下位に手斧痕<br>表裏面上端1/3の範囲が削られ、畦畔材に転用されている可能性あり          | 1区   |
|    |          | 9.6     | 2.1     |       |     | 針葉樹  |  |      |

## V. 第100次調査【城戸ノ内町字川合殿、藤兵衛川原】

### 1. 遺構の概要(PL.7 第2・23・24図)

第100次調査は、城戸ノ内町字川合殿、藤兵衛川原に位置し、朝倉館跡から一乗谷川を越えて、約4km隔てた河岸に立地する(第2図)。東側を一乗谷川、西側を山塊に挟まれた、南北に延びる狭隘な平地において、土塁石垣で区画された武家屋敷群が検出された。調査面積は2,600㎡であり、標高は上流側で57~58m、下流側で55mを測る。調査期間は平成9年(1997)4月1日~同年12月21日である。

折しも、調査年度は、特別史跡一乗谷朝倉氏遺跡の発掘調査が開始されてから30年目の節目にあたり、史跡指定では25周年となる記念の年となった。記念事業の一環として、特別展「眠りからさめた戦国の城下町」展(文9)が開催された。これまでに、平成7年(1995)に町並立体復原事業を完成させ、平成8年に旧「中期10ヶ年計画」無事終えたが、山城跡や新御殿跡など、調査・整備を進めるべき遺構が存在するため、新たに平成18年度を目途とする「中期10ヶ年計画」を計画し、第100次調査は初年度の調査になった。

調査区の周辺は、東側の県道側一帯が、昭和53・54年(1978・1979)の第31次調査(文10)の対象地となっており、北側の町並立体復元地区の休憩所・川合殿仮設駐車場となっている場所は、昭和63年度(1988)の第57・58次調査(文11)の対象地となっており、調査区には複数の屋敷跡が存在していることが想定されてきた。

第31次調査においては、道路1、土塁石垣5、溝16、礎石建物4、井戸12、石積遺構19、埋甕遺構3、暗渠2が検出され、遺物は、越前焼が圧倒的な量を占めるが、埋甕遺構は単独で据え付けられていた。

第57・58次調査においては、土塁1、石列および石垣4、溝6、礎石建物5、庭園1、井戸6、石積遺構11が検出され、これらの遺構は古層からⅠ~Ⅲ期に区分された。Ⅲ期は朝倉氏滅亡期、Ⅱ期はⅢ期から深さ15cm下層にあるものの、基本的な屋敷割りにおいて変更は見受けられなかった。

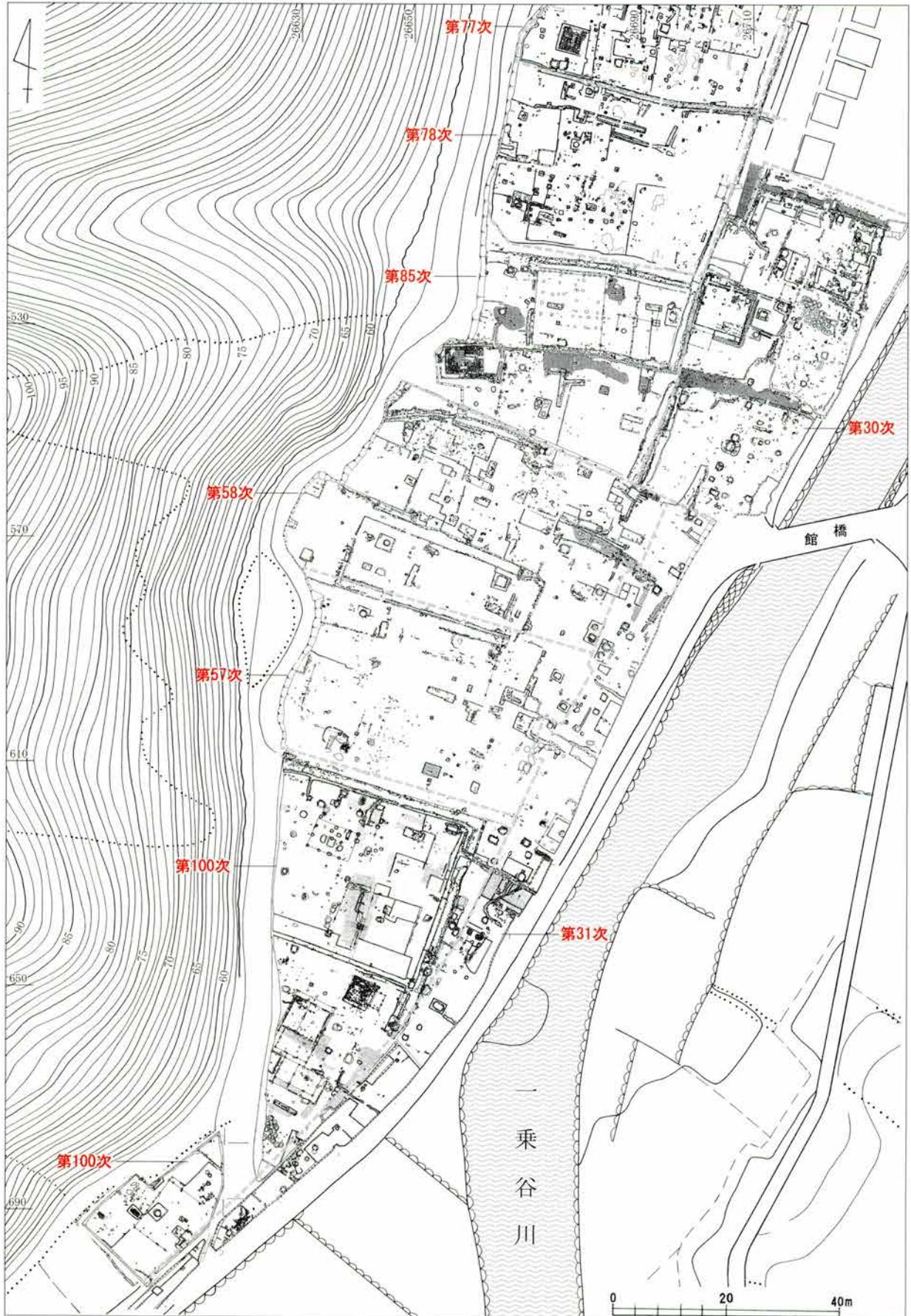
第57次調査の特徴的な遺構をあげると、Ⅱ~Ⅲ期の庭園遺構SG3443は、9㎡程のL字形の池を設けたが、後に埋められ、白い小砂利を敷き詰めた平庭に改変されたことが明らかになり、これに伴う建物SB3422も検出された。Ⅲ期まで使用された井戸SE3419は径1.15m、深さ3.8mを測る石積み井戸であり、井戸内の覆土は朝倉滅亡期の焼土で埋められ、16,000枚の銅銭と多くの遺物が含まれ、注目された。

今回の第100次調査で検出された遺構は、遺構は北から武家屋敷A~C群の3つに大別され、A群門外の南北屋敷跡についても補足的に把握することができた(第24図)。武家屋敷A・B群は川合殿、C群は藤兵衛川原の字名に含まれる。

武家屋敷A群は、北側を東西方向に全長35m、幅1.8mの北側土塁石垣SA4631で区画し、東側を南北方向に全長42.0m、幅1.8mの東側土塁石垣SA1553・4632で区画している。南側は東西方向に全長27.0m、幅1.0mの南側土塁石垣SA4633で区画し、武家屋敷B群との境としている。武家屋敷A群の出入口となる門跡SI4668は東側土塁石垣SA4632に構築し、門跡の外は第31次調査の道路SS1425と接続する。北側土塁石垣内側を流れる溝SD4641は、東側土塁石垣SA1553で直角に曲がって、約4.0m南へ進んだ後、東へ屈曲し、暗渠SZ1481となって東側土塁を通過後、第31次調査のSD1439に接続した。屋敷内の建物構造や配置は削平を受けて不明な部分が多いが、5間×3間の建物1と規模不明の礎石建物1、石積遺構7、井戸3、石敷遺構7で主に構成されていることが明らかになった。

武家屋敷B群は、比較的遺構の残存状況が良く、礎石建物3と石積遺構3、井戸1、石敷遺構5で主に構成され、南端で越前焼大甕を複数据えた埋甕遺構SK4672が検出された。

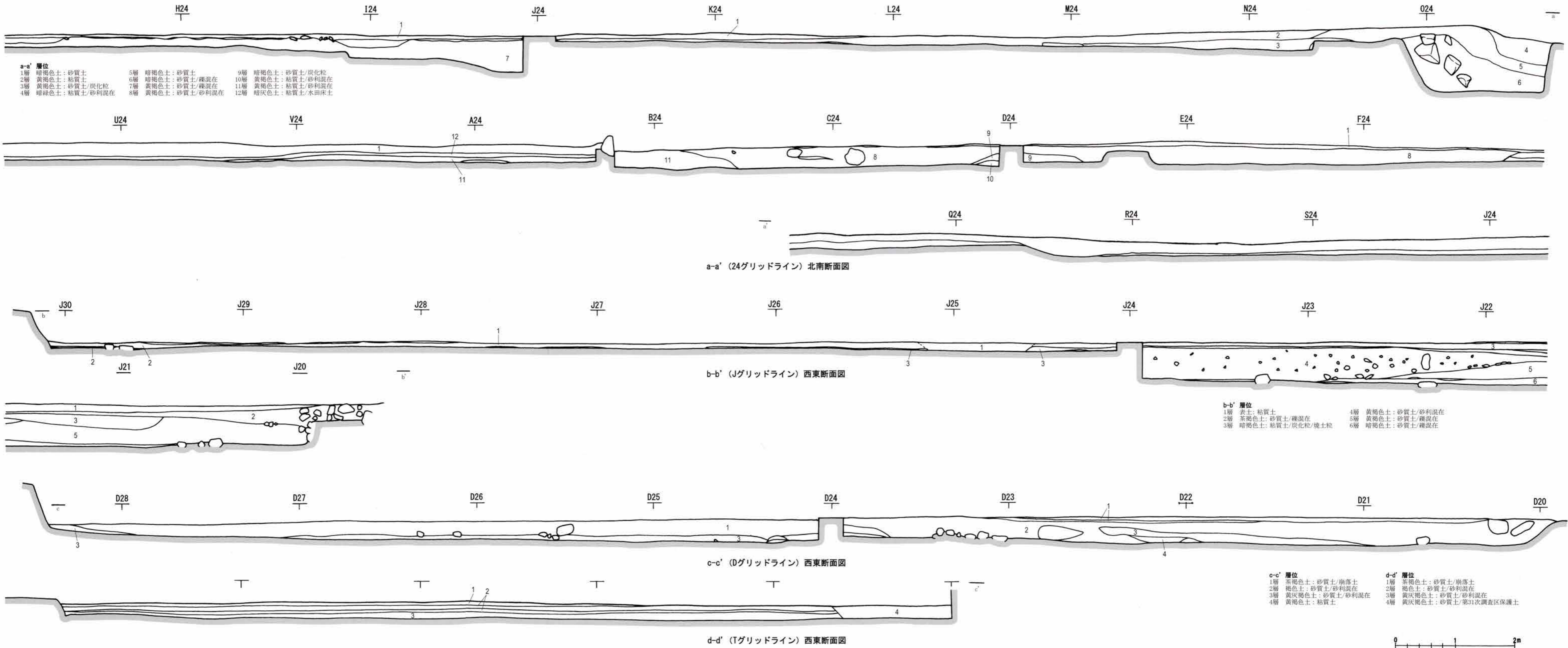




第23図 第100次調査区と周辺の調査区(縮尺 1/1,000)



第24図 第100次調査遺構全体図(縮尺 1/300)

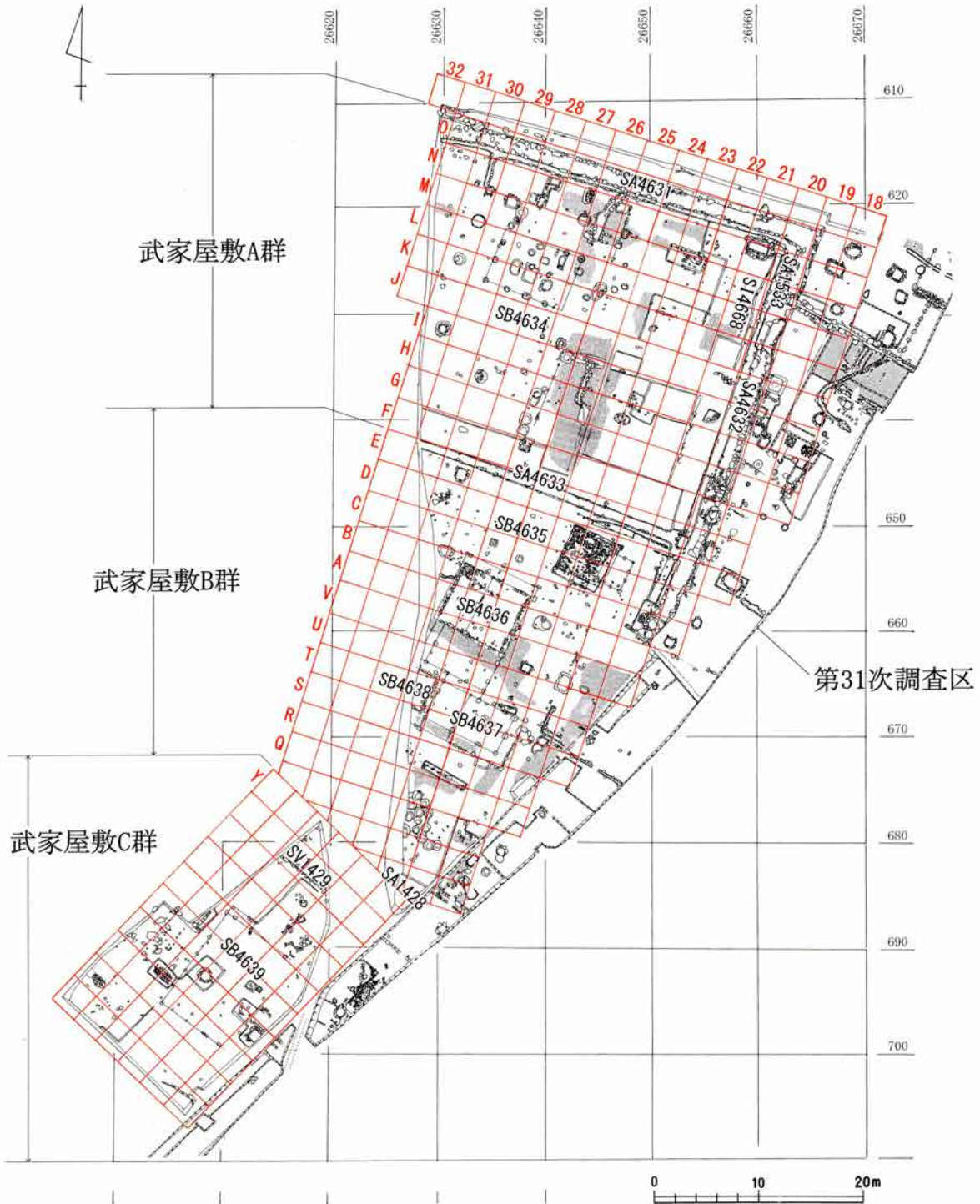


第25図 第100次調査南北・西東遺構断面図(縮尺 1/50)

1. 遺構の概要

武家屋敷C群は、園路を挟んで武家屋敷B群の南西に位置し、北側をSA1428 または石垣SV1429 で区画する。5間×3間以上の礎石建物1、石積遺構1、井戸1、石敷遺構2 で主に構成されていた。遺構の配置方向は地形の制約を受け、A・B群より10° 南東へ傾く。

調査区全体の層位(第25図)を見ると、遺構は耕作土を除去するとすぐに検出され、山側の方が残存状況が良い傾向がうかがえる。全体の主要遺構の時期については第4表に示した。調査グリッドは地形に沿って1辺3.0mのグリッドを東西方向に18~32、南北方向にA~0を設定し、以南にQ~Vを設定した(第26図)。武家屋敷C群にはA・B群と異なるグリッドを設定したが、遺構・遺物が少なかったためグリッド番号の記載はない。



第26図 第100次調査グリッド配置図(縮尺 1/600)

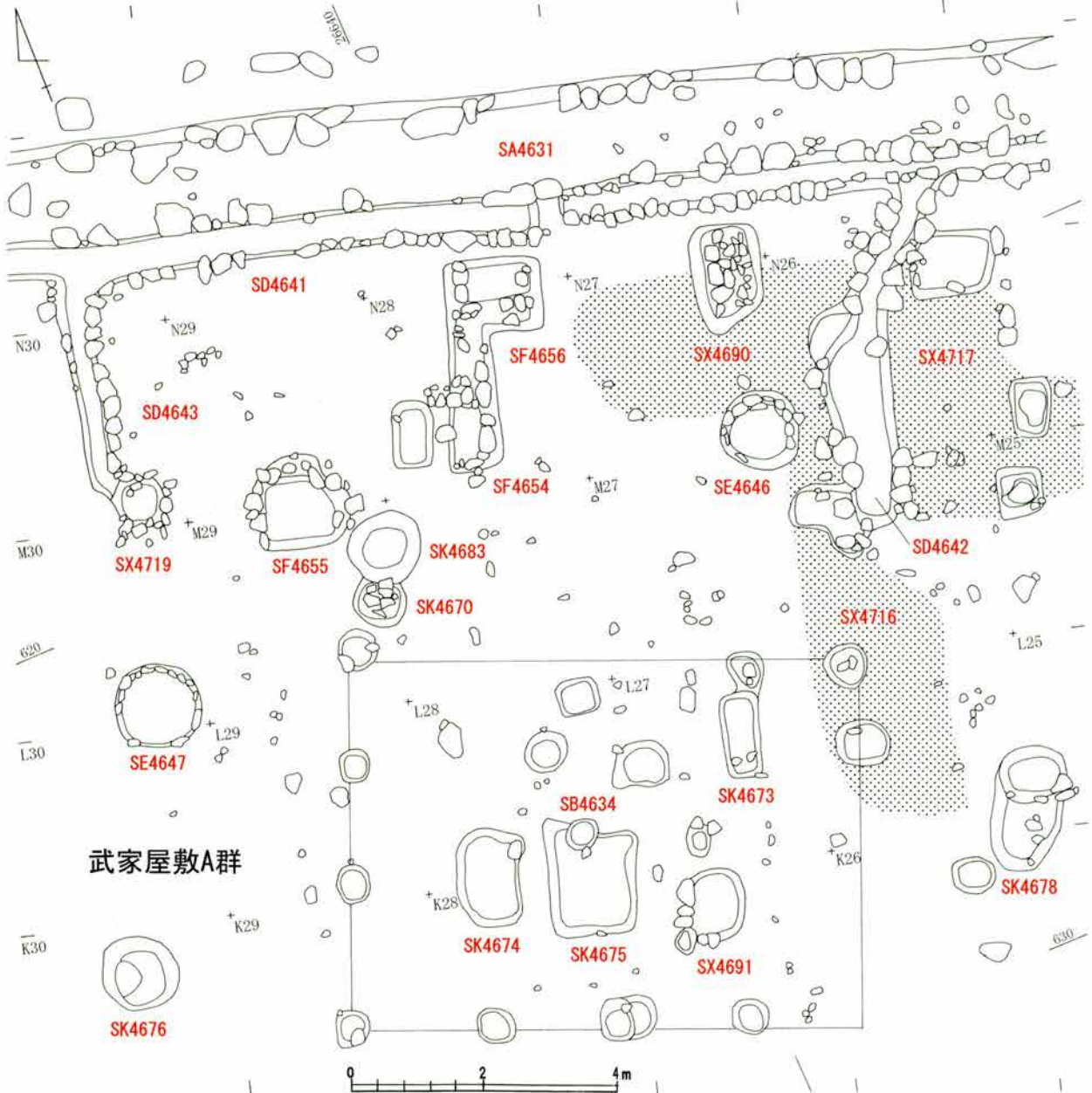
2. 武家屋敷A群(PL.8~12 第27~34図)

土塁石垣

**SA4631**(PL.8・10 第24・27・30図) 019~32に位置。武家屋敷A群の北側土塁石垣であり、総延長約35.0m、上幅約1.5m、基底幅約1.8mの規模を測る。内側に石組溝SD4641が並行する。第57次調査区側の北面の石垣は1.0m大の巨石の割石を使用し、東側土塁石垣の構築法と異なっており、時期差が想定できる。

**SA1553・4632**(PL.8~10 第24・30図) B~020に位置。武家屋敷A群の東側土塁石垣であり、第31次調査のSA1553に相当する。総延長約42.0m、上幅約1.5m、基底幅約1.8mを測る。北端から8.0m付近で門跡SI4668を検出し、道路SS1425に接続する。内側に武者走り状の石垣SV4685が内側に付く。南側土塁石垣SA4633が接続するE21付近で石積遺構SF4663に切られ。武家屋敷B群で、土塁の軸方位は5°西へ傾く。

**SA4633**(PL.10 第24・30図) E20~29に位置。武家屋敷A群の南側土塁石垣であり、総延長約27.0m、幅約1.0m、高さ約0.2mを測る。武家屋敷B群との境になる。石垣の多くは抜き取られ、基底部分のみが残存していた。



第27図 武家屋敷A群(縮尺1/100)

## 建物

**SB4634**(PL.9 第24・27図) L28に位置。桁行5間、梁間3間の掘立柱建物である。桁行7.8m、梁間5.1m、床面積39.8㎡の規模を測る。主軸はN70°Wに向き、棟はほぼ東西方向である。この南側にも礎石が散散的に確認され、別の建物が存在した可能性が高い。柱穴や建物内の土坑の覆土は焼土・炭化粒が混在する黄褐色土であった。朝倉滅亡期まで存在した建物と考える。

## 溝

**SD4641**(PL.8・10・11 第24・27図) O20~25に位置。屋敷内の石組排水溝である。幅約0.4m、深さ約0.4mを測る。土塁SA4631・1553内側を通り、暗渠SZ1481で東側土塁石垣下を潜り、道路SS1425の北端を一乗谷川側に向かって延びる溝SD1439に接続する。この溝には屋敷内の溝SD4642、4643が接続する。

**SD4642**(PL.8 第24・27図) N26に位置。溝SD4641にくの字に屈曲して取り付く石組排水溝である。延長5.0m、幅約0.4m、深さ約0.3mを測る。井戸SE4646の排水溝と考える。溝SD4641との合流部分で一旦遮断されており、溝SD4641より1段階新しい。

**SD4643**(PL.8 第24・27図) N30に位置。溝SD4641に直交して取り付く。延長3.0m、幅約0.4m、深さ約0.2mを測る。小穴SX4819の排水溝として機能し、溝SD4641と同時期と考える。

**SD4644**(PL.8・9 第24・30図) I25に位置。道路SS4684に並行する石組溝で、延長4.0m、幅0.4mを測る。南端が東へ屈曲する。北端も別の東西方向の溝と直交する。時期は朝倉滅亡期と考える。

## 井戸

**SE4646**(PL.8 第24・27図) N27に位置。溝SD4642の西側で検出された石組井戸である。径約1.1mを測る。上部の石材は井戸中へ落ち込んでいた。最終段階の時期と考える。

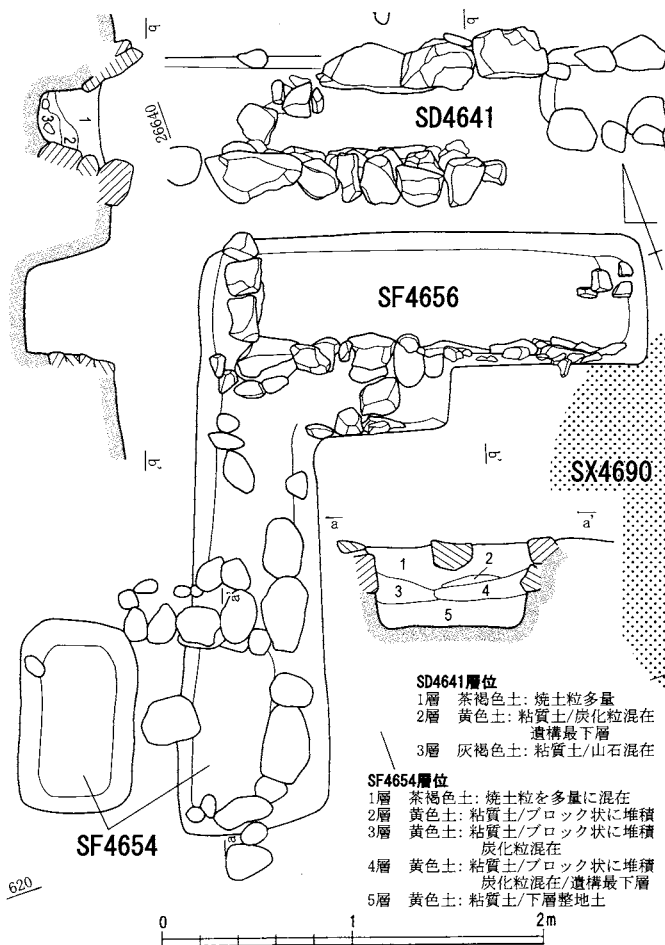
**SE4647**(PL.8 第24・27図) M30に位置。掘立柱建物SB4634の西側で検出された石組井戸であり、径1.25mを測る。上部の石材が井戸中へ落ち込んでいた

**SE4648**(PL.9 第24図) I30に位置。掘立柱建物SB4634の南西側で検出され、径1.1mを測る。

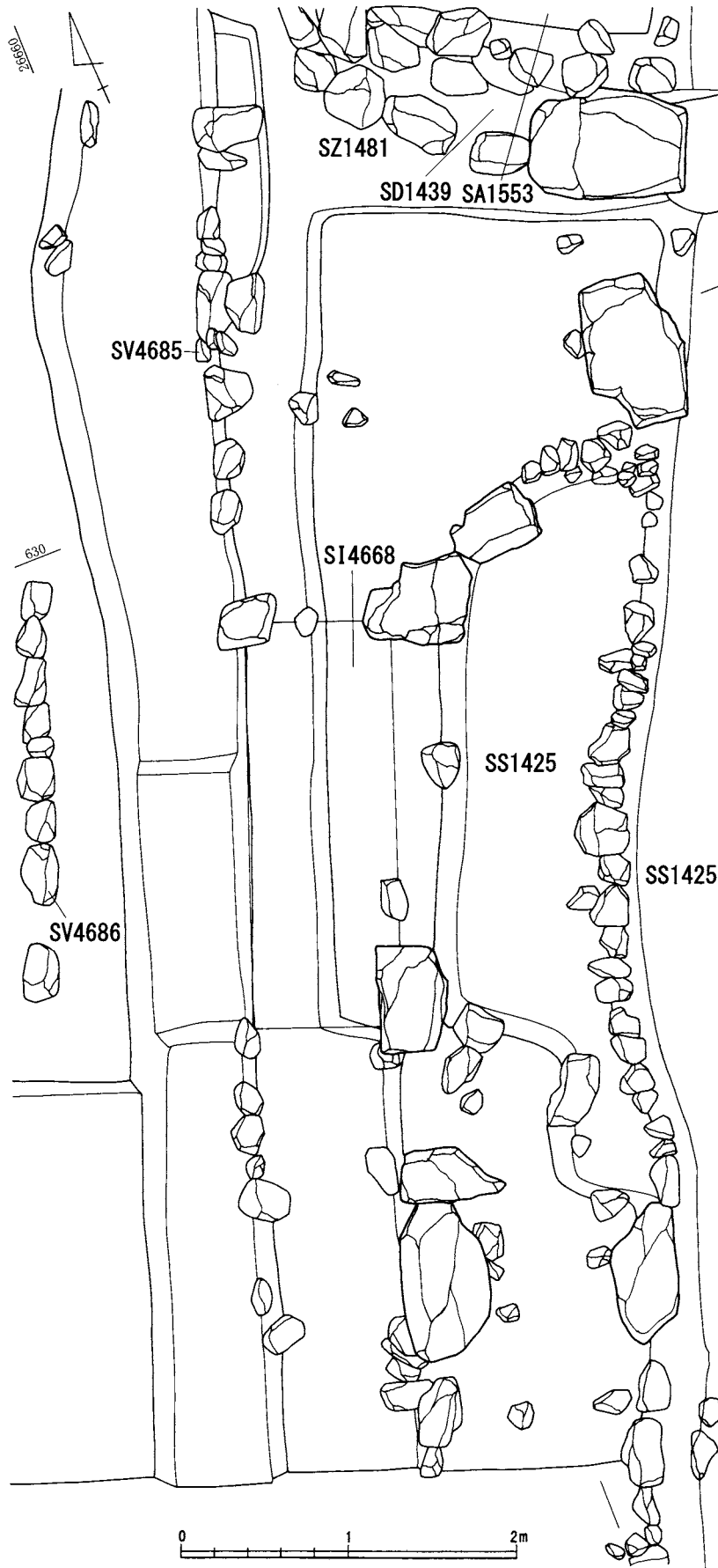
## 石積遺構

**SF4652**(PL.8・9・11 第24・30図) M23に位置。長大な石積遺構であり、軸3.7m、短軸1.6mを測る。上部や南辺は破壊されていた。内部の覆土は炭化粒が混在する焼土であり、最終段階の遺構と考える。ただ、底面に石列が確認され、下層遺構の存在が指摘される。

**SF4653**(PL.8・11 第24・30図) N21に位置。北側土塁石垣SA4631の東北隅で検出された。長軸2.7m、短軸



第28図 武家屋敷A群 SF4654・4656、SD4641(縮尺1/40)



第29図 武家屋敷A群 SI4668(縮尺1/40)

1.6m、深さ約0.7mを測る。石積みは2段積みで構築している。

**SF4654**(PL.8・11 第24・27・28図)

N28に位置。長軸1.3m、短軸0.9m、深さ約0.7mを測る。掘立柱建物SB4632の北側で検出され、内部の覆土は焼土であり、最終段階の遺構と考える。西辺側石は破壊を受けている。

**SF4655**(PL.8 第24・27図) M29に位置。

SK4683の西側に近接して検出された。SF4654と同規模を測る。下層の遺構であり、南辺側石は破壊を受けている

**SF4656**(PL.11 第24・27・28図) O28

に位置。SF4654の北側で検出された。下層の遺構のため完掘できず、規模は不明。溝SD4641に切られている。

#### 門 跡

**SI4668**(PL.8・10 第24・29・30図)

L20に位置。東側土墨石垣SA4632に設置された門であり、礎石にケガキの刻線が残る。礎石間の柱間寸法は2.43mを測る。

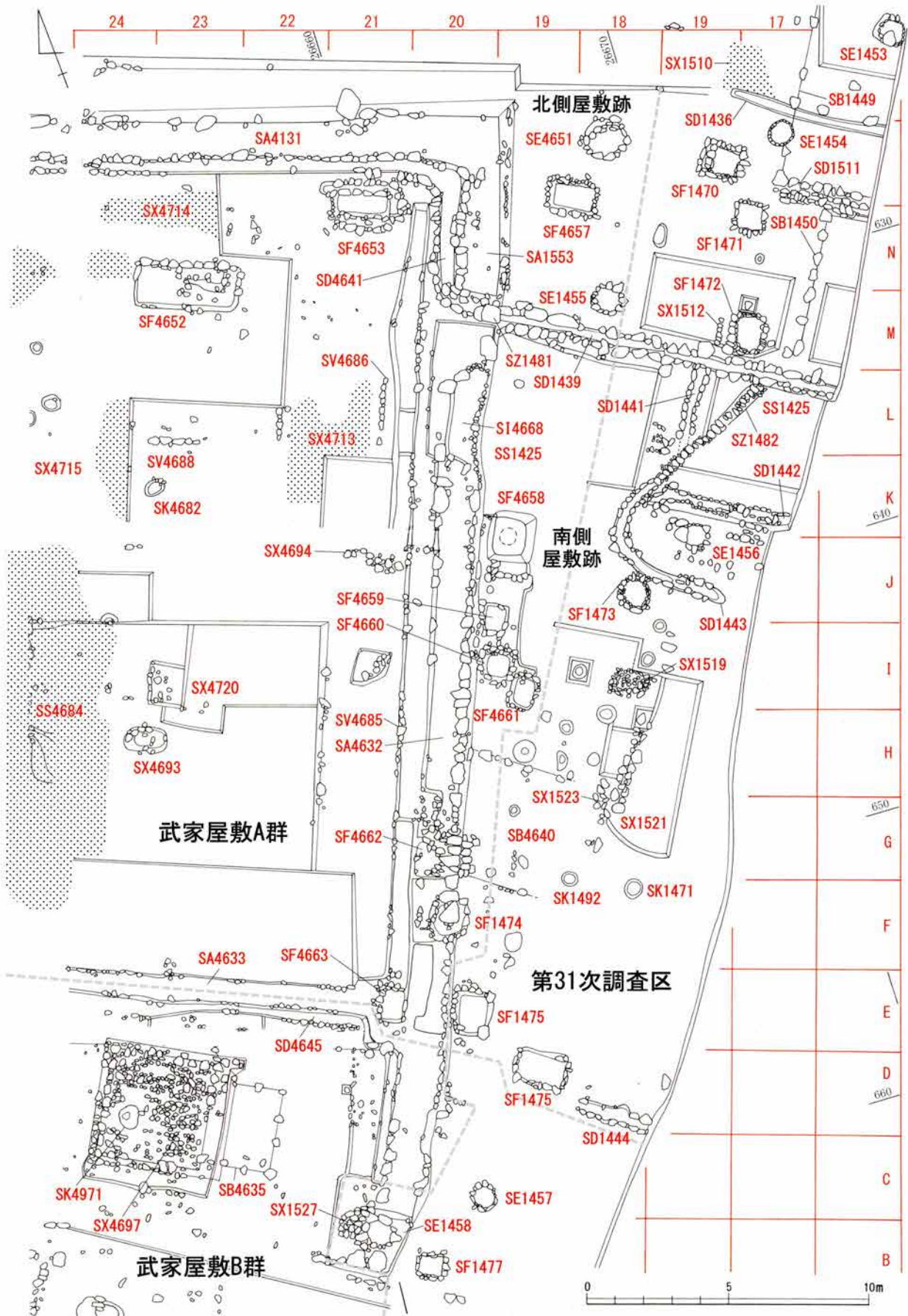
#### その他の遺構

**SK4669**(PL.9 第24図) G26に位置。

土坑2基からなる埋甕遺構である。屋敷内中央西寄りの道路状遺構SS4684の西側で検出された。周辺に同様な土坑が数基存在する可能性がある。甕は口縁部が肥厚するIV群Cに属す。

**SS4684**(PL.8・9 第24・30図) F~J

25に位置。石敷の通路遺構である。南北約13.0m、東西約5.5mの範囲で検出された。溝SD4644を伴うと考える。



第30図 武家屋敷A群・第31次調査区(縮尺1/200)



**SV4685**(PL.8・9 第24・30図) 東側土塁石垣 SA4632 内側に並行する、武者走り状の石垣であり、石積は3~4段である。門に並行する石列 SV4686 や石積遺構 SF4653 より低い位置で検出され、東側土塁石垣に先行する。

**SX4695**(PL.9 第24図) F26に位置。方形の石組遺構である。長軸1.2m、短軸0.9mを測る。石敷炉跡と考える。内部の覆土は焼土、炭化粒であった。石組の内面は被熱している。

**SX4713**(PL.8・9 第24・30図) K22に位置。北側土塁石垣寄りの SX4714、K24 の SX4715 と同一の高さで検出され、同一の砂利敷遺構と考える。

**SX4716**(PL.8・9 第24・27図) M26に位置。SE4646 周囲の砂利敷遺構である。SD4642 と同時期と考える。

### 武家屋敷 A 群門跡外の北・南側屋敷跡の遺構

武家屋敷 A 群の門跡 SI4668 を出た東側には、SD1439 と SD1442 を側溝とした通路 SS1425 が存在し、北側の側溝 SD1439 以北に北側屋敷跡、南側の側溝 SD1442 以南に南側屋敷跡が配置されていたことが明らかになった。以下、主要遺構の概要を述べる。

#### 北側屋敷跡の遺構

**SD1439**(PL.11 第24・30図) M18~20 に位置。延長13.5m、幅0.4mを測る。武家屋敷 A 群の溝 SD4641 から暗渠 SZ1481 を経て接続する石組排水路である。一乗谷川まで延びて、南北幹線道路に直交するものとする。

**SE1455**(PL.11 第24・30図) M18 に位置。第31次で検出された石組井戸である。径0.75mを測る。

**SE4651**(PL.11 第24・30図) O18 に位置。径1.2mを測る。SE1455 と同じく、北側の屋敷跡の石組井戸である。

**SF4657**(PL.11 第24・30図) O19 に位置。北側の屋敷跡に属する石積施設である。長軸1.6m、短軸1.0mを測る。

#### 通路

**SS1425**(PL.10 第24・30図) L・K19 に位置。門跡 SI4668 より一乗谷川に向かって延びる道路である。第31次で検出された。北側の SD1439 と南側の SD1442 を側溝とし、幅4.5mを測る。溝 SD1443・SZ1482 が後に構築され、2時期以上使用されていたことが判明した。

#### 南側屋敷跡の遺構

**SD1443**(第24・30図) K18 に位置。鉤状の石組排水溝である。通路遺構 SS1425 横断し、SD1439 に合流する。

**SB4640**(第24・30図) G19 に位置。礎石建物だが規模は不明。東側土塁石垣 SA4632 の下層の遺構である。

**SF4658~4661**(PL.12 第24・30図) I19・J19 に位置。SF4658 は北辺側石が破壊されていた。東西幅約1.1mを測る。SF4659 は正方形で1辺約0.9mを測る。SF4660 は方形を呈し、1辺約1.0mを測る。SF4661 は0.9m×1.1mを測る。SF4660 と一部切り合って設置され、SF4661 が先行すると考える。

**SF4662・1474**(PL.12 第24・30図) SF4662・1474 は、東側土塁石垣 SA4632 下層の遺構であり、SF4662 は G20 に位置。SF1474 は F20 に位置。共に SA4632 と主軸方位を同じくする。SF4662 はほぼ破壊されていた。SF1474 は西辺側石が東辺側石より2~3石分高く積まれて検出された。この点から、SA4632 構築以前にも、南北方向に SF1474 西辺側石を境とする段差が存在したと考えられる。

**SF1475**(PL.12 第24・30図) E20 に位置。第31次調査で検出され、長軸1.6m、短軸1.1mを測る。

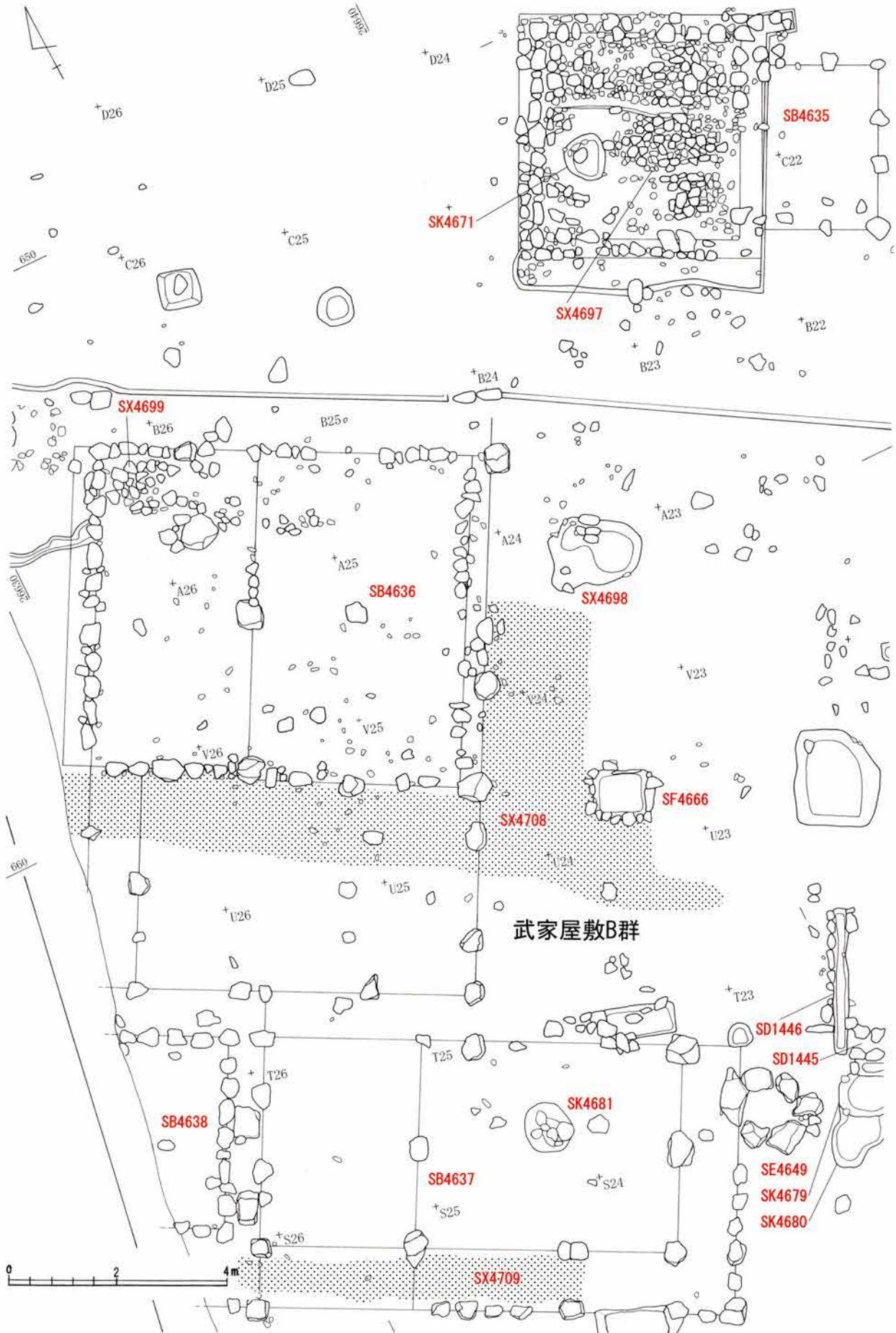
### 3. 武家屋敷 B 群(PL.13~16 第24・31・32図)

#### 建物

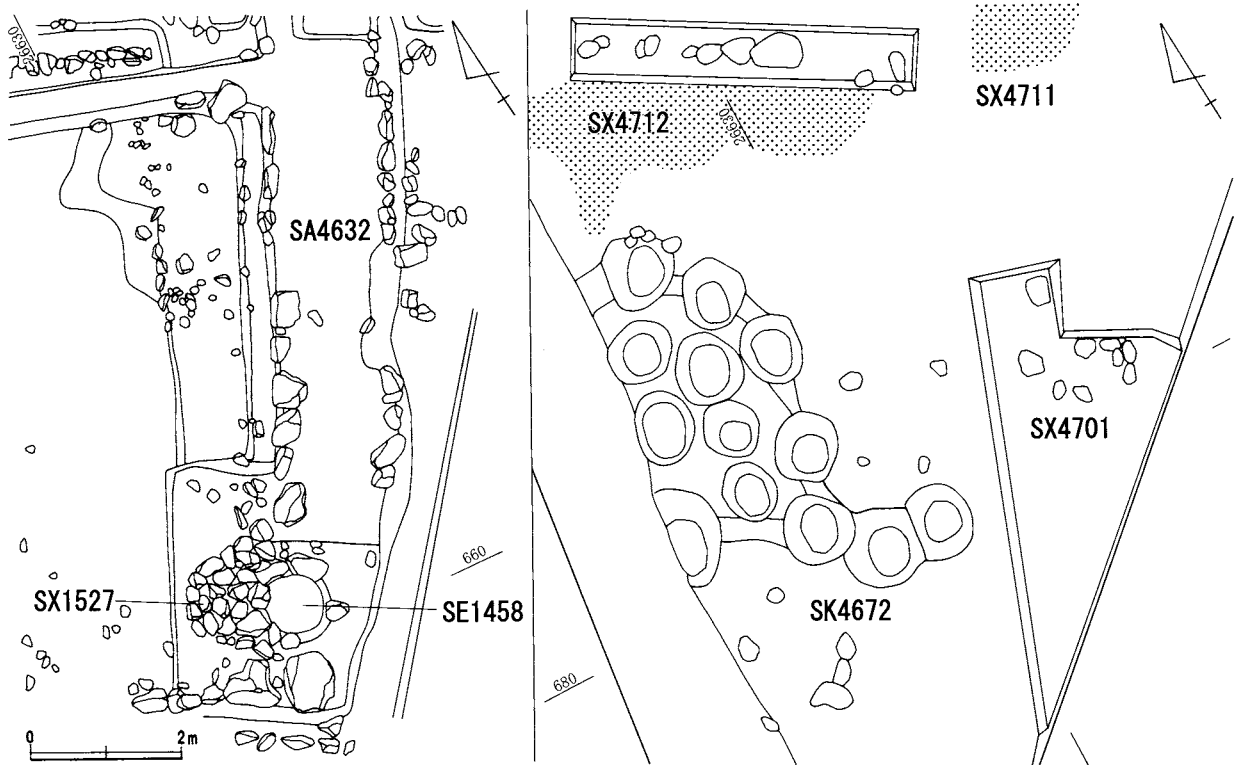
**SB4635**(PL.13・14 第24・30図) C・D23 に位置。石敷きの礎石建物であり、土蔵と考える。棟方向の主軸は N60° W にとり、長軸4.7m、短軸4.7mを測る。東側に桁行2間、梁間3間の庇を備えた戸間が付き、2.0m×2.5mを測る。東側土塁石垣 SA4632 も南端部で同じ方位に屈曲し、同時期の遺構と考える。石敷遺構 SX4697 を伴う。

**SB4636**(PL.13・14 第24・30図) A25~27 に位置。礎石建物であり、南側に礎石建物 SB4637 が隣接する。棟方

3. 武家屋敷B群



第 31 図 武家屋敷 B 群 (縮尺 1/100)



第32図 武家屋敷B群 SA4632、SX1527、SK4672(縮尺 1/100)

向の主軸はN62°Wにとり、7.6m×6.8mの規模を測る。これに南側に張り出した、桁行3間、梁間2間の建物が取り付く。建物は6.2m×3.9mの規模を測る。建物東南隅から南側にかけては、砂利敷遺構SX4708が幅は1.5m~2.0mで通路状に広がる。この建物の東南にSF4666、北西にSF4665が位置する。

**SB4637**(PL.13・15 第24・30図) T24~26に位置。SB4636に隣接する礎石建物であり、棟方向の主軸はSB4636と同じくN62°Wにとり、身舎の桁行4間、梁間2間、外部施設を含めた寸法は8.6m×4.9mの規模を測る。南辺に通路の石敷遺構であるSX4709が長さ6.5m、幅0.7mで広がり、北東に井戸SE4649が取り付く。

**SB4638**(PL.13・15 第24・30図) T27に位置。東側の礎石建物SB4637に接して、西側に広がる礎石建物である。検出した規模で東辺3.5m、北辺2.0mを測る。主要部分は山裾の園路下に存在する。

#### 溝

**SD4645**(PL.13・15 第24・30図) E21~24に位置。延長6.5m、幅0.4mを測る。東側土塁石垣に突き当たり、第31次のSD1444に接続するならば、武家屋敷A群南側土塁石垣の下層遺構となる。

**SD1445・1446**(PL.13 第24・31図) T22に位置。第31次の石組排水路であり、延長約9.0m、幅約0.4mを測る。SD1446と直交し、幅0.2m、深さ0.15mを測る。西側の井戸SE4649、石敷遺構SX4710に伴うと考える。

#### 井戸

**SE1458**(PL.9 第24・30・32図) B20に位置。第31次の石組井戸であり、径0.8mを測る。東側土塁石垣南端の下層の遺構である。石敷SX1527を伴う。土蔵SB4635、石積遺構SF4663も同様の下層遺構と考える。

**SE4649**(PL.15 第24・31図) T23に位置。礎石建物SB4637に付設された石組井戸である。径約0.7mを測る。

#### 石積遺構

**SF4663**(PL.12 第24・30図) E21に位置。東側土塁SA4632と土塁石垣SA4633の接続部に構築する。長軸1.1m、短軸0.7mを測る。土塁石垣SA4633を切る。しかし、東辺側石は東側土塁石垣の下層に延びるので、ある時期に規模に縮小したか、廃棄された可能性がある。

**SF4664**(PL.12 第24図) E28に位置。武家屋敷A群南側土塁SA4633の西端南側で検出した。長軸1.1m、短軸0.9mを測る。この周辺一帯は砂利層が露出し、広く攪乱を受けている。

**SF4665**(第24図) B28に位置。礎石建物SB4636の北西隅の石積遺構である。長軸1.2m、短軸0.9mを測る。

**SF4666**(PL.15 第24・31図) V23に位置。礎石建物SB4636の東南部に位置する。0.7m×0.9mを測る。

#### 土坑、石敷遺構

**SK4671**(PL.13・14 第24・30・31図) D24に位置。礎石建物SB4635内中央部西寄りで検出された埋甕遺構である。越前焼大甕胴部の破片が検出された。

**SK4672**(PL.15 第24・32図) P・Q26に位置。武家屋敷B群南端で検出された越前焼大甕の埋甕遺構である。13基の土坑で構成され、そのうち3基に越前焼の大甕胴部が据えられていた。他の土坑は、後世の攪乱等により、土器片は落ち込んだ状態で検出された。土坑群の覆土中から希少な飛青磁瓶(183)が出土した。

**SX4697**(PL.13・14 第24・30・31図) D23に位置。礎石建物SB4635に敷き詰められた石敷遺構である。上層は土師器を含む砂利の整地層に覆われ、東西方向に転ばし根太の痕跡と見られる溝状の落ち込みが確認された。

**SX4699**(PL.13・14 第24・31図) B27に位置。礎石建物SB4636北西隅の石敷遺構である。

**SX4708**(PL.13・14 第24・31図)は礎石建物SB4636に伴い、**SX4709**・**SX4710**はSB4637に伴う石敷遺構である。

#### 4. 武家屋敷C群(PL.16 第33図)

##### 土塁石垣

**SA1428**(第24図) N' 24~26に位置。第31次で検出した石垣土塁であり、延長4.5m、幅0.8mを測る。武家屋敷B群の埋甕遺構SK4672の南側を通して東西に延びる可能性が高く、礎石建物SB4639の北辺ともほぼ並行することから、武家屋敷B・C群の境となる土塁石垣と考える。

##### 建物

**SB4639**(PL.16 第24・33図) 屋敷内の中央に位置する礎石建物である。棟方向の主軸はN38°Eにとり、桁行5間、梁間4間以上、外部施設を含めた寸法は11.0m×7.0mの規模を測る。山側にも礎石列が認められるが、規模は不明である。北西隅に桁行0.7m、梁間2.8mの張り出しが付く。

##### 井戸

**SE4650**(PL.16 第24・33図) SB4639内の西辺中央に位置する石組井戸である。径約1.0mを測る。時期は最終段階と考える。

##### 石垣・石列

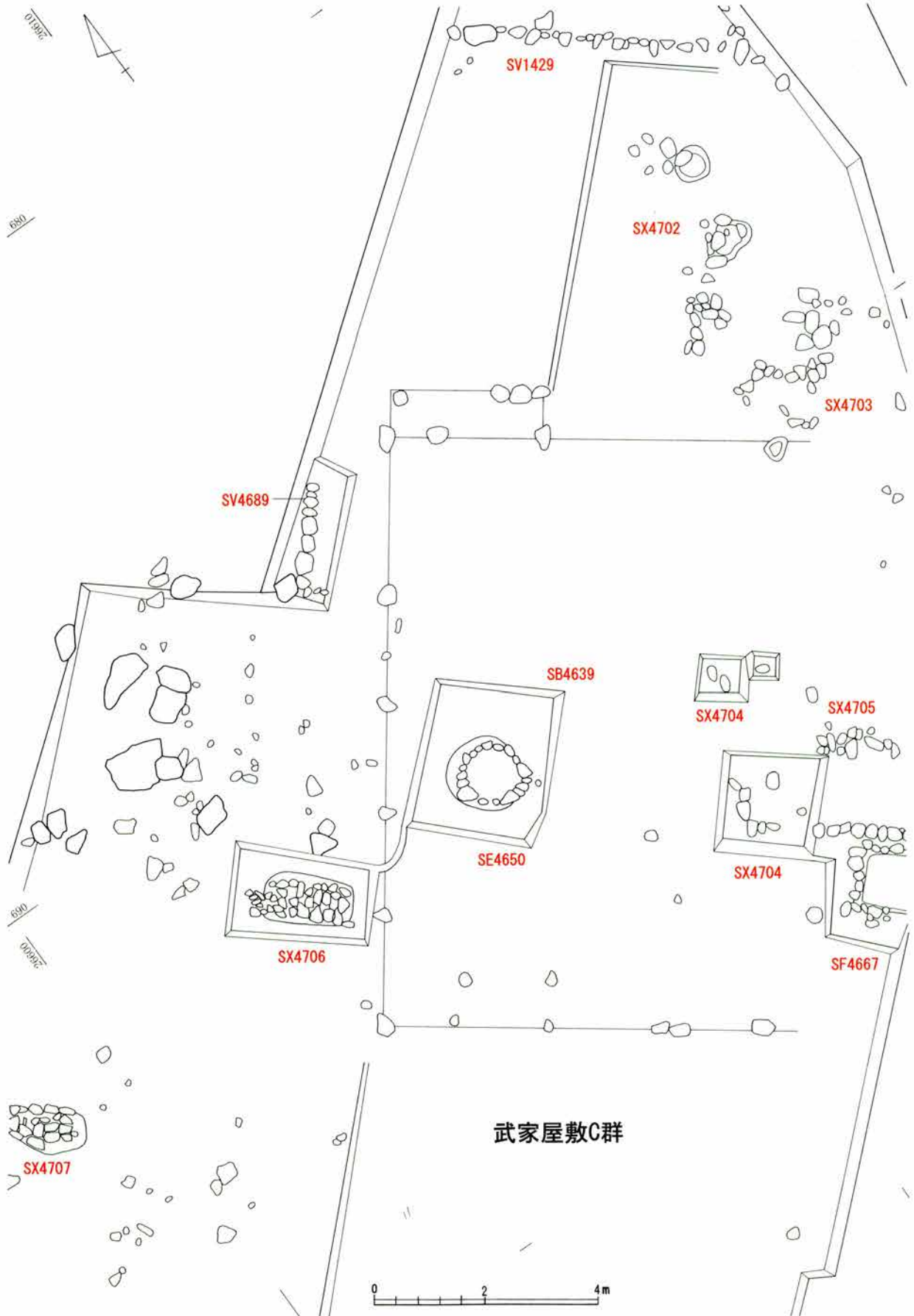
**SV1429**(PL.16 第24・33図) 第31次でも検出している石垣であり、SB4639の北側に位置する。延長16.0m以上と推定され、土塁石垣SA1428と並行する。幅は約5.0~6.0mの東西道路であった可能性も考えられる。

**SV4689**(PL.16 第24・33図) 礎石建物SB4639の西側で検出した石列である。SB4639の西辺と並行して南北に延長2.0m分を検出した。この石列付近の表土中から硬玉製勾玉(247)が1点出土した。一乗谷における弥生~古墳時代初頭の墓域や集落は不明であり、土器片がごくまれに採集されるが、朝倉期の鑑賞物として持ち込まれた可能性もある。

##### その他の遺構

**SX4706**(PL.16 第24・33図) 石敷炉跡であり、内部の覆土に炭化物・焼土が堆積していた。長軸1.8m、短軸0.9mを測る。井戸SE4650と同じ床土下で検出した。

**SX4707**(PL.16 第24・33図) 石敷炉跡であり、長軸1.2m、短軸0.8mを測る。幅約0.8m、長さ1.2mを測る。調査区最南端山裾で検出した。この炉跡は更に山側に延び、調査区境界で炭溜めの土坑を併設していた。



第33図 武家屋敷C群(縮尺1/100)

第4表 第100次調査主要遺構観察表

## 武家屋敷A群

| NO | グリッド   | 遺構     | 種類              | 上層 |     |      | 下層 |     |      | 写真<br>図版 | 挿図   |
|----|--------|--------|-----------------|----|-----|------|----|-----|------|----------|------|
|    |        |        |                 | I期 | II期 | III期 | I期 | II期 | III期 |          |      |
| 1  | B~020  | SA4631 | 東側土塁石垣          |    |     |      |    |     |      | PL. 9    | 第30図 |
| 2  | M20    | SZ1418 | 暗渠              |    |     |      |    |     |      | PL. 11   | 第30図 |
| 3  | N28    | SF4654 | 石積遺構            |    |     |      |    |     |      | PL. 11   | 第27図 |
| 4  | M29    | SF4655 | 石積遺構            |    |     |      |    |     |      | —        | 第27図 |
| 5  | L20    | SI4668 | 門跡              |    |     |      |    |     |      | PL. 10   | 第29図 |
| 6  | G26    | SK4669 | 土坑              |    |     |      |    |     |      | PL. 9    | 第24図 |
| 7  | F~J25  | SS4684 | 道路              |    |     |      |    |     |      | PL. 9    | 第24図 |
| 8  | F26    | SX4695 | 石敷遺構            |    |     |      |    |     |      | PL. 9    | 第24図 |
| 9  | L27・28 | SB4634 | 掘立柱建物           |    |     |      |    |     |      | PL. 10   | 第27図 |
| 10 | N26    | SD4642 | 溝:石組排水溝         |    |     |      |    |     |      | PL. 9    | 第27図 |
| 11 | N30    | SD4643 | 溝:石組排水溝         |    |     |      |    |     |      | PL. 8    | 第27図 |
| 12 | H・125  | SD4644 | 溝:石組排水溝         |    |     |      |    |     |      | PL. 9    | 第24図 |
| 13 | M27    | SE4646 | 井戸:石組井戸         |    |     |      |    |     |      | PL. 8    | 第27図 |
| 14 | I30    | SE4648 | 井戸:石組井戸         |    |     |      |    |     |      | PL. 9    | 第24図 |
| 15 | N20    | SA1553 | 東側土塁石垣          |    |     |      |    |     |      | PL. 8    | 第30図 |
| 16 | C~020  | SA4632 | 東側土塁石垣          |    |     |      |    |     |      | PL. 9    | 第30図 |
| 17 | H・125  | SD4641 | 溝:北側土塁内側石垣排水溝   |    |     |      |    |     |      | PL. 10   | 第30図 |
| 18 | M18・19 | SD1439 | 溝:SS1425北側石組排水溝 |    |     |      |    |     |      | PL. 11   | 第30図 |
| 19 | M23    | SF4652 | 石積遺構            |    |     |      |    |     |      | PL. 11   | 第30図 |
| 20 | N21    | SF4653 | 石積遺構            |    |     |      |    |     |      | PL. 11   | 第30図 |
| 21 | M30    | SE4647 | 井戸:石組井戸         |    |     |      |    |     |      | PL. 8    | 第27図 |
| 22 | K・L22  | SX4713 | 石敷遺構            |    |     |      |    |     |      | PL. 8    | 第30図 |
| 23 | N23・24 | SX4714 | 石敷遺構            |    |     |      |    |     |      | PL. 8    | 第30図 |
| 24 | K・L24  | SX4715 | 石敷遺構            |    |     |      |    |     |      | PL. 8    | 第30図 |
| 25 | N28    | SF4656 | 石積遺構            |    |     |      |    |     |      | PL. 11   | 第27図 |
| 26 | E21~29 | SA4633 | 南側土塁石垣          |    |     |      |    |     |      | PL. 10   | 第30図 |
| 27 | F~J20  | SV4685 | 東側土塁石垣内側の石垣・石列  |    |     |      |    |     |      | PL. 9    | 第30図 |

## 武家屋敷A群門外 北側屋敷跡

| NO | グリッド   | 遺構     | 種類              | 上層 |     |      | 下層 |     |      | 写真<br>図版 | 挿図   |
|----|--------|--------|-----------------|----|-----|------|----|-----|------|----------|------|
|    |        |        |                 | I期 | II期 | III期 | I期 | II期 | III期 |          |      |
| 28 | M18・19 | SD1439 | 溝:SS1425北側石組排水溝 |    |     |      |    |     |      | PL. 11   | 第30図 |
| 29 | J17・18 | SD1443 | 溝:石組排水溝         |    |     |      |    |     |      | —        | 第30図 |
| 30 | M18    | SE1445 | 井戸:石組井戸         |    |     |      |    |     |      | PL. 11   | 第30図 |
| 31 | O18    | SE4651 | 井戸:石組井戸         |    |     |      |    |     |      | PL. 11   | 第30図 |
| 32 | O19    | SF4657 | 石積遺構            |    |     |      |    |     |      | PL. 11   | 第30図 |

## 武家屋敷A群門外 南側屋敷跡

| NO | グリッド | 遺構     | 種類   | 上層 |     |      | 下層 |     |      | 写真<br>図版 | 挿図   |
|----|------|--------|------|----|-----|------|----|-----|------|----------|------|
|    |      |        |      | I期 | II期 | III期 | I期 | II期 | III期 |          |      |
| 33 | J19  | SF4658 | 石積遺構 |    |     |      |    |     |      | PL. 12   | 第30図 |
| 34 | J19  | SF4659 | 石積遺構 |    |     |      |    |     |      | PL. 12   | 第30図 |

| NO | グリッド  | 遺構     | 種類   | 上層 |     |      | 下層 |     |      | 写真<br>図版 | 挿図   |
|----|-------|--------|------|----|-----|------|----|-----|------|----------|------|
|    |       |        |      | I期 | II期 | III期 | I期 | II期 | III期 |          |      |
| 35 | E20   | SF1475 | 石積遺構 |    |     |      |    |     |      | PL. 12   | 第30図 |
| 36 | K~M19 | SS1425 | 通路   |    |     |      |    |     |      | PL. 10   | 第30図 |
| 37 | I19   | SF4660 | 石積遺構 |    |     |      |    |     |      | PL. 12   | 第30図 |
| 38 | G・H19 | SB4640 | 礎石建物 |    |     |      |    |     |      | —        | 第30図 |
| 39 | I19   | SF4661 | 石積遺構 |    |     |      |    |     |      | PL. 12   | 第30図 |
| 40 | G20   | SF4662 | 石積遺構 |    |     |      |    |     |      | PL. 12   | 第30図 |
| 41 | F20   | SF1474 | 石積遺構 |    |     |      |    |     |      | PL. 12   | 第30図 |

## 武家屋敷B群

| NO | グリッド   | 遺構     | 種類                | 上層 |     |      | 下層 |     |      | 写真<br>図版 | 挿図   |
|----|--------|--------|-------------------|----|-----|------|----|-----|------|----------|------|
|    |        |        |                   | I期 | II期 | III期 | I期 | II期 | III期 |          |      |
| 42 | A25~27 | SB4636 | 礎石建物              |    |     |      |    |     |      | PL. 14   | 第31図 |
| 43 | T24~26 | SB4637 | 礎石建物              |    |     |      |    |     |      | PL. 15   | 第31図 |
| 44 | T27    | SB4638 | 礎石建物              |    |     |      |    |     |      | PL. 13   | 第31図 |
| 45 | T20~23 | SD1445 | 溝:石組排水溝           |    |     |      |    |     |      | PL. 13   | 第31図 |
| 46 | T・U23  | SD1446 | 溝:石組排水溝           |    |     |      |    |     |      | PL. 13   | 第31図 |
| 47 | T23    | SE4649 | 井戸:SB4637に伴う石組井戸  |    |     |      |    |     |      | PL. 15   | 第31図 |
| 48 | B・C28  | SF4665 | 石積遺構              |    |     |      |    |     |      | PL. 14   | 第24図 |
| 49 | V24    | SF4666 | 石積遺構              |    |     |      |    |     |      | PL. 15   | 第24図 |
| 50 | P・Q26  | SK4672 | 土坑:越前焼埋<br>甕遺構    |    |     |      |    |     |      | PL. 15   | 第32図 |
| 51 | V24~27 | SX4708 | 石敷遺構<br>SB4636南辺  |    |     |      |    |     |      | PL. 14   | 第31図 |
| 52 | S25~27 | SX4709 | 石敷遺構<br>SB4637南辺  |    |     |      |    |     |      | PL. 15   | 第31図 |
| 53 | T~V22  | SX4710 | 石敷遺構              |    |     |      |    |     |      | PL. 13   | 第24図 |
| 54 | D23・24 | SX4697 | 石敷遺構<br>SB4635内石敷 |    |     |      |    |     |      | PL. 14   | 第31図 |
| 55 | E21~24 | SD4645 | 溝:SA4633南側の石組排水溝  |    |     |      |    |     |      | —        | 第24図 |
| 56 | A21    | SE1458 | 井戸:東側土塁石垣南端の石組井戸  |    |     |      |    |     |      | PL. 9    | 第32図 |
| 57 | E20・21 | SF4663 | 石積遺構<br>SA4633東端  |    |     |      |    |     |      | PL. 12   | 第30図 |
| 58 | D23・24 | SB4635 | 礎石建物              |    |     |      |    |     |      | PL. 14   | 第31図 |
| 59 | E28    | SF4664 | 石積遺構              |    |     |      |    |     |      | —        | 第24図 |

## 武家屋敷C群

| NO | グリッド | 遺構     | 種類              | 上層 |     |      | 下層 |     |      | 写真<br>図版 | 挿図   |
|----|------|--------|-----------------|----|-----|------|----|-----|------|----------|------|
|    |      |        |                 | I期 | II期 | III期 | I期 | II期 | III期 |          |      |
| 60 | -    | SV1429 | 石垣・石列           |    |     |      |    |     |      | PL. 16   | 第33図 |
| 61 | -    | SX4706 | 石敷炉             |    |     |      |    |     |      | PL. 16   | 第33図 |
| 62 | -    | SX4707 | 石敷炉             |    |     |      |    |     |      | PL. 16   | 第33図 |
| 63 | -    | SA1428 | 土塁石垣<br>第31次に接続 |    |     |      |    |     |      | PL. 16   | 第33図 |
| 64 | -    | SE4650 | 井戸:石組井戸         |    |     |      |    |     |      | PL. 16   | 第33図 |
| 65 | -    | SB4639 | 礎石建物            |    |     |      |    |     |      | PL. 16   | 第33図 |

### 5. 遺物 (PL. 23~30 第34~45図 第5表)

遺物は、武家屋敷A・B群のもので占められ、陶磁器類の他に土製品、金属器、石製品等も出土した。詳細は第5表に記し、ここでは武家屋敷A・B群の包含層出土陶磁器類と、一定量の組成を示す遺構の陶磁器類について概要を述べる。

#### 武家屋敷A群包含層出土陶磁器類 (PL. 23 第34・35図 第5表)

越前焼は小型の鉢1・2、搦鉢3~5、浅い捏鉢6が検出された。土師器は小皿7~14が検出された。7・8・13は口端部外面にヨコナデによる段をもつ。羽釜18・19は口径8.8cm~11.0cmを測る小型品であり、ススが付着する。瀬戸・美濃製品は鉄釉の天目碗15~17を検出した。花瓶44はラッパ状に大きく開き、胴部上位は内反する。瀬戸昔田窯で出土例があり、15世紀末のものとする。中国製陶磁器には、青磁碗20~23を検出した。20の外面には鎬蓮弁文が陰刻される。皿24・25は内面底部に印花文をもつ。26は大型の盤であり、内外面に陰刻花文を施す。27は盤の獅子文脚部である。白磁皿35・36は底部に回転ヘラ切り痕が残り、内面底部に陰刻花文を施す。染付皿38・39は外面に密な唐草文を描く。天目碗40は断面が灰黒色を呈す。その他元染の小片 (PL. 23 左隅) を掲載しておく。その他朝鮮雑釉碗41・42、皿43がある。

#### 武家屋敷A群遺構出土陶磁器類 (PL. 24~26 第35~38図 第5表)

**SA4632 出土** (PL. 24 第35・36図) 越前焼搦鉢45~48を検出した。土師器小皿51は口端部に段をもつ。青磁碗52は線刻蓮弁文を有す。染付皿53は口縁部に唐草文、内面底部に玉取り獅子文を施す。

**SK4669 出土** (PL. 24 第36・37図) 越前焼で占められる。越前焼大甕63・64の他、大甕の1/2の口径を測る小型品62、球形の胴部をもつ壺65がある。66・67は大・小型品の捏鉢である。68は50と同形の壺である。

**SK4678 出土** (PL. 25 第37・38図) 越前焼搦鉢71は底部にススが付着する。染付皿72の口端部には雷文帯、見込みに渦巻文帯が巡る。瀬戸・美濃の四耳壺80はSA4631、SF4652の破片と接合する。

**SX4692 出土** (PL. 26 第38図) 土師器小皿83~91が出土した。小型品で完形に近いものが多い。

**SD4642 出土** (PL. 26 第38図) 青磁97・98と白磁99~107で占められる。97は陰刻花文をもつ優品の盤である。98は輪花皿である。99・100は碗、101~107は皿である。106は優品であり定窯のものとする。

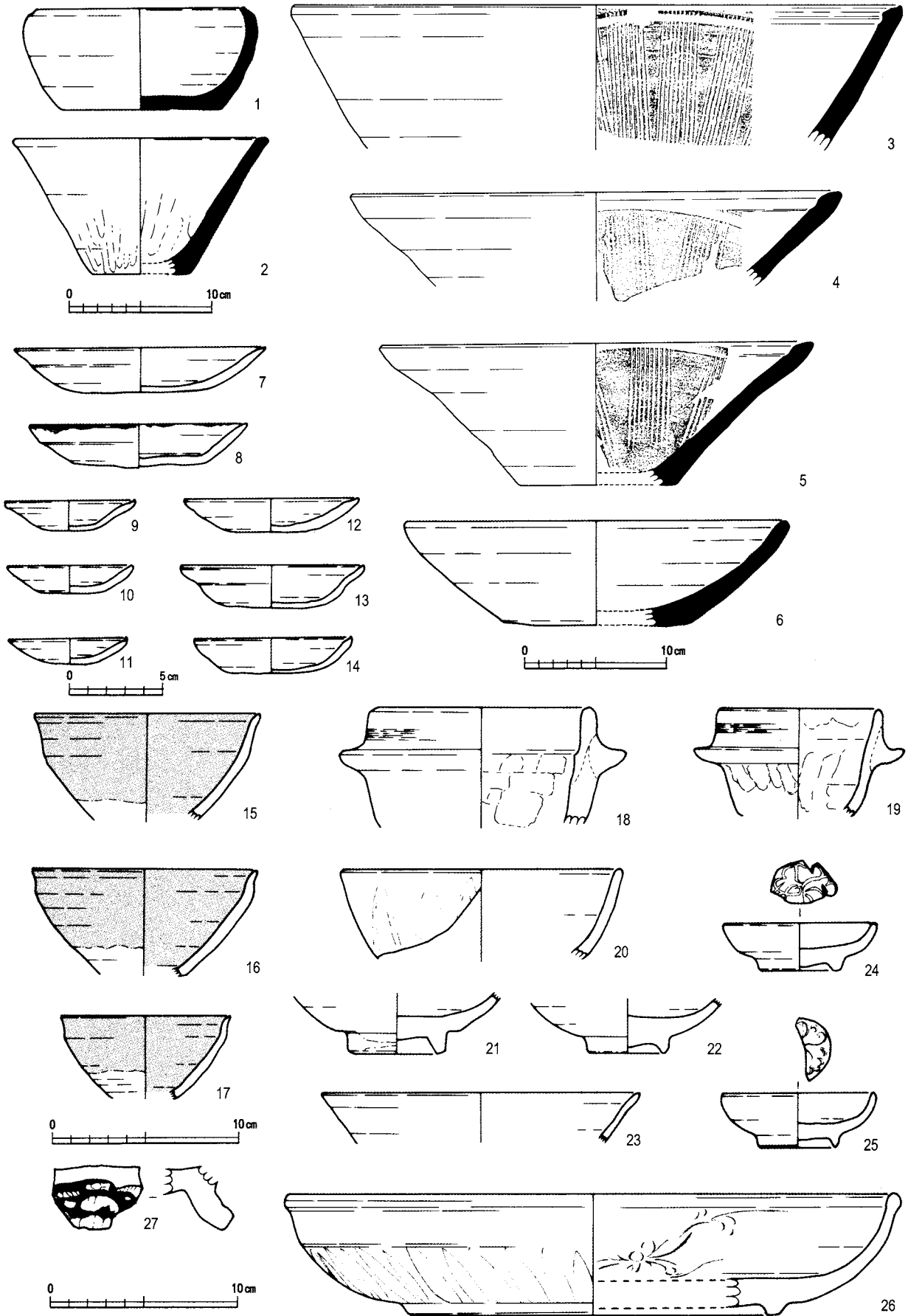
#### 武家屋敷B群包含層出土陶磁器類 (PL. 26~28 第39~41図 第5表)

越前焼では大型の鉢109・110の他、鉄鉢形の111がある。土師器は圧倒的な量を占め、B~D類の小皿113~145が出土した。耳皿151はミニチュア品と考えられる。短頸壺152は弥生~古墳時代初頭のものであり、武家屋敷C群で同時期の硬玉製勾玉が1点出土していることが注意される。瀬戸・美濃製品では鉄釉の天目碗153~159が出土した。特殊品として水滴160、水瓶161もある。灰釉陶器は、碗162、皿163・164、香炉165が出土した。中国製陶磁器では、青磁166~185を検出した。碗166~168・173は蓮弁文を有し、169・174は深底である。輪花皿175・176のように内湾するものと、177~179・181のようにやや外反するものがある。鉄斑文瓶、いわゆる飛青磁の183は、SK4672の上層で破片が検出された。花入185は円筒状で竹を模しているとする。染付は、杯186~189に草花文を描き、187~189の見込みには太湖石を描く。碗190には牡丹唐草文が変化した文様を施す。皿191には十字花文を見込みに施す。

#### 武家屋敷B群遺構出土陶磁器類 (PL. 25・28~30 第41~44図 第5表)

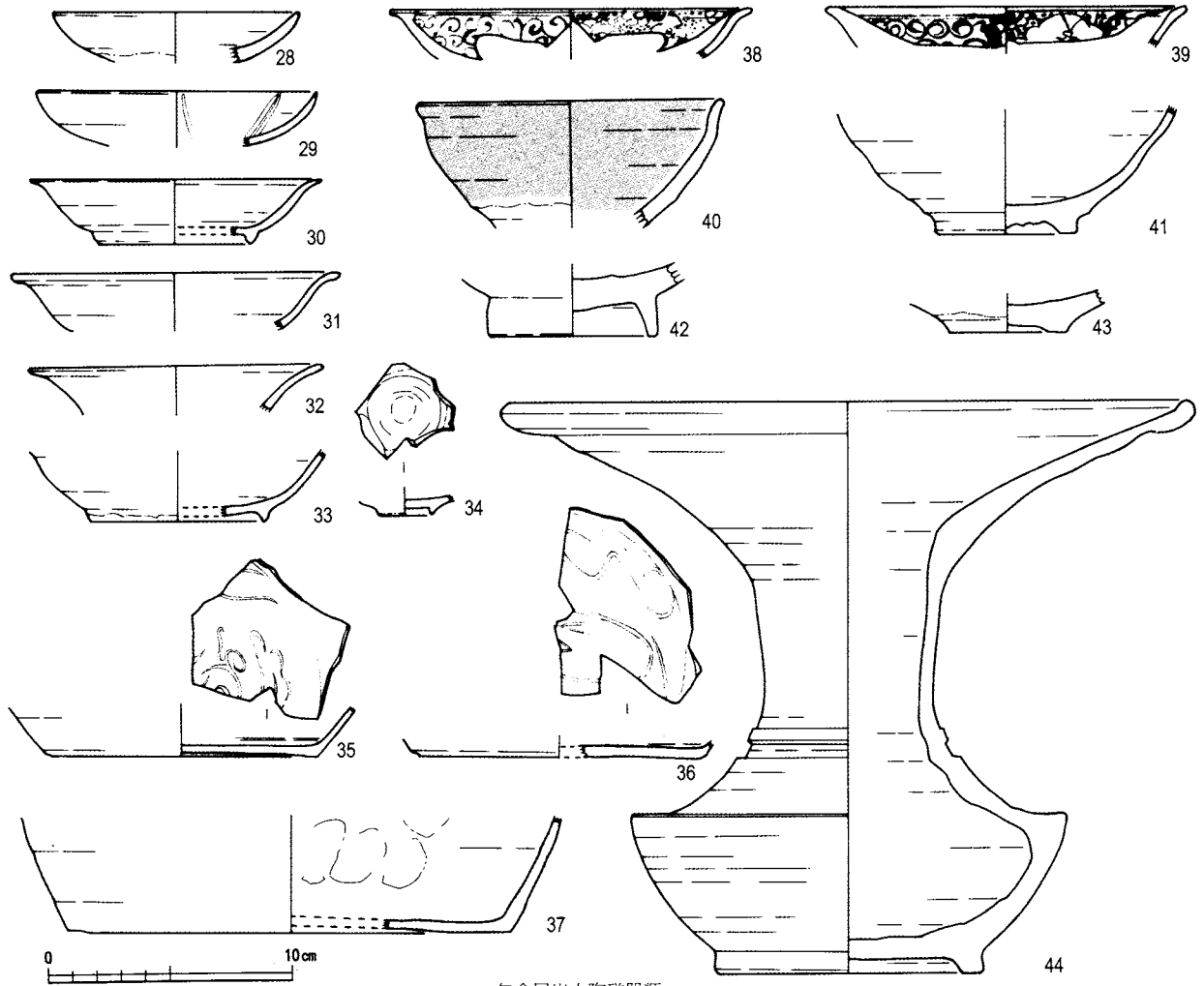
**SB4635 出土遺物** (PL. 28 第41図) 越前焼搦鉢199、大甕200、白磁皿201・202、染付皿203を検出した。

**SK4672 出土遺物** (PL. 25・29・30 第37・42・43図) 越前焼大甕213~226、壺75・76・227を検出した。胴部上位にスタンプ文、ヘラ記号をもつ個体が多い。染付杯77は草花文を施し、見込みに山型の太湖石を描く。染付皿78は口縁部に宝相蓮華文、見込みに十字花文を描く。

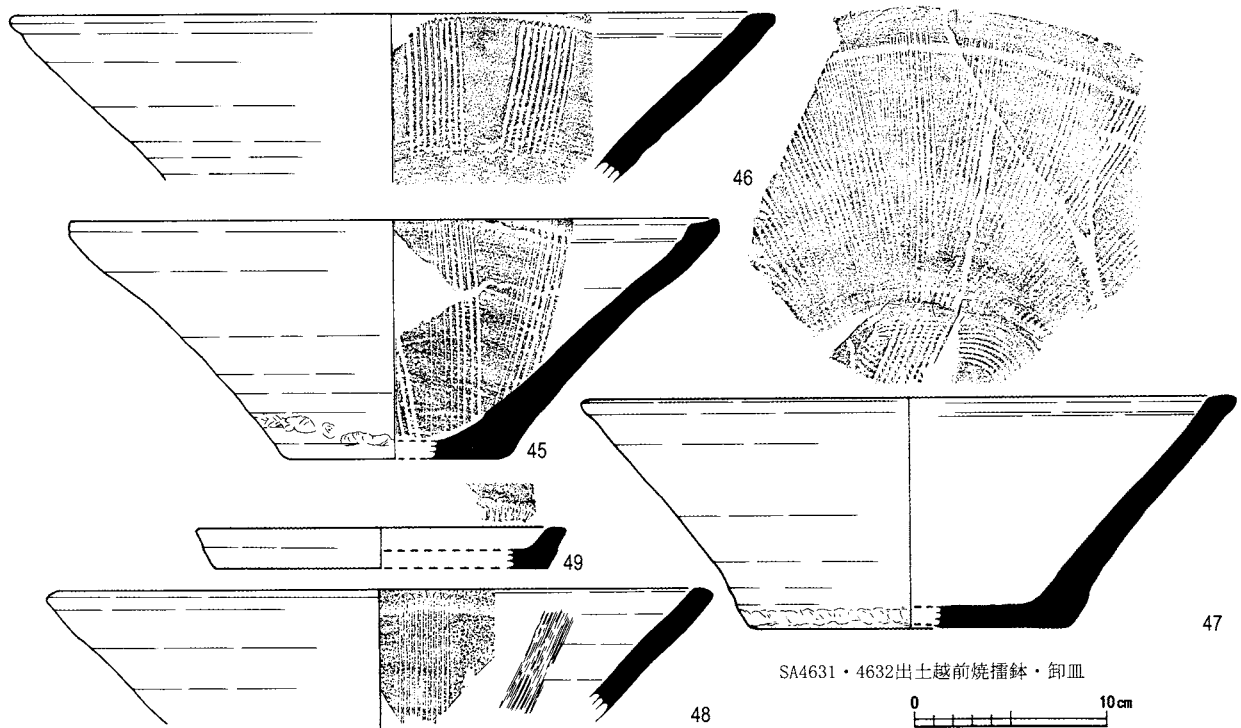


第 34 図 武家屋敷 A 群包含層出土陶磁器類(縮尺 1/3、1/4)



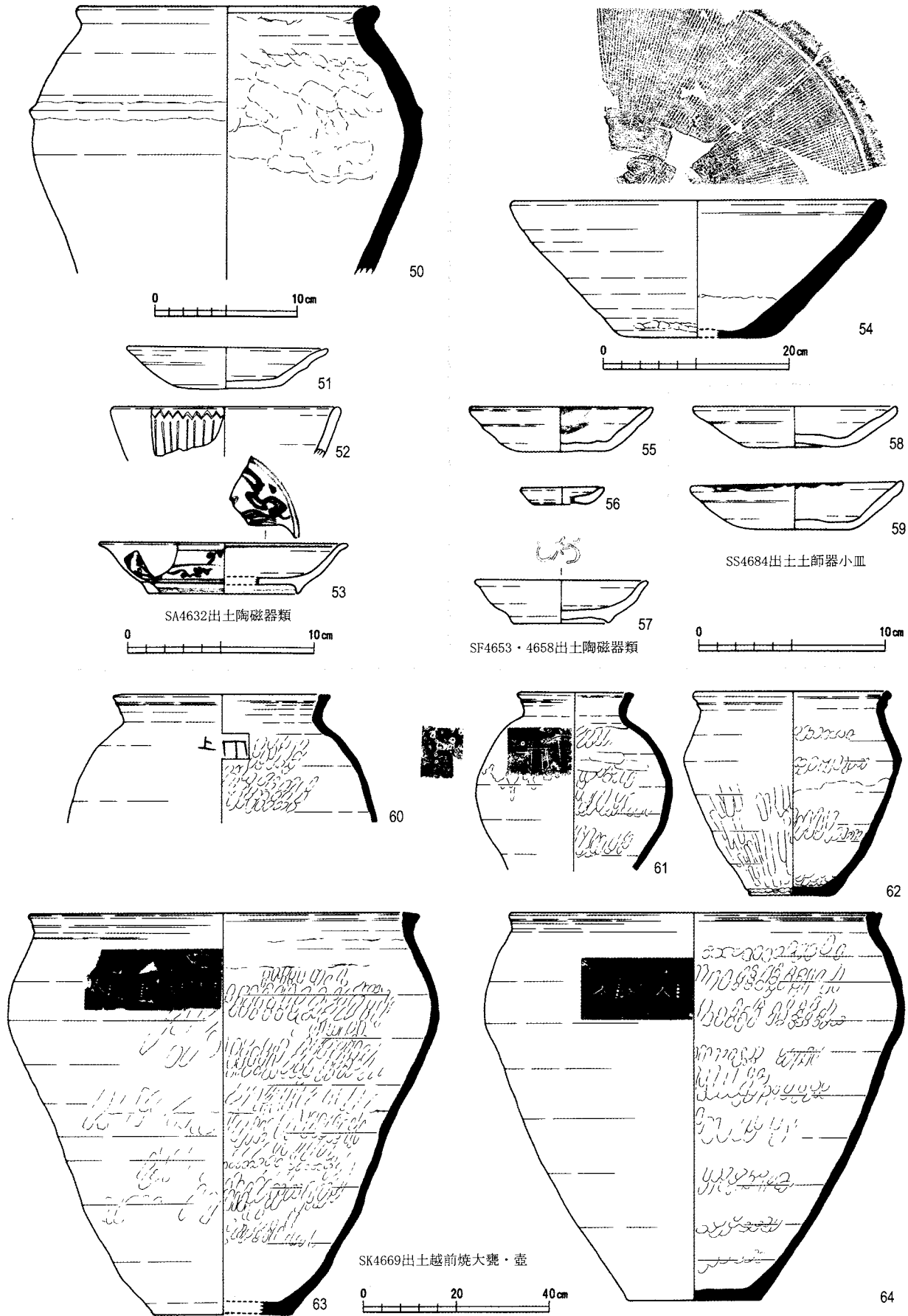


包含層出土陶磁器類

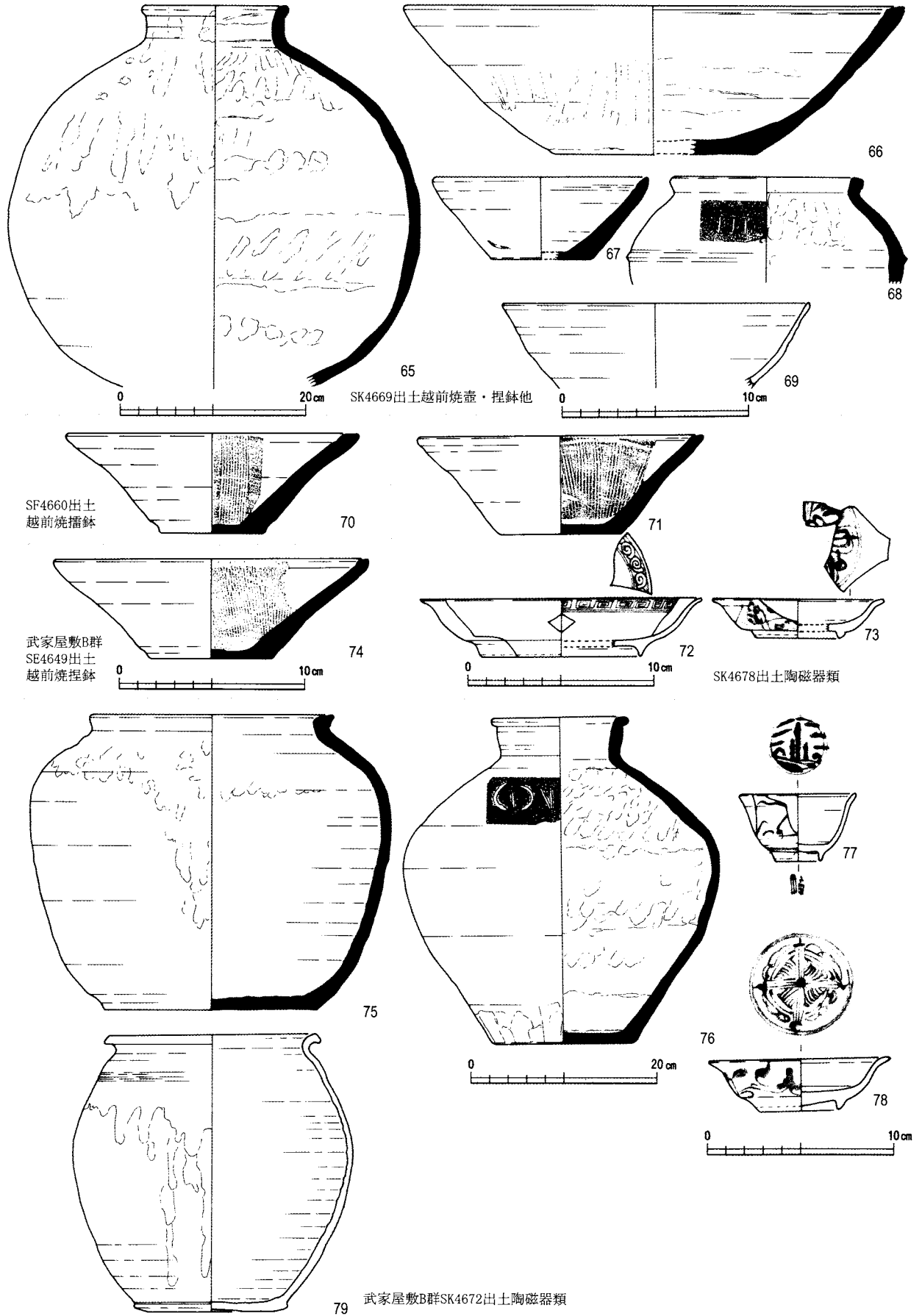


SA4631・4632出土越前焼播鉢・卸皿

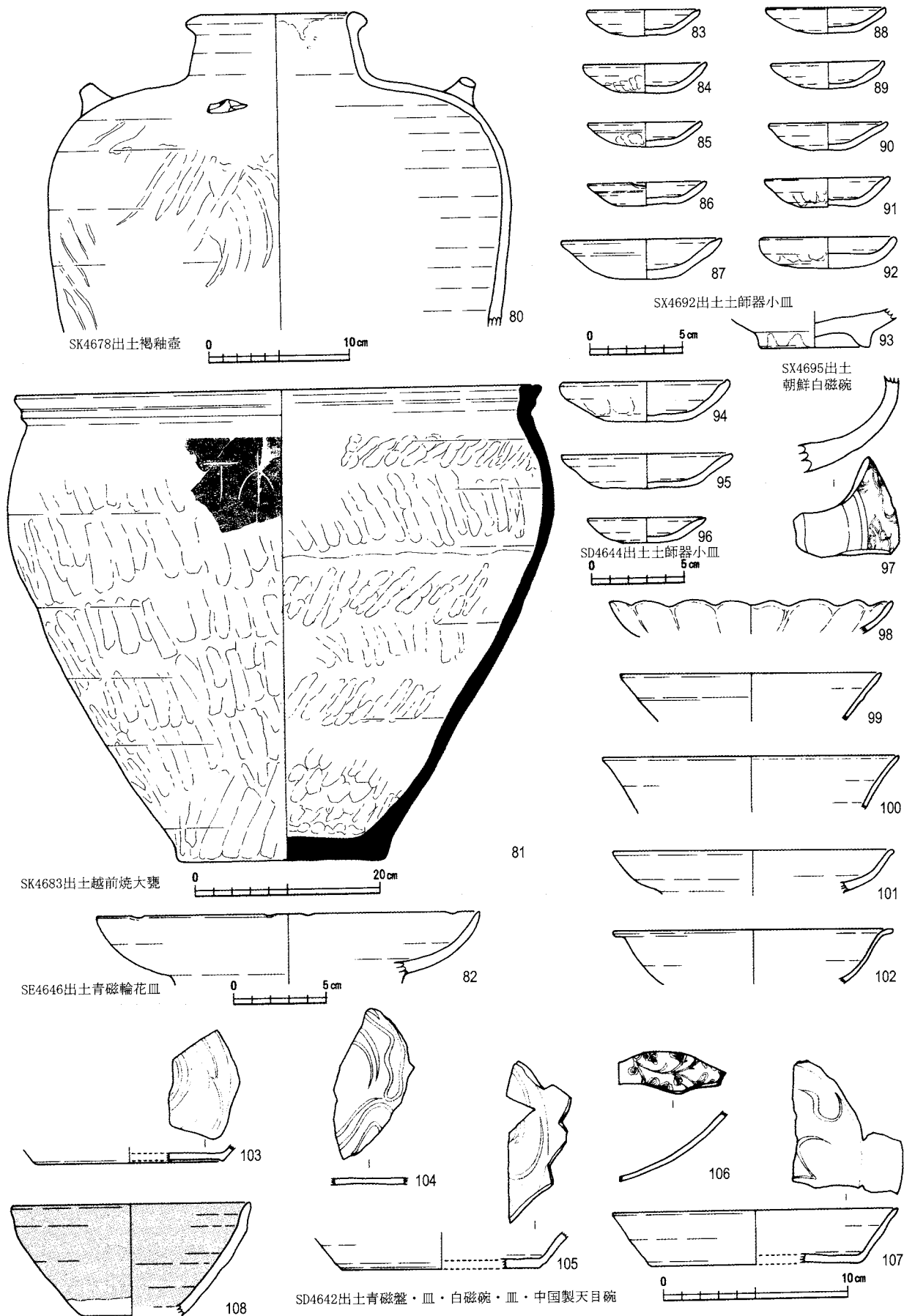
第35図 武家屋敷A群包含層・遺構出土陶磁器類(縮尺1/3、1/4)



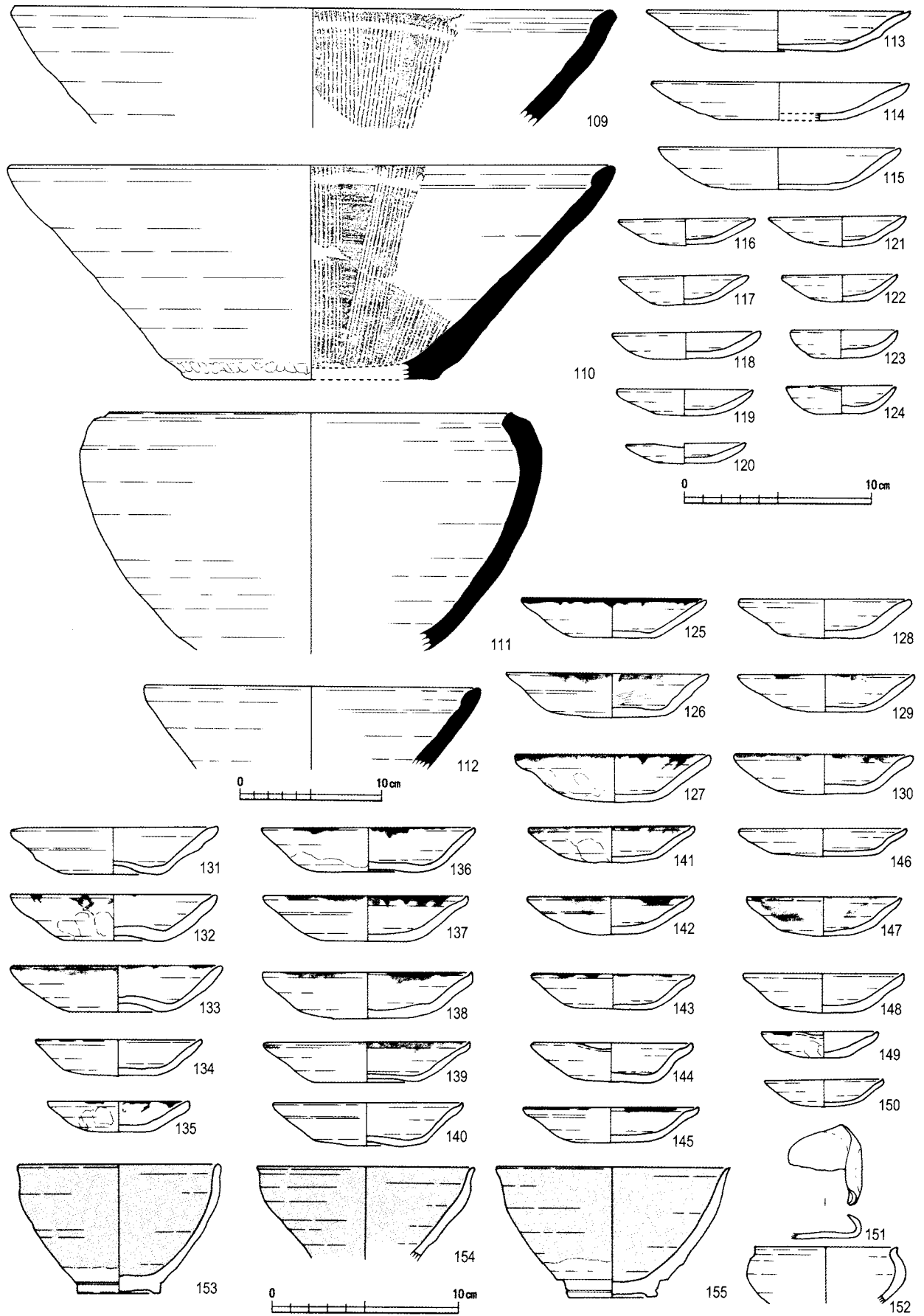
第36図 武家屋敷A群遺構出土陶磁器類(縮尺1/3、1/4、1/6、1/12)



第37図 武家屋敷A群遺構出土陶磁器類、B群遺構出土陶磁器類(縮尺1/3、1/6)

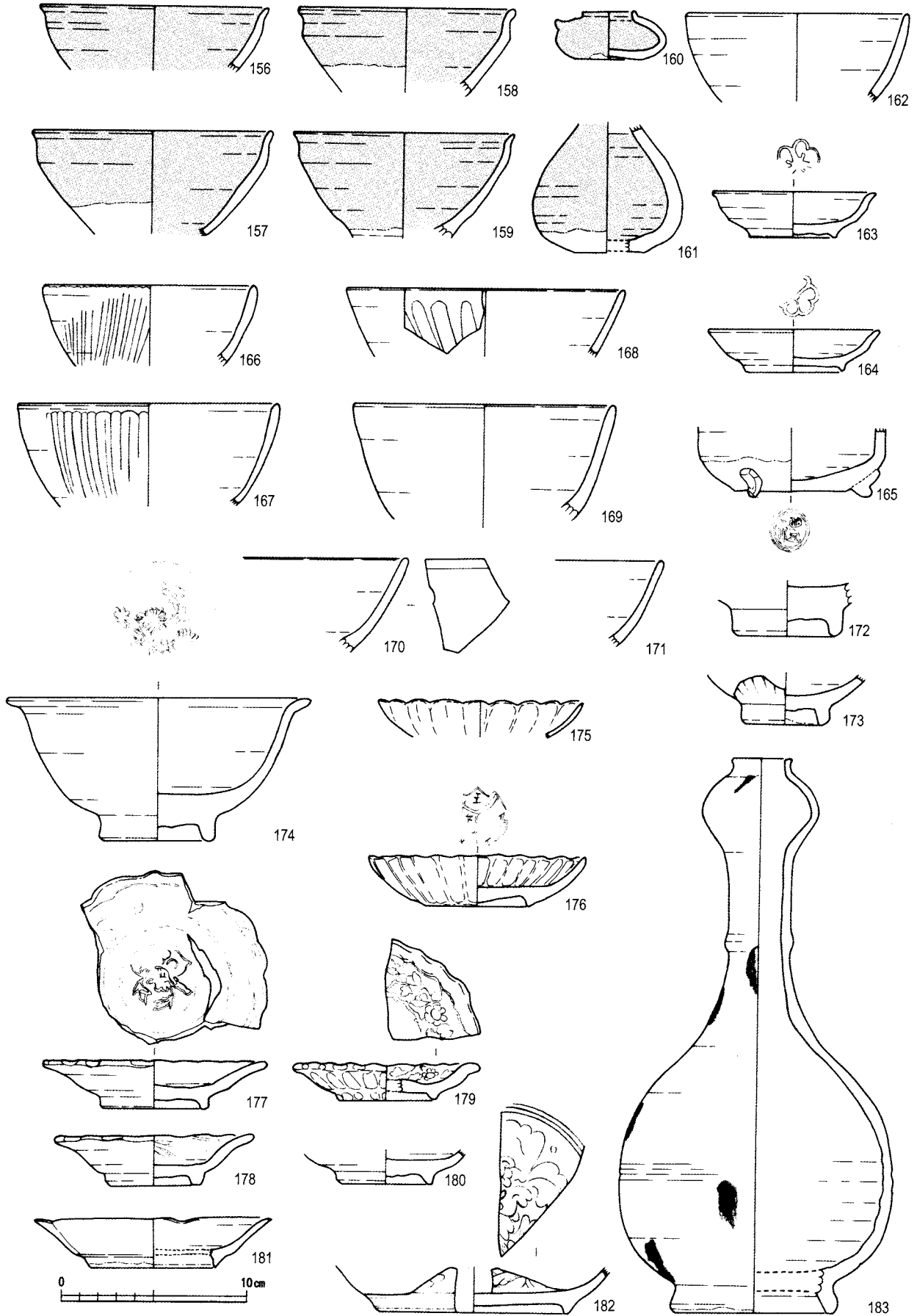


第 38 図 武家屋敷 A 群遺構出土陶磁器類(縮尺 1/3、1/4、1/6)

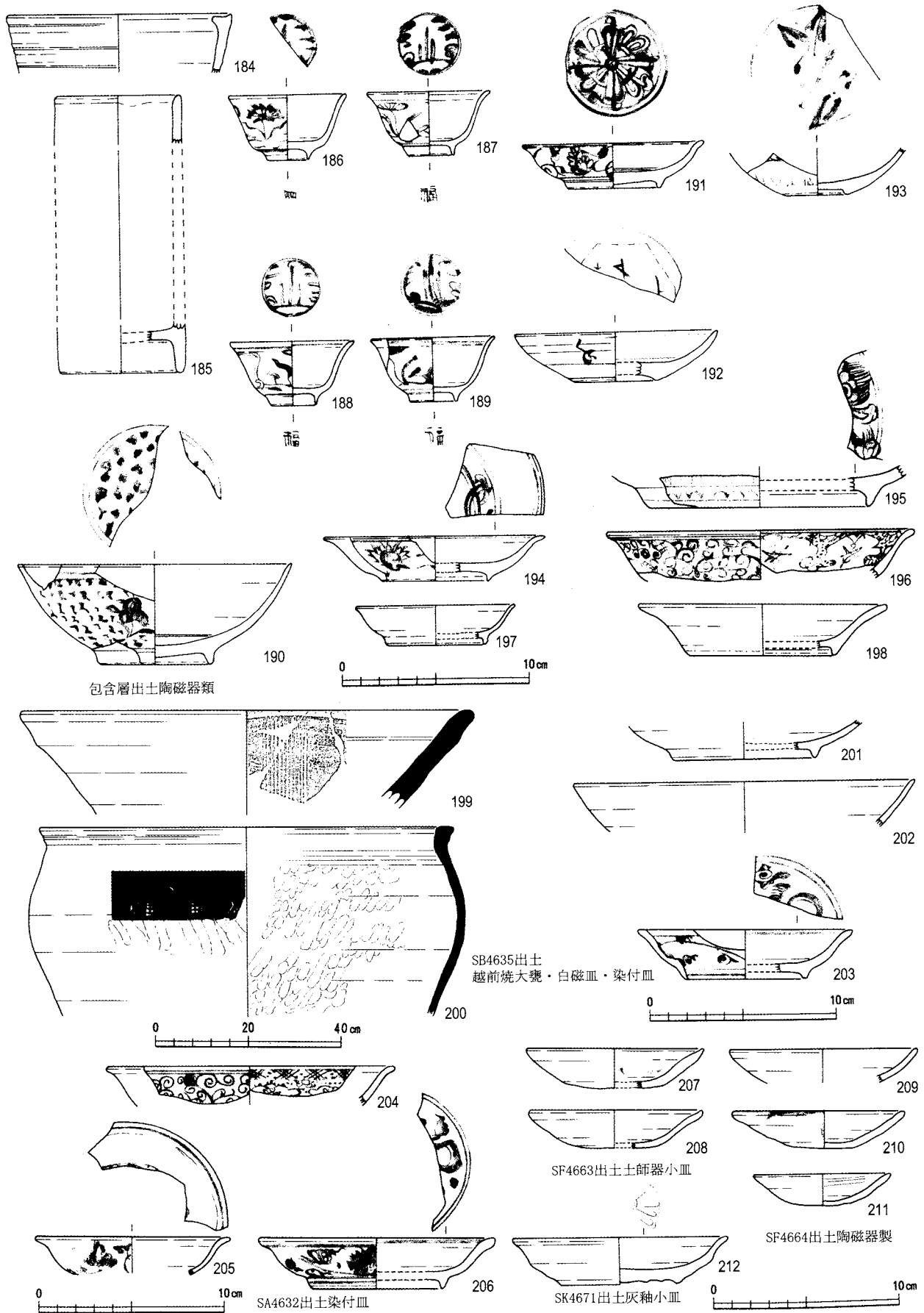


第39図 武家屋敷A群包含層出土陶磁器類(縮尺1/3、1/4)

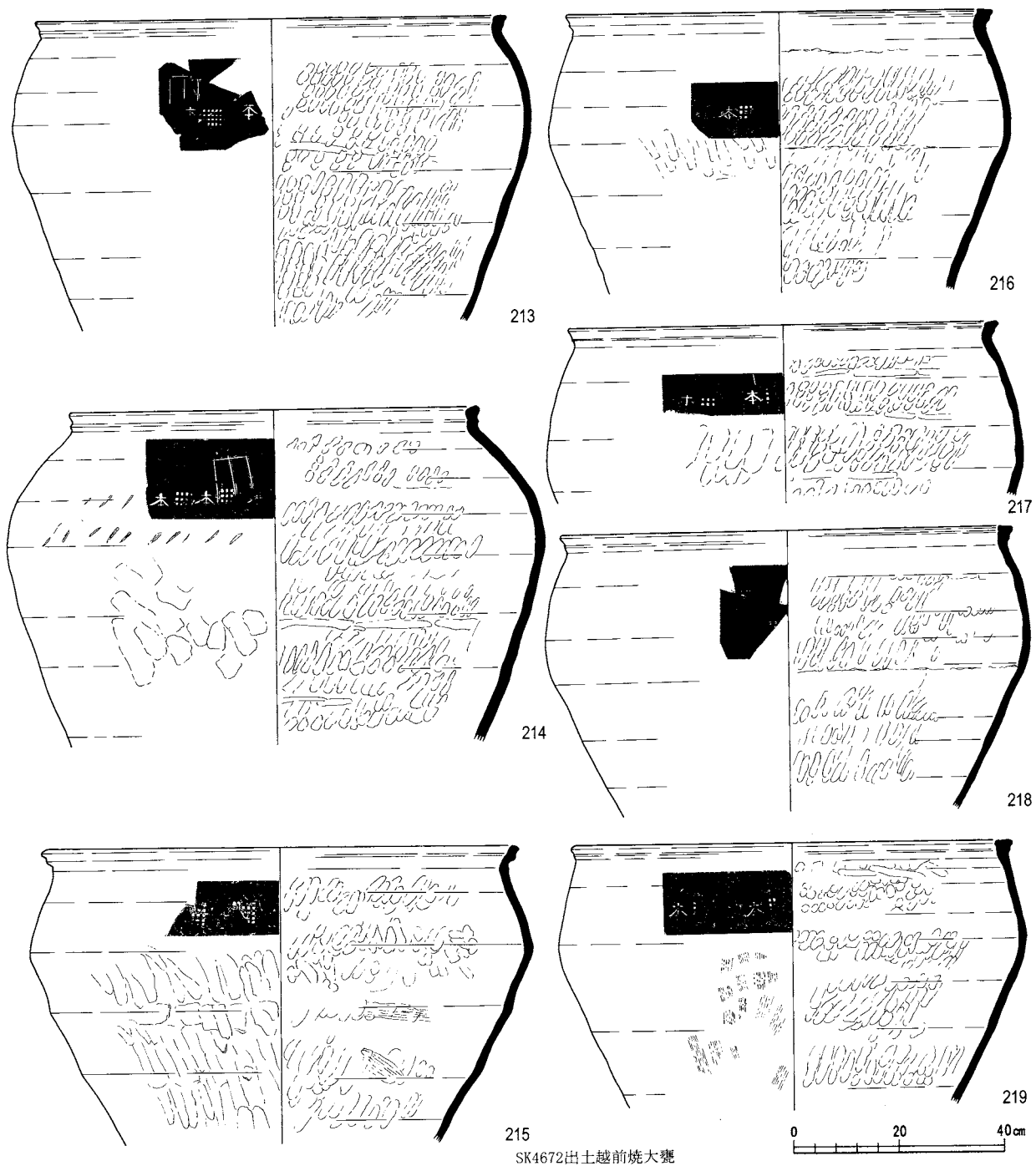
5. 遺物



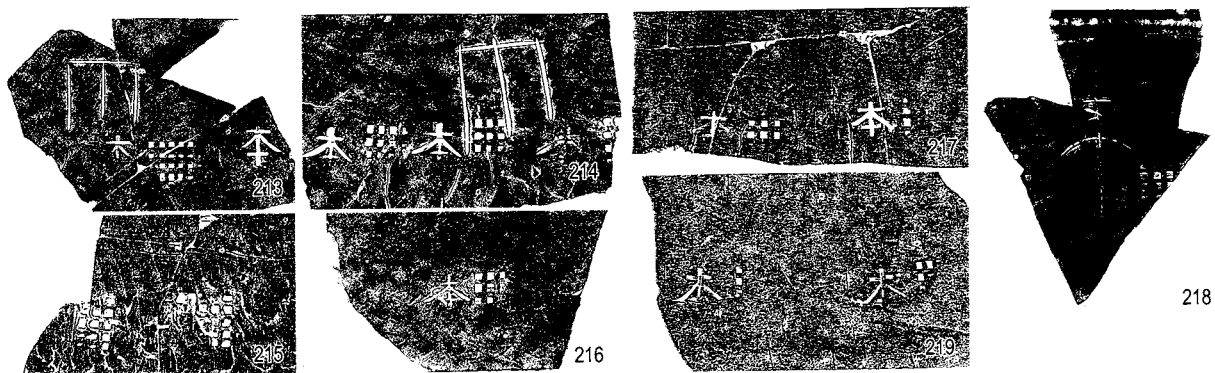
第40圖 武家屋敷B群包含層出土陶磁器類(縮尺1/3)



第41図 武家屋敷B群包含層・遺構出土陶磁器類(縮尺1/3、1/4、1/12)

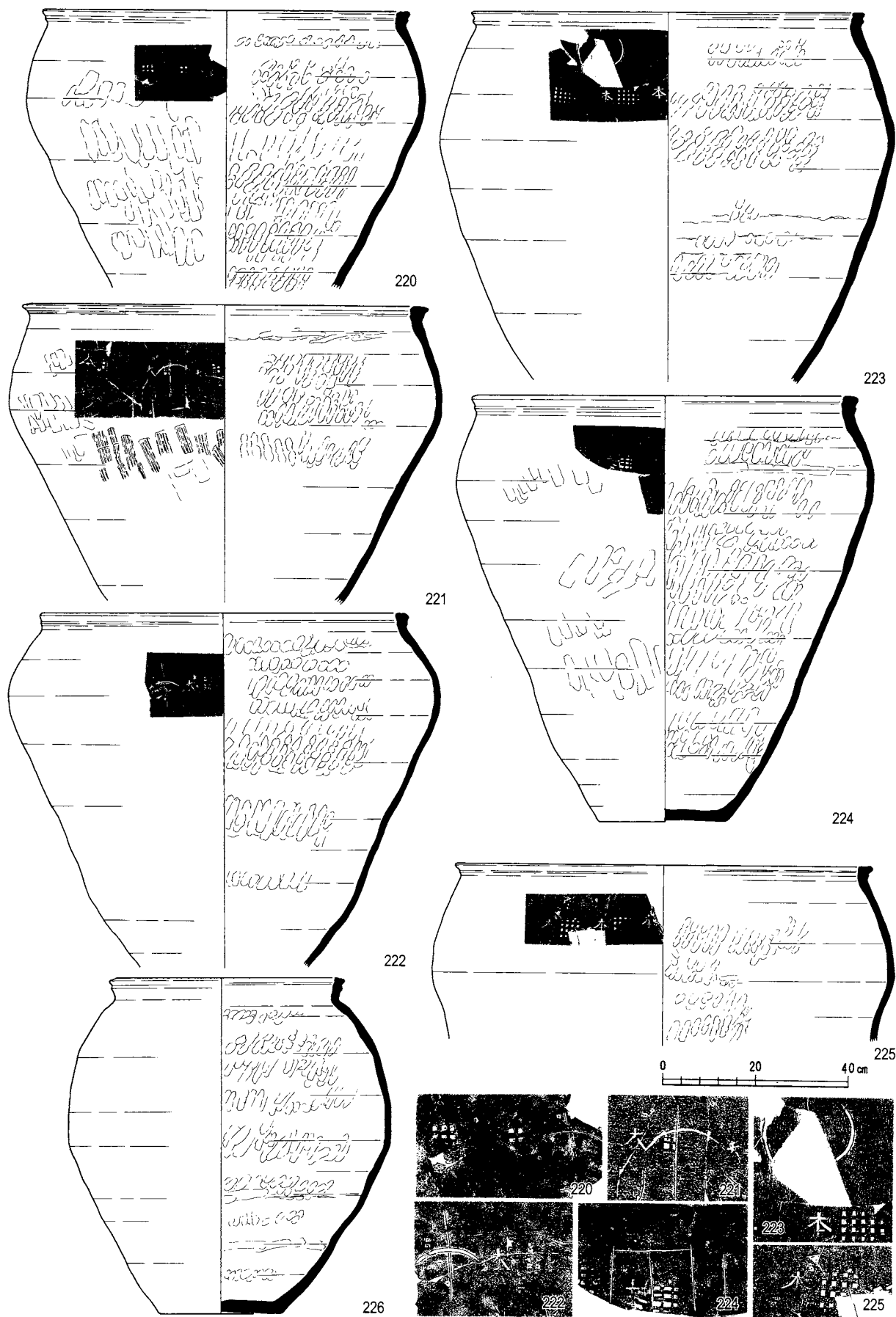


SK4672出土越前焼大甕



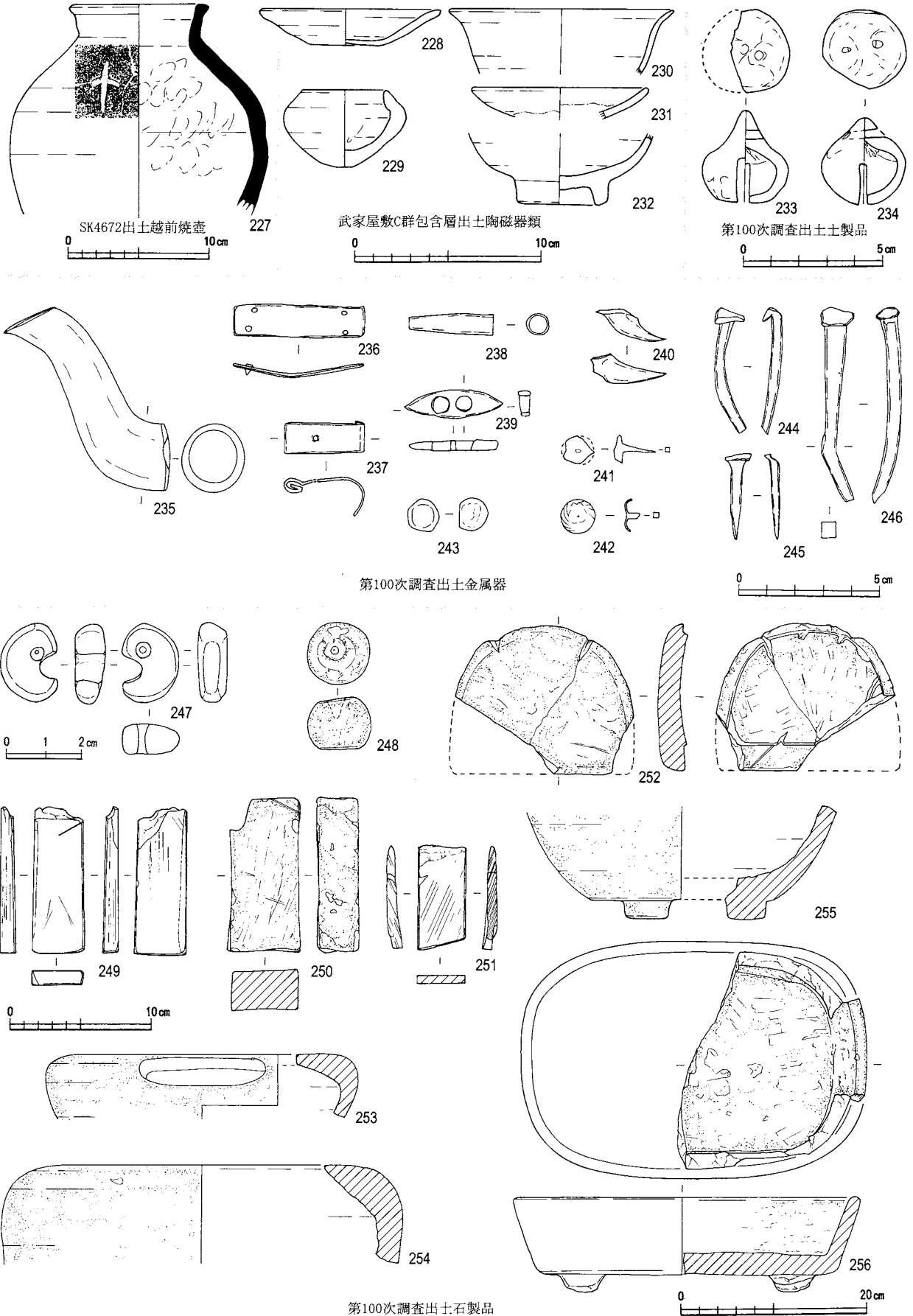
第 42 図 武家屋敷 B 群遺構出土陶磁器類 (縮尺 1/12)



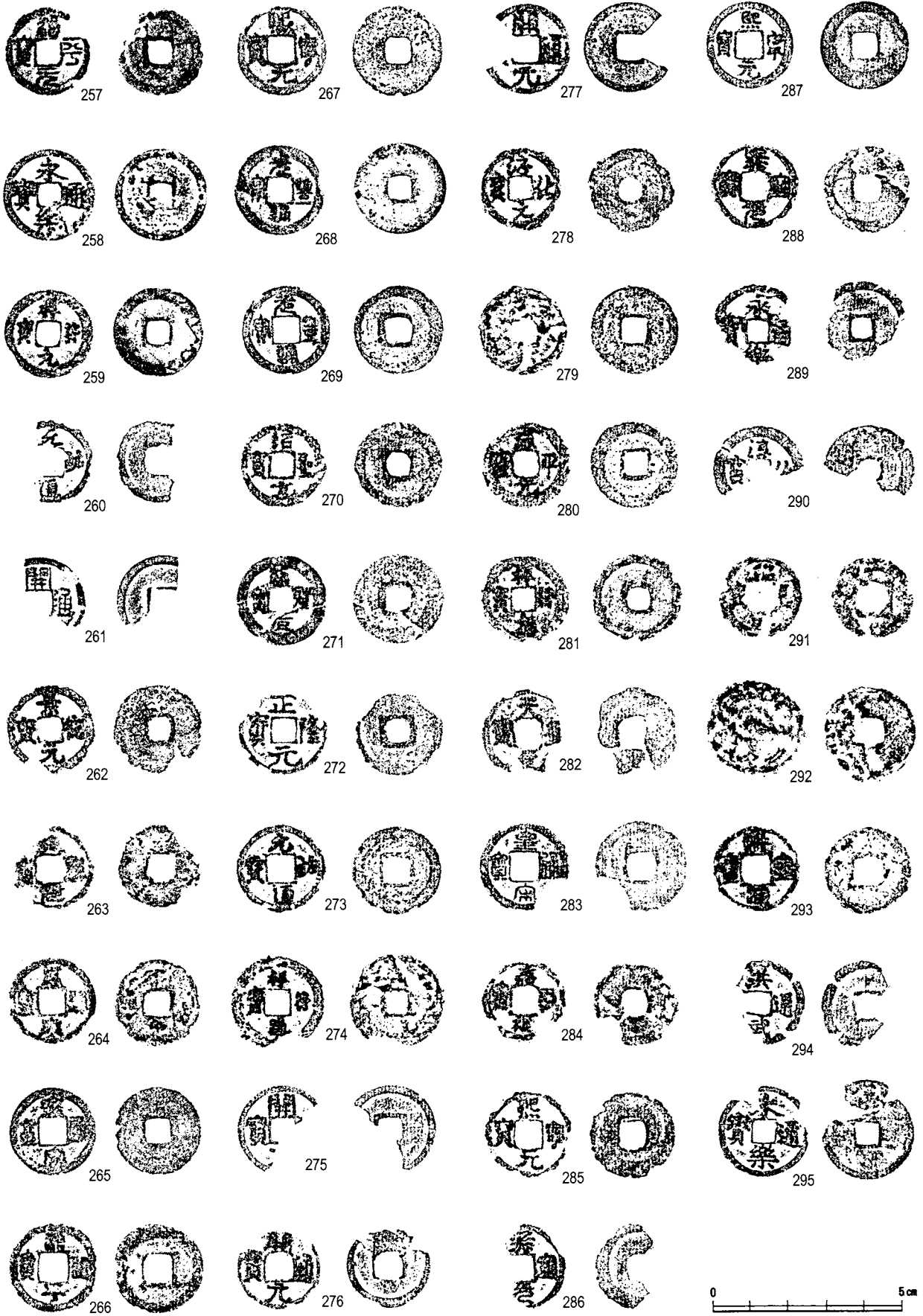


第 43 図 武家屋敷 B 群遺構出土陶磁器類 (縮尺 1/12)

5. 遺物



第44図 武家屋敷B・C群出土陶磁器類、第100次調査出土土製品、金属器、石製品(縮尺1/2、1/3、2/3、1/4)



第45図 第100次調査出土銭貨(縮尺 2/3)

## 5. 遺物

第5表 第100次調査出土遺物観察表(PL. 23~30 第34~45図)

武家屋敷A群包含層出土陶磁器類(PL. 23 第34・35図)

単位: cm

| No | 器種                | 法量/焼成/色調  | 胎土                          | 形状  | 調整 / 文様  | 出土地点  |
|----|-------------------|---|-----------------------------|---|--|---|
|    |                   |   | 残存                          |   |  | 備考  |
| 1  | 越前焼鉢              | 口: 14.7<br>高: 7.4<br>底: 11.2<br>焼: 良好<br>色: 赤茶色 | 極砂粒<br>白色粒子<br>軟質<br>1/4    | 口縁部:内湾して立ち上がる/口唇部は内傾して丸く収める<br>底部:平底                          | 外:口縁部~体部:回転ナデ/底部:ナデ<br>内:回転ナデ                                  | 武家屋敷A群<br>E24/H20/J20/遺構面<br>外:口縁部降灰<br>内:降灰        |
| 2  | 越前焼鉢              | 口: 18.2<br>高: 9.8<br>底: 6.8<br>焼: 良好<br>色: 茶色   | 微砂粒<br>白色粒子<br>軟質<br>1/5    | 口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/<br>口端面は平坦<br>底部:平底                          | 外:口縁部~体部:ナデ/体部下位ミ<br>ガキ/底部:ナデ<br>内:口縁部~体部ナデ/体部下位~底<br>部ヘラナデ    | 武家屋敷A群<br>F26/遺構面<br>内:降灰                           |
| 3  | 越前焼播鉢             | 口: 43.6<br>高: 10.5<br>焼: 良好<br>色: 橙色            | 極砂粒<br>白色粒子<br>軟質<br>1/10以下 | 口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/<br>口唇部に2段の凹線がめぐる                            | 外:口縁部~体部:ナデ<br>内:口縁部~体部:ナデ<br>内面に幅2.7cm・13条の卸目                 | 武家屋敷A群<br>I25~27/床土下黄褐色土<br>I26/遺構面                 |
| 4  | 越前焼播鉢             | 口: 35.0<br>高: 6.5<br>焼: 良好<br>色: 橙色             | 極砂粒<br>白色粒子<br>軟質<br>1/10以下 | 口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/<br>口端面は平坦/口端面内側に浅い凹線<br>をもつ                 | 外:口縁部~体部:ナデ<br>内:口縁部~体部:ナデ<br>内面に幅2.8cm・8条の卸目                  | 武家屋敷A群<br>M25/耕作土<br>O23/SA4631遺構面                  |
| 5  | 越前焼播鉢             | 口: 31.0<br>高: 10.0<br>底: 11.0<br>焼: 良好<br>色: 橙色 | 極砂粒<br>白色粒子<br>軟質<br>1/10以下 | 口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/<br>口端面は平坦/口端面内側に浅い段を<br>もつ                  | 外:口縁部~体部:回転ナデ後ヨコナ<br>デ<br>内:口縁部~体部:ナデ/底部:摩耗<br>内面に幅2.8cm・9条の卸目 | 武家屋敷A群<br>M25/遺構面                                   |
| 6  | 越前焼捏鉢             | 口: 27.0<br>高: 7.5<br>底: 13.0<br>焼: 良好<br>色: 淡茶色 | 極砂粒<br>白色粒子<br>精緻<br>1/6    | 口縁部:やや内湾して立ち上がる/口<br>唇部は鋭角気味                                  | 外:口縁部~体部:回転ナデ/底部ナ<br>デ<br>内:口縁部~体部:回転ナデ/底部ナ<br>デ               | 武家屋敷A群<br>G18/H18遺構面                                |
| 7  | 土師器<br>小皿         | 口: 13.2<br>高: 2.4<br>底: 6.8<br>焼: 良好<br>色: 橙褐色  | 極砂粒<br>軟質<br>1/1            | 口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/<br>口唇部は丸く収める/口端面外面に段<br>あり<br>底部:平底         | 外:口縁部ヨコナデ/底部未調整<br>内:口縁部~底部ヨコナデ                                | 武家屋敷A群<br>M29/遺構面                                   |
| 8  | 土師器<br>小皿         | 口: 11.5<br>高: 2.3<br>底: 6.4<br>焼: 良好<br>色: 赤橙色  | 極砂粒<br>軟質<br>4/5            | 口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/<br>口唇部は丸く収める/口端面外面に段<br>あり<br>底部:平底         | 外:口縁部ヨコナデ/底部未調整<br>内:口縁部ヨコナデ/底部ナデ                              | 武家屋敷A群<br>G23/床土下砂利層<br>外:口縁部にスス付着                  |
| 9  | 土師器<br>小皿         | 口: 6.8<br>高: 1.6<br>底: 2.6<br>焼: 良好<br>色: 橙褐色   | 極砂粒<br>軟質<br>1/2            | 口縁部:体部中位で外反し、口唇部を<br>短く上方へツマミ出す/口唇部は丸く<br>収める<br>底部:丸底        | 外:口縁部~底部ナデ<br>内:口縁部~底部ヨコナデ                                     | 武家屋敷A群<br>J20/SA4632埋土<br>内:赤色化粧土                   |
| 10 | 土師器<br>小皿         | 口: 6.6<br>高: 1.6<br>底: 3.0<br>焼: 良好<br>色: 橙褐色   | 極砂粒<br>軟質<br>3/4            | 口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/<br>口唇部を短く上方へツマミ出す/口唇<br>部は丸く収める<br>底部:丸底    | 外:口縁部回転ナデ/底部未調整<br>内:口縁部ヨコナデ/底部ナデ                              | 武家屋敷A群<br>H23/床土下砂利層<br>内:口縁部にスス付着                  |
| 11 | 土師器<br>小皿         | 口: 6.1<br>高: 1.4<br>底: 2.2<br>焼: 良好<br>色: 橙褐色   | 極砂粒<br>軟質<br>4/5            | 口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/<br>口唇部を短く上方へツマミ出す/口唇<br>部は丸く収める<br>底部:丸底    | 外:口縁部~底部ナデ<br>内:口縁部ヨコナデ/底部ナデ                                   | 武家屋敷A群<br>H25/焼土<br>内:口縁部にスス付着                      |
| 12 | 土師器<br>小皿         | 口: 9.2<br>高: 1.8<br>底: 4.9<br>焼: 良好<br>色: 橙褐色   | 極砂粒<br>軟質<br>1/2            | 口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上<br>がる/口端面内側に浅い凹線をもつ/口<br>唇部は丸く収める<br>底部:丸底   | 外:口縁部ヨコナデ/体部~底部ナデ<br>内:口縁部~底部ナデ                                | 武家屋敷A群<br>N25/オチコミ砂利層<br>外:一部スス付着<br>内:一部スス付着       |
| 13 | 土師器<br>小皿         | 口: 9.6<br>高: 2.3<br>底: 4.4<br>焼: 良好<br>色: 橙褐色   | 極砂粒<br>軟質<br>1/3            | 口縁部:体部中位で弱く屈曲して斜め<br>外方へ立ち上がる/口唇部は丸く収め<br>る/口端面に段をもつ<br>底部:丸底 | 外:口縁部ヨコナデ/体部~底部ナデ<br>内:口縁部~底部ナデ                                | 武家屋敷A群<br>M29/黄褐色土                                  |
| 14 | 土師器<br>小皿         | 口: 8.3<br>高: 1.9<br>底: 4.6<br>焼: 良好<br>色: 白褐色   | 極砂粒<br>軟質<br>1/1            | 口縁部:やや内湾して外方へ立ち上<br>がる/口唇部は上方へ短くツマミ出す/<br>口唇部は丸く収める<br>底部:丸底  | 外:口縁部ナデ/底部未調整<br>内:口縁部~底部ナデ                                    | 武家屋敷A群<br>I25・26/床土下黄褐色<br>土<br>外:口縁部スス付着<br>片口状に歪む |
| 15 | 瀬戸美濃<br>鉄釉<br>天目碗 | 口: 12.0<br>高: 5.9<br>焼: 良好<br>色: 黒茶色            | 極砂粒<br>堅緻<br>1/8            | 口縁部は直線状に斜め外方へ立ち上<br>がり、口縁部上位でやや上方へ屈曲。<br>口唇部は短く外傾し丸く収める       | 外:口縁部~体部下位回転ナデ<br>内:口縁部~体部下位回転ナデ                               | 武家屋敷A群  |

| No | 器種                | 法量/焼成/色調   | 胎土<br>残存            | 形状  | 調整 / 文様                                    | 出土地点<br>備考  |
|----|-------------------|--|---------------------|---|--|---|
| 16 | 瀬戸美濃<br>鉄釉<br>天目碗 | 口: 12.0<br>高: 5.7<br>焼: 良好<br>色: 淡茶色               | 極砂粒<br>堅緻<br>1/8    | 口縁部は直線状に斜め外方へ立ち上がり、口縁部上位でやや上方へ屈曲。口唇部は短く外傾し丸く収める             | 外: 口縁部～体部下位回転ナデ<br>内: 口縁部～体部下位回転ナデ         | 武家屋敷A群<br>体部下位まで鉄釉  |
| 17 | 瀬戸美濃<br>鉄釉<br>天目碗 | 口: 9.0<br>高: 4.4<br>焼: 良好<br>色: 黒色                 | 極砂粒<br>堅緻<br>1/6    | 口縁部は直線状に斜め外方へ立ち上がり、口縁部上位でやや上方へ屈曲。口唇部は短く外傾し丸く収める             | 外: 口縁部～体部下位回転ナデ<br>内: 口縁部～体部下位回転ナデ         | 武家屋敷A群<br>G22/灰褐色土<br>体部中位まで鉄釉  |
| 18 | 土師器<br>羽釜         | 口: 11.0<br>高: 6.4<br>焼: 良好<br>色: 橙褐色               | 極砂粒<br>軟質<br>1/10以下 | 口縁部: 直上へ立ち上がる/口唇部は丸く収める/受部は平滑<br>底部: 丸底                     | 外: 口縁部～受部ヨコナデ/体部ナデ<br>内: 口縁部～受部ヨコナデ/体部ヘラナデ | 武家屋敷A群<br>O26/SA4631埋土<br>体部スス付着  |
| 19 | 土師器<br>羽釜         | 口: 8.8<br>高: 5.8<br>焼: 良好<br>色: 橙褐色                | 極砂粒<br>軟質<br>1/10以下 | 口縁部: やや外傾して直上へ立ち上がる/口唇部は丸く収める/受部は平滑<br>底部: 丸底               | 外: 口縁部～受部ヨコナデ/体部ナデ<br>内: 口縁部～受部ヨコナデ/体部ヘラナデ | 武家屋敷A群<br>N18/遺構面<br>体部スス付着   |
| 20 | 青磁<br>碗           | 口: 15.0<br>高: 5.0<br>焼: 良好<br>色: 透濃オリーブ色           | 精緻<br>1/10以下        | 口縁部: やや内湾して外方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める<br>底部: 欠損                     | 外: 蓮華陰刻花文                                  | 武家屋敷A群<br>H29/遺構面   |
| 21 | 青磁<br>碗           | 高: 3.3<br>底: 4.8<br>焼: 不良<br>色: 透濃オリーブ色            | 精緻<br>1/6           | 口縁部: 緩やかに内湾して外方へ立ち上がる<br>底部: 高台端面は平坦/端面内側で接地                | 外: 無文                                      | 武家屋敷A群<br>K25/焼土  |
| 22 | 青磁<br>碗           | 高: 2.9<br>底: 4.2<br>焼: 良好<br>色: 透灰オリーブ色            | 精緻<br>1/4           | 口縁部: 緩やかに内湾して外方へ立ち上がる<br>底部: 高台端面は鋭角                        | 外: 無文                                      | 武家屋敷A群<br>J17/遺構面<br>高台接地面軸ハゲ   |
| 23 | 青磁<br>碗           | 口: 19.0<br>高: 3.6<br>焼: 良好<br>色: 透濃オリーブ色           | 精緻<br>1/10以下        | 口縁部: 直線状に外方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める<br>底部: 欠損                       | 外: 無文                                      | 武家屋敷A群<br>M25/耕作土下  |
| 24 | 青磁<br>碗           | 口: 8.0<br>高: 2.6<br>底: 4.0<br>焼: 良好<br>色: 透オリーブ色   | 精緻<br>1/3           | 口縁部: 強く内湾して外方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める<br>底部: 高台端面はやや丸みをもつ           | 内: 底部中央に陰刻花文                               | 武家屋敷A群<br>M27・28/床土下焼土<br>外: 底面に鉄釉付着<br>内: 底面に鉄釉付着                                    |
| 25 | 青磁<br>碗           | 口: 8.2<br>高: 3.0<br>底: 4.0<br>焼: 不良<br>色: 透オリーブ色   | 精緻<br>1/6           | 口縁部: 強く内湾して外方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める<br>底部: 高台端面はやや丸みをもつ           | 内: 底部中央に陰刻花文                               | 武家屋敷A群<br>I20/II遺構面<br>外: 底部軸ハゲ   |
| 26 | 青磁<br>盤           | 口: 32.0<br>高: 6.5<br>底: 19.8<br>焼: 良好<br>色: 透オリーブ色 | 精緻<br>1/2           | 口縁部: 強く内湾して外方へ立ち上がる/口端部は肥厚し口唇部は丸く収める<br>底部: 高台端面は平坦/高台内側で接地 | 外: 体部下位に蓮華陰刻花文<br>内: 口縁部に蓮華陰刻花文            | 武家屋敷A群<br>H20/I22～27/J20～22<br>T22・25/K26<br>L20・21/L24～26<br>M20・23・25<br>N19/O25・26 |
| 27 | 青磁<br>盤           | 幅: 4.6<br>高: 3.3<br>焼: 良好<br>色: 透オリーブ色             | 精緻<br>1/10以下        | 盤の獣脚<br>底部/高台の厚さは1.5cm/高台端面は獅子の口となり平坦/高台内側で接地               | 外: 獅子陽刻                                    | 武家屋敷A群<br>O23/SA4631埋土  |
| 28 | 白磁<br>皿           | 口: 10.0<br>高: 2.0<br>焼: 良好<br>色: 白褐色               | 精緻<br>1/10以下        | 口縁部: 緩やかに内湾して外方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める                             |  | 武家屋敷A群<br>K26・27/床土下黄褐色土<br>外: 体部下位軸ハゲ  |
| 29 | 白磁<br>皿           | 口: 11.3<br>高: 2.3<br>焼: 良好<br>色: 透灰緑色              | 精緻<br>1/10以下        | 口縁部: 緩やかに内湾して外方へ立ち上がる/口唇部はシャープ                              | 内: 陰刻花文                                    | 武家屋敷A群<br>L25・26/焼土(上層)<br>鉄分が多く青色気味  |
| 30 | 白磁<br>皿           | 口: 11.8<br>高: 2.7<br>底: 6.0<br>焼: 良好<br>色: 透白色     | 精緻<br>1/6           | 口縁部: 緩やかに内湾して外方へ立ち上がる/口端部は外反する/口唇部は丸く収める<br>底部: 高台端面は断面三角   |  | 武家屋敷A群<br>I2遺構面II   |
| 31 | 白磁<br>皿           | 口: 13.4<br>高: 2.4<br>焼: 良好<br>色: 明灰白色              | 精緻<br>1/10以下        | 口縁部: 緩やかに内湾して外方へ立ち上がる/口端部は外反する/口唇部は丸く収める                    |  | 武家屋敷A群<br>B20/茶褐色土<br>C20・21/SA4632埋土   |

## 5. 遺物

単位:cm

| No | 器種      | 法量/焼成/色調   | 胎土<br>残存            | 形状   | 調整 / 文様                          | 出土地点   |  |
|----|---------|--|---------------------|--|----------------------------------|--|--|
|    |         |  |                     |  |                                  | 備考   |  |
| 32 | 白磁皿     | 口: 12.0<br>高: 2.0<br>焼: 良好<br>色: 灰白色               | 精緻<br>1/10以下        | 口縁部:外反して立ち上がる/口唇部は丸く収める  |                                  | 武家屋敷A群<br>M27・28/床土下焼土   |  |
| 33 | 白磁皿     | 高: 2.9<br>底: 7.0<br>焼: 良好<br>色: 灰白色                | 精緻<br>1/10以下        | 口縁部:内湾して外方へ立ち上がる<br>底部:高台端面平坦/端面内側で接地  |                                  | 武家屋敷A群<br>I25/灰褐色土・遺構面<br>外:高台下端軸ハゲ  |  |
| 34 | 白磁皿     | 高: 0.8<br>底: 2.0<br>焼: 良好<br>色: 透白色                | 精緻<br>1/6           | 底部:高台端面は鋭角   |                                  | 武家屋敷A群<br>C20/遺構面II<br>外:高台内側軸ハゲ<br>内:底面周縁軸ハゲ                              |  |
| 35 | 白磁皿     | 高: 2.2<br>底: 10.6<br>焼: 良好<br>色: 透白褐色              | 精緻<br>1/6           | 口縁部:直線状に外方へ立ち上がる<br>底部:平底/周縁にやや丸膨らみをもつ   | 外:底部:回転系切り痕<br>内:陽刻花文            | 武家屋敷A群<br>M25/耕作土下焼土面<br>非常に薄手のづくり   |  |
| 36 | 白磁皿     | 高: 0.8<br>底: 11.2<br>焼: 良好<br>色: 透白褐色              | 精緻<br>1/8           | 口縁部:直線状に外方へ立ち上がる<br>底部:平底  | 外:底部:回転系切り痕<br>内:陽刻花文            | 武家屋敷A群<br>M25/耕作土<br>K28/遺構面<br>107と同一個体か?                                 |  |
| 37 | 朝鮮陶器壺   | 高: 4.8<br>底: 18.0<br>焼: 良好<br>色: 暗灰緑色              | 精緻<br>須恵質<br>1/10以下 | 口縁部:直線状に外方へ立ち上がる<br>底部:平底  | 外:胴部下位回転ナデ<br>内:胴部下位回転ナデ後コビ痕     | 武家屋敷A群<br>D19/遺構面  |  |
| 38 | 染付皿     | 口: 14.6<br>高: 2.0<br>焼: 良好<br>色: 淡褐色               | 精緻<br>1/10以下        | 口縁部:内湾して外方へ立ち上がる/<br>口端部は外反し口唇部は丸く収める  | 外:口縁部に呉須唐草文染付<br>内:口縁部に呉須花文      | 武家屋敷A群<br>G22/砂利混合土<br>L20・21床土下暗褐色土                                       |  |
| 39 | 染付皿     | 口: 14.6<br>高: 1.5<br>焼: やや不良<br>色: 青白色             | 精緻<br>1/10以下        | 口縁部:内湾して外方へ立ち上がる/<br>口端部は外反し口唇部は丸く収める  | 外:口縁部に呉須唐草文染付<br>内:口縁部に呉須花文      | 武家屋敷A群<br>H22/暗茶色土<br>L20・21床土下暗褐色土  |  |
| 40 | 中国鉄釉天目碗 | 口: 12.4<br>高: 5.2<br>焼: やや不良<br>色: 黒色              | 精緻<br>1/6           | 口縁部はやや内湾して斜め外方へ立ち上がり、口縁部上位で上方へ屈曲。<br>口唇部は短く外反し丸く収める  | 外:口縁部～体部下位回転ナデ<br>内:口縁部～体部下位回転ナデ | 武家屋敷A群<br>H20/遺構面<br>体部下位鉄釉漬けがけ  |  |
| 41 | 朝鮮雑釉碗   | 高: 5.1<br>底: 5.6<br>焼: 良好<br>色: 透暗灰色               | 精緻<br>1/10以下        | 口縁部:やや内湾して外方へ立ち上がる<br>底部:高台はハの字に踏ん張る/端面平坦  | 外:口縁部～体部下位回転ナデ<br>内:口縁部～体部下位回転ナデ | 武家屋敷A群<br>F25・26/SX4695<br>G20/遺構面II                                       |  |
| 42 | 朝鮮雑釉碗   | 高: 3.0<br>底: 6.6<br>焼: 不良<br>色: 灰白色                | 精緻<br>1/8           | 底部:高台は高く、直立する/高台端面平坦/端面全体で接地   | 内:底部/回転ヘラケズリ                     | 武家屋敷A群<br>G20～23/表土<br>G20～23/耕作土下床土<br>高台端面:軸ハゲ                           |  |
| 43 | 朝鮮雑釉皿   | 高: 1.7<br>底: 4.8<br>焼: 良好<br>色: 淡茶色                | 堅緻<br>1/8           | 底部:高台は削り出し高台で低い/高台端面平坦/端面全体で接地   | 内:底部/回転ナデ                        | 武家屋敷A群<br>O24/SA4631埋土<br>外:高台軸ハゲ<br>内:底部にトチン                              |  |
| 44 | 瀬戸・美濃花瓶 | 口: 28.0<br>高: (23.2)<br>底: 10.7<br>焼: 良好<br>色: 紫茶色 | 精緻<br>1/10以下        | 口縁部:直線状に外方へのびる/口唇部は上方へツマミ出し丸く収める<br>胴部:頸部との境に凹線を施し、上位は頸部からハの字に外反する/下位は碗形を呈す<br>底部:高台端面はハの字にふん張る/端面平坦/端面全体で接地 | 外:回転ナデ/底部回転ヘラケズリ<br>内:回転ナデ       | 武家屋敷A群<br>C20/遺構面II<br>H23/砂利層/G22/砂利層<br>I22・23/床土下<br>I24/遺構面<br>G22/砂利層 |  |

武家屋敷A群遺構出土陶磁器類(PL. 24～26 第35～38図)

単位:cm

| No | 器種    | 法量/焼成/色調  | 胎土<br>残存                    | 形状                                       | 調整 / 文様  | 出土地点                    |  |
|----|-------|---|-----------------------------|--|--|-------------------------|--|
|    |       |   |                             |  |  | 備考                      |  |
| 45 | 越前焼播鉢 | 口: 34.0<br>高: 12.6<br>底: 11.0<br>焼: 不良<br>色: 淡赤茶色 | 微砂粒<br>白色粒子<br>軟質<br>1/10以下 | 口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/<br>口端部は浅く凹む/口端部内側に段をもつ | 外:口縁部～体部回転ナデ/体部最下位に縄目/底部摩擦<br>内:口縁部回転ナデ/体部下位～底部摩擦<br>内面に幅2.7cm・8条の卸目 | 武家屋敷A群<br>O24～26/SA4631 |  |
| 46 | 越前焼播鉢 | 口: 40.0<br>高: 9.0<br>焼: 不良<br>色: 黄褐色              | 極砂粒<br>白色粒子<br>軟質<br>1/10以下 | 口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/<br>口端部は平坦/口端部内側に浅い段をもつ | 外:口縁部～体部回転ナデ<br>内:口縁部～体部回転ナデ/底部摩擦<br>内面に幅2.9cm・9条の卸目                 | 武家屋敷A群<br>F19・20/SA4632 |  |

単位: cm

| No | 器種        | 法量/焼成/色調  | 胎土<br>残存                    | 形 状   | 調整 / 文様   | 出土地点<br>備 考   |
|----|-----------|---|-----------------------------|---|---|---|
| 47 | 越前焼<br>播鉢 | 口: 34.2<br>高: 12.2<br>底: 17.0<br>焼: 不良<br>色: 黄褐色      | 極砂粒<br>軟質<br>1/2            | 口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/<br>口端面は平坦/口端部内側に浅い沈線<br>をもつ   | 外:口縁部~体部回転ナデ/体部最下<br>位に縄目/底部ナデ/全体摩耗<br>内:口縁部回転ナデ<br>内面に幅2.9cm・9条の卸目/底部に<br>卸目       | 武家屋敷A群<br>B20/SA462<br>C20・21/SA4632  |
| 48 | 越前焼<br>播鉢 | 口: 34.0<br>高: 7.5<br>底: 17.4<br>焼: 良好<br>色: 赤茶色       | 極砂粒<br>白色粒子<br>軟質<br>1/10以下 | 口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/<br>口端面は平坦   | 外:口縁部~体部ヨコナデ<br>内:口縁部~体部ナデ<br>内面に幅2.5cm・10条の卸目                                      | 武家屋敷A群<br>F19・20/SA4632   |
| 49 | 越前焼<br>卸皿 | 口: 19.0<br>高: 2.0<br>底: 17.4<br>焼: 良好<br>色: 赤紫色       | 極砂粒<br>白色粒子<br>堅緻<br>1/10以下 | 口縁部:短く直線状に外方へ立ち上<br>がる/口端面は平坦   | 外:口縁部~体部回転ナデ/底部ナデ<br>内:口縁部~体部回転ナデ<br>内面に卸目  | 武家屋敷A群<br>E20/SA4632<br>武家屋敷B群<br>S24/耕作土   |
| 50 | 越前焼<br>壺  | 口: 21.7<br>高: 19.7<br>底: 27.8<br>焼: 良好<br>色: 赤橙色      | 極砂粒<br>白色粒子<br>堅緻<br>1/8    | 口縁部:口端部は短く外方へ屈曲/口<br>唇部は丸く収める/シャープなつくり<br>胴部:上位で張り、突帯が付く/下位<br>で窄まる                     | 外:口縁部~胴部ヨコナデ<br>内:口縁部~胴部指頭痕/胴部中位~<br>下位ナデ   | 武家屋敷A群<br>C20・21/SA4632<br>C20/遺構面II  |
| 51 | 土師器<br>小皿 | 口: 10.6<br>高: 2.2<br>底: 5.4<br>焼: 良好<br>色: 淡褐色        | 極砂粒<br>堅緻<br>3/4            | 口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/<br>口唇部は丸く収める/口端部外面に段<br>あり<br>底部:丸底                                   | 外:口縁部ヨコナデ/底部無調整<br>内:口縁部ヨコナデ/底部ナデ   | 武家屋敷A群<br>F19・20/SA4632   |
| 52 | 青磁<br>碗   | 口: 12.1<br>高: 2.7<br>底: 8.0<br>焼: 良好<br>色: 透オリブ色      | 精緻<br>1/10以下                | 口縁部:やや内湾して外方へ立ち上<br>がる/口唇部は丸く収める  | 外:口縁部上位に鋸歯文/鋸歯文の下<br>に縦線陰刻<br>内:無文  | 武家屋敷A群<br>E20/SA4632<br>H20/遺構面(上層)   |
| 53 | 染付<br>皿   | 口: 13.2<br>高: 3.7<br>底: 8.0<br>焼: 良好<br>色: 透青白色       | 精緻<br>1/6                   | 口縁部:内湾して外方へ立ち上がる/<br>口端部は外反し口唇部は丸く収める<br>底部:高台端面は鋭角/釉ハゲ                                 | 外:口縁部に呉須染付<br>内:口縁部に圏線/底部に2重圏線・<br>呉須染付   | 武家屋敷A群<br>L19/SA4632<br>H20/砂利層   |
| 54 | 越前焼<br>播鉢 | 口: 40.0<br>高: 14.5<br>底: 16.3<br>焼: 良好<br>色: 淡茶色      | 微砂粒<br>白色粒子<br>堅緻<br>1/2    | 口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/<br>口唇部は丸く収める/口端部内側に段<br>をもつ   | 外:口縁部~体部回転ナデ/体部最下<br>位に焼成後の紐ズレ痕/底部ナデ<br>内:口縁部回転ナデ/体部下位~底部<br>摩耗<br>内面に幅2.9cm・10条の卸目 | 武家屋敷A群<br>M20/SF4653<br>N23/SF4652<br>N23/SD4641<br>N20・21/SA1553/<br>茶褐色土<br>023・24/SA4631 |
| 55 | 土師器<br>小皿 | 口: 9.7<br>高: 2.3<br>底: 5.0<br>焼: 良好<br>色: 橙橙色         | 極砂粒<br>軟質<br>2/3            | 口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/<br>口唇部は丸く収める/口端部外面に段<br>あり<br>底部:平底                                   | 外:口縁部ヨコナデ/底部ナデ<br>内:口縁部ヨコナデ/底部ナデ  | 武家屋敷A群<br>M20/SF4653<br>内:口縁部にスス附着  |
| 56 | 灰釉<br>小皿  | 口: 4.4<br>高: 0.9<br>底: 3.0<br>焼: 良好<br>色: 浅黄緑色        | 極砂粒<br>精緻<br>1/2            | 口縁部:短く直線状に外方へ立ち上<br>がる/口唇部は丸く収める<br>底部:周縁に浅い高台をケズリ出す                                    | 外:口縁部ヨコナデ<br>内:口縁部ヨコナデ  | 武家屋敷A群<br>J19/SF4658<br>H19/SF4661  |
| 57 | 灰釉<br>小皿  | 口: 9.2<br>高: 2.3<br>底: 5.0<br>焼: 良好<br>色: 浅黄緑色        | 極砂粒<br>精緻<br>1/2            | 口縁部:緩やかに内湾して外方へ立ち<br>上がる/口端部は弱く外反する/口唇<br>部は丸く収める<br>底部:高台は弱くケズリ出す                      | 外:口縁部回転ナデ<br>内:口縁部ヨコナデ  | 武家屋敷A群<br>I19/SF4660  |
| 58 | 土師器<br>小皿 | 口: 10.7<br>高: 2.2<br>底: 5.6<br>焼: 良好<br>色: 橙褐色        | 極砂粒<br>軟質<br>1/2            | 口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/<br>口唇部は丸く収める/口端部外面に段<br>あり<br>底部:平底                                   | 外:口縁部ヨコナデ/底部無調整<br>内:口縁部ヨコナデ/底部ナデ   | 武家屋敷A群<br>T24/SS4684  |
| 59 | 土師器<br>小皿 | 口: 11.1<br>高: 2.4<br>底: 6.2<br>焼: 良好<br>色: 赤橙色        | 極砂粒<br>軟質<br>4/5            | 口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/<br>口唇部は丸く収める/口端部外面に段<br>あり<br>底部:平底                                   | 外:口縁部ヨコナデ/底部ナデ<br>内:口縁部ヨコナデ/底部ナデ  | 武家屋敷A群<br>I24/SS4684<br>外:口端部スス附着<br>内:口端部スス附着  |
| 60 | 越前焼<br>甕  | 口: 46.9<br>高: 27.0<br>最:<br>底: 65.5<br>焼: 良好<br>色: 灰色 | 極砂粒<br>白色粒子<br>精緻<br>1/4    | 口縁部:短く外反して立ち上がる/口<br>端面は浅く凹む/口縁部中央に突帯状<br>の稜線をもつ/口端部内側に段をもつ<br>/シャープなつくり<br>胴部:上位で大きく張る | 外:口縁部ヨコナデ/胴部上位ナデ<br>胴部上位に2種類1組のヘラ記号<br>内:口縁部ヨコナデ/胴部上位に成形<br>時の指頭痕2段                 | 武家屋敷A群<br>G26/SK4669北南土坑<br>024・25/SA4631埋土<br>G25・26/遺構面<br>外:胴部上位自然釉                      |

## 5. 遺物

単位:cm

| No | 器種    | 法量/焼成/色調  | 胎土<br>残存                    | 形 状  | 調整 / 文様  | 出土地点<br>備 考   |
|----|-------|---|-----------------------------|--|--|---|
| 61 | 越前焼壺  | 口: 23.0<br>高: 38.4<br>最: 42.5<br>焼: 良好<br>色: 濃茶色                    | 極砂粒<br>白色粒子<br>精緻<br>4/5    | 口縁部:短く外反して立ち上がる/口端面はやや膨らむ/口縁部中央に突帯状の稜線をもつ/口端部内側に段をもつ/シャープなつくり<br>胴部:上位で大きく張る                     | 外:口縁部ヨコナデ/胴部上位~下位ナデ<br>胴部上位に2種類1組のヘラ記号<br>内:口縁部ヨコナデ/胴部上位ヨコナデ/胴部上位~下位に成形時の指頭痕4段           | 武家屋敷A群<br>G26/SK4669北南土坑<br>024/SA4631埋土<br>M27/SE4646<br>F24・25/焼土<br>G25・26/遺構面<br>外:胴部上位自然釉            |
| 62 | 越前焼甕  | 口: 42.4<br>高: 44.1<br>最: 46.9<br>底: 18.0<br>焼: 不良<br>土師質<br>色: 淡黄褐色 | 極砂粒<br>白色粒子<br>軟質<br>4/5    | 口縁部:短く外傾して立ち上がる/口端面は平坦/口縁部中央に突帯状の段をもつ/口端部内側に段をもつ/鈍いつくり<br>胴部:上位で大きく張る/上位~底部にかけて窄まる<br>底部:平坦      | 外:口縁部ヨコナデ/胴部上位~下位ナデ/中位器面剥離多い/中位~下位ヘラナデ<br>内:口縁部ヨコナデ/胴部上位指頭痕2段/胴部上位器面剥離多い/胴部下位指頭痕1段/底部指頭痕 | 武家屋敷A群<br>G26/SK4669北南土坑<br>024~26/SA4631埋土<br>M27/SE4646<br>G25・26/焼土<br>外:胴部下位~底部使用時の被熱痕<br>内:胴部~底部スス付着 |
| 63 | 越前焼甕  | 口: 84.6<br>高: 87.4<br>最: 92.8<br>底: 29.0<br>焼: 良好<br>色: 濃茶色         | 極砂粒<br>白色粒子<br>精緻<br>1/2    | 口縁部:短く外反して立ち上がる/口端面は平坦/口縁部中央に突帯状の段をもつ/口端部内側に段をもつ/シャープなつくり<br>胴部:上位で大きく張る/上位~底部にかけて窄まる<br>底部:平坦   | 外:口縁部ヨコナデ/胴部上位~下位ナデ/胴部上位に2種類1組の押印文(本+格子文)4点以上/中位~下位指頭痕5段<br>内:口縁部ヨコナデ/胴部上位~下位指頭痕8~9段     | 武家屋敷A群<br>G26/SK4669北南土坑<br>024/SA4631埋土<br>外:胴部上位降灰/胴部下位降灰<br>内:胴部上位~底部降灰/底部自然釉                          |
| 64 | 越前焼甕  | 口: 80.0<br>高: 84.5<br>最: 91.0<br>底: 28.0<br>焼: 良好<br>色: 濃茶色         | 極砂粒<br>白色粒子<br>精緻<br>1/6    | 口縁部:短く外反して立ち上がる/口端面は平坦/口縁部上位に浅い凹線が入る/口端部内側に浅い凹線が入る/シャープなつくり<br>胴部:上位で大きく張る/上位~底部にかけて窄まる<br>底部:平坦 | 外:口縁部ヨコナデ/胴部上位~下位ナデ/胴部上位に2種類1組の押印文(本+格子文)がめぐる/中位~下位摩耗<br>内:口縁部ヨコナデ/胴部上位~下位指頭痕8~9段        | 武家屋敷A群<br>G26/SK4669北南土坑<br>024/SA4631埋土<br>G25・26遺構面<br>F26遺構面<br>外:胴部上位降灰/胴部下位降灰<br>内:胴部上位~底部降灰/底部自然釉   |
| 65 | 越前焼壺  | 口: 16.0<br>高: 42.0<br>最: 42.4<br>焼: 良好<br>色: 淡茶色                    | 極砂粒<br>白色粒子<br>精緻<br>1/8    | 口縁部:短く上方へ立ち上がる/口唇部は外方へ屈曲し丸く収める<br>胴部:扁球形を呈し中位で大きく張る  | 外:口縁部ヨコナデ/胴部上位~中位ナデ/胴部下位ハケ<br>内:口縁部ヨコナデ/胴部上位~下位指頭痕5~6段                                   | 武家屋敷A群<br>G26/SK4669北南土坑<br>G25・26遺構面<br>外:胴部上位降灰・自然釉   |
| 66 | 越前焼捏鉢 | 口: 53.4<br>高: 16.0<br>底: 21.7<br>焼: 良好<br>色: 灰茶色                    | 微砂粒<br>白色粒子<br>堅緻<br>1/2    | 口縁部:やや内湾して外方へ立ち上がる/口唇部は浅く凹む/口端部内側に段をもつ   | 外:口縁部~体部ハケ後ナデ/底部スノコ状圧痕<br>内:口縁部ナデ/体部中位~底部摩耗  | 武家屋敷A群<br>G26/SK4669北南土坑<br>023/SA4631埋土<br>G25遺構面  |
| 67 | 越前焼捏鉢 | 口: 22.8<br>高: 9.0<br>底: 10.5<br>焼: 良好<br>色: 濃茶色                     | 微砂粒<br>白色粒子<br>堅緻<br>1/8    | 口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める/口端部内側に段をもつ  | 外:口縁部~体部ヨコナデ/底部ナデ<br>内:口縁部回転ナデ/底部ナデ  | 武家屋敷A群<br>G26/SK4669北南土坑<br>外:降灰  |
| 68 | 越前焼壺  | 口: 20.6<br>高: 11.5<br>最: 30.0<br>焼: 良好<br>色: 淡茶灰色                   | 極砂粒<br>堅緻<br>1/6            | 口縁部:口端部は短く外方へ屈曲/口唇部は平坦<br>胴部:上位で張り、突帯が付く/下位で窄まる  | 外:口縁部ヨコナデ/胴部ナデ/胴部上位ヘラ記号1種<br>内:口縁部ヨコナデ/胴部上位指頭痕/胴部中位ナデ                                    | 武家屋敷A群<br>G26/SK4669北南土坑<br>G25・26遺構面(床土下焼土)  |
| 69 | 朝鮮白磁碗 | 口: 16.3<br>高: 4.4<br>焼: 良好<br>色: 暗灰色                                | 精緻<br>1/8                   | 口縁部:やや内湾して外方へ立ち上がる   | 外:口縁部~体部下位回転ナデ<br>内:口縁部~体部下位回転ナデ<br>非常に薄手のつくり  | 武家屋敷A群<br>G26/SK4669北南土坑<br>I21砂利層<br>概報No164   |
| 70 | 越前焼拵鉢 | 口: 31.0<br>高: 10.8<br>底: 11.0<br>焼: 良好<br>色: 淡茶色                    | 極砂粒<br>白色粒子<br>軟質<br>1/8    | 口縁部:やや外反して立ち上がる/口唇部はやや凹む/口端部内側に段をもつ  | 外:口縁部~体部回転ナデ後ヨコナデ/体部最下位に焼成前の縄目痕/底部ナデ<br>内:口縁部回転ナデ<br>内面に幅2.8cm・10条の卸目                    | 武家屋敷A群<br>I19/SF4660<br>J19/遺構面   |
| 71 | 越前焼拵鉢 | 口: 30.0<br>高: 10.5<br>底: 12.6<br>焼: 不良<br>色: 黄褐色                    | 極砂粒<br>白色粒子<br>軟質<br>1/10以下 | 口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/口唇部は平坦/口端部内側に段をもつ   | 外:口縁部~体部回転ナデ後ヨコナデ/体部最下位に焼成前の紐痕/底部ナデ<br>内:口縁部回転ナデ/底部摩耗<br>内面に幅2.8cm・9条の卸目                 | 武家屋敷A群<br>K25/SK4678<br>L22・24/遺構面<br>M21・22・25/遺構面<br>内:底部スス付着   |
| 72 | 染付皿   | 口: 15.0<br>高: 3.0<br>底: 8.4<br>焼: 良好<br>色: 透青白色                     | 精緻<br>1/8                   | 口縁部:内湾して外方へ立ち上がる/口端部は外反し口唇部は丸く収める  | 外:口縁部上位に呉須圏線1/高台に呉須条線2<br>内:口縁部上位に雷文/底部に渦文   | 武家屋敷A群<br>K25/SK4678<br>N21/SF4653<br>N23/暗褐色土  |



V. 第100次調査

単位: cm

| No | 器種  | 法量/焼成/色調                                       | 胎土<br>残存  | 形 状  | 調整 / 文様                                  | 出土地点<br>備 考                           |
|----|-----|--|-----------|--|--|---------------------------------------|
| 73 | 染付皿 | 口: 9.2<br>高: 2.1<br>底: 4.2<br>焼: 良好<br>色: 透青白色 | 精緻<br>1/5 | 口縁部:内湾して外方へ立ち上がる/<br>口端部は外反し口唇部は丸く収める<br>底部:高台端面は平坦/端面内側で接<br>地//釉ハゲ | 外:口縁部に呉須絵<br>内:口縁部上位に呉須圏線1/底部に<br>呉須花蓮華文 | 武家屋敷A群<br>K25/SK4678<br>L25・25粘土下黄褐色土 |

武家屋敷B群遺構出土陶磁器類(PL. 25 第37図)

単位: cm

| No | 器種            | 法量/焼成/色調  | 胎土<br>残存                 | 形 状  | 調整 / 文様   | 出土地点<br>備 考   |
|----|---------------|---|--------------------------|--|---|---|
| 74 | 越前焼<br>搦鉢     | 口: 33.6<br>高: 10.7<br>底: 10.3<br>焼: 良好<br>色: 明茶色            | 極砂粒<br>白色粒子<br>軟質<br>1/5 | 口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/<br>口唇部は丸く収める/口端部内側に段<br>をもつ                                | 外:口縁部~体部回転ナデ後ヨコナ<br>デ/底部ナデ<br>内:口縁部回転ナデ/体部下位~底部<br>摩耗<br>内面に幅2.7cm・9条の御目                          | 武家屋敷B群<br>T25/SE4649  |
| 75 | 越前焼<br>壺      | 口: 26.8<br>高: 32.3<br>最: 38.7<br>底: 23.1<br>焼: 良好<br>色: 灰色  | 極砂粒<br>白色粒子<br>精緻<br>4/5 | 口縁部:短く上方へ立ち上がる/口端面<br>は平坦<br>胴部:扁平な寸胴形/上位で大きく張る<br>底部:平坦                     | 外:口縁部~胴部下位回転ナデ<br>内:口縁部~胴部下位回転ナデ/胴部<br>上位に成形時の指頭痕1段   | 武家屋敷B群<br>P26/Q26/SK4672<br>023/SA4631<br>P25・26/焼土<br>外:胴部上位~下位自<br>然釉<br>内:胴部下位~底部自<br>然釉   |
| 76 | 越前焼<br>壺      | 口: 14.7<br>高: 35.0<br>最: 33.6<br>底: 15.0<br>焼: 良好<br>色: 灰色  | 微砂粒<br>白色粒子<br>堅緻<br>3/4 | 口縁部:短く外傾して立ち上がる/口端<br>部は外方へ屈曲/口唇部は丸く収める<br>胴部:中位で大きく張る/胴部下位で<br>窄まる<br>底部:平坦 | 外:口縁部~胴部上位ヨコナデ/胴部<br>中位~下位ナデ<br>胴部上位に2種類1組のヘラ記号/底<br>部スノコ状圧痕<br>内:口縁部ヨコナデ/胴部上位~下位<br>に成形時の指頭痕4~5段 | 武家屋敷B群<br>P26/Q26/SK4672<br>T25/SE4649<br>Q25/焼土<br>外:胴部上位降灰/胴<br>部下位ヤキムラ<br>内:胴部下位~底部自<br>然釉 |
| 77 | 染付<br>杯       | 口: 6.2<br>高: 3.6<br>底: 2.2<br>焼: 良好<br>色: 透青白色              | 精緻<br>1/2                | 口縁部:内湾して外方へ立ち上がる/<br>口端部はやや外反し口唇部は丸く収<br>める<br>底部:高台は鋭角                      | 外:口縁部に呉須絵<br>内:口縁部に呉須圏線・太湖石   | 武家屋敷B群<br>P26/Q26/SK4672<br>外:高台端面釉ハゲ   |
| 78 | 染付<br>皿       | 口: 9.8<br>高: 2.6<br>底: 5.0<br>焼: 良好<br>色: 透青白色              | 精緻<br>1/1                | 口縁部:内湾して外方へ立ち上がる/<br>口端部はやや外反し口唇部は丸く収<br>める<br>底部:高台は鋭角                      | 外:口縁部に呉須圏線・草花文/底部<br>に呉須圏線<br>内:口縁部上位に呉須圏線/底部に呉<br>須圏線/十字花文                                       | 武家屋敷B群<br>P26/Q26/SK4672<br>外:高台端面釉ハゲ   |
| 79 | 中国<br>褐釉<br>甕 | 口: 23.0<br>高: 29.7<br>最: 29.8<br>底: 16.4<br>焼: 良好<br>色: 明茶色 | 精緻<br>須恵質<br>1/2         | 口縁部:短く屈曲する/口端部は平坦<br>胴部:中位で大きく張る/胴部下位で<br>窄まる<br>底部:平坦                       | 外:口縁部~胴部上位回転ナデ/胴部<br>中位~下位ナデ/胴部下位回転ヘラ<br>ケズリ/底部ナデ<br>内:口縁部~底部回転ナデ                                 | 武家屋敷B群<br>P26/Q26/SK4672<br>Q25/焼土<br>外:胴部上位~下位自<br>然釉<br>内:胴部上位~底部自<br>然釉                    |

武家屋敷A群遺構出土陶磁器類(PL. 25・26 第38図)

単位: cm

| No | 器種           | 法量/焼成/色調   | 胎土<br>残存                 | 形 状   | 調整 / 文様   | 出土地点<br>備 考   |
|----|--------------|--|--------------------------|---|---|---|
| 80 | 瀬戸・美濃<br>四耳壺 | 口: 13.0<br>高: 26.7<br>最: 33.1<br>底: 16.4<br>焼: 良好<br>色: 淡茶色  | 極砂粒<br>精緻<br>須恵質<br>1/3  | 口縁部:短く内傾して立ち上がり口端<br>部を外方に厚くする/胴部上位に耳が<br>2つ付く<br>胴部:上位で大きく張る寸胴形  | 外:口縁部~胴部中位回転ナデ<br>内:口縁部~胴部中位回転ナデ  | 武家屋敷A群<br>K25/SK4678<br>M23/SF4652<br>022~26/SA4631埋土<br>028・29/SD4641<br>外:胴部ハケによる施釉 |
| 81 | 越前焼<br>甕     | 口: 57.3<br>高: 51.3<br>最: 59.2<br>底: 22.7<br>焼: 良好<br>色: 淡茶赤色 | 極砂粒<br>白色粒子<br>堅緻<br>4/5 | 口縁部:短く外傾して立ち上がる/口<br>端面は浅く凹む/口縁部上位に浅い凹<br>線が入る/口端部内側に浅い段をもつ<br>/シャープなつくり<br>胴部:上位で大きく張る/上位~底部<br>にかけて窄まる<br>底部:平坦 | 外:口縁部ヨコナデ/胴部上位~下位<br>ナデ/胴部上位に2種類1組のヘラ記<br>号<br>内:口縁部ヨコナデ/胴部上位~下位<br>指頭痕6段 | 武家屋敷A群<br>M28/SK4683<br>023/SA4631埋土<br>G26/SK4669<br>外:胴部中位~下位灰<br>色に変色              |
| 82 | 青磁<br>輪花皿    | 口: 20.6<br>高: 3.8<br>焼: 良好<br>色: 透オリブ色                       | 精緻<br>1/8                | 口縁部:やや内湾して外方へ立ち上<br>がる/口唇部は丸く収める/口唇部に切<br>り込み   | 外:無文<br>内:無文  | 武家屋敷A群<br>N27/SE4646  |
| 83 | 土師器<br>小皿    | 口: 6.1<br>高: 1.5<br>底: 2.6<br>焼: 良好<br>色: 橙褐色                | 極砂粒<br>軟質<br>4/5         | 口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/<br>口唇部は丸く収める<br>底部:丸底   | 外:口縁部~底部ナデ<br>内:口縁部~底部ナデ  | 武家屋敷A群<br>I26/SX4692  |

## 5. 遺物

単位:cm

| No | 器種            | 法量/焼成/色調                                      | 胎土<br>残存         | 形状  | 調整 / 文様                                       | 出土地点<br>備考                        |
|----|---------------|---|------------------|---|---|-----------------------------------|
| 84 | 土師器<br>小皿     | 口: 6.6<br>高: 1.5<br>底: 3.0<br>焼: 良好<br>色: 橙褐色 | 極砂粒<br>軟質<br>1/1 | 口縁部: やや内湾して外方へ立ち上がる/<br>口唇部は丸く収める<br>底部: 丸底                           | 外: 口縁部～底部ナデ<br>内: 口縁部～底部ナデ                    | 武家屋敷A群<br>I26/SX4692              |
| 85 | 土師器<br>小皿     | 口: 6.0<br>高: 1.3<br>底: 2.8<br>焼: 良好<br>色: 橙褐色 | 極砂粒<br>軟質<br>1/1 | 口縁部: やや内湾して外方へ立ち上がる/<br>口唇部は丸く収める<br>底部: 丸底                           | 外: 口縁部ヨコナデ/底部ナデ<br>内: 口縁部ヨコナデ/底部ナデ            | 武家屋敷A群<br>I26/SX4692              |
| 86 | 土師器<br>小皿     | 口: 6.3<br>高: 1.2<br>底: 3.6<br>焼: 良好<br>色: 橙褐色 | 極砂粒<br>軟質<br>1/1 | 口縁部: 直線状に外方へ立ち上がる/<br>口唇部は丸く収める/口端部外面に段あり<br>底部: 平底                   | 外: 口縁部ヨコナデ/底部ナデ<br>内: 口縁部ヨコナデ/底部ナデ            | 武家屋敷A群<br>I26/SX4692<br>片口状に歪む    |
| 87 | 土師器<br>小皿     | 口: 8.5<br>高: 2.1<br>底: 3.2<br>焼: 良好<br>色: 橙褐色 | 極砂粒<br>軟質<br>1/3 | 口縁部: やや内湾して外方へ立ち上がる/<br>口唇部は丸く収める/口端部外面<br>に段あり/口端部内側に端面をもつ<br>底部: 丸底 | 外: 口縁部ヨコナデ/底部ナデ/体部<br>下位に指頭痕<br>内: 口縁部ナデ/底部ナデ | 武家屋敷A群<br>I26/SX4692              |
| 88 | 土師器<br>小皿     | 口: 6.2<br>高: 1.4<br>底: 2.7<br>焼: 良好<br>色: 橙褐色 | 極砂粒<br>軟質<br>3/4 | 口縁部: 直線状に外方へ立ち上がる/<br>口唇部は上方へツマミ出す<br>底部: 丸底                          | 外: 口縁部～底部ナデ/体部下位に指<br>頭痕<br>内: 口縁部～底部ナデ       | 武家屋敷A群<br>I26/SX4692              |
| 89 | 土師器<br>小皿     | 口: 6.0<br>高: 1.4<br>底: 2.4<br>焼: 良好<br>色: 橙褐色 | 極砂粒<br>軟質<br>3/4 | 口縁部: やや内湾して外方へ立ち上がる/<br>口唇部は丸く収める<br>底部: 丸底                           | 外: 口縁部～底部ナデ/体部下位に指<br>頭痕<br>内: 口縁部～底部ナデ       | 武家屋敷A群<br>I26/SX4692              |
| 90 | 土師器<br>小皿     | 口: 6.3<br>高: 1.5<br>底: 2.6<br>焼: 良好<br>色: 橙褐色 | 極砂粒<br>軟質<br>1/1 | 口縁部: やや内湾して外方へ立ち上がる/<br>口唇部は上方へツマミ出し丸く収<br>める<br>底部: 丸底               | 外: 口縁部～底部ナデ<br>内: 口縁部～底部ナデ                    | 武家屋敷A群<br>I26/SX4692<br>外: 片口状に歪む |
| 91 | 土師器<br>小皿     | 口: 6.5<br>高: 1.4<br>底: 2.8<br>焼: 良好<br>色: 橙褐色 | 極砂粒<br>軟質<br>4/5 | 口縁部: 直線状に外方へ立ち上がる/<br>口唇部は丸く収める<br>底部: 平底                             | 外: 口縁部～底部ナデ/体部に指頭痕<br>内: 口縁部～底部ナデ             | 武家屋敷A群<br>I26/SX4692              |
| 92 | 土師器<br>小皿     | 口: 7.4<br>高: 1.8<br>底: 4.0<br>焼: 良好<br>色: 橙褐色 | 極砂粒<br>軟質<br>1/1 | 口縁部: やや内湾して外方へ立ち上がる/<br>口唇部は丸く収める<br>底部: 丸底                           | 外: 口縁部～底部ナデ/体部に指頭痕<br>内: 口縁部～底部ナデ             | 武家屋敷A群<br>I26/SX4692              |
| 93 | 朝鮮<br>白磁<br>碗 | 高: 1.8<br>底: 6.8<br>焼: 良好<br>色: 透白灰色          | 精緻<br>1/8        | 底部: 高台はハの字に踏ん張る/高台<br>端面は平坦/端面外側で接地                                   | 内: 底部/回転ナデ                                    | 武家屋敷A群<br>F26/SX4695              |
| 94 | 土師器<br>小皿     | 口: 8.9<br>高: 2.1<br>底: 4.0<br>焼: 良好<br>色: 橙褐色 | 極砂粒<br>軟質<br>3/4 | 口縁部: やや内湾して外方へ立ち上がる/<br>口唇部はツマミ出す<br>底部: 丸底                           | 外: 口縁部～底部ナデ/体部に指頭痕<br>内: 口縁部～底部ナデ             | 武家屋敷A群<br>I25/SD4644<br>歪む        |
| 95 | 土師器<br>小皿     | 口: 9.0<br>高: 1.8<br>底: 4.8<br>焼: 良好<br>色: 橙褐色 | 極砂粒<br>軟質<br>1/1 | 口縁部: 直線状に外方へ立ち上がる/<br>口端部内側に端面をもつ/口唇部は丸<br>く収める<br>底部: 平底             | 外: 口縁部～底部ナデ<br>内: 口縁部～底部ナデ                    | 武家屋敷A群<br>I25/SD4644              |
| 96 | 土師器<br>小皿     | 口: 6.2<br>高: 1.3<br>底: 2.6<br>焼: 良好<br>色: 赤褐色 | 極砂粒<br>軟質<br>4/5 | 口縁部: やや内湾して外方へ立ち上がる/<br>口唇部はツマミ出す<br>底部: 丸底                           | 外: 口縁部～底部ナデ/体部に指頭痕<br>内: 口縁部～底部ナデ             | 武家屋敷A群<br>I25/SD4644              |
| 97 | 青磁<br>盤       | 焼: 良好<br>色: 透オリブ色                             | 精緻<br>1/10以下     | 口縁部: 内湾して外方へ立ち上がる   | 外: 口縁部に陰刻花文/体部下位に凹<br>線<br>内: 無文              | 武家屋敷A群<br>N26/SD4642              |
| 98 | 青磁<br>輪花皿     | 口: 15.3<br>高: 1.8<br>焼: 良好<br>色: 透薄オリブ色       | 精緻<br>1/10以下     | 口縁部: やや内湾して外方へ立ち上がる/<br>口唇部は丸く収める/口縁部を花<br>弁状する                       | 外: 無文<br>内: 無文                                | 武家屋敷A群<br>N26/SD4642              |

V. 第100次調査

単位: cm

| No  | 器種              | 法量/焼成/色調  | 胎土<br>残存     | 形 状   | 調整 / 文様                          | 出土地点<br>備 考   |
|-----|-----------------|---|--------------|---|----------------------------------|---|
| 99  | 白磁碗             | 口: 14.0<br>高: 2.6<br>焼: 良好<br>色: 透白褐色           | 精緻<br>1/10以下 | 口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/<br>口唇部は丸く収める/口縁部中位に段をもつ               |                                  | 武家屋敷A群<br>N26/SD4642<br>N20/SA1553埋土<br>M27・28床土下焼土 |
| 100 | 白磁碗             | 口: 16.0<br>高: 3.0<br>焼: 良好<br>色: 白色             | 精緻<br>1/10以下 | 口縁部:緩やかに外反して立ち上がる/<br>口唇部は丸く収める                         |                                  | 武家屋敷A群<br>N26/SD4642                                |
| 101 | 白磁皿             | 口: 15.0<br>高: 2.4<br>焼: 良好<br>色: 透灰色            | 精緻<br>1/10以下 | 口縁部:緩やかに内湾して外方へ立ち<br>上がる/口唇部は外方へ小さく屈曲し<br>丸く収める         |                                  | 武家屋敷A群<br>N26/SD4642                                |
| 102 | 白磁皿             | 口: 15.0<br>高: 3.0<br>焼: 良好<br>色: 透灰白色           | 精緻<br>1/8    | 口縁部:緩やかに内湾して外方へ立ち<br>上がる/口端部は外反する/口唇部は<br>丸く収める         |                                  | 武家屋敷A群<br>N26/SD4642                                |
| 103 | 白磁皿             | 高: 0.8<br>底: 10.0<br>焼: 良好<br>色: 透白褐色           | 精緻<br>1/10以下 | 底部:平底/底部周縁を若干ケズリ出<br>す                                  | 内:底面にヘラガキ文                       | 武家屋敷A群<br>N26/SD4642                                |
| 104 | 白磁皿             | 焼: 良好<br>色: 透白褐色                                | 精緻<br>1/10以下 | 底部:平底   | 内:底面にヘラガキ文                       | 武家屋敷A群<br>N26/SD4642                                |
| 105 | 白磁皿             | 高: 1.9<br>底: 10.6<br>焼: 良好<br>色: 透白褐色           | 精緻<br>1/10以下 | 底部:平底   | 外:底部周縁回転糸切り痕<br>内:底面にヘラガキ文       | 武家屋敷A群<br>N26/SD4642<br>M26/焼土                      |
| 106 | 白磁皿             | 焼: 良好<br>色: 透白色                                 | 精緻<br>1/10以下 | 口縁部:緩やかに内湾して外方へ立ち<br>上がる/非常に薄手のつくり                      | 外:無文<br>内:陰刻草花文                  | 武家屋敷A群<br>N26/SD4642<br>定窯白磁                        |
| 107 | 白磁皿             | 口: 15.4<br>高: 3.0<br>底: 11.3<br>焼: 良好<br>色: 透白色 | 精緻<br>1/6    | 口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/<br>口唇部は丸く収める/口縁部中位に稜<br>をもつ<br>底部:平底  | 外:無文<br>内:底面にヘラガキ文               | 武家屋敷A群<br>N26/SD4642<br>G20/遺構面                     |
| 108 | 中国<br>鉄釉<br>天目碗 | 口: 12.8<br>高: 6.2<br>焼: 良好<br>色: 黒色             | 精緻<br>1/6    | 口縁部はやや内湾して斜め外方へ立<br>ち上がり、口縁部上位で上方へ屈曲。<br>口唇部は短く外反し丸く収める | 外:口縁部～体部下位回転ナデ<br>内:口縁部～体部下位回転ナデ | 武家屋敷A群<br>N26/SD4642<br>M25・26/焼土<br>外:体部下位釉ハゲ      |

武家屋敷B群包含層出土陶磁器類(PL. 26～28 第39～41図)

単位: cm

| No  | 器種        | 法量/焼成/色調   | 胎土<br>残存                    | 形 状  | 調整 / 文様  | 出土地点<br>備 考                                      |
|-----|-----------|--|-----------------------------|--|--|--|
| 109 | 越前焼<br>播鉢 | 口: 42.6<br>高: 8.7<br>焼: 良好<br>色: 黄褐色             | 極砂粒<br>白色粒子<br>軟質<br>1/10以下 | 口縁部:やや内湾して外方へ立ち上<br>がる/口唇部は平坦/口端部内側に段を<br>もつ                         | 外:口縁部～体部回転ナデ<br>内:口縁部回転ナデ<br>内面に幅2.8cm・9条の卸目                               | 武家屋敷B群<br>T23/遺構面<br>U22/遺構面                     |
| 110 | 越前焼<br>播鉢 | 口: 43.0<br>高: 15.5<br>底: 17.7<br>焼: 不良<br>色: 茶色  | 極砂粒<br>白色粒子<br>軟質<br>1/8    | 口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/<br>口唇部は丸く収める/口端部内側に段<br>をもつ                        | 外:口縁部～体部回転ナデ/底部に焼<br>成前の縄目痕<br>内:口縁部回転ナデ/体部下位～底部<br>摩耗<br>内面に幅2.7cm・10条の卸目 | 武家屋敷B群<br>T22/遺構面<br>U23/遺構面<br>外:胴部中位以下ナマ<br>ヤケ |
| 111 | 越前焼<br>鉢  | 口: 28.7<br>高: 17.2<br>底: 32.8<br>焼: 不良<br>色: 明茶色 | 極砂粒<br>白色粒子<br>軟質<br>1/5    | 口縁部:内湾して立ち上がる/口唇部<br>は平坦/口端部外側を上方へやツマ<br>ミ出す/鉄鉢形                     | 外:口縁部～体部回転ナデ<br>内:口縁部～体部回転ナデ   | 武家屋敷B群<br>A24/遺構面<br>外:胴部下位スス付着<br>内:胴部下位スス付着    |
| 112 | 越前焼<br>埋鉢 | 口: 23.8<br>高: 6.0<br>焼: 良好<br>色: 淡橙茶色            | 極砂粒<br>白色粒子<br>軟質<br>1/10以下 | 口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/<br>口唇部は平坦/口端部内側に段をもつ                               | 外:口縁部～体部回転ナデ<br>内:口縁部～体部回転ナデ   | 武家屋敷B群<br>B21/茶褐色土<br>B21・22/砂利層                 |
| 113 | 土師器<br>小皿 | 口: 13.9<br>高: 2.2<br>底: 7.0<br>焼: 良好<br>色: 橙褐色   | 極砂粒<br>軟質<br>1/2            | 口縁部:やや内湾して外方へ立ち上<br>がる/口端部でやや外反して屈曲/口唇<br>部は丸く収める/口端部外面に段あり<br>底部:平底 | 外:口縁部ヨコナデ/底部ナデ<br>内:口縁部～底部ヨコナデ   | 武家屋敷B群<br>B21/黄色粘土                               |

## 5. 遺物

単位: cm

| No  | 器種        | 法量/焼成/色調                                       | 胎土<br>残存         | 形状  | 調整 / 文様                                  | 出土地点<br>備考  |
|-----|-----------|--|------------------|---|--|---|
| 114 | 土師器<br>小皿 | 口: 13.8<br>高: 2.1<br>底: 6.0<br>焼: 良好<br>色: 橙褐色 | 極砂粒<br>軟質<br>1/4 | 口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/<br>口唇部は丸く収める<br>底部:平底                   | 外:口縁部ヨコナデ/底部無調整<br>内:口縁部ヨコナデ/底部ナデ<br>型作り | 武家屋敷B群<br>B21/黄色粘土                                    |
| 115 | 土師器<br>小皿 | 口: 9.2<br>高: 2.1<br>底: 4.4<br>焼: 良好<br>色: 橙褐色  | 極砂粒<br>軟質<br>1/2 | 口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/<br>口唇部は丸く収める<br>底部:平底                   | 外:口縁部ヨコナデ/底部未調整<br>内:口縁部ヨコナデ/底部ナデ<br>型作り | 武家屋敷B群<br>C19/遺構面                                     |
| 116 | 土師器<br>小皿 | 口: 7.2<br>高: 1.5<br>底: 2.8<br>焼: 良好<br>色: 橙褐色  | 極砂粒<br>軟質<br>1/1 | 口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/<br>口唇部は丸く収める<br>底部:丸底                   | 外:口縁部~底部ナデ/体部指頭痕<br>内:口縁部~底部ナデ           | 武家屋敷B群<br>A24/遺構面                                     |
| 117 | 土師器<br>小皿 | 口: 6.9<br>高: 1.6<br>底: 3.0<br>焼: 良好<br>色: 橙褐色  | 極砂粒<br>軟質<br>1/1 | 口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/<br>口端部内側はやや外方へ屈曲/口唇<br>部は丸く収める<br>底部:丸底 | 外:口縁部~底部ナデ/体部指頭痕<br>内:口縁部~底部ナデ           | 武家屋敷B群<br>A24/遺構面                                     |
| 118 | 土師器<br>小皿 | 口: 7.8<br>高: 1.4<br>底: 4.0<br>焼: 良好<br>色: 橙褐色  | 極砂粒<br>軟質<br>1/2 | 口縁部:緩やかに内湾して外方へ立ち<br>上がる/口唇部は丸く収める<br>底部:丸底               | 外:口縁部~底部ナデ<br>内:口縁部~底部ハケ                 | 武家屋敷B群<br>A22/遺構面                                     |
| 119 | 土師器<br>小皿 | 口: 7.1<br>高: 1.5<br>底: 2.6<br>焼: 良好<br>色: 赤橙色  | 極砂粒<br>軟質<br>4/5 | 口縁部:緩やかに内湾して外方へ立ち<br>上がる/口唇部は丸く収める<br>底部:丸底               | 外:口縁部~底部ナデ/体部布痕<br>内:口縁部~底部ナデ            | 武家屋敷B群<br>A24/遺構面<br>外:口端部スス附着                        |
| 120 | 土師器<br>小皿 | 口: 6.3<br>高: 1.2<br>底: 2.6<br>焼: 良好<br>色: 褐灰色  | 極砂粒<br>軟質<br>4/5 | 口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/<br>口唇部は丸く収める<br>底部:平底                   | 外:口縁部~底部ナデ<br>内:口縁部~底部ナデ                 | 武家屋敷B群<br>B21/遺構面<br>外:口端部スス附着                        |
| 121 | 土師器<br>小皿 | 口: 7.1<br>高: 1.6<br>底: 3.3<br>焼: 良好<br>色: 橙褐色  | 極砂粒<br>軟質<br>1/1 | 口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/<br>口唇部は丸く収める<br>底部:丸底                   | 外:口縁部~底部ナデ/体部指頭痕<br>内:口縁部~底部ナデ           | 武家屋敷B群<br>A24/遺構面                                     |
| 122 | 土師器<br>小皿 | 口: 6.2<br>高: 1.5<br>底: 3.1<br>焼: 良好<br>色: 黄白色  | 極砂粒<br>軟質<br>4/5 | 口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/<br>口唇部は丸く収める<br>底部:丸底                   | 外:口縁部ヨコナデ/底部無調整<br>内:口縁部ヨコナデ/底部ナデ        | 武家屋敷B群<br>T22/遺構面                                     |
| 123 | 土師器<br>小皿 | 口: 5.6<br>高: 1.6<br>底: 2.8<br>焼: 良好<br>色: 褐白色  | 極砂粒<br>軟質<br>1/1 | 口縁部:やや内湾して外方へ立ち上<br>がる/口唇部は丸く収める<br>底部:丸底                 | 外:口縁部~底部ナデ<br>内:口縁部~底部ナデ                 | 武家屋敷B群<br>A26/遺構面<br>片口状に歪む                           |
| 124 | 土師器<br>小皿 | 口: 5.8<br>高: 1.5<br>底: 3.0<br>焼: 良好<br>色: 橙褐色  | 極砂粒<br>軟質<br>3/4 | 口縁部:やや内湾して外方へ立ち上<br>がる/口唇部は丸く収める<br>底部:丸底                 | 外:口縁部~底部ナデ/体部下位に指<br>頭痕<br>内:口縁部~底部ナデ    | 武家屋敷B群<br>A21/遺構面<br>片口状に歪む                           |
| 125 | 土師器<br>小皿 | 口: 9.7<br>高: 2.0<br>底: 4.4<br>焼: 良好<br>色: 橙褐色  | 極砂粒<br>軟質<br>4/5 | 口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/<br>口唇部は丸く収める<br>底部:平底                   | 外:口縁部~底部ナデ<br>内:口縁部~底部ナデ                 | 武家屋敷B群<br>A22/遺構面<br>片口状に歪む<br>外:口端部スス附着<br>内:口端部スス附着 |
| 126 | 土師器<br>小皿 | 口: 10.7<br>高: 2.3<br>底: 5.5<br>焼: 良好<br>色: 橙褐色 | 極砂粒<br>堅緻<br>4/5 | 口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/<br>口唇部は丸く収める/口端部外面に段<br>あり<br>底部:平底     | 外:口縁部ヨコナデ/底部ナデ<br>内:口縁部ヨコナデ/底部ナデ         | 武家屋敷B群<br>B27/遺構面<br>外:口端部スス附着<br>内:口端部スス附着           |
| 127 | 土師器<br>小皿 | 口: 10.2<br>高: 2.5<br>底: 4.2<br>焼: 良好<br>色: 橙褐色 | 極砂粒<br>軟質<br>4/5 | 口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/<br>口唇部は丸く収める<br>底部:平底                   | 外:口縁部ヨコナデ/底部ナデ<br>内:口縁部~底部ヨコナデ           | 武家屋敷B群<br>V25/遺構面<br>外:口端部スス附着<br>内:口端部スス附着           |

V. 第100次調査

単位:cm

| No  | 器種        | 法量/焼成/色調                                       | 胎土<br>残存         | 形 状   | 調整 / 文様                                    | 出土地点<br>備 考                                  |
|-----|-----------|--|------------------|---|--|--|
| 128 | 土師器<br>小皿 | 口: 9.0<br>高: 2.1<br>底: 4.5<br>焼: 良好<br>色: 橙褐色  | 極砂粒<br>軟質<br>1/1 | 口縁部:緩やかに外反して立ち上がる/<br>口唇部は丸く収める<br>底部:平底                            | 外:口縁部ヨコナデ/底部ナデ<br>内:口縁部ヨコナデ/底部ナデ           | 武家屋敷B群<br>Q24/遺構面<br>全体歪みあり                  |
| 129 | 土師器<br>小皿 | 口: 9.3<br>高: 2.0<br>底: 4.1<br>焼: 良好<br>色: 白褐色  | 極砂粒<br>軟質<br>3/4 | 口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/<br>口唇部は丸く収める<br>底部:平底                             | 外:口縁部ヨコナデ/底部無調整<br>内:口縁部ヨコナデ/底部ナデ<br>型作り   | 武家屋敷B群<br>C19/遺構面<br>外:口縁部スス付着<br>内:口縁部スス付着  |
| 130 | 土師器<br>小皿 | 口: 9.4<br>高: 2.1<br>底: 4.2<br>焼: 良好<br>色: 橙褐色  | 極砂粒<br>軟質<br>2/3 | 口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/<br>口唇部はやや外反する/口唇部は丸く<br>収める<br>底部:平底              | 外:口縁部～底部ナデ<br>内:口縁部～底部ナデ                   | 武家屋敷B群<br>E22/灰茶色土<br>外:口縁部スス付着<br>内:口縁部スス付着 |
| 131 | 土師器<br>小皿 | 口: 11.0<br>高: 2.4<br>底: 5.2<br>焼: 良好<br>色: 橙褐色 | 極砂粒<br>軟質<br>1/1 | 口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/<br>口唇部は丸く収める/口端外面に凹面<br>をもつ<br>底部:平底/中央凹む         | 外:口縁部～底部ナデ<br>内:口縁部～底部ナデ                   | 武家屋敷B群<br>B27/遺構面<br>外:口縁部スス付着<br>内:口縁部スス付着  |
| 132 | 土師器<br>小皿 | 口: 10.9<br>高: 2.5<br>底: 5.0<br>焼: 良好<br>色: 橙褐色 | 極砂粒<br>軟質<br>4/5 | 口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/<br>口唇部は丸く収める<br>底部:平底/中央凹む                        | 外:口縁部～底部ナデ<br>内:口縁部～底部ナデ                   | 武家屋敷B群<br>B27/遺構面<br>外:口縁部スス付着<br>内:口縁部スス付着  |
| 133 | 土師器<br>小皿 | 口: 11.0<br>高: 2.4<br>底: 5.0<br>焼: 良好<br>色: 橙褐色 | 極砂粒<br>軟質<br>1/1 | 口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/<br>口唇部は丸く収める<br>底部:平底/中央凹む                        | 外:口縁部ヨコナデ/底部ナデ<br>内:口縁部ヨコナデ/底部ナデ           | 武家屋敷B群<br>B27/遺構面<br>外:口縁部スス付着<br>内:口縁部スス付着  |
| 134 | 土師器<br>小皿 | 口: 8.8<br>高: 1.9<br>底: 4.9<br>焼: 良好<br>色: 橙褐色  | 極砂粒<br>軟質<br>1/1 | 口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/<br>口唇部は丸く収める<br>底部:平底                             | 外:口縁部～底部ナデ<br>内:口縁部～底部ナデ                   | 武家屋敷B群<br>S22/遺構面<br>外:口縁部スス付着               |
| 135 | 土師器<br>小皿 | 口: 7.4<br>高: 1.7<br>底: 3.4<br>焼: 良好<br>色: 橙褐色  | 極砂粒<br>軟質<br>1/1 | 口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/<br>口唇部は丸く収める<br>底部:平底                             | 外:口縁部ヨコナデ/底部ナデ<br>内:口縁部ヨコナデ/底部ナデ           | 武家屋敷B群<br>B27/遺構面<br>外:口縁部スス付着<br>内:口縁部スス付着  |
| 136 | 土師器<br>小皿 | 口: 11.2<br>高: 2.4<br>底: 5.6<br>焼: 良好<br>色: 橙褐色 | 極砂粒<br>軟質<br>2/3 | 口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/<br>口唇部は上方へツマミ出し丸く収め<br>る<br>底部:平底/中央やや凹む          | 外:口縁部ヨコナデ/底部ナデ<br>内:口縁部ヨコナデ/底部ナデ           | 武家屋敷B群<br>V25/遺構面<br>外:口縁部スス付着<br>内:口縁部スス付着  |
| 137 | 土師器<br>小皿 | 口: 10.7<br>高: 2.4<br>底: 5.4<br>焼: 良好<br>色: 橙褐色 | 極砂粒<br>軟質<br>1/1 | 口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/<br>口唇部は上方へツマミ出し丸く収め<br>る<br>底部:平底                 | 外:口縁部ヨコナデ/底部ナデ<br>内:口縁部～底部ヨコナデ             | 武家屋敷B群<br>I23/遺構面<br>外:口縁部スス付着<br>内:口縁部スス付着  |
| 138 | 土師器<br>小皿 | 口: 11.0<br>高: 2.4<br>底: 4.3<br>焼: 良好<br>色: 橙褐色 | 極砂粒<br>軟質<br>2/3 | 口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/<br>口唇部は上方へツマミ出し丸く収める<br>底部:丸底                     | 外:口縁部～底部ナデ/体部に指頭痕<br>内:口縁部ナデ/底部ハケ          | 武家屋敷B群<br>E22/灰茶色土<br>外:口縁部スス付着<br>内:口縁部スス付着 |
| 139 | 土師器<br>小皿 | 口: 10.9<br>高: 2.2<br>底: 5.4<br>焼: 良好<br>色: 橙褐色 | 極砂粒<br>軟質<br>1/1 | 口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/<br>口唇部で外傾する/口唇部は上方へツ<br>マミ出し丸く収める<br>底部:平底/底部やや凹む | 外:口縁部～底部ナデ<br>内:口縁部ヨコナデ/底部ナデ               | 武家屋敷B群<br>V25/遺構面<br>外:口縁部スス付着<br>内:口縁部スス付着  |
| 140 | 土師器<br>小皿 | 口: 10.1<br>高: 2.4<br>底: 5.8<br>焼: 良好<br>色: 橙褐色 | 極砂粒<br>堅緻<br>4/5 | 口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/<br>口唇部で外傾する/口唇部は上方へツ<br>マミ出し丸く収める<br>底部:平底/底部やや凹む | 外:口縁部ヨコナデ/底部ナデ/体部<br>指頭痕<br>内:口縁部ヨコナデ/底部ナデ | 武家屋敷B群<br>A? /遺構面<br>外:口縁部スス付着<br>内:口縁部スス付着  |
| 141 | 土師器<br>小皿 | 口: 8.6<br>高: 1.9<br>底: 4.4<br>焼: 良好<br>色: 淡橙褐色 | 極砂粒<br>軟質<br>1/3 | 口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/<br>口唇部は上方へツマミ出し丸く収め<br>る<br>底部:丸底                 | 外:口縁部ヨコナデ/底部ナデ/体部<br>指頭痕<br>内:口縁部ヨコナデ/底部ナデ | 武家屋敷B群<br>V25/遺構面<br>外:口縁部スス付着<br>内:口縁部スス付着  |

## 5. 遺物

単位: cm

| No  | 器種                | 法量/焼成/色調                                       | 胎土<br>残存         | 形 状   | 調整 / 文様                                  | 出土地点<br>備 考   |
|-----|-------------------|--|------------------|---|--|---|
| 142 | 土師器<br>小皿         | 口: 8.7<br>高: 2.0<br>底: 3.2<br>焼: 良好<br>色: 淡橙褐色 | 極砂粒<br>軟質<br>1/1 | 口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/<br>口唇部は上方へツマミ出し丸く収める<br>底部:丸底                           | 外:口縁部ヨコナデ/底部摩耗<br>内:口縁部ヨコナデ/底部ナデ         | 武家屋敷B群<br>E26/遺構面<br>E26/SA4633埋土<br>外:口端部スス付着<br>内:口端部スス付着 |
| 143 | 土師器<br>小皿         | 口: 9.7<br>高: 2.0<br>底: 4.4<br>焼: 良好<br>色: 橙褐色  | 極砂粒<br>軟質<br>4/5 | 口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/<br>口唇部は上方へツマミ出し丸く収める<br>底部:丸底                           | 外:口縁部～底部ナデ<br>内:口縁部～底部ナデ                 | 武家屋敷B群<br>A22/遺構面<br>外:口端部スス付着<br>内:口端部スス付着                 |
| 144 | 土師器<br>小皿         | 口: 8.5<br>高: 2.2<br>底: 4.4<br>焼: 良好<br>色: 橙褐色  | 極砂粒<br>軟質<br>1/1 | 口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/<br>口端部で外傾する/口唇部は上方へツ<br>マミ出し丸く収める<br>底部:平底              | 外:口縁部～底部ナデ<br>内:口縁部～底部ナデ                 | 武家屋敷B群<br>A22/遺構面<br>片口状に歪む<br>外:口端部スス付着<br>内:口端部スス付着       |
| 145 | 土師器<br>小皿         | 口: 9.2<br>高: 1.9<br>底: 4.4<br>焼: 良好<br>色: 橙褐色  | 極砂粒<br>軟質<br>1/2 | 口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/<br>口端部で外傾する/口唇部は上方へツ<br>マミ出し丸く収める<br>底部:丸底              | 外:口縁部ヨコナデ/底部ナデ<br>内:口縁部ヨコナデ/底部ナデ         | 武家屋敷B群<br>U24/遺構面<br>外:口端部スス付着<br>内:口端部スス付着                 |
| 146 | 土師器<br>小皿         | 口: 8.8<br>高: 1.7<br>底: 5.0<br>焼: 良好<br>色: 白褐色  | 極砂粒<br>軟質<br>1/1 | 口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/<br>口端部で外傾する/口唇部は上方へツ<br>マミ出し丸く収める<br>底部:平底              | 外:口縁部～底部ナデ<br>内:口縁部～底部ナデ                 | 武家屋敷B群<br>Q25/遺構面<br>片口状に歪む                                 |
| 147 | 土師器<br>小皿         | 口: 8.2<br>高: 2.0<br>底: 3.9<br>焼: 良好<br>色: 淡茶色  | 極砂粒<br>軟質<br>1/1 | 口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/<br>口端部でやや外傾する/口唇部は斜め<br>外方へツマミ出し丸く収める<br>底部:丸底          | 外:口縁部ヨコナデ/底部無調整<br>内:口縁部ヨコナデ/底部ナデ<br>型作り | 武家屋敷B群<br>Q25/遺構面<br>外:体部スス付着<br>内:体部スス付着                   |
| 148 | 土師器<br>小皿         | 口: 8.5<br>高: 2.1<br>底: 2.7<br>焼: 良好<br>色: 淡茶色  | 極砂粒<br>軟質<br>1/1 | 口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/<br>口唇部は口端部上端を上方へツマミ<br>出し丸く収める<br>底部:丸底                 | 外:口縁部ヨコナデ/底部無調整<br>内:口縁部ヨコナデ/底部ナデ<br>型作り | 武家屋敷B群<br>C19/遺構面<br>外:口縁部一部スス付<br>着                        |
| 149 | 土師器<br>小皿         | 口: 6.1<br>高: 1.4<br>底: 2.4<br>焼: 良好<br>色: 淡橙白色 | 極砂粒<br>軟質<br>2/3 | 口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/<br>口唇部は上方へツマミ出し丸く収め<br>る<br>底部:丸底                       | 外:口縁部～底部ナデ<br>内:口縁部～底部ナデ                 | 武家屋敷B群<br>E24/遺構面<br>片口状に歪む<br>外:口縁部一部スス付<br>着              |
| 150 | 土師器<br>小皿         | 口: 6.2<br>高: 1.5<br>底: 3.0<br>焼: 不良<br>色: 白褐色  | 極砂粒<br>軟質<br>4/5 | 口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/<br>口端部でやや外傾する/口唇部は上方<br>へツマミ出し丸く収める<br>底部:丸底            | 外:口縁部～底部ナデ<br>内:口縁部～底部ナデ                 | 武家屋敷B群<br>R25/遺構面<br>外:口縁部スス付着<br>内:口縁部スス付着                 |
| 151 | 土師器<br>耳皿         | 長: 4.3<br>幅: 3.9<br>高: 1.4<br>焼: 良好<br>色: 白褐色  | 極砂粒<br>軟質<br>1/5 | 口縁部:左右口縁部を内側に曲げる/<br>口唇部は丸く収める<br>底部:平坦                                   | 外:口縁部～底部ナデ<br>内:口縁部～底部ナデ                 | 武家屋敷B群<br>B21/黄色粘土  |
| 152 | 土師器<br>短頸壺        | 口: 7.6<br>高: 3.0<br>最: 8.4<br>焼: 良好<br>色: 淡褐色  | 極砂粒<br>軟質<br>1/8 | 口縁部:短く外反して立ち上がる/口<br>唇部は丸く収める<br>胴部:扁球形/胴部中位で張る                           | 外:口縁部～底部ナデ<br>内:口縁部～底部ナデ                 | 武家屋敷B群<br>A24/黄色粘土  |
| 153 | 瀬戸美濃<br>鉄釉<br>天目碗 | 口: 10.7<br>高: 6.9<br>底: 4.4<br>焼: 良好<br>色: 黒色  | 極砂粒<br>堅緻<br>1/3 | 口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上が<br>り、口縁部上位でやや上方へ屈曲。<br>口唇部は短く外傾し丸く収める<br>底部:削り出し高台      | 外:口縁部～体部下位回転ナデ<br>内:口縁部～体部下位回転ナデ         | 武家屋敷B群<br>表土<br>武家屋敷C群<br>表土<br>外:体部下位釉ハゲ                   |
| 154 | 瀬戸美濃<br>鉄釉<br>天目碗 | 口: 11.4<br>高: 5.0<br>焼: 良好<br>色: 黒色            | 極砂粒<br>堅緻<br>1/5 | 口縁部は直線状に斜め外方へ立ち上<br>がり、口縁部上位でやや上方へ屈曲。<br>口唇部は短く外傾し丸く収める                   | 外:口縁部～体部下位回転ナデ<br>内:口縁部～体部下位回転ナデ         | 武家屋敷B群<br>Q25/焼土<br>外:口縁部褐釉/体部<br>下位釉ハゲ                     |
| 155 | 瀬戸美濃<br>鉄釉<br>天目碗 | 口: 12.2<br>高: 7.0<br>底: 4.8<br>焼: 不良<br>色: 白褐色 | 極砂粒<br>軟質<br>3/4 | 口縁部は緩やかに内湾して斜め外方<br>へ立ち上がり、口縁部上位でやや上<br>方へ屈曲。口唇部は短く外傾し丸く<br>収める/底部:削り出し高台 | 外:口縁部～体部下位回転ナデ<br>内:口縁部～体部下位回転ナデ         | 武家屋敷B群<br>表土<br>外:体部下位銹釉                                    |

単位: cm

| No  | 器種                | 法量/焼成/色調  | 胎土<br>残存         | 形 状  | 調整 / 文様                                 | 出土地点<br>備 考   |
|-----|-------------------|---|------------------|--|---|---|
| 156 | 瀬戸美濃<br>鉄釉<br>天目碗 | 口: 12.2<br>高: 3.2<br>焼: 良好<br>色: 黒色                     | 堅緻<br>1/3        | 口縁部: やや内湾して外方へ立ち上がり、口縁部上位でやや上方へ屈曲。口唇部は短く外傾し丸く収める                       | 外: 口縁部～体部下位回転ナデ<br>内: 口縁部～体部下位回転ナデ      | 武家屋敷B群<br>B24表土                                     |
| 157 | 瀬戸美濃<br>鉄釉<br>天目碗 | 口: 12.6<br>高: 5.7<br>焼: 良好<br>色: 黒色                     | 極砂粒<br>堅緻<br>1/8 | 口縁部は直線状に斜め外方へ立ち上がり、口縁部上位でやや上方へ屈曲。口唇部は短く外傾し丸く収める                        | 外: 口縁部～体部下位回転ナデ<br>内: 口縁部～体部下位回転ナデ      | 武家屋敷B群<br>U23/表土<br>外: 体部下位釉ハゲ                      |
| 158 | 瀬戸美濃<br>鉄釉<br>天目碗 | 口: 11.6<br>高: 5.0<br>焼: 良好<br>色: 褐灰色                    | 極砂粒<br>堅緻<br>1/8 | 口縁部は直線状に斜め外方へ立ち上がり、口縁部上位で上方へ屈曲。口唇部は短く外傾し丸く収める                          | 外: 口縁部～体部下位回転ナデ<br>内: 口縁部～体部下位回転ナデ      | 武家屋敷B群<br>B20/茶褐色土<br>外: 体部下位釉ハゲ<br>褐釉発色悪し          |
| 159 | 瀬戸美濃<br>鉄釉<br>天目碗 | 口: 11.8<br>高: 5.8<br>焼: 良好<br>色: 黒色                     | 極砂粒<br>精緻<br>1/8 | 口縁部: やや内湾して外方へ立ち上がり、口端部で外傾する/口唇部は丸く収める                                 | 外: 口縁部～体部下位回転ナデ<br>内: 口縁部～体部下位回転ナデ      | 武家屋敷B群<br>V25/遺構面<br>外: 体部下位錆釉                      |
| 160 | 瀬戸美濃<br>鉄釉<br>水滴  | 口: 2.6<br>高: 2.6<br>最: 5.6<br>底: 3.8<br>焼: 良好<br>色: 黒茶色 | 極砂粒<br>精緻<br>4/5 | 口縁部: 短く直線状に外方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める<br>胴部: 扁球形/中で大きく張る径0.4cmの注口が付く<br>底部: 平底 | 外: 口縁部～体部回転ナデ/底部回転系切り痕<br>内: 口縁部～体部回転ナデ | 武家屋敷B群<br>表土  |
| 161 | 瀬戸美濃<br>鉄釉<br>水瓶  | 高: 7.0<br>最: 8.0<br>底: 4.0<br>焼: 良好<br>色: こげ茶色          | 極砂粒<br>精緻<br>1/4 | 胴部: 胴部下位で最大径をもつ/内傾して立ち上がる<br>底部: 平底                                    | 外: 胴部回転ナデ<br>内: 胴部回転ナデ                  | 武家屋敷B群<br>A21/表土<br>U21/表土<br>T23/表土<br>外: 胴部下位まで褐釉 |
| 162 | 灰釉<br>碗           | 口: 12.0<br>高: 4.9<br>焼: 良好<br>色: 透浅黄色                   | 精緻<br>1/8        | 口縁部: 緩やかに内湾して外方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める  | 外: 口縁部回転ナデ<br>内: 口縁部回転ナデ                | 武家屋敷B群<br>A25/表土                                    |
| 163 | 灰釉<br>小皿          | 口: 8.8<br>高: 2.5<br>底: 4.8<br>焼: 良好<br>色: 透薄緑色          | 精緻<br>2/3        | 口縁部: 緩やかに内湾して外方へ立ち上がる/口端部は弱く外反する/口唇部は丸く収める<br>底部: 削り出し高台               | 外: 口縁部回転ナデ/底部トチン痕<br>内: 口縁部回転ナデ/底部中央に梅文 | 武家屋敷B群<br>I19/暗褐色土<br>外: 底部中央釉ハゲ                    |
| 164 | 灰釉<br>小皿          | 口: 9.2<br>高: 2.4<br>底: 4.8<br>焼: 良好<br>色: 透灰緑色          | 精緻<br>1/2        | 口縁部: 緩やかに内湾して外方へ立ち上がる/口端部は弱く外反する/口唇部は丸く収める<br>底部: 削り出し高台               | 外: 口縁部回転ナデ/底部トチン痕<br>内: 口縁部回転ナデ/底部中央に梅文 | 武家屋敷B群<br>S23/遺構面<br>T23/SE4649                     |
| 165 | 灰釉<br>香炉          | 高: 3.5<br>底: 6.0<br>焼: 良好<br>色: 透オリブ色                   | 精緻<br>1/6        | 胴部: 胴部下位は直線状に斜め外方へ立ち上がる/胴部中位から上方へ立ち上がる<br>底部: C字形の獣脚4脚(推定)             | 外: 胴部回転ナデ<br>内: 胴部回転ナデ                  | 武家屋敷B群<br>C20/遺構面II<br>B21・22/砂利層                   |
| 166 | 青磁<br>碗           | 口: 11.0<br>高: 4.4<br>焼: 良好<br>色: 透オリブ色                  | 精緻<br>1/6        | 口縁部: やや内湾して外方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める  | 外: 暗文                                   | 武家屋敷B群<br>A24/遺構面                                   |
| 167 | 青磁<br>碗           | 口: 14.0<br>高: 5.4<br>焼: 良好<br>色: 透オリブ色                  | 精緻<br>1/10以下     | 口縁部: 緩やかに内湾して外方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める  | 外: 暗文                                   | 武家屋敷B群<br>R24/遺構面                                   |
| 168 | 青磁<br>碗           | 口: 14.8<br>高: 3.7<br>焼: 良好<br>色: 透オリブ色                  | 精緻<br>1/10以下     | 口縁部: 緩やかに内湾して外方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める  | 外: 暗文                                   | 武家屋敷B群<br>Q24/茶褐色土                                  |
| 169 | 青磁<br>碗           | 口: 14.0<br>高: 6.3<br>焼: 良好<br>色: 透オリブ色                  | 精緻<br>1/10以下     | 口縁部: 内湾して外上方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める   |   | 武家屋敷B群<br>T22/遺構面<br>外: 口縁部下位に溶着痕                   |
| 170 | 青磁<br>碗           | 焼: 良好<br>色: 透暗オリブ色                                      | 精緻<br>1/10以下     | 口縁部: 内湾して外上方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める   |   | 武家屋敷B群<br>B21/黄色粘土                                  |
| 171 | 青磁<br>碗           | 焼: 良好<br>色: 透暗オリブ色                                      | 精緻<br>1/10以下     | 口縁部: 内湾して外上方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める   |   | 武家屋敷B群<br>B21/黄色粘土                                  |
| 172 | 青磁<br>碗           | 高: 2.8<br>底: 6.0<br>焼: 良好<br>色: 透オリブ灰色                  | 精緻<br>1/8        | 底部: 高台端面は面取り/高台内側で接地   | 内: 底部中央に陰刻「禮」                           | 武家屋敷B群<br>B21/黄色粘土(下層)                              |

## 5. 遺物

単位: cm

| No  | 器種             | 法量/焼成/色調  | 胎土<br>残存     | 形状  | 調整 / 文様   | 出土地点<br>備考   |
|-----|----------------|---|--------------|---|---|--|
| 173 | 青磁碗            | 高: 2.8<br>底: 4.6<br>焼: 良好<br>色: 透オリブ色                       | 精緻<br>1/8    | 口縁部:内湾して外方へ立ち上がる/<br>底部:高台端面は平坦/高台内側で接<br>地   | 外:体部下位暗文  | 武家屋敷B群<br>C24・25/砂利層(下層)                               |
| 174 | 青磁碗            | 口: 16.2<br>高: 7.7<br>底: 6.2<br>焼: 良好<br>色: 透オリブ色            | 精緻<br>2/3    | 口縁部:強く内湾して外方へ立ち上<br>がる/口端部で外方に屈曲/口唇部は丸<br>く収める<br>底部:高台端面はやや丸みをもつ                         | 内:底部中央に陰刻圏線・花文  | 武家屋敷B群<br>A22・24/遺構面<br>外:底部周縁釉ハゲ                      |
| 175 | 青磁<br>輪花皿      | 口: 11.0<br>高: 2.0<br>焼: 良好<br>色: 透薄オリブ色                     | 精緻<br>1/10以下 | 口縁部:やや内湾して外方へ立ち上<br>がる/口唇部は丸く収め、緩い波状に成<br>形し花弁状する/外面に凸面、内面に<br>凹面の膨らみをもつ                  | 外:無文<br>内:無文  | 武家屋敷B群<br>A21/遺構面Ⅱ<br>V23/遺構面Ⅱ<br>U23/遺構面Ⅱ             |
| 176 | 青磁<br>輪花皿      | 口: 11.4<br>高: 2.7<br>底: 5.4<br>焼: 良好<br>色: 透オリブ色            | 精緻<br>1/2    | 口縁部:内湾して外方へ立ち上がる/<br>口唇部は丸く収め、緩い波状に成<br>形し花弁状する/外面に凸面、内面に<br>凹面の膨らみをもつ<br>底部:高台端面はやや丸みをもつ | 内:底部中央に陰刻花文   | 武家屋敷B群<br>C23/SX4697直上<br>C23・24/SB4635直上<br>外:底部周縁釉ハゲ |
| 177 | 青磁<br>輪花皿      | 口: 12.0<br>高: 2.5<br>底: 5.8<br>焼: 良好<br>色: 透オリブ灰色           | 精緻<br>1/2    | 口縁部:やや外反して立ち上がる/口<br>唇部に凹みをめぐらし花弁状する<br>底部:高台端面は面取り                                       | 内:底部中央に陰刻花文   | 武家屋敷B群<br>A22/遺構面<br>A25/遺構面                           |
| 178 | 青磁<br>輪花皿      | 口: 10.6<br>高: 2.7<br>底: 5.0<br>焼: 良好<br>色: 透オリブ灰色           | 精緻<br>1/2    | 口縁部:やや外反して立ち上がる/口<br>唇部に凹みをめぐらし花弁状する<br>底部:高台端面は平坦/端面全体で接<br>地                            | 内:口縁部に陰刻花文  | 武家屋敷B群<br>Q26/遺構面<br>外:底部釉ハゲ                           |
| 179 | 青磁<br>輪花皿      | 口: 10.0<br>高: 2.0<br>底: 5.2<br>焼: 良好<br>色: 透オリブ色            | 精緻<br>1/6    | 口縁部:やや内湾して立ち上がる/口<br>端部で外方に屈曲/口唇部に凹みをめ<br>ぐらし花弁状する<br>底部:高台端面は丸みをもつ                       | 内:口縁部に陰刻蔓草花文  | 武家屋敷B群<br>V21/耕作土<br>R22/耕作土<br>外:底部周縁釉ハゲ              |
| 180 | 青磁<br>皿        | 高: 1.7<br>底: 4.8<br>焼: 良好<br>色: 透オリブ色                       | 精緻<br>1/4    | 底部:高台端面は平坦  |   | 武家屋敷B群<br>B21/黄色粘土(下層)<br>外:底部釉ハゲ<br>概報No152           |
| 181 | 青磁<br>輪花皿      | 口: 12.8<br>高: 2.7<br>底: 6.8<br>焼: 良好<br>色: 透薄オリブ<br>灰色      | 精緻<br>1/10以下 | 口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/<br>口唇部に凹み入れ花弁状する<br>底部:高台端面は鋭角  |   | 武家屋敷B群<br>T23/遺構面<br>外:高台端面釉ハゲ<br>概報No103              |
| 182 | 青磁<br>皿        | 高: 2.4<br>底: 10.0<br>焼: 良好<br>色: 透オリブ色                      | 精緻<br>1/6    | 口縁部:強く内湾して外方へ立ち上<br>がる<br>底部:高台端面はやや丸みをもつ   | 内:底部中央に陰刻花文   | 武家屋敷B群<br>P24/耕作土<br>T22/遺構面<br>T23/遺構面Ⅱ<br>外:高台端面釉ハゲ  |
| 183 | 青磁<br>鉄斑文<br>瓶 | 口: 3.1<br>高: 29.8<br>最: 14.6<br>底: 8.6<br>焼: 良好<br>色: 透オリブ色 | 精緻<br>1/4    | 口縁部:短く上方へ立ち上がる/口<br>縁部下で壺状に膨らむ/頸部中央に鈍い<br>突帯をもつ<br>胴部:涙滴形/胴部下位に鈍い凹線2条<br>底部:高台端面は面取り      | 外:鉄釉が斑に施される   | 武家屋敷B群<br>P25/焼土<br>Q25/焼土<br>S23/耕作土<br>外:高台端面釉ハゲ     |
| 184 | 青磁<br>香炉       | 口: 12.0<br>高: 3.2<br>焼: 良好<br>色: 透オリブ色                      | 精緻<br>1/10以下 | 口縁部:桶形/直線状に立ち上がる/口<br>端面は浅く凹む/口端部内側突出   | 外:口縁部上位に条線1/口縁部下位<br>に条線2   | 武家屋敷B群<br>A21/遺構面(上層)<br>概報No112                       |
| 185 | 青磁<br>花入       | 口: 6.8<br>高: (15.0)<br>底: 6.4<br>焼: 良好<br>色: 透緑青色           | 精緻<br>1/10以下 | 口縁部:上方へ垂直に立ち上がる<br>胴部:円筒形<br>底部:底部は1.5cm上げ底/高台端面は<br>丸く収める                                | 外:口縁部にベンガラ  | 武家屋敷B群<br>S23/遺構面<br>U21/耕作土<br>外:口唇部、高台端面<br>釉ハゲ      |
| 186 | 染付<br>杯        | 口: 6.2<br>高: 3.6<br>底: 2.0<br>焼: 良好<br>色: 透青白色              | 精緻<br>1/2    | 口縁部:直線状に外傾して立ち上がる<br>/口端部はやや外反し口唇部は丸く収<br>める<br>底部:高台は鋭角                                  | 外:口縁部上位に圏線1、呉須花文/<br>高台に圏線1<br>内:口縁部に呉須圏線/底部中央に太<br>湖石            | 武家屋敷B群<br>P24/茶褐色土<br>P25/遺構面<br>Q25/焼土<br>外:高台端面釉ハゲ   |
| 187 | 染付<br>杯        | 口: 6.4<br>高: 3.5<br>底: 2.4<br>焼: 良好<br>色: 淡青白色              | 精緻<br>1/2    | 口縁部:直線状に外傾して立ち上がる<br>/口端部はやや外反し口唇部は丸く収<br>める/非常に薄手<br>底部:高台は鋭角                            | 外:口縁部上位に圏線1、呉須草花文<br>/高台に圏線2/底部中央に「福」<br>内:口縁部に呉須圏線1/底部中央に<br>太湖石 | 武家屋敷B群<br>P24/茶褐色土<br>P25/焼土<br>外:高台端面釉ハゲ              |



単位:cm

| No  | 器種  | 法量/焼成/色調  | 胎土<br>残存     | 形 状  | 調整 / 文様   | 出土地点<br>備 考                             |
|-----|-----|---|--------------|--|---|---|
| 188 | 染付杯 | 口: 12.6<br>高: 3.4<br>底: 2.4<br>焼: 良好<br>色: 透青白色 | 精緻<br>1/2    | 口縁部:直線状に外傾して立ち上がる/<br>口端部はやや外反し口唇部は丸く収める/<br>非常に薄手<br>底部:高台は鋭角 | 外:口縁部上位に圈線1・呉須花文/<br>高台に圈線1/底部中央に「福」<br>内:口縁部に呉須圈線2/底部中央に太湖石            | 武家屋敷B群<br>Q25/焼土<br>外:高台端面釉ハゲ           |
| 189 | 染付杯 | 口: 6.6<br>高: 3.5<br>底: 2.4<br>焼: 良好<br>色: 透青白色  | 精緻<br>1/2    | 口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/<br>口端部はやや外反し口唇部は丸く収める<br>底部:高台は鋭角            | 外:口縁部に呉須圈線1・草花文/底部<br>に呉須圈線2/底部中央に「福」<br>内:口縁部上位に呉須圈線1/底部に<br>呉須圈線2/太湖石 | 武家屋敷B群<br>P25/遺構面<br>Q25/焼土             |
| 190 | 染付碗 | 口: 14.6<br>高: 5.3<br>底: 6.2<br>焼: 良好<br>色: 透青白色 | 精緻<br>1/2    | 口縁部:内湾して外方へ立ち上がる/<br>口唇部は丸く収める<br>底部:高台は面取り                    | 外:口縁部上位に呉須带状圈線1・呉<br>須絵/高台に呉須圈線1<br>内:口縁部上位に呉須带状圈線1/底<br>部中央に呉須圈線2・唐草文  | 武家屋敷B群<br>P25/焼土<br>Q25/焼土<br>外:高台端面釉ハゲ |
| 191 | 染付皿 | 口: 9.4<br>高: 2.6<br>底: 5.0<br>焼: 良好<br>色: 透灰色   | 精緻<br>2/3    | 口縁部:内湾して外方へ立ち上がる/<br>口端部はやや外反し口唇部は丸く収める<br>底部:高台は面取り           | 外:口縁部に呉須圈線1・草花文/底<br>部に呉須圈線1<br>内:口縁部上位に呉須圈線1/底部に<br>呉須圈線2/十字花文         | 武家屋敷B群<br>Q24/茶褐色土<br>外:高台端面釉ハゲ         |
| 192 | 染付皿 | 口: 10.6<br>高: 2.7<br>底: 4.4<br>焼: 良好<br>色: 透青灰色 | 精緻<br>1/4    | 口縁部:やや内湾して外方へ立ち上<br>がる/口唇部は丸く収める<br>底部:高台は周縁削り出し               | 外:口縁部に呉須圈線1・草花文/口<br>縁部中位に呉須圈線1<br>内:口縁部上位に呉須圈線1/中位に<br>圈線1/底部に呉須圈線1/草文 | 武家屋敷B群<br>P24/茶褐色土<br>外:高台端面周縁銚<br>釉    |
| 193 | 染付皿 | 高: 2.4<br>底: 3.0<br>焼: 良好<br>色: 透褐色             | 精緻<br>1/4    | 口縁部:内湾して外方へ立ち上<br>がる<br>底部:高台は底部中央を削る                          | 外:口縁部に呉須絵<br>内:底部に呉須草文  | 武家屋敷B群<br>P25/焼土<br>外:高台周辺釉ハゲ           |
| 194 | 染付皿 | 口: 11.6<br>高: 2.6<br>底: 7.6<br>焼: 良好<br>色: 透青白色 | 精緻<br>1/8    | 口縁部:内湾して外方へ立ち上<br>がる/<br>口端部はやや外反し口唇部は丸く収<br>める<br>底部:高台は鋭角    | 外:口縁部に呉須圈線1・蓮華文/底<br>部に呉須圈線2<br>内:口縁部上位に呉須圈線2/底部に<br>呉須圈線2/玉取り獅師文       | 武家屋敷B群<br>C24・25/砂利層(下層)<br>外:高台周辺釉ハゲ   |
| 195 | 染付皿 | 高: 2.2<br>底: 11.6<br>焼: 良好<br>色: 透青白色           | 精緻<br>1/10以下 | 底部:高台は鋭角   | 外:底部・高台に呉須連続半円文<br>内:底部周縁に呉須圈線2、草花文                                     | 武家屋敷B群<br>A21/耕作土<br>外:高台周辺釉ハゲ          |
| 196 | 染付皿 | 口: 16.6<br>高: 2.6<br>底: 2.6<br>焼: 良好<br>色: 透青白色 | 精緻<br>1/8    | 口縁部:内湾して外方へ立ち上<br>がる/<br>口端部はやや外反し口唇部は丸く収<br>める                | 外:口縁部上位に圈線2/中位に呉須<br>唐草文<br>内:口縁部上位に呉須圈線1/中位に<br>呉須絵                    | 武家屋敷B群<br>Q25/焼土                        |
| 197 | 白磁皿 | 口: 8.4<br>高: 2.1<br>底: 5.0<br>焼: 良好<br>色: 透白色   | 精緻<br>1/10以下 | 口縁部:内湾して外方へ立ち上<br>がる/<br>口端部はやや外反し口唇部は丸く収<br>める<br>底部:高台は鋭角    |   | 武家屋敷B群<br>R25/遺構面                       |
| 198 | 白磁皿 | 口: 13.2<br>高: 2.7<br>底: 7.9<br>焼: 良好<br>色: 灰白色  | 精緻<br>1/10以下 | 口縁部:外反して外方へ立ち上<br>がる/<br>口唇部は丸く収める/<br>底部:平底                   |   | 武家屋敷B群<br>B23/遺構面II                     |

武家屋敷B群遺構出土陶磁器類(PL. 28~30 第41~44図)

単位:cm

| No  | 器種        | 法量/焼成/色調   | 胎土<br>残存                    | 形 状  | 調整 / 文様  | 出土地点<br>備 考   |
|-----|-----------|--|-----------------------------|--|--|---|
| 199 | 越前焼<br>播鉢 | 口: 32.4<br>高: 7.3<br>焼: 不良<br>色: 橙褐色             | 極砂粒<br>白色粒子<br>軟質<br>1/10以下 | 口縁部:直線状に外方へ立ち上<br>がる/<br>口唇部は丸く収める/口端部内側に段<br>をもつ  | 外:口縁部～体部回転ナデ後ヨコナ<br>デ<br>内:口縁部回転ナデ<br>内面に幅3.0cm・11条の卸目                                     | 武家屋敷B群<br>C22/SB4635<br>C23/遺構面   |
| 200 | 越前焼<br>甕  | 口: 90.0<br>高: 41.0<br>最: 94.0<br>焼: 良好<br>色: 淡茶色 | 極砂粒<br>白色粒子<br>軟質<br>1/8    | 口縁部:短く外傾して立ち上<br>がる/口<br>端面は平坦/口縁部上位に浅い凹線が<br>入る/口端部内側に浅い段をもつ/シ<br>ャープなつくり<br>胴部:上位で大きく張る/上位～下位<br>にかけて窄まる | 外:口縁部ヨコナデ/胴部上位～下位<br>ナデ/胴部上位へラナデ/胴部上位に<br>2種類1組の押印文(大+格子文)<br>内:口縁部ヨコナデ/胴部上位～下位<br>指頭痕4~5段 | 武家屋敷B群<br>C23・24/SB4635<br>C23/SX4697<br>B20・21茶褐色土<br>外:胴部上位降灰<br>内:胴部中位一部降灰 |
| 201 | 白磁皿       | 高: 2.0<br>底: 7.4<br>焼: 良好<br>色: 白色               | 精緻<br>1/10以下                | 口縁部:緩やかに内湾して外方へ立ち<br>上がる<br>底部:高台端面はやや丸みをもつ  | 外:無文   | 武家屋敷B群<br>C23・24/SB4635<br>C23/SX4697   |

## 5. 遺物

単位:cm

| No  | 器種        | 法量/焼成/色調  | 胎土<br>残存                        | 形 状  | 調整 / 文様   | 出土地点<br>備 考   |
|-----|-----------|---|---------------------------------|--|---|---|
| 202 | 白磁皿       | 口: 18.2<br>高: 3.7<br>焼: 良好<br>色: 青白色              | 精緻<br>1/10以下                    | 口縁部:緩やかに内湾して外方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める   | 外:無文  | 武家屋敷B群<br>C23・24/SB4635<br>C23/SX4697                         |
| 203 | 染付皿       | 口: 11.1<br>高: 2.6<br>底: 6.3<br>焼: 良好<br>色: 透青白色   | 精緻<br>1/6                       | 口縁部:内湾して外方へ立ち上がる/口端部はやや外反する/口唇部は丸く収める<br>底部:高台端面はやや丸みをもつ                 | 外:口縁部上位に呉須圏線1・呉須唐草文<br>内:口縁部上位に圏線1、底部中央に呉須圏線2、呉須絵   | 武家屋敷B群<br>C23・24/SB4635<br>外:高台端面釉ハゲ                          |
| 204 | 染付皿       | 口: 15.1<br>高: 2.0<br>焼: 良好<br>色: 透青白色             | 精緻<br>1/10以下                    | 口縁部:内湾して外方へ立ち上がる/口端部はやや外反する/口唇部は丸く収める<br>底部:高台端面はやや丸みをもつ                 | 外:口縁部上位に呉須圏線2・呉須唐草文<br>内:口縁部に呉須絵  | 武家屋敷B群<br>C20・21/SA4632<br>B20/茶褐色土                           |
| 205 | 染付皿       | 口: 10.0<br>高: 2.0<br>焼: 良好<br>色: 透青白色             | 精緻<br>1/4                       | 口縁部:内湾して外方へ立ち上がる/口端部はやや外反する/口唇部は丸く収める                                    | 外:口縁部に呉須圏線1・草花文<br>内:口縁部上位に呉須圏線/底部に呉須絵  | 武家屋敷B群<br>C20・21/SA4632<br>B20/茶褐色土                           |
| 206 | 染付皿       | 口: 12.6<br>高: 2.7<br>底: 7.0<br>焼: 良好<br>色: 透青白色   | 精緻<br>1/2                       | 口縁部:内湾して外方へ立ち上がる/口端部はやや外反する/口唇部は丸く収める<br>底部:高台は鋭角                        | 外:口縁部に呉須圏線1・草花文/高台に呉須圏線1<br>内:口縁部上位に呉須圏線1/底部に呉須圏線2・花文「  | 武家屋敷B群<br>C20・21/SA4632<br>C20/遺構面II<br>B20/茶褐色               |
| 207 | 土師器<br>小皿 | 口: 9.3<br>高: 2.1<br>底: 4.8<br>焼: 良好<br>色: 橙褐色     | 極砂粒<br>軟質<br>1/2                | 口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/口唇部は上方へツマミ出し丸く収める<br>底部:丸底                              | 外:口縁部ヨコナデ/底部ナデ<br>内:口縁部ヨコナデ/底部ナデ  | 武家屋敷B群<br>E21/SF4663<br>内:口縁部スス付着                             |
| 208 | 土師器<br>小皿 | 口: 9.3<br>高: 2.1<br>底: 4.4<br>焼: 良好<br>色: 灰黒色     | 極砂粒<br>軟質<br>2/3                | 口縁部:内湾して外方へ立ち上がる/口端部はやや外反する/口唇部は上方へツマミ出し丸く収める<br>底部:丸底                   | 外:口縁部ヨコナデ/底部無調整<br>内:口縁部ヨコナデ/底部ナデ型作り  | 武家屋敷B群<br>E21/SF4663<br>片口状に至む<br>外:全体スス付着<br>内:全体スス付着        |
| 209 | 白磁碗       | 口: 10.0<br>高: 2.8<br>焼: 良好<br>色: 透青白色             | 精緻<br>1/10以下                    | 口縁部:やや内湾して外方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める   |   | 武家屋敷B群<br>E28/SF4664  |
| 210 | 土師器<br>小皿 | 口: 9.0<br>高: 2.0<br>底: 3.4<br>焼: 良好<br>色: 橙褐色     | 極砂粒<br>軟質<br>1/1                | 口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める<br>底部:丸底                                      | 外:口縁部ヨコナデ/底部無調整<br>内:口縁部ヨコナデ/底部ナデ型作り  | 武家屋敷B群<br>E28/SF4664<br>外:口端部スス付着<br>内:スス付着                   |
| 211 | 土師器<br>小皿 | 口: 7.2<br>高: 1.7<br>底: 3.2<br>焼: 良好<br>色: 橙褐色     | 極砂粒<br>堅緻<br>3/4                | 口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める<br>底部:丸底                                      | 外:口縁部～底部ナデ<br>内:口縁部ヨコナデ/底部ナデ型作り   | 武家屋敷B群<br>E28/SF4664  |
| 212 | 灰釉<br>小皿  | 口: 11.4<br>高: 2.5<br>底: 6.0<br>焼: 良好<br>色: 浅黄色    | 精緻<br>1/6                       | 口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/口端部は外反する/口唇部は丸く収める<br>底部:高台は削り出し                        | 外:口縁部回転ナデ/底部トチン痕<br>内:口縁部回転ナデ/底部中央に菊花文押印  | 武家屋敷B群<br>D24/SK4671  |
| 213 | 越前焼<br>甕  | 口: 90.0<br>高: 59.0<br>最: 98.4<br>焼: 良好<br>色: 淡茶色  | 極砂粒<br>白色粒子<br>堅緻<br>1/2        | 口縁部:短く上方へ立ち上がる/口端面は浅く凹む/口縁部下位に突帯状の稜線/口端部内側に段をもつ/シャープなつくり<br>胴部:上位で大きく張る  | 外:口縁部ヨコナデ/胴部上位～下位ナデ/胴部上位に1種類のヘラ記号、2種1組の押印文(本+格子文)<br>内:口縁部ヨコナデ/胴部上位～下位ナデ/成形時の指頭痕5～6段                  | 武家屋敷B群<br>P26・Q26/SK4672<br>T23/SE4649<br>Q25/焼土<br>外:胴部上位自然釉 |
| 214 | 越前焼<br>甕  | 口: 78.0<br>高: 64.0<br>最: 102.0<br>焼: 良好<br>色: 濃茶色 | 極砂粒<br>白色粒子<br>堅緻<br>1/3        | 口縁部:短く上方へ立ち上がる/口端面は浅く凹む/口縁部下位に突帯状の稜線/口端部内側に段をもつ/シャープなつくり<br>胴部:上位で大きく張る  | 外:口縁部ヨコナデ/胴部上位～下位ナデ/胴部上位に1種類のヘラ記号、2種1組の押印文(本+格子文)/胴部上位に斜行ヘラ描き文2段<br>内:口縁部ヨコナデ/胴部上位～下位ナデ/成形時の指頭痕11～12段 | 武家屋敷B群<br>P26・Q26/SK4672<br>Q25/焼土<br>外:胴部上位～中位自然釉            |
| 215 | 越前焼<br>甕  | 口: 91.0<br>高: 56.8<br>最: 96.0<br>焼: 良好<br>色: 灰色   | 微砂粒<br>白色粒子<br>精緻<br>須恵質<br>1/6 | 口縁部:短く外傾して上方へ立ち上がる/口端面は平坦/口縁部は凹面をもつ/口端部内側に段をもつ/シャープなつくり<br>胴部:上位で屈曲気味に張る | 外:口縁部ヨコナデ/胴部上位ナデ/胴部中位～下位ユビ押さえ痕4段/胴部上位に2種1組の押印文(不明+格子文)<br>内:口縁部ヨコナデ/胴部上位～下位ナデ/成形時の指頭痕5～6段             | 武家屋敷B群<br>P26・Q26/SK4672<br>Q25/焼土                            |
| 216 | 越前焼<br>甕  | 口: 81.4<br>高: 53.7<br>最: 88.6<br>焼: 良好<br>色: 淡茶灰色 | 極砂粒<br>白色粒子<br>堅緻<br>1/6        | 口縁部:短く外傾して上方へ立ち上がる/口端面は平坦/口縁部は凹面をもつ/口端部内側に段をもつ/シャープなつくり<br>胴部:上位で屈曲気味に張る | 外:口縁部ヨコナデ/胴部中位～下位ヘラナデ/胴部上位に2種1組の押印文(本+格子文)<br>内:口縁部ヨコナデ/胴部上位～下位ナデ/成形時の指頭痕5～6段                         | 武家屋敷B群<br>P26・Q26/SK4672<br>Q25/焼土                            |

V. 第100次調査

単位: cm

| No  | 器種       | 法量/焼成/色調   | 胎土<br>残存                        | 形状   | 調整 / 文様   | 出土地点<br>備考   |
|-----|----------|--|---------------------------------|--|---|--|
| 217 | 越前焼<br>甕 | 口: 62.6<br>高: 33.5<br>最: 91.0<br>焼: 良好<br>色: 淡茶色             | 極砂粒<br>白色粒子<br>堅緻<br>1/8        | 口縁部:短く上方へ立ち上がる/口端面は平坦/口縁部下位に突帯状の稜線をもつ/口端部内側に段をもつ/シャープなつくり<br>胴部:上位で大きく張る | 外:口縁部ヨコナデ/胴部上位~中位ナデ/胴部上位に2種1組の押印文(本+格子文)<br>内:口縁部ヨコナデ/胴部上位~下位ナデ/成形時の指頭痕5段           | 武家屋敷B群<br>P26・Q26/SK4672<br>Q25/焼土<br>外:胴部上位~中位ヤキムラ                |
| 218 | 越前焼<br>甕 | 口: 86.0<br>高: 53.7<br>最: 92.4<br>焼: 良好<br>色: 赤茶色             | 極砂粒<br>白色粒子<br>精緻<br>1/8        | 口縁部:短く上方へ立ち上がる/口端面は平坦/口縁部下位に突帯状の稜線をもつ/口端部内側に段をもつ/シャープなつくり<br>胴部:上位で大きく張る | 外:口縁部ヨコナデ/胴部上位~中位ナデ/胴部上位に2種1組の押印文(本+格子文)<br>内:口縁部ヨコナデ/胴部上位~下位ナデ/成形時の指頭痕7段           | 武家屋敷B群<br>P26・Q26/SK4672<br>Q25/焼土<br>外:胴部上位摩耗                     |
| 219 | 越前焼<br>甕 | 口: 84.0<br>高: 50.5<br>最: 88.6<br>焼: 良好<br>色: 濃茶色             | 微砂粒<br>白色粒子<br>精緻<br>1/8        | 口縁部:短く上方へ立ち上がる/口端面は平坦/口縁部下位に突帯状の稜線をもつ/口端部内側に段をもつ/シャープなつくり<br>胴部:上位で大きく張る | 外:口縁部ヨコナデ/胴部上位~中位ナデ/胴部上位に2種1組の押印文(本+格子文)<br>内:口縁部ヨコナデ/胴部上位~下位ナデ/成形時の指頭痕5~6段         | 武家屋敷B群<br>P26・Q26/SK4672<br>Q25・P25/焼土<br>内:胴部中位~下位降灰              |
| 220 | 越前焼<br>甕 | 口: 80.0<br>高: 61.0<br>最: 86.6<br>焼: 良好<br>色: 明茶色             | 極砂粒<br>白色粒子<br>精緻<br>1/5        | 口縁部:短く上方へ立ち上がる/口端面は平坦/口縁部下位に突帯状の稜線をもつ/口端部内側に段をもつ/シャープなつくり<br>胴部:上位で大きく張る | 外:口縁部ヨコナデ/胴部中位~下位ユビ押さえ後ナデ/胴部上位に1種のへら記号、1種の押印文(格子文)<br>内:口縁部ヨコナデ/胴部上位~下位成形時の指頭痕7~8段  | 武家屋敷B群<br>P26・Q26/SK4672<br>T23/SE4649<br>Q25・P25/焼土<br>外:胴部上位降灰   |
| 221 | 越前焼<br>甕 | 口: 88.0<br>高: 64.6<br>最: 94.0<br>焼: 良好<br>色: 灰色              | 微砂粒<br>白色粒子<br>軟質<br>須恵質<br>1/4 | 口縁部:短く上方へ立ち上がる/口端面は平坦/口縁部下位に稜をもつ/稜線の上に条線が1条入る/鈍い仕上げ<br>胴部:上位で大きく張る       | 外:口縁部ヨコナデ/胴部中位~下位ハケ後ナデ/胴部上位に1種のへら記号<br>内:口縁部ヨコナデ/胴部上位~中位成形時の指頭痕3段                   | 武家屋敷B群<br>P26・Q26/SK4672<br>Q25・P25/焼土<br>外:胴部上位~下位降灰<br>内:胴部中位降灰  |
| 222 | 越前焼<br>甕 | 口: 80.0<br>高: 78.0<br>最: 93.0<br>焼: 良好<br>色: 濃茶色             | 極砂粒<br>白色粒子<br>精緻<br>1/2        | 口縁部:短く上方へ立ち上がる/口端面は浅く凹む/口縁部下位に稜をもつ/シャープな仕上げ<br>胴部:上位で大きく張る               | 外:口縁部ヨコナデ/胴部上位~下位ナデ/胴部上位に1種のへら記号、2種1組の押印文(大+格子文)<br>内:口縁部ヨコナデ/胴部上位~下位ナデ/成形時の指頭痕7~8段 | 武家屋敷B群<br>P26・Q26/SK4672<br>Q25・P25/焼土                             |
| 223 | 越前焼<br>甕 | 口: 85.0<br>高: 80.0<br>最: 88.0<br>焼: 良好<br>色: 暗灰色             | 極砂粒<br>白色粒子<br>堅緻<br>1/5        | 口縁部:短く上方へ立ち上がる/口端面は平坦/口縁部下位に稜をもつ/シャープな仕上げ<br>胴部:上位で大きく張る                 | 外:口縁部ヨコナデ/胴部上位~下位ナデ/胴部上位に1種のへら記号、2種1組の押印文(本+格子文)<br>内:口縁部ヨコナデ/胴部上位~下位指頭痕4~5段        | 武家屋敷B群<br>P26・Q26/SK4672<br>Q25・P25/焼土                             |
| 224 | 越前焼<br>甕 | 口: 93.0<br>高: 92.8<br>最: 91.0<br>底: 27.5<br>焼: 良好<br>色: 淡茶褐色 | 極砂粒<br>白色粒子<br>軟質<br>2/3        | 口縁部:短く上方へ立ち上がる/口端面は平坦/口縁部下位に稜をもつ/シャープな仕上げ<br>胴部:上位で大きく張る<br>底部:平坦        | 外:口縁部ヨコナデ/胴部上位に1種のへら記号、2種類1組の押印文(本+格子文)<br>内:口縁部ヨコナデ/胴部上位~下位指頭痕11~12段               | 武家屋敷B群<br>P26・Q26/SK4672<br>Q25・P25/焼土                             |
| 225 | 越前焼<br>甕 | 口: 90.0<br>高: 38.5<br>最: 99.0<br>焼: 良好<br>色: 濃茶色             | 極砂粒<br>白色粒子<br>堅緻<br>1/10以下     | 口縁部:短く上方へ立ち上がる/口端面は平坦/口縁部下位に稜をもつ/シャープな仕上げ<br>胴部:上位で大きく張る                 | 外:口縁部ヨコナデ/胴部上位~下位ナデ/胴部上位に2種類1組の押印文(本+格子文)<br>内:口縁部ヨコナデ/胴部上位~下位ナデ/指頭痕4段              | 武家屋敷B群<br>P26・Q26/SK4672<br>Q25・P25/焼土                             |
| 226 | 越前焼<br>甕 | 口: 50.9<br>高: 73.0<br>最: 71.7<br>底: 26.6<br>焼: 良好<br>色: 濃茶色  | 極砂粒<br>白色粒子<br>精緻<br>2/3        | 口縁部:短く外傾して立ち上がる/口端面は浅く凹む/口縁部下位に稜をもつ/シャープな仕上げ<br>胴部:上位で大きく張る<br>底部:平坦     | 外:口縁部ヨコナデ/胴部上位~下位ナデ/底部ナデ<br>内:口縁部ヨコナデ/胴部上位~下位ナデ/指頭痕8段/胴部下位ユビナデ2段                    | 武家屋敷B群<br>P26・Q26/SK4672<br>T23/SE4649<br>Q25・P25/焼土<br>B19~21/遺構面 |
| 227 | 越前焼<br>壺 | 口: 10.0<br>高: 15.0<br>最: 18.0<br>焼: 良好<br>色: 淡茶色             | 極砂粒<br>白色粒子<br>堅緻<br>1/3        | 口縁部:短く外傾して上方へ立ち上がる/口端面は平坦/口端部外側が突出する<br>胴部:球形/中位で張る                      | 外:口縁部~胴部上位ヨコナデ/胴部中位ナデ/胴部上位に1種のへら記号<br>内:口縁部ヨコナデ/胴部上位~下位ナデ/指頭痕4段                     | 武家屋敷B群<br>P26/Q26/SK4672<br>Q25・P25/焼土<br>外:胴部上位自然釉<br>内:胴部下位スス付着  |

武家屋敷C群包含層出土土器(PL. 30 第44図)

単位: cm

| No  | 器種         | 法量/焼成/色調                                      | 胎土<br>残存         | 形状   | 調整 / 文様                  | 出土地点<br>備考                              |
|-----|------------|---|------------------|--|--------------------------|---|
| 228 | 土師器<br>小皿  | 口: 9.5<br>高: 1.8<br>底: 3.8<br>焼: 良好<br>色: 橙褐色 | 極砂粒<br>軟質<br>1/1 | 口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/<br>口端部でやや外反/口唇部は丸く収める<br>底部:平底 | 外:口縁部~底部ナデ<br>内:口縁部~底部ナデ | 武家屋敷C群<br>耕作土<br>外:口端部スス付着<br>内:口端部スス付着 |
| 229 | 土師器<br>無頸壺 | 口: 3.0<br>高: 2.8<br>最: 4.4<br>焼: 良好<br>色: 橙褐色 | 極砂粒<br>軟質<br>1/2 | 口縁部:短く内傾して立ち上がる/<br>唇部は丸く収める<br>胴部:扁球形/胴部上位で張る   | 外:口縁部~底部ナデ<br>内:口縁部~底部ナデ | 武家屋敷C群<br>耕作土                           |

## 5. 遺物

単位: cm

| No  | 器種    | 法量/焼成/色調                            | 胎土<br>残存  | 形状                                       | 調整 / 文様 | 出土地点          |
|-----|-------|-------------------------------------|-----------|--|---------|---------------|
|     |       |                                     |           |  |         | 備考            |
| 230 | 白磁碗   | 口: 12.0<br>高: 3.3<br>焼: 良好<br>色: 白色 | 精緻<br>1/6 | 口縁部: 緩やかに内湾して外方へ立ち上がる/口端部でやや外反/口唇部は丸く収める | 外: 無文   | 武家屋敷C群<br>遺構面 |
| 231 | 朝鮮白磁皿 | 口: 9.4<br>高: 1.7<br>焼: 良好<br>色: 白褐色 | 精緻<br>1/6 | 口縁部: 緩やかに内湾して外方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める          | 外: 無文   | 武家屋敷C群<br>遺構面 |
| 232 | 青白磁碗  | 高: 3.9<br>底: 4.7<br>焼: 良好<br>色: 青白色 | 精緻<br>1/5 | 口縁部: 内湾して外方へ立ち上がる<br>底部: 高台端面は平坦/端面内側で接地 | 外: 無文   | 武家屋敷C群<br>耕作土 |

## 土製品(PL. 30 第43図)

単位: cm

| No  | 器種 | 法量/焼成/色調                            | 胎土<br>残存         | 形状   | 調整 / 文様                        | 出土地点                |
|-----|----|-------------------------------------|------------------|--|--------------------------------|---------------------|
|     |    |                                     |                  |  |                                | 備考                  |
| 233 | 土鈴 | 高: 3.3<br>幅: 3.0<br>焼: 良好<br>色: 白褐色 | 極砂粒<br>軟質<br>1/2 | 天井部: 先端は円錐状/径0.2cmの紐孔をもつ<br>胴部: 扁球形/鈴口幅0.3cm | 外: ナデ<br>内: ナデ<br>手捏ね成形        | 武家屋敷C群<br>遺構面       |
| 234 | 土鈴 | 高: 3.1<br>幅: 3.0<br>焼: 良好<br>色: 白褐色 | 極砂粒<br>軟質<br>1/2 | 天井部: 先端は円錐状/径0.2cmの紐孔をもつ<br>胴部: 球形/鈴口幅0.2cm  | 外: ナデ<br>内: 天井部シボリ/ナデ<br>手捏ね成形 | 武家屋敷A群<br>G23床土下砂り層 |

## 金属器(PL. 30 第43図)

単位: cm/g

| No  | 器種   | 法量(最大値) |     |     |      | 残存  | 材質<br>色調   | 調整・特徴  | 備考      | 出土地点                   |
|-----|------|---------|-----|-----|------|-----|------------|--|---------|------------------------|
|     |      | 長       | 幅   | 厚   | 重    |     |            |  |         |                        |
| 235 | 銅製水注 | 8.0     | 2.4 | 0.3 | 66.3 | 1/6 | 銅製品<br>青銅色 | 水注の湯口  |         | 武家屋敷B群<br>P25/遺構面      |
| 236 | 装飾金具 | 4.7     | 1.0 | 0.1 | 4.1  | 1/1 | 銅製品<br>青銅色 | 外面: 4隅に径0.2cm、長さ0.4cmの鋳孔をもつ/1隅に鋳が残る            |         | 武家屋敷C群<br>耕作土          |
| 237 | 蝶番金具 | 2.8     | 1.1 | 0.1 | 3.2  | 1/1 | 銅製品<br>青銅色 | 左端: 0.4cm内側に折り曲げた後、さらに半分折り曲げる<br>右端: 内側にU字に曲がる |         | 武家屋敷C群<br>耕作土          |
| 238 | 煙管   | 3.0     | 0.8 | 0.1 | 2.7  | 1/1 | 銅製品<br>青銅色 | 吸口孔径は左0.3cm、右0.6cm                             |         | 武家屋敷B群<br>T26/遺構面      |
| 239 | 革    | 3.4     | 1.0 | 0.4 | 3.0  | 1/2 | 銅製品<br>青銅色 | 木葉形/径0.4cmの円形穿孔2                               | 表面に剥離多し | 武家屋敷B群<br>B24/遺構面      |
| 240 | 返角   | 2.6     | 1.0 |     | 3.3  | 1/2 | 銅製品<br>青銅色 | 鞘の刀装具  |         | 武家屋敷A群<br>N23/暗茶色土     |
| 241 | 鋳    | 1.4     | 1.0 | 0.2 | 0.7  | 1/2 | 銅製品<br>青銅色 |  |         | 武家屋敷A群<br>E21/SF4663   |
| 242 | 鋳    | 0.5     | 1.0 | 0.1 | 0.4  | 1/2 | 銅製品<br>青銅色 | 傘部に線刻文様  |         | 武家屋敷A群<br>G26/SF4663   |
| 243 | 鉄砲玉  | 1.2     | 1.1 | 1.0 | 7.2  | 1/1 | 銅製品<br>青銅色 |  |         | 武家屋敷B群<br>R22/耕作土      |
| 244 | 鉄釘   | 4.5     | 1.2 | 0.4 | 3.0  | 1/3 | 銅製品<br>青銅色 | 釘頭は折り曲げた後平坦                                    |         | 武家屋敷B群<br>I19/SF4660   |
| 245 | 鉄釘   | 3.1     | 0.8 | 0.3 | 1.2  | 1/1 | 銅製品<br>青銅色 | 釘頭は折り曲げた後平坦                                    |         | 武家屋敷A群<br>Q28/SA4631埋土 |
| 246 | 鉄釘   | 7.0     | 0.9 | 1.2 | 7.1  | 1/1 | 銅製品<br>青銅色 | 釘頭は折り曲げた後平坦                                    |         | 武家屋敷A群<br>A/24耕作土      |

## 石製品(PL. 30 第43図)

単位: cm/g

| No  | 器種     | 法量(最大値) |     |     |       | 残存  | 石材<br>色調<br>材質    | 調整・特徴  | 備考                   | 出土地点                         |
|-----|--------|---------|-----|-----|-------|-----|-------------------|--|----------------------|------------------------------|
|     |        | 長径      | 短径  | 厚   | 重     |     |                   |  |                      |                              |
| 247 | 勾玉     | 2.1     | 1.0 | 0.8 | 5.0   | 1/2 | 翡翠<br>透緑色<br>硬質   | 孔: 孔径0.3cm/両面穿孔  | 弥生時代中期               | 武家屋敷C群<br>耕作土                |
| 248 | 白玉形石製品 | 4.5     | 4.4 | 3.8 | 80.7  | 1/1 | 笏谷石<br>淡緑灰色<br>軟質 | 形状: 扁球形/上下に平坦面をもつ<br>端面: 径2.6cm/中央に径1.3cm、深さ1.2cmの穿孔あり/下端面: 径2.4cm |                      | 武家屋敷A群<br>Q24/遺構面<br>概報No170 |
| 249 | 砥石     | 10.3    | 3.7 | 1.1 | 77.6  | 4/5 | 粘板岩<br>褐色<br>硬質   | 形状: 板状の直方体/上端部欠損/表裏面・左右側面・下端面は平滑な研面                                | 砥面5<br>粒度: 密<br>仕上げ砥 | 武家屋敷B群<br>A24/遺構面            |
| 250 | 砥石     | 11.1    | 5.0 | 2.9 | 320.0 | 4/5 | 砂岩<br>灰色<br>軟質    | 形状: 板状の直方体/上端部一部欠損/表裏面・左右側面・下端面は平滑な研面                              | 砥面5<br>粒度: 密<br>中砥   | 武家屋敷A群<br>I19/SF4659         |

V. 第 100 次調査

単位:cm/g

| No  | 器種   | 法量(最大値) |       |     |      | 残存         | 石材調<br>材質         | 調整・特徴   | 備考  | 出土地点                                 |
|-----|------|---------|-------|-----|------|------------|-------------------|---|---|--------------------------------------|
|     |      | 長径      | 短径    | 厚   | 重    |            |                   |   |   |                                      |
| 251 | 砥石   | 7.5     | 3.5   | 0.7 | 30.0 | 4/5        | 粘板岩<br>薄桃色<br>硬質  | 形状:板状の直方体/上下端部欠損/表裏面・左右側面は研面  | 砥面4/粒度:密<br>中砥/左右側面の砥面/<br>粗い擦痕                                   | 武家屋敷A群<br>G22/砂利層                    |
| 252 | バンドコ | 18.9    | 15.8  | 3.0 | -    | 4/5        | 笏谷石<br>淡緑灰色<br>軟質 | 形状:半円形/左右端部欠損/表面:笠状に成形/平滑/裏面:身と接合する周縁に段をつくる                                       | 外:平面D型<br>内:スス付着  | 武家屋敷A群<br>H24/砂利層                    |
| 253 | 風炉   | 33.0    | 高 6.8 | 2.6 | -    | 1/10<br>以下 | 笏谷石<br>褐色<br>軟質   | 口縁部:平面は円形/内側に強く屈曲/口端面は平坦/13.5cm×3.0cmの長楕円の透孔をもつ                                   | 外:平滑/全体被熱<br>内:平滑   | 武家屋敷A群<br>M26/SD4642<br>O19/SA1553埋土 |
| 254 | 風炉   | 42.6    | 高10.5 | 3.8 | -    | 1/10<br>以下 | 笏谷石<br>淡緑青色<br>軟質 | 口縁部:平面は円形/内側に強く屈曲/口端面は丸く収める<br>内面:幅2.0cmの工具でタタキ                                   | 外:平滑/全体スス付着<br>内:平滑/全体被熱  | 武家屋敷A群<br>N24・26/遺構面                 |
| 255 | 風炉   | 33.2    | 高12.0 | 4.5 | -    | 1/10<br>以下 | 笏谷石<br>淡褐色<br>軟質  | 胴部:平面は円形/内湾して外方へ立ち上がる<br>底部:径4.2~4.6cm、高さ2.0cmの円柱状の脚(推定3脚)が付く<br>内面:幅2.1cmの工具でタタキ | 外:平滑/全体被熱<br>内:平滑   | 武家屋敷A群<br>耕作土                        |
| 256 | 石盤   | 23.0    | 高10.0 | 2.5 | -    | 1/3        | 笏谷石<br>淡灰色<br>軟質  | 口縁部:平面は長楕円形/短く直線状に外傾して立ち上がる/口唇部は平坦<br>底部:平坦/高さ2.3cm、平面半円形の脚(推定4脚)が付く              | 外:口縁部:平滑/底部:<br>粗い整形/全体被熱して<br>スス付着<br>内:口縁部:平滑/被熱/<br>口縁部~底部スス付着 | 武家屋敷A群<br>L20/SI4668                 |

銭貨観察表(第45図)

単位:cm/g

| No  | 種類<br>台帳番号    | 法量(最大値) |     |     | 残存  | 時 期            | 出土地点                 | No  | 種類<br>台帳番号    | 法量(最大値) |     |     | 残存  | 時 期           | 出土地点                    |
|-----|---------------|---------|-----|-----|-----|----------------|----------------------|-----|---------------|---------|-----|-----|-----|---------------|-------------------------|
|     |               | 径       | 厚   | 重   |     |                |                      |     |               | 径       | 厚   | 重   |     |               |                         |
| 257 | 治平元寶<br>3485  | 2.2     | 1.3 | 1.9 | 1/1 | 模造銭<br>中世末~近世初 | 武家屋敷A群<br>G20~23/耕作土 | 277 | 開元通寶          | 2.3     | 1.0 | 1.6 | 4/5 | 初鑄960年        | 武家屋敷B群<br>F19/SA4632    |
| 258 | 永樂通寶<br>4200  | 2.3     | 1.5 | 3.3 | 1/1 | 模造銭<br>中世末~近世初 | 武家屋敷A群<br>I19/SF4660 | 278 | 淳化元寶<br>9400  | 2.1     | 1.1 | 1.7 | 1/1 | 北宋<br>初鑄990年  | 武家屋敷B群<br>P26/SK4672    |
| 259 | 祥符元寶<br>4202  | 2.2     | 1.2 | 2.9 | 1/1 | 模造銭<br>中世末~近世初 | 武家屋敷A群<br>I19/SF4660 | 279 | 咸平元寶<br>9403  | 2.3     | 2.8 | 3.7 | 1/1 | 北宋<br>初鑄998年  | 武家屋敷B群<br>P26/SK4672 2枚 |
| 260 | 元祐通寶<br>5114  | 2.1     | 1.0 | 1.0 | 1/2 | 模造銭<br>中世末~近世初 | 武家屋敷A群<br>I21/砂利層    | 280 | 咸平元寶<br>10384 | 2.2     | 1.1 | 1.7 | 1/1 | 北宋<br>初鑄998年  | 武家屋敷B群<br>Q25/焼土        |
| 261 | 開元通寶<br>6189  | -       | 1.2 | 0.8 | 1/4 | 唐<br>初鑄621年    | 武家屋敷A群<br>L20・21     | 281 | 祥符元寶<br>12661 | 2.3     | 1.2 | 1.7 | 1/1 | 北宋<br>初鑄1009年 | 武家屋敷B群<br>U24/遺構面       |
| 262 | 景德元寶<br>7690  | 2.1     | 1.2 | 1.7 | 1/1 | 北宋<br>初鑄1004年  | 武家屋敷A群<br>N18/遺構面    | 282 | 天聖元寶<br>9260  | 2.0     | 1.2 | 0.9 | 3/4 | 北宋<br>初鑄1023年 | 武家屋敷B群<br>P25/遺構面       |
| 263 | 天聖元寶<br>4204  | 2.1     | 1.0 | 1.2 | 3/4 | 北宋<br>初鑄1023年  | 武家屋敷A群<br>I19/SF4660 | 283 | 皇宋通寶<br>13428 | 2.3     | 1.2 | 1.8 | 4/5 | 北宋<br>初鑄1038年 | 武家屋敷B群<br>A22/遺構面       |
| 264 | 皇宋通寶<br>4363  | 2.2     | 1.0 | 2.3 | 1/1 | 北宋<br>初鑄1038年  | 武家屋敷A群<br>H20/遺構面    | 284 | 嘉祐元寶<br>13765 | 2.1     | 1.1 | 1.3 | 3/4 | 北宋<br>初鑄1056年 | 武家屋敷B群<br>A24/遺構面       |
| 265 | 皇宋通寶<br>8029  | 2.2     | 1.1 | 2.0 | 1/1 | 北宋<br>初鑄1038年  | 武家屋敷A群<br>O25/SD4641 | 285 | 熙寧元寶<br>944   | 2.2     | 1.3 | 2.5 | 1/1 | 北宋<br>初鑄1068年 | 武家屋敷B群<br>C20/遺構面II     |
| 266 | 治平通寶<br>4476  | 2.2     | 1.2 | 2.2 | 1/1 | 北宋<br>初鑄1064年  | 武家屋敷A群<br>H22/暗褐色土   | 286 | 熙寧元寶<br>8916  | 2.1     | 1.2 | 0.9 | 1/2 | 北宋<br>初鑄1068年 | 武家屋敷B群<br>P24/茶褐色土      |
| 267 | 熙寧元寶<br>4362  | 2.3     | 1.4 | 3.9 | 1/1 | 北宋<br>初鑄1068年  | 武家屋敷A群<br>H20/遺構面    | 287 | 熙寧元寶<br>10861 | 2.2     | 1.3 | 2.6 | 1/1 | 北宋<br>初鑄1068年 | 武家屋敷B群<br>R24/遺構面       |
| 268 | 元豐通寶<br>4203  | 2.3     | 1.5 | 4.1 | 1/1 | 北宋<br>初鑄1078年  | 武家屋敷A群<br>I19/SF4660 | 288 | 熙寧元寶<br>12989 | 2.1     | 1.2 | 1.8 | 1/1 | 北宋<br>初鑄1068年 | 武家屋敷B群<br>V26/耕作土       |
| 269 | 元豐通寶<br>6374  | 2.2     | 1.5 | 1.9 | 1/1 | 北宋<br>初鑄1078年  | 武家屋敷A群<br>L24/遺構面    | 289 | 永樂通寶<br>13130 | 2.3     | 1.5 | 3.3 | 4/5 | 明<br>初鑄1408年  | 武家屋敷B群<br>A21/遺構面       |
| 270 | 紹聖元寶<br>4799  | 2.1     | 1.2 | 2.2 | 1/1 | 北宋<br>初鑄1094年  | 武家屋敷A群<br>H26/遺構面    | 290 | 淳化口寶<br>650   | -       | 1.2 | 1.1 | 1/2 | -             | 武家屋敷B群<br>B21/黄色粘土      |
| 271 | 紹聖元寶<br>4201  | 2.3     | 1.3 | 2.4 | 1/1 | 北宋<br>初鑄1094年  | 武家屋敷A群<br>I19/SF4660 | 291 | 不明<br>12691   | 2.0     | 1.0 | 1.3 | 4/5 | -             | 武家屋敷B群<br>U26/遺構面       |
| 272 | 正隆元寶<br>5000  | 2.1     | 1.0 | 1.0 | 3/4 | 金<br>初鑄1157年   | 武家屋敷A群<br>I20/遺構面II  | 292 | 不明<br>12877   | 2.1     | 1.0 | 8.9 | 1/1 | -             | 武家屋敷B群<br>A24/SX4698    |
| 273 | 元祐通寶<br>13764 | 2.2     | 1.3 | 2.0 | 1/1 | 模造銭<br>中世末~近世初 | 武家屋敷B群<br>A24/遺構面    | 293 | 熙寧元寶<br>14763 | 2.1     | 1.4 | 1.8 | 1/1 | 北宋<br>初鑄1068年 | 武家屋敷C群                  |
| 274 | 祥符通寶<br>9401  | 2.3     | 2.0 | 3.1 | 4/5 | 模造銭<br>中世末~近世初 | 武家屋敷B群<br>P26/SK4672 | 294 | 洪武通寶<br>14762 | 2.1     | 1.2 | 1.0 | 1/2 | 明<br>初鑄1368年  | 武家屋敷C群                  |
| 275 | 開元通寶<br>11174 | 2.5     | 1.2 | 1.2 | 1/2 | 唐<br>初鑄621年    | 武家屋敷B群<br>S22/遺構面    | 295 | 永樂通寶<br>14655 | 2.3     | 1.2 | 1.5 | 4/5 | 明<br>初鑄1408年  | 武家屋敷C群                  |
| 276 | 開元通寶<br>12506 | 2.1     | 1.3 | 1.5 | 4/5 | 唐<br>初鑄621年    | 武家屋敷B群<br>U23/耕作土    |     |               |         |     |     |     |               |                         |

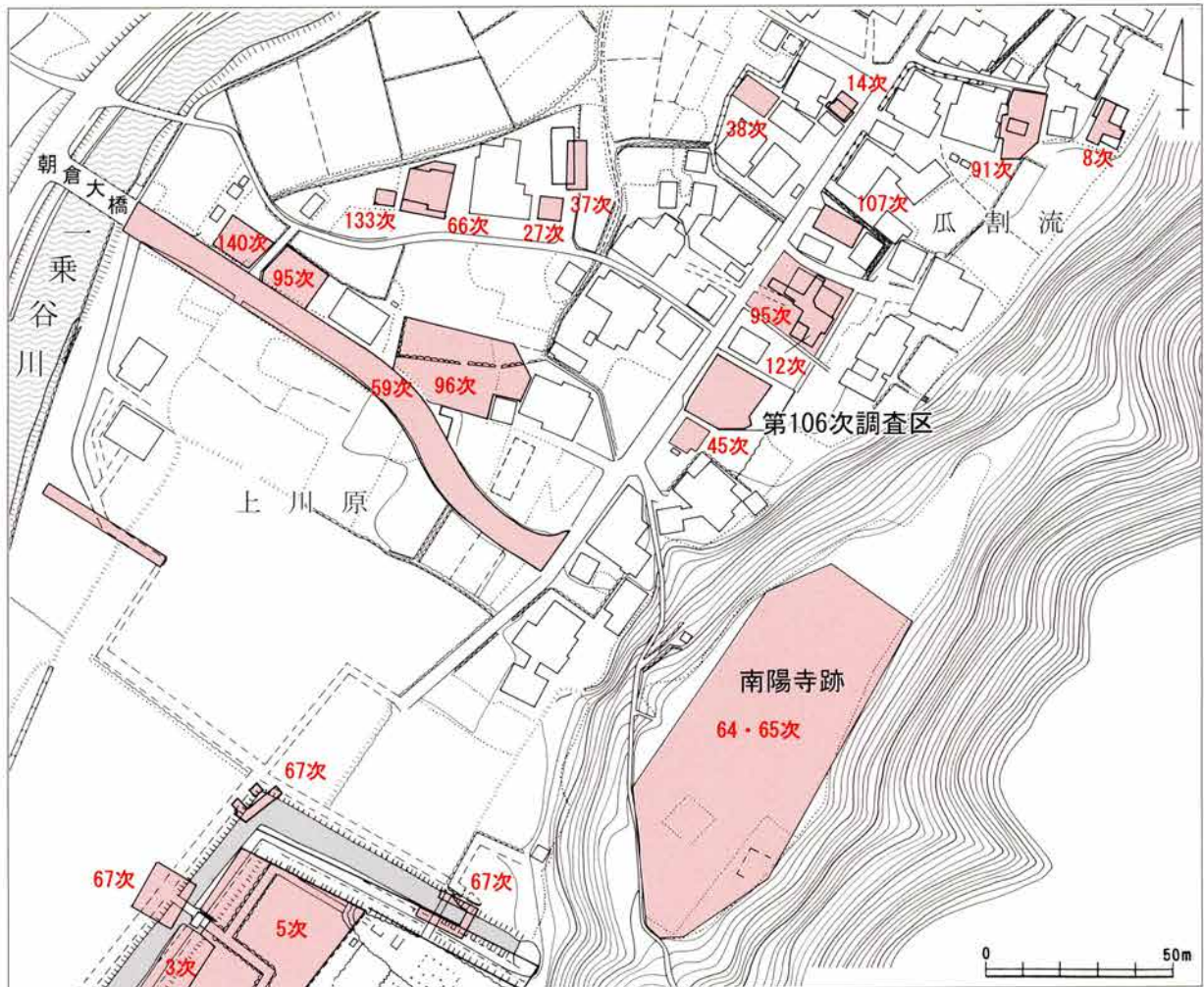
## VI. 第106次調査【城戸ノ内町瓜割流】

### 1. 遺構(PL.17 第46～48図)

第106次調査は、城戸ノ内町瓜割流に位置し、朝倉館跡から北へ約160m隔てた城戸ノ内集落内に立地する(第46図)。調査区の南側には山塊が立ち上がり、標高65mを測る中腹の平坦地には南陽寺(文12)が立地する。南北に延びる平坦地は4,700㎡の面積を有し、字名が「難陽寺」と記載されることから、『朝倉始末記』の館跡北東に位置する「南陽寺」に比定される点については異論がない。

まず、文献の南陽寺関連の記載を紐解くと、南陽寺は14世紀代に朝倉貞景の母、法名「天心清祐」が創建し、15世紀前半には南陽寺と号する比丘尼が安原庄の代官職についていた。文明11年(1479)では、初代孝景の妹の寺として迎賓館の役割を担う屋敷だったと考えられる。3代貞景の代で、南陽寺は再建されて仏殿や方丈が建築され、5代義景の代に永禄11年(1568)、足利義昭を宴席に招待したことで知られる。

南陽寺の発掘調査は、平成元年(1989)の第64次では南陽寺の南半分を対象とし、仏殿、礎石建物、門跡、土塀が検出され、16世紀以前の遺構面より下層で15世紀代の土師器小皿が多量に出土した。同年の第65次調査では北半分を対象とし、山側で礎石建物、大型の積石遺構、炉跡、石敷遺構が検出された。遺構は東西方向の石列SV3705で南北に分かれ、南半分は宗教色を残す「ハレ」、北半分は日常生活を営む「ケ」の空間と指摘された。時期は、朝倉滅亡期の上層(Ⅲ期)と下層(Ⅱ・Ⅰ期)に区分でき、Ⅰ期は厚い盛土に覆われていた。



第46図 第106次調査区と周辺の調査区(縮尺 1/2,000)

今回の調査は瓜割清水の整備に伴い実施したもので、調査面積は225 m<sup>2</sup>、調査期間は平成11年(1999)11月2日～同年12月1日である(文13)。一乗谷古絵図では、調査区の東側には南陽寺が立地し、西側には朝倉氏重臣の三田崎備中守屋敷跡と記されているため、関連する遺構が検出されることが想定された。調査方法は、調査区を4分割し、南西隅から時計回りにA～D区を設定した(第47図)。

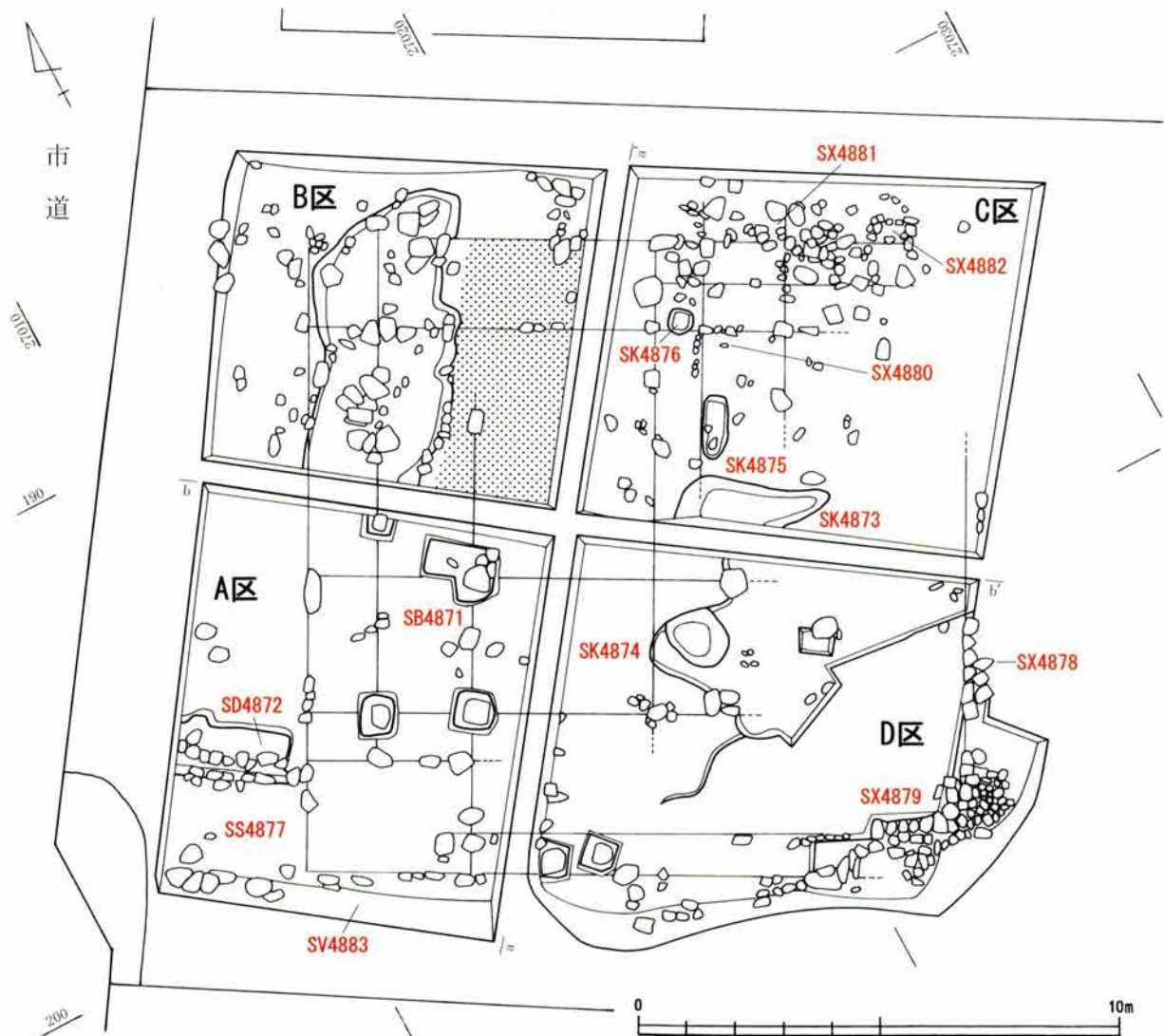
調査の結果、遺構は表土下からすぐに検出され、暗褐色土の表土と黄褐色土の整地層からなっていた(第48図)。以下、遺構の概要を述べる。

**SB4871**(PL.17 第47図) 南北約12.5m、東西約10.0mの規模を有する礎石建物であり、主軸はN29°Eに向く。南辺に東西方向を通る通路SS4877が取り付くことから、南辺に出入口を設けたと考えられる。

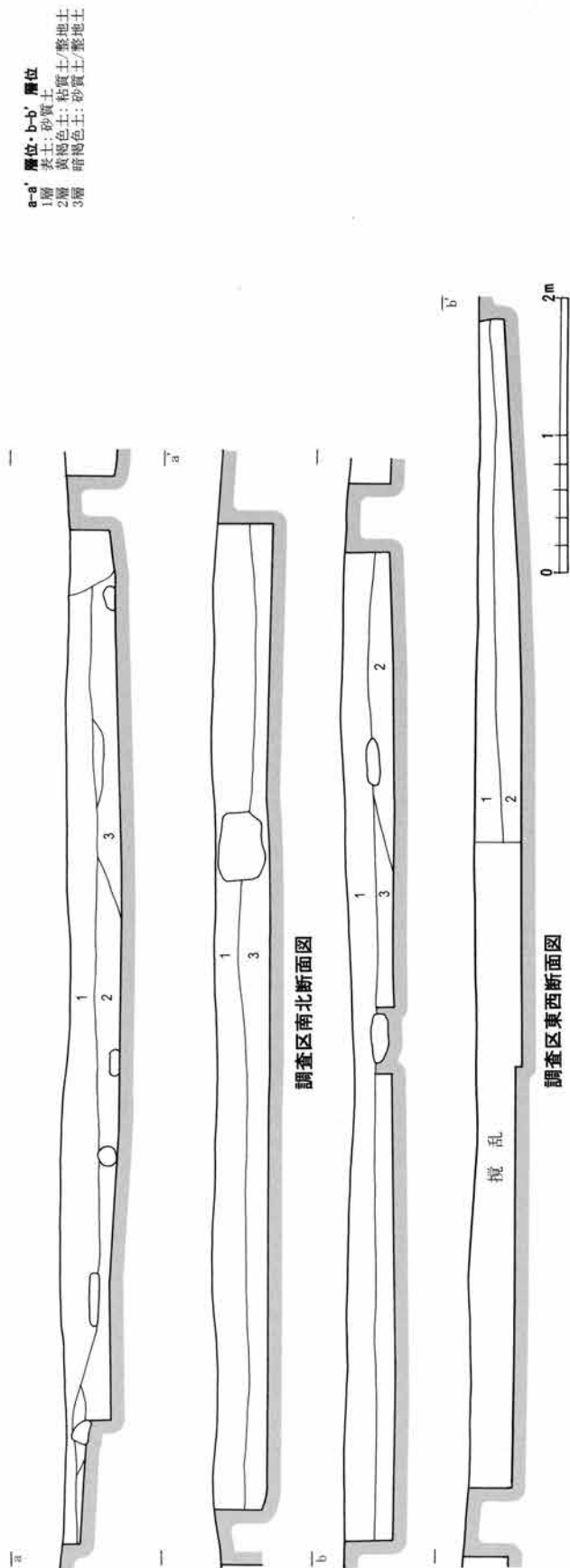
**SX4878・4879**(PL.17 第47図) SB4871に接して東端で検出した石敷遺構であり、南東側からまわり込むように東に延びている。すぐ東側が瓜割清水になっているので、清水の護岸遺構と一体のものとする。

**SS4877**(PL.17 第47図) 東西方向に延びる通路である。幅は約2.0mを測る。よく叩き締められた石敷通路遺構である。この通路の更に南側で石垣SV4883が検出された。

その他、土坑SK4873、4874を検出したが、いずれも後世の攪乱坑であり、近世～近代の土瓶、タイル片が混在して廃棄されていた。SB4871は近代の上坂家の屋敷跡と判断した。



第47図 第106次調査区遺構全体図(縮尺 1/150)



第48図 第106次調査区南北・東西遺構断面図(縮尺1/50)

## 2. 遺物 (PL.31 第49・50図 第6表)

遺物は、陶磁器類として越前焼播鉢・甕・鉢、土師器小皿、鉄釉天目碗、灰釉小皿、青磁碗・皿・盤、白磁皿、染付皿、中国製天目碗が出土し、その他、金属器、石製品が出土した。以下、主要なものの概要を述べる。

**越前焼** 1・2は大甕の口縁部である。3～10は播鉢片である。11～13は壺である。12は口径15.8cmを測り、13は口径12.6cmを測る中型品である。

**土師器小皿** 14～19表土中に含まれ、14・15はB類、17・18はC類である。16は口径13.0cmを測るD類である。

**瀬戸・美濃製品** 20・22は鉄釉天目碗である。21は壺の底部である。23・24は灰釉の小皿である。

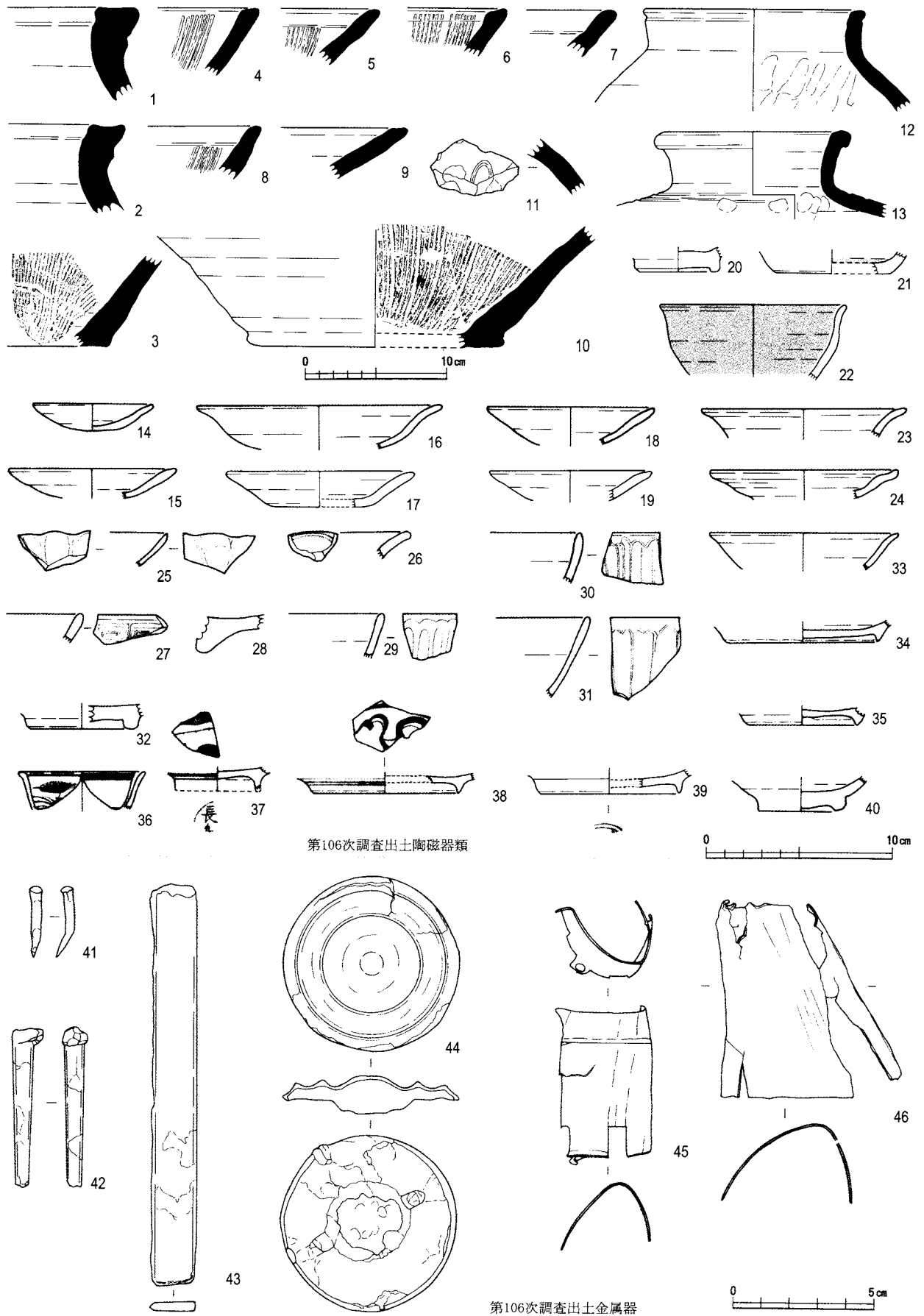
**青磁** 25は輪花皿である。27～32は碗であり、27の口縁部に雷文が陰刻されている。29・30は蓮弁が陰刻され、31は蓮弁が線描きされている。

**染付** 36～39は染付皿である。38の見込みには玉取り獅子文が施されている。

**金属器** 41・42は鉄釘であり、釘頭はL字に折れる。43は刀の小柄であり、14.4cmを測る。44は銅製の釘隠し金具と考えられ、径6.3cm、厚さ1.3cmを測り、銅板を鉄地に被せていると考える。45は径3.0cmの棒状部材に被せる飾り金具と見る。一端に複雑な加工がされている。46は銅製の台形錐状の筒形製品であるが、部材の飾り金具と考える。

**石製品** 47はバンドコの蓋であり、側辺に半月状の透孔をもつ。48は円形の石盤である。49は斑結晶質安山岩製の茶臼である。側辺の柄孔の周りに3重の菱形文を陽刻する。径21.7cm、高さ12.7cmを測る。52は径1.8cmの穿孔をもつ提碇と考える。53～58は笏谷石製であり、暗渠などを転用して、穿孔し、錘として使用したと考える。

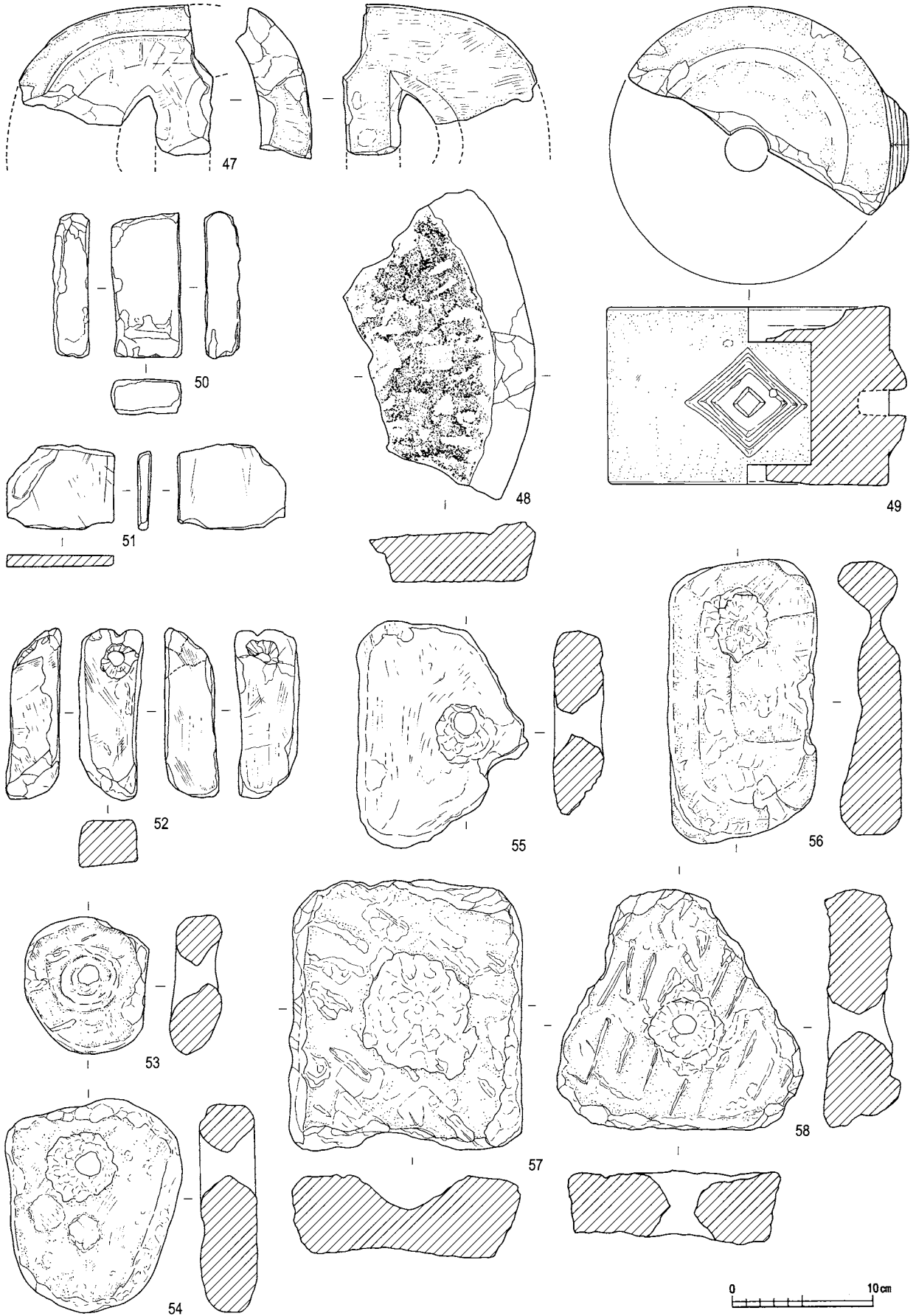




第106次調査出土陶磁器類

第106次調査出土金属器

第49図 第106次調査出土陶磁器類、金属器(縮尺1/2、1/3、1/4)



第50図 第106次調査出土石製品(縮尺 1/4)

第6表 第106次調査出土遺物観察表(PL.31 第49・50図)

陶磁器類(PL.31 第49図)

単位:cm

| No | 器種        | 法量/焼成/色調                                       | 胎土<br>残存                    | 形 状   | 調整 / 文様   | 出土地点<br>備 考         |
|----|-----------|--|-----------------------------|---|---|---------------------|
| 1  | 越前焼<br>甕  | 焼: 良好<br>色: 灰茶色                                | 微砂粒<br>白色粒子<br>精緻<br>1/10以下 | 口縁部:短く上方へ立ち上がる/口端<br>面は浅く凹む/口縁部下位に突帯状の<br>稜線をもつ/口端部内側に段をもつ/<br>シャープなつくり | 外:口縁部ヨコナデ<br>内:口縁部ヨコナデ                              | D区/SK4874           |
| 2  | 越前焼<br>甕  | 焼: 良好<br>色: 淡橙色                                | 微砂粒<br>白色粒子<br>軟質<br>1/10以下 | 口縁部:短く上方へ立ち上がる/口端<br>面は浅く凹む/口縁部下位に突帯状の<br>稜線をもつ/口端部内側に段をもつ/<br>シャープなつくり | 外:口縁部ヨコナデ<br>内:口縁部ヨコナデ                              | A区/遺構面              |
| 3  | 越前焼<br>播鉢 | 焼: 良好<br>色: 茶色                                 | 極砂粒<br>精緻<br>1/10以下         | 体部:直線状に外方へ立ち上がる<br>底部:平底/未調整  | 外:体部:回転ナデ/底部周縁に縄目<br>痕<br>内:回転ナデ<br>内面に幅2.5cm・9条の卸目 | A区/表土<br>B区/表土      |
| 4  | 越前焼<br>播鉢 | 焼: 良好<br>色: 赤橙色                                | 極砂粒<br>白色粒子<br>軟質<br>1/10以下 | 口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/<br>口端部は平坦   | 外:口縁部ヨコナデ<br>内:口縁部ヨコナデ<br>内面に幅2.5cm・7条の卸目           | B区/暗褐色土             |
| 5  | 越前焼<br>播鉢 | 焼: 良好<br>色: 暗茶色                                | 極砂粒<br>白色粒子<br>堅緻<br>1/10以下 | 口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/<br>口端部に弱い稜をもつ/口端部内側に<br>浅い段をもつ                        | 外:口縁部ヨコナデ<br>内:口縁部ヨコナデ<br>内面に幅3.1cm・10条の卸目          | A区/表土<br>D区/表土      |
| 6  | 越前焼<br>播鉢 | 焼: 不良<br>色: 橙褐色                                | 極砂粒<br>軟質<br>1/10以下         | 口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/<br>口端部は浅く凹む/口端部内側に浅い<br>段をもつ                          | 外:口縁部ヨコナデ<br>内:口縁部ヨコナデ<br>内面に幅2.0cm・8条の卸目           | B区/表土               |
| 7  | 越前焼<br>鉢  | 焼: 良好<br>色: 赤橙色                                | 極砂粒<br>白色粒子<br>軟質<br>1/10以下 | 口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/<br>口端部で上方へやや屈曲/口唇部は丸<br>く収める/口端部内側に浅い沈線をも<br>つ        | 外:口縁部ヨコナデ<br>内:口縁部ヨコナデ<br>内面に幅2.0cm・8条の卸目           | C区/表土<br>片口状に歪む     |
| 8  | 越前焼<br>播鉢 | 焼: 良好<br>色: 灰橙褐色                               | 微砂粒<br>白色粒子<br>軟質<br>1/10以下 | 口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/<br>口端部でやや外反する/口唇部は丸く<br>収める/口端部内側に浅い沈線をもつ             | 外:口縁部ヨコナデ<br>内:口縁部ヨコナデ<br>内面に幅2.5cm・10条の卸目          | D区/表土               |
| 9  | 越前焼<br>播鉢 | 焼: 良好<br>色: 赤茶色                                | 微砂粒<br>白色粒子<br>軟質<br>1/10以下 | 口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/<br>口端部は浅く凹む   | 外:口縁部ヨコナデ<br>内:口縁部ヨコナデ<br>内面の卸目不明                   | C区/遺構面<br>内:自然釉     |
| 10 | 越前焼<br>播鉢 | 高: 8.8<br>底: 18.0<br>焼: 良好<br>色: 赤茶色           | 極砂粒<br>白色粒子<br>精緻<br>1/10以下 | 口縁部:直線状に外方へ立ち上がる<br>底部:平底   | 外:口縁部~体部回転ナデ/底部未調<br>整<br>内:回転ナデ<br>内面に幅2.4cm・7条の卸目 | C区/黄灰色土<br>C区/遺構面   |
| 11 | 越前焼<br>壺  | 焼: 良好<br>色: 黒茶色                                | 極砂粒<br>精緻<br>1/10以下         | 胴部:胴上位の破片/ヘラ記号あり  | 外:胴部ナデ<br>内:胴部ナデ                                    | C区/黄灰色土             |
| 12 | 越前焼<br>壺  | 口: 15.8<br>高: 6.7<br>最: 22.6<br>焼: 良好<br>色: 茶色 | 微砂粒<br>白色粒子<br>精緻<br>1/10以下 | 口縁部:短く上方へ立ち上がる/口端<br>面は平坦/口端部上位に沈線がめぐる<br>胴部:中位で張る                      | 外:口縁部ヨコナデ/胴部上位ナデ<br>内:口縁部ヨコナデ/胴部上位指頭痕               | C区/遺構面              |
| 13 | 越前焼<br>壺  | 口: 12.6<br>高: 6.0<br>焼: 良好<br>色: 暗こげ茶色         | 極砂粒<br>白色粒子<br>精緻<br>1/10以下 | 口縁部:短く外傾して立ち上がる/口<br>端部は丸みをもつ/口端部外端は玉縁<br>状に把厚<br>胴部:頸部下位に沈線2条          | 外:口縁部ヨコナデ/胴部上位ナデ<br>内:口縁部ヨコナデ/胴部上位指頭痕               | B区/暗褐色土<br>胴部上位:自然釉 |
| 14 | 土師器<br>小皿 | 口: 6.4<br>高: 1.5<br>底: 2.0<br>焼: 良好<br>色: 橙褐色  | 極砂粒<br>軟質<br>1/4            | 口縁部:やや内湾して外方へ立ち上<br>がる/口端部はやや外傾する/口唇部は<br>丸く収める<br>底部:丸底                | 外:口縁部ヨコナデ/底部無調整<br>内:口縁部~底部ナデ                       | 表土                  |
| 15 | 土師器<br>小皿 | 口: 9.0<br>高: 1.0<br>焼: 良好<br>色: 橙褐色            | 極砂粒<br>軟質<br>1/10以下         | 口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/<br>口唇部は丸く収める<br>底部:平底                                 | 外:口縁部ナデ<br>内:口縁部ナデ                                  | A区/遺構面              |
| 16 | 土師器<br>小皿 | 口: 13.0<br>高: 2.4<br>焼: 良好<br>色: 淡褐色           | 極砂粒<br>軟質<br>1/10以下         | 口縁部:やや内湾して外方へ立ち上<br>がる/口端部はやや外傾する/口唇部は<br>丸く収める                         | 外:口縁部ヨコナデ<br>内:口縁部ヨコナデ                              | 表土                  |
| 17 | 土師器<br>小皿 | 口: 10.0<br>高: 2.0<br>底: 5.0<br>焼: 良好<br>色: 淡橙色 | 極砂粒<br>軟質<br>1/10以下         | 口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/<br>口唇部は丸く収める<br>底部:平底                                 | 外:口縁部ヨコナデ/底部無調整<br>内:口縁部ヨコナデ/底部ナデ<br>型作り            | B区/黄灰色土             |

## 2. 遺物

単位: cm

| No | 器種        | 法量/焼成/色調                               | 胎土<br>残存            | 形 状   | 調整 / 文様                          | 出土地点<br>備 考                 |
|----|-----------|--|---------------------|---|----------------------------------|-----------------------------|
| 18 | 土師器<br>小皿 | 口: 9.0<br>高: 2.0<br>焼: 良好<br>色: 橙褐色    | 極砂粒<br>軟質<br>1/10以下 | 口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/<br>口唇部は丸く収める                            | 外:口縁部ヨコナデ<br>内:口縁部ヨコナデ           | C区/遺構面                      |
| 19 | 土師器<br>小皿 | 口: 8.5<br>高: 1.6<br>焼: 良好<br>色: 橙褐色    | 極砂粒<br>軟質<br>1/6    | 口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/<br>口唇部は丸く収める                            | 外:口縁部~底部未調整<br>内:口縁部~底部ナデ        | 表土<br>外:口端部スス付着             |
| 20 | 鉄釉<br>天目碗 | 高: 1.3<br>底: 4.3<br>焼: 良好<br>色: 黒灰色    | 極砂粒<br>堅緻<br>1/10以下 | 底部:削り出し高台/端面外縁面取り   |                                  | C区/黄灰色土<br>瀬戸・美濃<br>外:底部釉ハゲ |
| 21 | 鉄釉<br>壺   | 高: 1.3<br>底: 6.3<br>焼: 良好<br>色: 暗灰色    | 極砂粒<br>堅緻<br>1/10以下 | 底部:平坦   | 外:体部下位回転ヘラケズリ<br>内:体部下位回転ナデ      | B区/暗褐色土<br>瀬戸・美濃<br>内:鉄釉    |
| 22 | 鉄釉<br>天目碗 | 口: 10.4<br>高: 4.0<br>焼: 良好<br>色: 黒茶色   | 極砂粒<br>堅緻<br>1/10   | 口縁部は直線状に斜め外方へ立ち上<br>がり、口縁部上位でやや上方へ屈曲。<br>口唇部は短く外傾し丸く収める   | 外:口縁部~体部下位回転ナデ<br>内:口縁部~体部下位回転ナデ | C区/遺構面<br>瀬戸・美濃<br>外:底部釉ハゲ  |
| 23 | 灰釉<br>小皿  | 口: 11.0<br>高: 1.5<br>焼: 良好<br>色: 灰緑色   | 極砂粒<br>精緻<br>1/10以下 | 口縁部:外反して立ち上がる/口唇部<br>は丸く収める                               | 外:口縁部~体部下位回転ナデ<br>内:口縁部~体部下位回転ナデ | C区/遺構面                      |
| 24 | 灰釉<br>小皿  | 口: 10.0<br>高: 1.7<br>焼: 不良<br>色: 灰緑色   | 極砂粒<br>精緻<br>1/8    | 口縁部:緩やかに内湾して外方へ立ち<br>上がる/口端部は弱く外傾する/口唇<br>部は丸く収める         | 外:口縁部回転ナデ<br>内:口縁部ヨコナデ           | C区/遺構面                      |
| 25 | 青磁<br>輪花皿 | 高: 2.0<br>焼: 良好<br>色: 透オリブ色            | 精緻<br>1/10以下        | 口縁部:やや内湾して外方へ立ち上<br>がる/口唇部は丸く収める/口唇部は波<br>状/外面は花卉状に膨らみをもつ | 外:無文<br>内:無文                     | C区/遺構面                      |
| 26 | 青磁<br>皿   | 焼: 良好<br>色: 透オリブ色                      | 精緻<br>1/10以下        | 口縁部:緩やかに外反して外方へ立ち<br>上がる/口唇部は丸く収める                        | 内:暗文                             | C区/遺構面                      |
| 27 | 青磁<br>碗   | 焼: 良好<br>色: 透オリブ色                      | 精緻<br>1/10以下        | 口縁部:緩やかに内湾して外方へ立ち<br>上がる/口唇部は丸く収める                        | 内:雷文                             | B区/暗褐色土                     |
| 28 | 青磁<br>盤   | 焼: 良好<br>色: 透オリブ色                      | 精緻<br>1/10以下        | 底部:高台はハの字に踏ん張る/口端<br>面は平坦/端面内側で接地                         |                                  | 表土                          |
| 29 | 青磁<br>碗   | 焼: 良好<br>色: 透オリブ色                      | 精緻<br>1/10以下        | 口縁部:緩やかに内湾して外方へ立ち<br>上がる/口唇部は丸く収める                        | 外:線描き蓮華文                         | 表土                          |
| 30 | 青磁<br>碗   | 焼: 良好<br>色: 透オリブ色                      | 精緻<br>1/10以下        | 口縁部:緩やかに内湾して外方へ立ち<br>上がる/口唇部は丸く収める                        | 外:線描き蓮華文                         | 表土                          |
| 31 | 青磁<br>碗   | 焼: 良好<br>色: 透オリブ色                      | 精緻<br>1/10以下        | 口縁部:緩やかに内湾して外方へ立ち<br>上がる/口唇部は丸く収める                        | 外:線描き蓮華文                         | D区/SK4874                   |
| 32 | 青磁<br>碗   | 高: 1.3<br>底: 5.4<br>焼: 良好<br>色: 透オリブ灰色 | 精緻<br>1/10以下        | 底部:高台端面は平坦/端面外縁は面<br>取り                                   |                                  | 表土<br>外:底面釉ハゲ               |
| 33 | 白磁<br>皿   | 口: 10.0<br>高: 2.0<br>焼: 良好<br>色: 白色    | 精緻<br>1/10以下        | 口縁部:やや内湾して外方へ立ち上<br>がる/口端部はやや外傾する/口唇部は<br>丸く収める           |                                  | 表土                          |
| 34 | 白磁<br>皿   | 高: 1.2<br>底: 8.0<br>焼: 良好<br>色: 透白色    | 精緻<br>1/6           | 底部:高台端面は鋭角  |                                  | 表土<br>外:高台端面釉ハゲ             |
| 35 | 白磁<br>皿   | 高: 0.9<br>底: 5.9<br>焼: 良好<br>色: 透白色    | 精緻<br>1/6           | 底部:高台端面は鋭角  |                                  | B区/黄灰色土<br>外:高台端面釉ハゲ        |
| 36 | 染付<br>皿   | 口: 6.6<br>高: 2.0<br>焼: 良好<br>色: 透灰白色   | 精緻<br>1/10以下        | 口縁部:内湾して外方へ立ち上がる/<br>口端部は外反し口唇部は丸く収める                     | 外:口縁部に呉須圏線1/呉須絵<br>内:口縁部に呉須圏線1   | 表土                          |
| 37 | 染付<br>皿   | 高: 1.2<br>底: 4.6<br>焼: 良好<br>色: 透白色    | 精緻<br>1/10以下        | 底部:高台端面欠損   | 外:高台上位に呉須圏線2/底面に「長」<br>内:底部に呉須絵  | B区/暗褐色土                     |
| 38 | 染付<br>皿   | 高: 0.8<br>底: 7.7<br>焼: 良好<br>色: 透白色    | 精緻<br>1/10以下        | 底部:高台端面は鋭角  | 外:高台上位に呉須圏線2<br>内:底部に呉須絵         | B区/暗褐色土<br>外:高台端面釉ハゲ        |

## VI. 第106次調査

単位:cm

| No | 器種              | 法量/焼成/色調                             | 胎土<br>残存     | 形 状                    | 調整 / 文様  | 出土地点                               |
|----|-----------------|--------------------------------------|--------------|------------------------|----------|------------------------------------|
|    |                 |                                      |              |                        |          | 備 考                                |
| 39 | 染付皿             | 高: 1.0<br>底: 7.4<br>焼: 良好<br>色: 透白色  | 精緻<br>1/10以下 | 底部:高台端面は鋭角             | 外:底面に具須絵 | 表土                                 |
| 40 | 鉄釉<br>中国<br>天目碗 | 高: 1.8<br>底: 4.4<br>焼: 良好<br>色: 濃黒茶色 | 精緻<br>1/6    | 底部:高台端面は平坦/端面内側で接<br>地 |          | 表土<br>外:体部下位~高台<br>一部釉ハゲ/底面釉<br>ハゲ |

## 金属器(PL. 31 第49区)

単位:cm/g

| No | 器種        | 法量(最大値) |     |      |      | 残存   | 材質<br>色調   | 調 整・特 徴   | 備 考     | 出土地点    |
|----|-----------|---------|-----|------|------|------|------------|---|---------|---------|
|    |           | 長       | 幅   | 厚    | 重    |      |            |   |         |         |
| 41 | 鉄釘        | 2.5     | 0.3 | 0.3  | 0.5  | 1/1  | 鉄製品<br>暗茶色 | 釘頭は折り曲げて平坦  |         | C区/遺構面  |
| 42 | 鉄釘        | 5.6     | 0.9 | 0.6  | 9.9  | 4/5  | 鉄製品<br>暗茶色 | 釘頭は折り曲げた後平坦   |         | C区/遺構面  |
| 43 | 小柄        | 14.4    | 1.6 | 0.3  | 41.4 | 1/10 | 鉄製品<br>黄褐色 |   |         | C区/黄褐色土 |
| 44 | 釘隠し<br>金具 | 6.3     | 6.3 | 1.3  | 53.0 | 1/1  | 銅製品<br>青銅色 | 表面:鉄地銅板張り/2重の突帯同心円<br>裏面:中央に径0.5cmの金属製の棒を通す   | 裏面に木質付着 | C区/黄褐色土 |
| 45 | 飾り金具      | 5.5     | 3.3 | 0.05 | 10.1 | 1/2  | 銅製品<br>青銅色 | 径約3.0cmの棒状部材に被せる飾り金具と推定/<br>上位に突線1条/下位に3mm×6mmの板状の張り出<br>し/径1.5mmの釘留孔を設ける/下位に1.1cm×0.6<br>cmの長方形の切れ込みあり |         | 表土      |
| 46 | 飾り金具      | 7.0     | 6.0 | 0.05 | 19.1 | 1/2  | 銅製品<br>青銅色 | 台形錐状の筒形金具   |         | 表土      |

## 石製品(PL. 31 第50区)

単位:cm/g

| No | 器種        | 法量(最大値) |      |      |       | 残存  | 石材<br>色調<br>材質          | 調 整・特 徴  | 備 考                      | 出土地点    |
|----|-----------|---------|------|------|-------|-----|-------------------------|--|--------------------------|---------|
|    |           | 長径      | 短径   | 厚    | 重     |     |                         |  |                          |         |
| 47 | バンドコ      | 13.8    | 10.7 | 3.6  | -     | 1/4 | 笏谷石<br>淡緑灰色<br>軟質       | バンドコの蓋/表面:笠状に成形/平滑/側面に半<br>月状の透孔を入れる/中央に長方形の透孔を入<br>れると推定/裏面:周縁に段をつくる  | 外:平面D型<br>内:スス付着         | B区/黄褐色土 |
| 48 | 石盤        | 22.5    | 13.7 | 4.3  | -     | 1/8 | 笏谷石<br>淡緑灰色<br>軟質       | 形状:円形/口縁部欠損/口縁部幅3.0cm<br>外:底面平滑<br>内:底面タタキ痕  |                          | C区      |
| 49 | 茶臼<br>上臼  | 21.7    | 20.0 | 12.7 | -     | 1/2 | 斑晶質<br>安山岩<br>暗灰色<br>硬質 | 上端面:径14.2cm×深さ1.7cmの凹みの中央に径<br>3.1cmの円形穿孔を入れる/周縁幅3.0cm<br>側面:3重菱形陽刻/長軸8.8cm×短軸7.9cm/中央<br>に1辺1.7cm×深さ3.3cmの方形柄孔<br>下端面:8分割主線/1分割内に副線15~16条 | 全体平滑                     | 地区不明    |
| 50 | 砥石        | 10.3    | 5.0  | 2.5  | 220.6 | 4/5 | 凝灰岩<br>白褐色<br>硬質        | 形状:板状直方体/上端部一部欠損/表裏面・左右<br>側面・下端面は平滑な砥面  | 砥面5<br>粒度:密<br>中砥(浄教寺砥石) | 表土      |
| 51 | 砥石        | 7.6     | 6.0  | 0.7  | 63.9  | -   | 粘板岩<br>灰白色<br>硬質        | 形状:板状/下端部欠損/表裏面・左右側面・上端<br>面一部は平滑な砥面   | 砥面5<br>粒度:密<br>中砥        | B区/暗褐色土 |
| 52 | 砥石        | 12.3    | 4.5  | 3.8  | 295.2 | 4/5 | 凝灰岩<br>淡茶色<br>硬質        | 形状:柱状直方体/上下端部欠損/表裏面・左右側<br>面は平滑な研面/上位に外径1.8cmの孔を両面穿<br>孔し提砥に成形   | 砥面4<br>粒度:密<br>中砥        | 地区不明    |
| 53 | 有孔<br>石製品 | 9.9     | 8.5  | 3.2  | 297.1 | 1/1 | 笏谷石<br>淡緑灰色<br>軟質       | 形状:不整円形/上端部右端・下端部に砥痕/表裏<br>面平滑/中央に外径4.2cmの孔を両面穿孔/孔面は<br>平滑   |                          | C区/黄灰色土 |
| 54 | 有孔<br>石製品 | 15.3    | 12.4 | 4.1  | -     | 1/1 | 笏谷石<br>淡緑色<br>軟質        | 形状:不整円形/上端部中央・表面一部・右側辺・<br>に砥痕/表裏面平滑/右側边上位・下端部敲打/中<br>心に外径4.2cmの孔を両面穿孔   |                          | 地区不明    |
| 55 | 有孔<br>石製品 | 16.3    | 11.6 | 3.9  | -     | 1/2 | 笏谷石<br>淡緑灰色<br>軟質       | 形状:板状/右側面欠損/表面・左側面一部は平滑<br>/上端面タガネ痕/下端部敲打/下端面敲打中央に<br>外径4.5cmの孔を両面穿孔/穿孔面は敲打  | 暗渠蓋材の転用<br>品             | 表土      |
| 56 | 有孔<br>石製品 | 20.2    | 10.5 | 4.6  | -     | 1/1 | 笏谷石<br>灰緑色<br>軟質        | 形状:板状/表面浅く凹む/裏面平坦/左側面一部<br>擦痕/上位に外径5.5cmの孔を両面に入れるが貫<br>通せず/穿孔面は敲打  |                          | 表土      |
| 57 | 有孔<br>石製品 | 19.2    | 16.4 | 5.9  | -     | 1/1 | 笏谷石<br>灰緑色<br>軟質        | 形状:板状/上下端部欠損/表面平坦・タガネ痕・<br>敲打/裏面:敲打/左右側面タガネ痕/表面中央に<br>外径8.2cm×深さ2.5cmの凹み/凹面は敲打   | 暗渠蓋材の転用<br>品             | 地区不明    |
| 58 | 有孔<br>石製品 | 17.2    | 17.6 | 5.0  | -     | 4/5 | 笏谷石<br>淡緑色<br>軟質        | 形状:三角板状/左右側面欠損/表裏面・下端面タ<br>ガネ痕/中央に外径4.5cmの孔を両面穿孔/穿孔面<br>は敲打  | 暗渠蓋材の転用<br>品             | B区/暗褐色土 |

## Ⅶ. 第109次調査【城戸ノ内町新御殿】

### 1. 遺構(PL.18~20 第51図)

第109次調査は、城戸ノ内町新御殿に位置し、朝倉館跡の外濠を挟んだ南西の平地に立地する。標高は53mを測る。周辺には、東に湯殿跡や中の御殿跡、南に諏訪館跡といった重要施設が集中する(PL.18 第3図)。調査面積は2,000㎡であり、調査期間は平成12年(2000)11月2日~同年12月20日である(文15)。調査グリッドは1辺3.0mのグリッドを西東方向に4~16、北南方向にA~Sを設定した。以下、概要を述べる。

**SA4952**(PL.19 第52図) A~P4に位置。屋敷を区画する西側土塁石垣であり、延長47.3m、幅2.0mを測る。北端では朝倉館跡の南濠に接続する。

**SI4953**(PL.19 第51図) N4に位置。門跡であり、北側は土塁石垣SA4952、南は土塁石垣SA4954が接続する。

**SA4954**(PL.19 第51図) S4に位置。SA4952に接続する土塁石垣であり、幅3.0mを測る。

**SA4960**(PL.20 第51図) P5に位置。南側で検出された土塁石垣である。延長1.8m、幅1.1mを測る。SA4952より主軸方向を45°東へ向け、下層遺構の土塁と考える。

**SS4951**(PL.19 第51図) 屋敷跡西側を通る道路である。石敷遺構であるが規模は不明である。旧一乗谷川に並行していたと考えられる。

**SK4967**(PL.20 第51図) E~H11~12に位置。不定形の大型土坑である。長軸11.0m、短軸約7.0m、深さ約0.6mを測る。覆土は炭化物を多く含み、土師器小皿を主体とした陶磁器類に加え、サザエの貝殻が多く検出された。宴席もしくは火災後の整理に伴う廃棄土坑と考える。

その他、朝倉館跡に接続する門跡を確認するため、調査区北東隅に2~4トレンチを設定したが、土塁石垣の残骸を検出したばかりにとどまった。屋敷跡の建物自体は広く削平されたと考える。

### 2. 遺物(PL.32~34 第52~56図 第7表)

遺物は、陶磁器類として越前焼播鉢・甕、土師器小皿・耳皿、鉄釉天目碗、灰釉碗・皿・壺・香炉・卸皿、青磁碗・皿・香炉、白磁碗・皿、染付碗・皿等が出土し、その他、金属器、石製品、銭貨が出土した。詳細は第7表に記す。以下、主要な陶磁器類の概要を述べる。

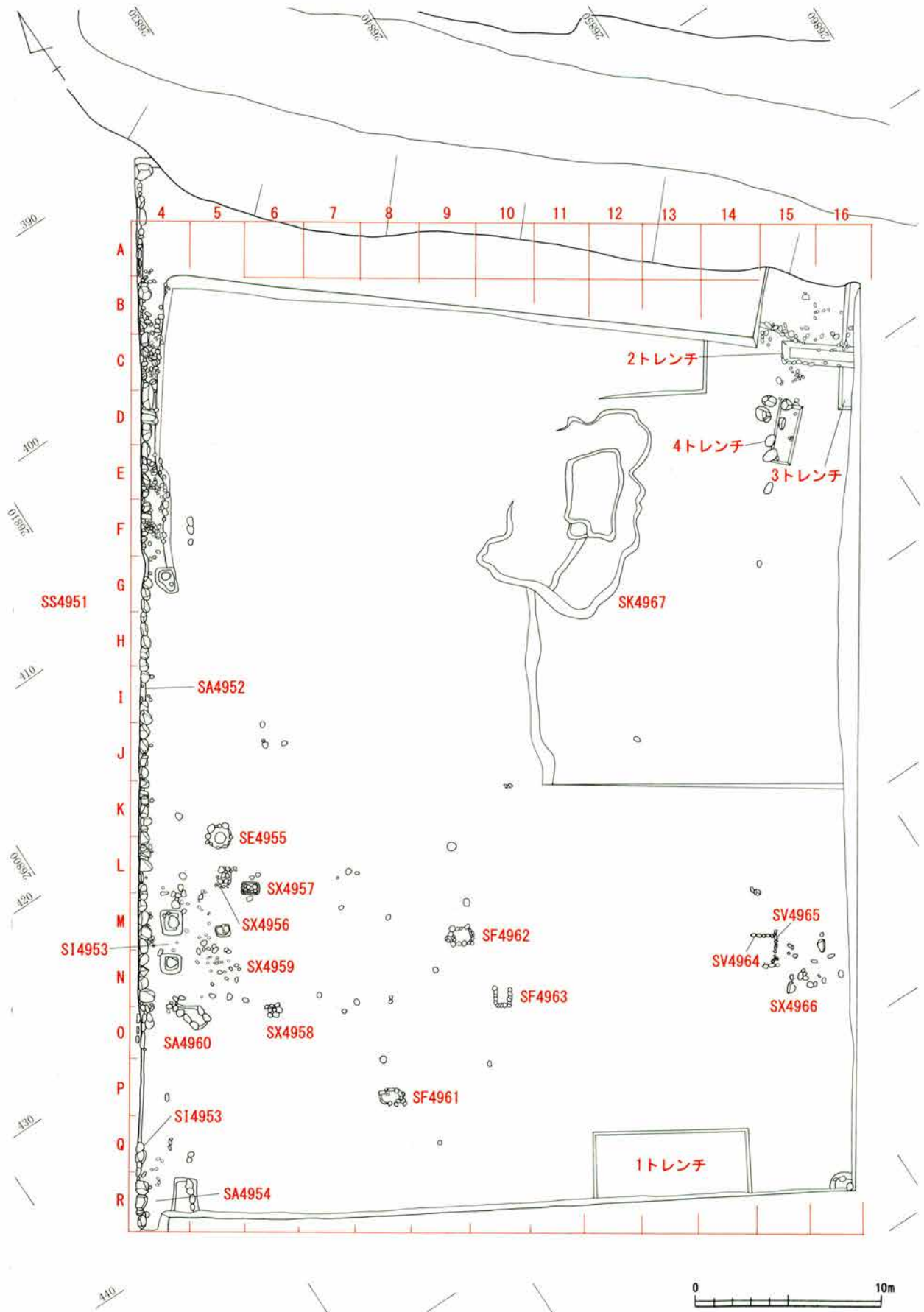
#### 包含層出土陶磁器類(PL.32 第52~54図 第7表)

越前焼は播鉢が多く、7~12・15~19が検出された。7・9の内面には曲線の卸目がある。19の内面にはヘラ記号の一部が見える。土師器は小皿20~33を検出した。B・C類が中心であり、35は底部中央が凹むヘソ皿である。羽釜37は外面にススが付着する。瀬戸・美濃製品は、鉄釉天目碗38~43、瓶44、灰釉陶器45~53を検出した。50は水注、51は香炉であり、3つの脚部は形骸化して接地しない。52・53は卸皿であり、52は見込みに卸目を施し、53は52の2倍の口径を測る。中国製陶磁器には、青磁碗56~69を検出した。56~58・67には線描きの蓮弁文を施す。59は鎬蓮弁文を施す。70は香炉である。白磁皿72~75・77・78は内湾する小型品である。77・78は割高台をもつ。染付皿88・89は底部中央を削り込んでいる。

#### 遺構出土陶磁器類(PL.33・34 第54・55図 第7表)

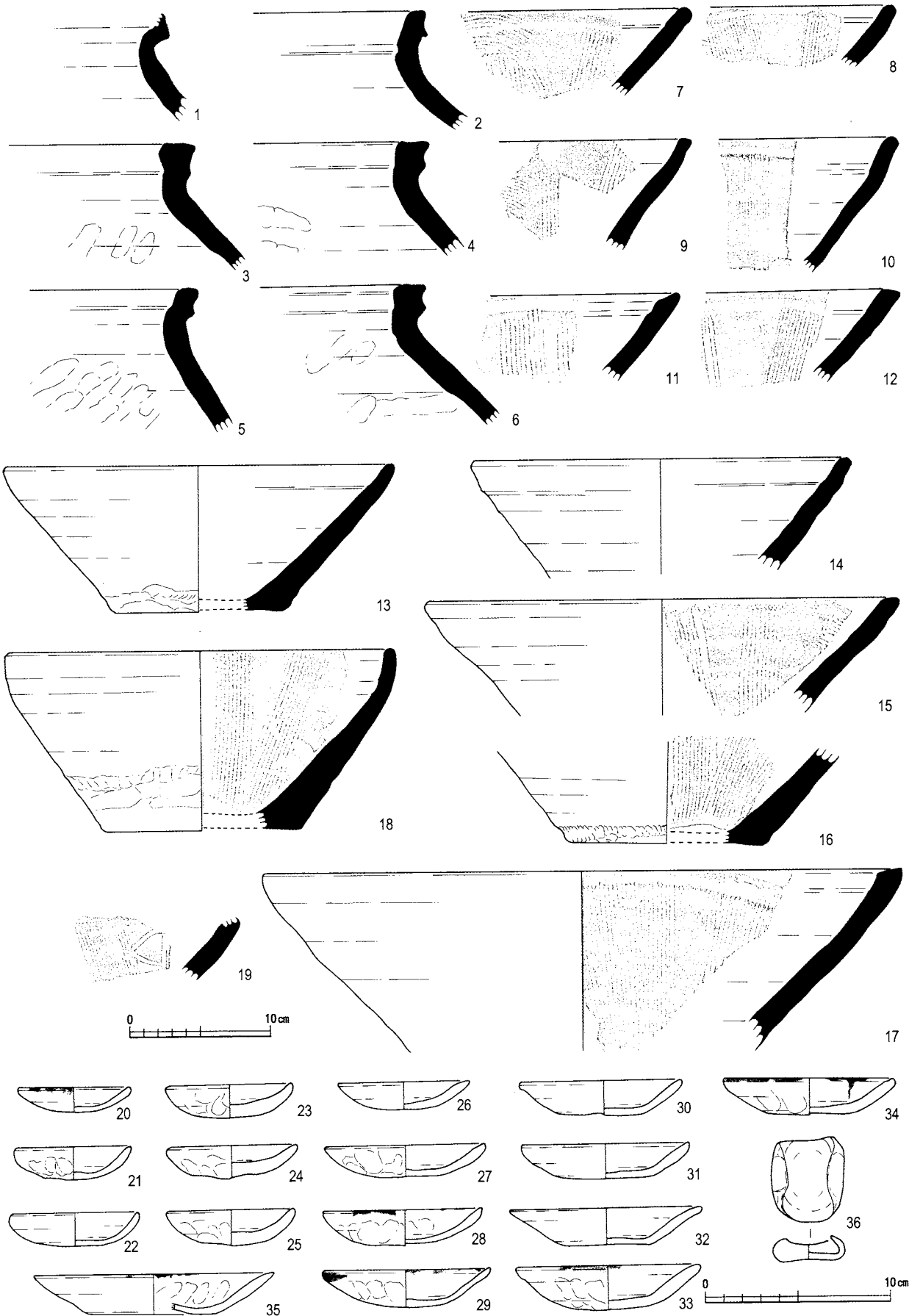
**SK4967 出土**(PL.33・34 第54・55図) 越前焼は播鉢98~101と鉄鉢形の鉢95・96などを検出した。土師器は圧倒的量を占め、小皿102~142。耳皿143を検出した。A~D類がほぼ出土している。瀬戸・美濃製品では天目碗144~154、茶入れ155、灰釉碗156・157がある。

**SE4955 出土**(PL.34 第56図) 越前焼播鉢163が検出され、土師器小皿164・165、羽釜166にはススが付着していた。調理具、供膳具、煮沸具をセットにした祭祀具の可能性はある。



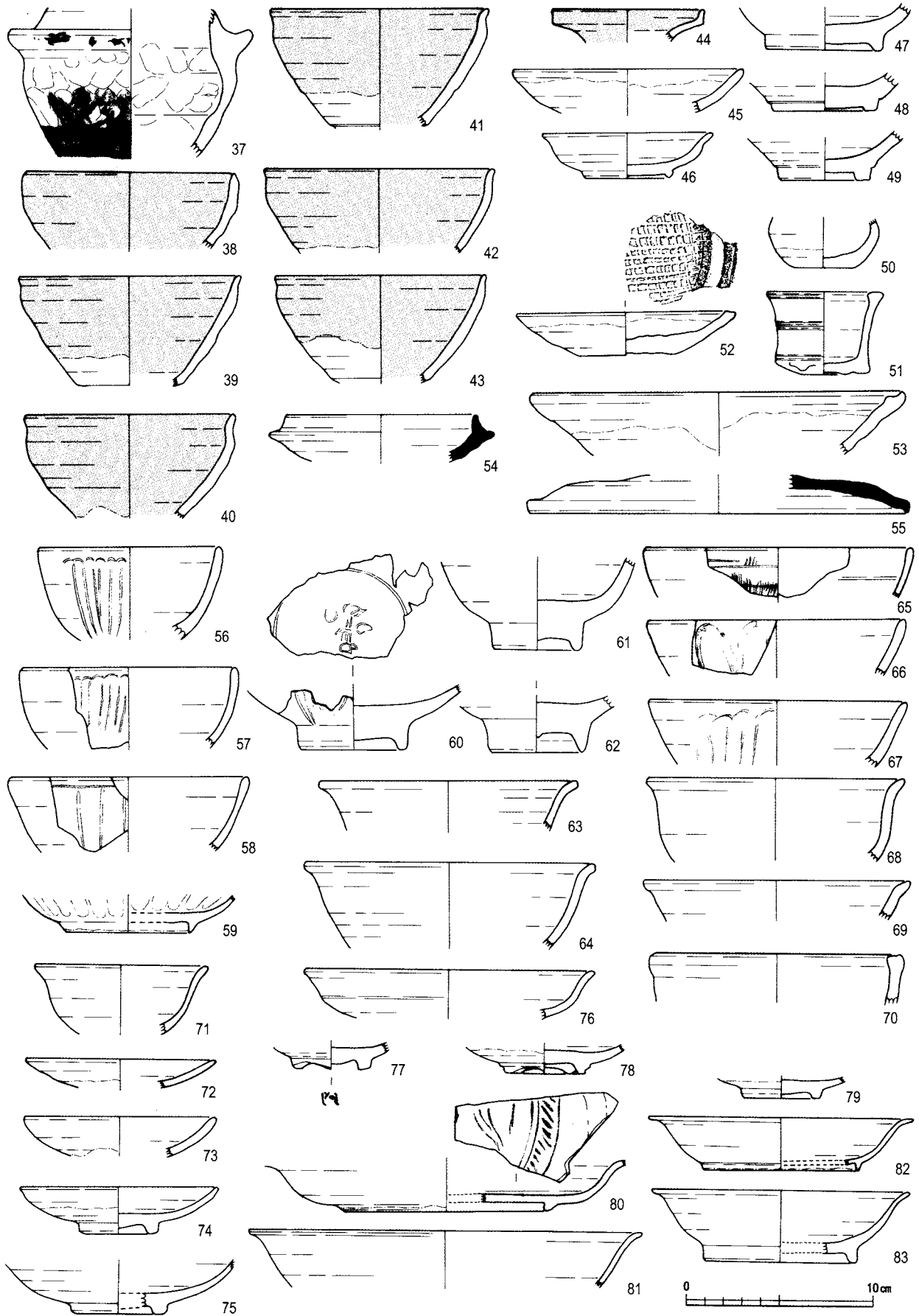
第51図 第109次調査区遺構全体図(縮尺 1/300)

2. 遺物



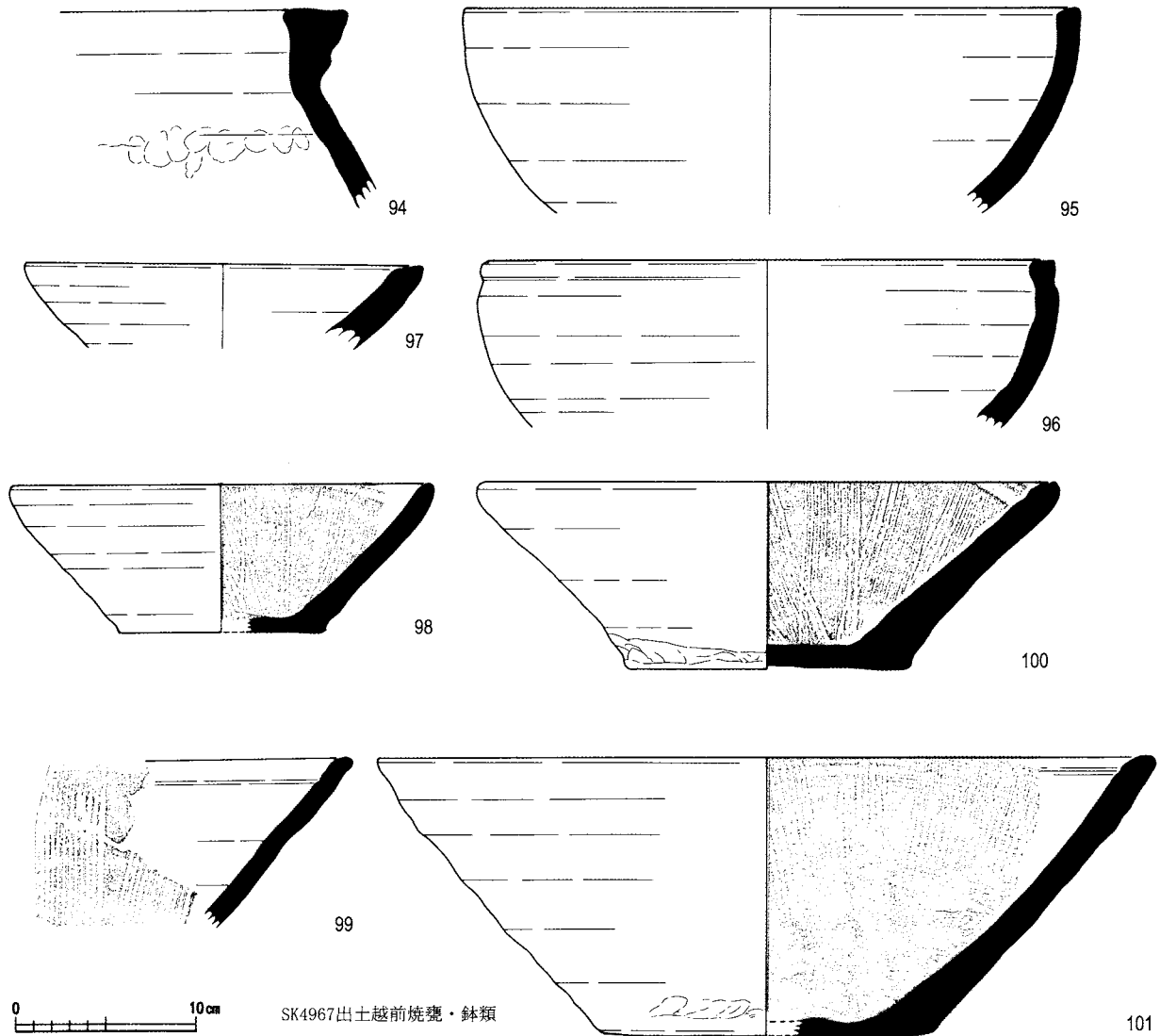
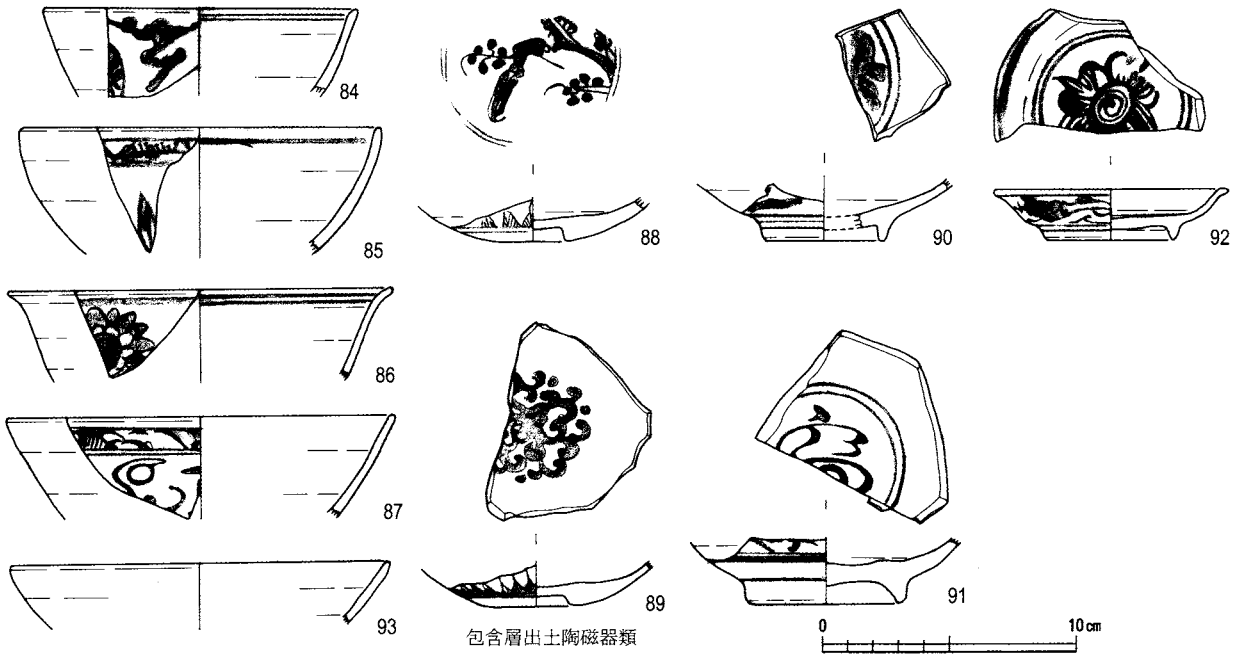
第 52 図 第109次調査包含層出土陶磁器類(縮尺 1/3、1/4)



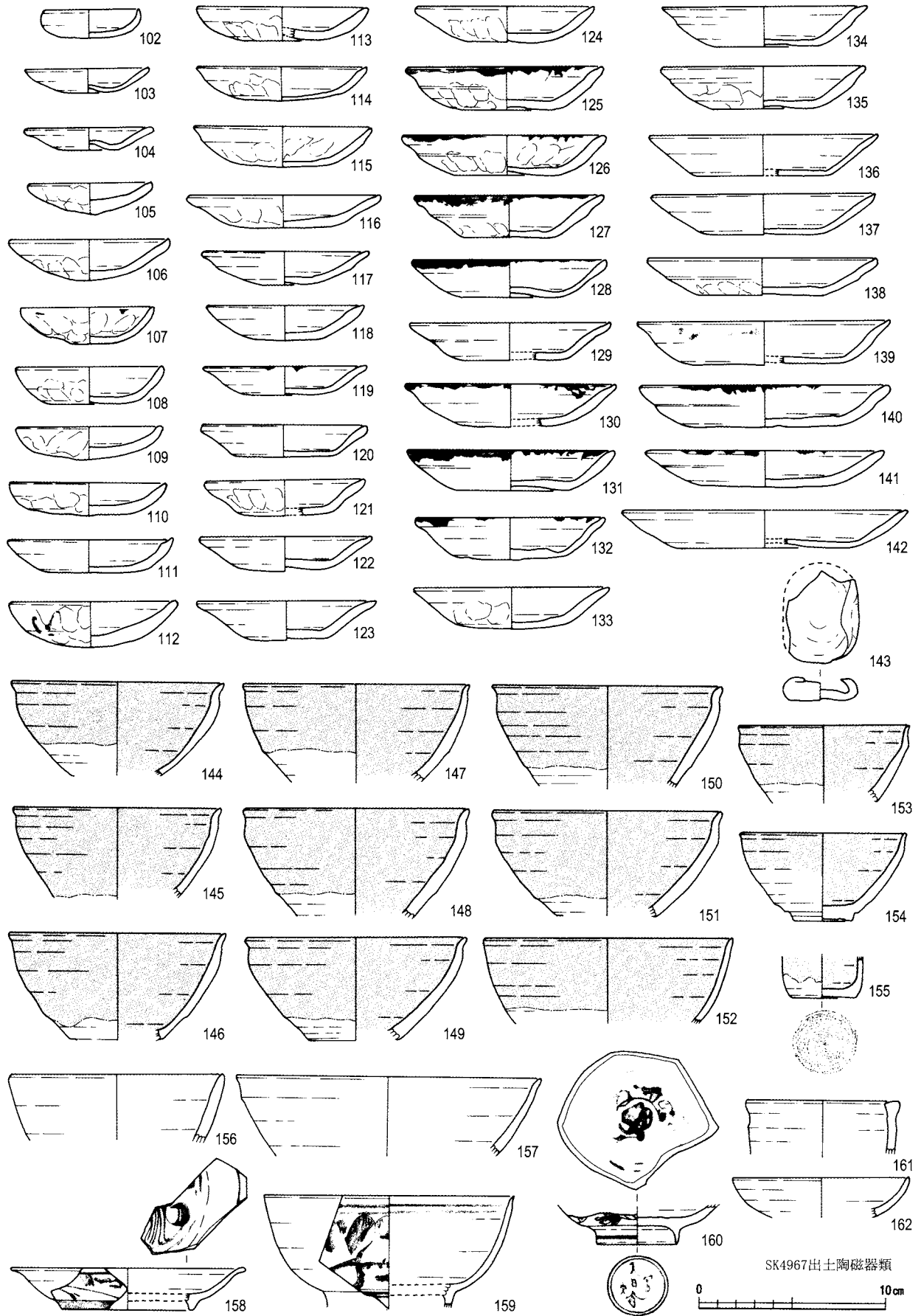


第53圖 第109次調査包含層出土陶磁器類(縮尺1/3)

2. 遺物

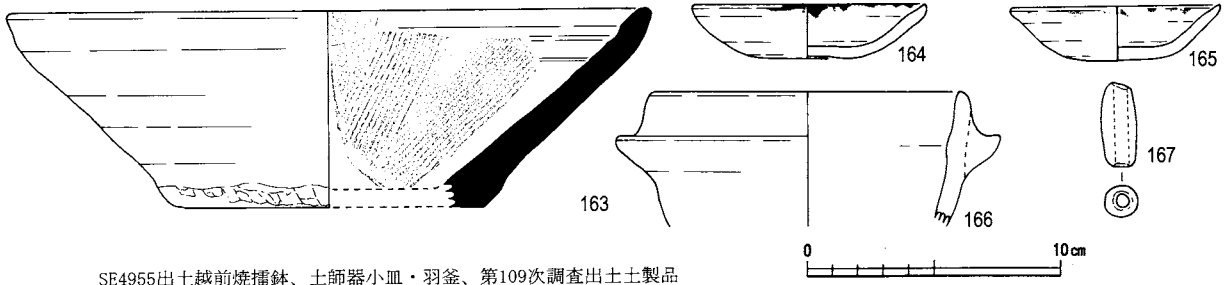


第 54 図 第109次調査包含層・遺構出土陶磁器類(縮尺 1/3、1/4)

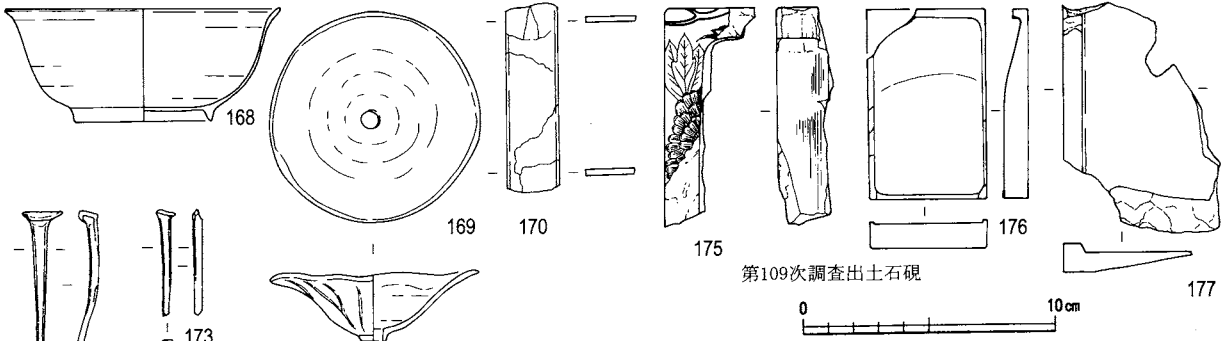


第55図 第109次調査遺構出土陶磁器類(縮尺 1/3)

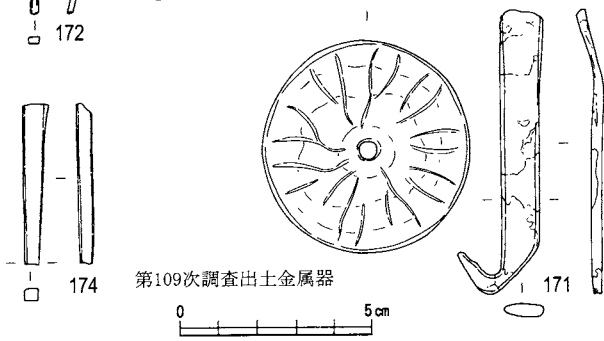
2. 遺物



SE4955出土越前焼播鉢、土師器小皿・羽釜、第109次調査出土土製品



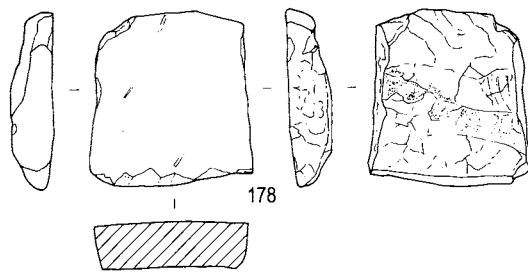
第109次調査出土石硯



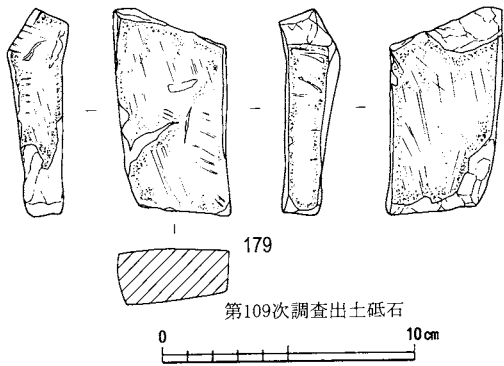
第109次調査出土金属器



第109次調査出土錢貨



第109次調査出土砥石



第56圖 第109次調査遺構出土陶磁器類、金属器、石製品、錢貨(縮尺1/2、1/3、2/3)

第7表 第109次調査出土遺物観察表(PL. 32~34 第52~56図)

包含層出土陶磁器類(PL. 32 第52~54図)

単位:cm

| No | 器種        | 法量/焼成/色調   | 胎土<br>残存                    | 形状   | 調整 / 文様  | 出土地点<br>備考                            |
|----|-----------|--|-----------------------------|--|--|---------------------------------------|
| 1  | 越前焼<br>甕  | 焼: 良好<br>色: 赤茶色                                    | 微砂粒<br>白色粒子<br>精緻<br>1/10以下 | 口縁部:短く外反して立ち上がる/口<br>端面は平坦/口唇部欠損   | 外:口縁部ヨコナデ/胴部上位ナデ<br>内:口縁部ヨコナデ/胴部上位ナデ                                     | 遺構面                                   |
| 2  | 越前焼<br>甕  | 焼: 良好<br>色: 淡茶灰色                                   | 極砂粒<br>白色粒子<br>軟質<br>1/10以下 | 口縁部:短く外反して立ち上がる/口<br>端面は平坦/口縁部中央に突帯状の稜<br>線をもつ/口端部内側に凹線がめぐ<br>る/シャープなつくり | 外:口縁部ヨコナデ/胴部上位ナデ<br>内:口縁部ヨコナデ/胴部上位ナデ                                     | H~J4/遺構面                              |
| 3  | 越前焼<br>甕  | 焼: 良好<br>色: 灰色                                     | 極砂粒<br>白色粒子<br>堅緻<br>1/10以下 | 口縁部:短く上方へ立ち上がる/口端<br>面は浅く凹む/口縁部中央に突帯状<br>の稜線をもつ/口端部内側に段をもつ               | 外:口縁部ヨコナデ/胴部上位ナデ<br>内:口縁部ヨコナデ/胴部上位指頭痕                                    | D~M13/遺構面                             |
| 4  | 越前焼<br>甕  | 焼: 良好<br>色: 淡茶色                                    | 微砂粒<br>精緻<br>1/10以下         | 口縁部:短く上方へ立ち上がる/口端<br>面は平坦/口縁部下位に突帯状の稜<br>線をもつ/口端部内側に段をもつ                 | 外:口縁部ヨコナデ/胴部上位ナデ<br>内:口縁部ヨコナデ/胴部上位指頭痕                                    | SA4952埋土                              |
| 5  | 越前焼<br>甕  | 焼: 良好<br>色: 赤茶色                                    | 極砂粒<br>精緻<br>1/10以下         | 口縁部:短く外反して立ち上がる/口<br>端面は丸みをもつ/口縁部下位に突帯<br>状の稜線をもつ/口端部内側に段をも<br>つ         | 外:口縁部ヨコナデ/胴部上位ナデ<br>内:口縁部ヨコナデ/胴部上位指頭痕                                    | SA4952埋土<br>耕作土<br>外:口縁部~胴部上位<br>自然釉  |
| 6  | 越前焼<br>甕  | 焼: 良好<br>色: 赤茶色                                    | 極砂粒<br>白色粒子<br>精緻<br>1/10以下 | 口縁部:短く上方へ立ち上がる/口端<br>面は平坦/口縁部下位に突帯状の稜<br>線をもつ/口端部内側に段をもつ                 | 外:口縁部ヨコナデ/胴部上位ナデ<br>内:口縁部ヨコナデ/胴部上位指頭痕                                    | D~M13/遺構面                             |
| 7  | 越前焼<br>播鉢 | 焼: 不良<br>色: 白褐色                                    | 極砂粒<br>軟質<br>1/10以下         | 口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/<br>口唇部は丸く収める/口端部内側に凹<br>線をもつ                           | 外:口縁部回転ナデ<br>内:口縁部回転ナデ<br>内面に幅2.5cm・9条の卸目                                | G15・H15/遺構面                           |
| 8  | 越前焼<br>播鉢 | 焼:良好/土師質<br>色: 淡茶灰色                                | 極砂粒<br>白色粒子<br>軟質<br>1/10以下 | 口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/<br>口唇部は丸く収める/口端部内側に凹<br>線をもつ                           | 外:口縁部回転ナデ<br>内:口縁部回転ナデ<br>内面に幅3.6cm・15条の卸目                               | H~J4/遺構面                              |
| 9  | 越前焼<br>播鉢 | 焼: 良好<br>色: 赤茶色                                    | 極砂粒<br>白色粒子<br>堅緻<br>1/10以下 | 口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/<br>口端面は丸みをもつ/口端部でやや膨<br>らみをもつ                          | 外:口縁部回転ナデ<br>内:口縁部回転ナデ<br>内面に幅不明・7条以上の卸目                                 | H~J4/遺構面<br>片口をもつ                     |
| 10 | 越前焼<br>播鉢 | 焼:良好/土師質<br>色: 淡褐色                                 | 極砂粒<br>軟質<br>1/10以下         | 口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/<br>口端部で上位に弱く屈曲する/口唇部<br>は丸く収める                         | 外:口縁部回転ナデ<br>内:口縁部回転ナデ<br>内面に幅3.1cm・8条の卸目                                | 遺構面                                   |
| 11 | 越前焼<br>播鉢 | 焼: 良好<br>色: 白褐色                                    | 極砂粒<br>軟質<br>1/10以下         | 口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/<br>口端部内側に平坦面をもつ/口端部内<br>側に浅い段をもつ                       | 外:口縁部回転ナデ<br>内:口縁部回転ナデ<br>内面に幅2.8cm・9条の卸目                                | 遺構面                                   |
| 12 | 越前焼<br>播鉢 | 焼: 良好<br>色: 淡褐色                                    | 極砂粒<br>白色粒子<br>堅緻<br>1/10以下 | 口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/<br>口唇部は平坦/口端部内側に浅い凹線<br>をもつ/シャープなつくり                   | 外:口縁部回転ナデ<br>内:口縁部回転ナデ<br>内面に幅2.7cm・11条の卸目                               | 遺構面                                   |
| 13 | 越前焼<br>捏鉢 | 口: 28.0<br>高: 10.5<br>底: 12.0<br>焼: 良好<br>色: 濃茶色   | 極砂粒<br>白色粒子<br>精緻<br>1/10以下 | 口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/<br>口端部で上位に弱く屈曲する/口唇部<br>は丸く収める/口端部内側に浅い沈線              | 外:口縁部~体部回転ナデ/底部周<br>縁に焼成前縄目痕<br>内:口縁部~体部回転ナデ                             | H10~J10/遺構面<br>I9・J9/遺構面<br>外:口縁部ヤキムラ |
| 14 | 越前焼<br>捏鉢 | 口: 27.2<br>高: 8.3<br>焼: 良好<br>色: 濃茶色               | 極砂粒<br>白色粒子<br>精緻<br>1/10以下 | 口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/<br>口唇部は丸く収める/口端部内側に段<br>をもつ                            | 外:口縁部~体部回転ナデ<br>内:口縁部~体部回転ナデ後ヘラナ<br>デ                                    | 遺構面<br>外:口縁部降灰                        |
| 15 | 越前焼<br>播鉢 | 口: 34.0<br>高: 8.3<br>焼: 良好<br>色: 赤茶色               | 極砂粒<br>白色粒子<br>堅緻<br>1/10以下 | 口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/<br>口端部はやや膨らむ/口唇部は平坦                                    | 外:口縁部回転ナデ/体部ナデ<br>内:口縁部回転ナデ<br>内面に幅2.8cm・10条の卸目                          | 耕作土                                   |
| 16 | 越前焼<br>播鉢 | 高: 7.0<br>底: 14.0<br>焼: 良好<br>色: 赤茶色               | 極砂粒<br>白色粒子<br>堅緻<br>1/10以下 | 口縁部:直線状に外方へ立ち上がる<br>底部:平坦  | 外:体部回転ナデ/底部に焼成前の<br>縄目痕/底部未調整<br>内:体部回転ナデ/底部摩擦<br>内面に幅2.9cm・11条の卸目       | SA4952埋土                              |
| 17 | 越前焼<br>播鉢 | 口: 43.6<br>高: 13.2<br>焼:良好/土師質<br>色: 橙褐色           | 極砂粒<br>白色粒子<br>軟質<br>1/8    | 口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/<br>口端部は平坦/口端部内側に浅い段を<br>もつ/シャープなつくり                    | 外:口縁部~体部回転ナデ<br>内:口縁部回転ナデ<br>内面に幅2.9cm・10条の卸目                            | H10~J10/遺構面                           |
| 18 | 越前焼<br>播鉢 | 口: 28.0<br>高: 13.0<br>底: 14.0<br>焼:良好/土師質<br>色: 橙色 | 極砂粒<br>白色粒子<br>軟質<br>1/4    | 口縁部:やや内湾して立ち上がる/口<br>端部で上方へ立ち上がる/口唇部は丸<br>く収める                           | 外:口縁部~体部回転ナデ/体部最<br>下位に焼成前の縄目痕/底部未調整<br>内:口縁部~体部回転ナデ<br>内面に幅2.8cm・10条の卸目 | H10~J11/遺構面                           |

## 2. 遺物

単位:cm

| No | 器種        | 法量/焼成/色調                                       | 胎土<br>残存                    | 形 状   | 調整 / 文様   | 出土地点<br>備 考                              |
|----|-----------|--|-----------------------------|---|---|--|
| 19 | 越前焼<br>播鉢 | 焼: 良好/土師質<br>色: 橙褐色                            | 極砂粒<br>白色粒子<br>軟質<br>1/10以下 | 口縁部:直線状に外方へ立ち上がる                                | 外:口縁部～体部回転ナデ<br>内:口縁部～体部回転ナデ<br>内面に幅3.4cm・14条の卸目/ヘラ記号 | 遺構面                                      |
| 20 | 土師器<br>小皿 | 口: 9.0<br>高: 1.9<br>底: 4.6<br>焼: 良好<br>色: 橙褐色  | 極砂粒<br>軟質<br>1/1            | 口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/<br>口唇部は丸く収める<br>底部:丸底         | 外:口縁部ヨコナデ/底部無調整<br>内:口縁部～底部ナデ<br>型作り                  | D15・16/2・3トレンチ<br>片口状に歪む                 |
| 21 | 土師器<br>小皿 | 口: 6.2<br>高: 1.7<br>底: 2.0<br>焼: 良好<br>色: 橙褐色  | 極砂粒<br>軟質<br>4/5            | 口縁部:内湾して外方へ立ち上がる/<br>口唇部は丸く収める<br>底部:丸底         | 外:口縁部ナデ/底部無調整<br>内:口縁部～底部ナデ<br>型作り                    | D15・16/2・3トレンチ<br>片口状に歪む                 |
| 22 | 土師器<br>小皿 | 口: 6.8<br>高: 1.8<br>底: 2.0<br>焼: 良好<br>色: 橙褐色  | 極砂粒<br>軟質<br>1/1            | 口縁部:内湾して外方へ立ち上がる/<br>口唇部は丸く収める<br>底部:丸底         | 外:口縁部ナデ/底部無調整<br>内:口縁部～底部ナデ<br>型作り                    | D15・16/2・3トレンチ<br>片口状に歪む                 |
| 23 | 土師器<br>小皿 | 口: 7.0<br>高: 1.8<br>底: 3.0<br>焼: 良好<br>色: 橙褐色  | 極砂粒<br>軟質<br>1/1            | 口縁部:緩やかに内湾して外方へ立ち<br>上がる/口唇部は丸く収める<br>底部:丸底     | 外:口縁部ナデ・指頭痕/底部無調整<br>内:口縁部～底部ナデ<br>型作り                | 遺構面<br>片口状に歪む                            |
| 24 | 土師器<br>小皿 | 口: 7.0<br>高: 1.8<br>底: 4.0<br>焼: 良好<br>色: 橙褐色  | 極砂粒<br>軟質<br>1/1            | 口縁部:緩やかに内湾して外方へ立ち<br>上がる/口唇部は丸く収める<br>底部:丸底     | 外:口縁部～底部ナデ・指頭痕<br>内:口縁部～底部ナデ<br>型作り                   | 遺構面<br>歪みあり                              |
| 25 | 土師器<br>小皿 | 口: 7.0<br>高: 2.0<br>底: 3.0<br>焼: 良好<br>色: 橙褐色  | 極砂粒<br>軟質<br>1/2            | 口縁部:緩やかに内湾して外方へ立ち<br>上がる/口唇部は丸く収める<br>底部:丸底     | 外:口縁部～底部ナデ・指頭痕<br>内:口縁部～底部ナデ<br>型作り                   | 遺構面<br>歪みあり                              |
| 26 | 土師器<br>小皿 | 口: 7.0<br>高: 1.5<br>底: 3.5<br>焼: 良好<br>色: 橙褐色  | 極砂粒<br>軟質<br>1/1            | 口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/<br>口唇部は丸く収める<br>底部:丸底         | 外:口縁部ヨコナデ/底部無調整<br>内:口縁部～底部ナデ<br>型作り                  | 遺構面<br>歪みあり                              |
| 27 | 土師器<br>小皿 | 口: 8.6<br>高: 1.7<br>底: 3.8<br>焼: 良好<br>色: 橙褐色  | 極砂粒<br>軟質<br>1/2            | 口縁部:緩やかに内湾して外方へ立ち<br>上がる/口唇部は丸く収める<br>底部:丸底     | 外:口縁部～底部ナデ・指頭痕<br>内:口縁部～底部ナデ<br>型作り                   | 遺構面                                      |
| 28 | 土師器<br>小皿 | 口: 8.0<br>高: 2.0<br>底: 3.5<br>焼: 良好<br>色: 橙褐色  | 極砂粒<br>軟質<br>1/4            | 口縁部:緩やかに内湾して外方へ立ち<br>上がる/口唇部は丸く収める<br>底部:丸底     | 外:口縁部～底部ナデ・指頭痕<br>内:口縁部～底部ナデ<br>型作り                   | 遺構面<br>外:口端部スス付着                         |
| 29 | 土師器<br>小皿 | 口: 8.8<br>高: 2.1<br>底: 3.3<br>焼: 良好<br>色: 橙褐色  | 極砂粒<br>軟質<br>2/3            | 口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/<br>口唇部は丸く収める<br>底部:丸底         | 外:口縁部ナデ・指頭痕/底部無調整<br>内:口縁部～底部ナデ<br>型作り                | D15・16/2・3トレンチ<br>外:口端部スス付着<br>内:口端部スス付着 |
| 30 | 土師器<br>小皿 | 口: 9.0<br>高: 1.9<br>底: 4.6<br>焼: 良好<br>色: 橙褐色  | 極砂粒<br>軟質<br>1/1            | 口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/<br>口唇部は丸く収める<br>底部:平底         | 外:口縁部ナデ/底部無調整<br>内:口縁部～底部ナデ<br>型作り                    | D15・16/2・3トレンチ<br>片口状に歪む                 |
| 31 | 土師器<br>小皿 | 口: 9.0<br>高: 1.9<br>底: 4.0<br>焼: 良好<br>色: 橙褐色  | 極砂粒<br>軟質<br>1/2            | 口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/<br>口唇部は上方へツマミ出し丸く収める<br>底部:丸底 | 外:口縁部ナデ/底部無調整<br>内:口縁部～底部ナデ<br>型作り                    | 遺構面<br>片口状に歪む                            |
| 32 | 土師器<br>小皿 | 口: 10.4<br>高: 2.0<br>底: 4.4<br>焼: 良好<br>色: 橙褐色 | 極砂粒<br>軟質<br>1/2            | 口縁部:やや外反して外方へ立ち上<br>がる/口唇部は丸く収める<br>底部:平底       | 外:口縁部ヨコナデ/底部ナデ<br>内:口縁部ヨコナデ/底部ナデ<br>型作り               | 遺構面                                      |
| 33 | 土師器<br>小皿 | 口: 9.9<br>高: 2.5<br>底: 5.3<br>焼: 良好<br>色: 橙褐色  | 極砂粒<br>軟質<br>2/3            | 口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/<br>口唇部は丸く収める<br>底部:丸底         | 外:口縁部ナデ/底部無調整<br>内:口縁部～底部ナデ<br>型作り                    | 遺構面                                      |

Ⅶ. 第 109 次調査

単位: cm

| No | 器種                | 法量/焼成/色調   | 胎土<br>残存            | 形 状   | 調整 / 文様   | 出土地点<br>備 考                                     |
|----|-------------------|--|---------------------|---|---|---|
| 34 | 土師器<br>小皿         | 口: 9.1<br>高: 2.0<br>底: 4.7<br>焼: 良好<br>色: 橙褐色      | 極砂粒<br>軟質<br>1/2    | 口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/<br>口端部内側に端面をもつ/口唇部は上<br>方へツマミ出し丸く収める<br>底部:平底       | 外:口縁部ナデ・指頭痕/底部無調整<br>内:口縁部～底部ナデ<br>型作り                                    | 遺構面   |
| 35 | 土師器<br>小皿         | 口: 12.8<br>高: 2.2<br>底: 6.5<br>焼: 良好<br>色: 橙褐色     | 極砂粒<br>軟質<br>1/4    | 口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/<br>口唇部は丸く収める<br>底部:平底                               | 外:口縁部ナデ・指頭痕/底部無調整<br>内:口縁部～底部ナデ・指頭痕<br>型作り                                | 遺構面<br>底部歪む<br>外:口端部スス付着<br>内:口端部スス付着           |
| 36 | 土師器<br>耳皿         | 長: 4.6<br>幅: 4.0<br>高: 1.1<br>焼: 良好<br>色: 白褐色      | 極砂粒<br>軟質<br>4/5    | 口縁部:左右口縁部を内側に曲げる/<br>口唇部は丸く収める<br>底部:平坦                               | 外:口縁部～底部ナデ<br>内:口縁部～底部ナデ  | G14～15/遺構面<br>H14～15/遺構面                        |
| 37 | 土師器<br>羽釜         | 高: 8.0<br>最: 13.0<br>焼: 良好<br>色: 橙褐色               | 極砂粒<br>軟質<br>1/5    | 口縁部:短く内傾して立ち上がる/受<br>部は平滑   | 外:口縁部～受部ヨコナデ/体部指<br>頭痕<br>内:口縁部～受部ヨコナデ/体部指<br>頭痕                          | D15・16/2・3トレンチ<br>外:胴部スス付着                      |
| 38 | 瀬戸美濃<br>鉄釉<br>天目碗 | 口: 11.0<br>高: 4.2<br>焼: 良好<br>色: 茶色                | 極砂粒<br>精緻<br>1/10以下 | 口縁部:緩やかに内湾して斜め外方へ<br>立ち上がる/口端部でやや上方へ屈曲<br>/口唇部は丸く収める                  | 外:口縁部～体部下位回転ナデ<br>内:口縁部～体部下位回転ナデ  | 遺構面<br>外:口縁部～体部下位<br>鉄釉<br>内:鉄釉                 |
| 39 | 瀬戸美濃<br>鉄釉<br>天目碗 | 口: 11.8<br>高: 6.9<br>焼: 良好<br>色: 黒茶色               | 極砂粒<br>精緻<br>1/8    | 口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上<br>がる/口端部で上方へ屈曲/口唇部は短<br>く外反し丸く収める                   | 外:口縁部～体部下位回転ナデ<br>内:口縁部～体部下位回転ナデ  | D15・16/2・3トレンチ<br>外:口縁部～体部下位<br>鉄釉<br>内:鉄釉      |
| 40 | 瀬戸美濃<br>鉄釉<br>天目碗 | 口: 11.2<br>高: 5.5<br>焼: 良好<br>色: 濃茶色               | 極砂粒<br>精緻<br>1/6    | 口縁部:緩やかに内湾して外方へ立ち<br>上がる/口端部で上方へ屈曲/口唇部<br>は短く外傾し丸く収める                 | 外:口縁部～体部下位回転ナデ<br>内:口縁部～体部下位回転ナデ  | H10～J10/遺構面<br>外:口縁部～体部下位<br>鉄釉<br>内:鉄釉         |
| 41 | 瀬戸美濃<br>鉄釉<br>天目碗 | 口: 11.8<br>高: (7.0)<br>底: (4.2)<br>焼: 良好<br>色: 黒茶色 | 極砂粒<br>精緻<br>1/8    | 口縁部:緩やかに内湾して斜め外方へ<br>立ち上がる/口端部で上方へ屈曲/口<br>唇部は短く外反し丸く収める               | 外:口縁部～体部下位回転ナデ<br>内:口縁部～体部下位回転ナデ  | H10～J11/遺構面<br>外:口縁部～体部下位<br>鉄釉<br>内:鉄釉         |
| 42 | 瀬戸美濃<br>鉄釉<br>天目碗 | 口: 12.2<br>高: 4.5<br>焼: 良好<br>色: 黒茶色               | 極砂粒<br>精緻<br>1/5    | 口縁部:緩やかに内湾して斜め外方へ<br>立ち上がる/口端部で上方へ屈曲/口<br>唇部は短く外傾し丸く収める               | 外:口縁部～体部下位回転ナデ<br>内:口縁部～体部下位回転ナデ  | H10～J12/遺構面<br>外:口縁部～体部中位<br>鉄釉<br>内:鉄釉         |
| 43 | 瀬戸美濃<br>鉄釉<br>天目碗 | 口: 11.0<br>高: 5.7<br>焼: 良好<br>色: 黒茶色               | 極砂粒<br>精緻<br>1/6    | 口縁部:緩やかに内湾して斜め外方へ<br>立ち上がる/口端部で上方へ屈曲/口<br>唇部は短く外傾し丸く収める               | 外:口縁部～体部下位回転ナデ<br>内:口縁部～体部下位回転ナデ  | D15・16/2・3トレンチ<br>外:口縁部～体部中位<br>鉄釉<br>内:鉄釉      |
| 44 | 瀬戸美濃<br>鉄釉<br>瓶   | 口: 8.0<br>高: 1.8<br>焼: 良好<br>色: 黒茶色                | 極砂粒<br>精緻<br>1/10以下 | 口縁部:外反して外方へ立ち上がる/<br>口端部で上方へ屈曲/口唇部は丸く収<br>める                          | 外:口縁部回転ナデ<br>内:口縁部回転ナデ  | 耕作土<br>外:鉄釉<br>内:鉄釉                             |
| 45 | 灰釉<br>皿           | 口: 12.0<br>高: 2.4<br>焼: 良好<br>色: 灰色                | 極砂粒<br>堅緻<br>1/5    | 口縁部:緩やかに内湾して斜め外方へ<br>立ち上がる/口唇部は丸く収める                                  | 外:口縁部～体部下位回転ナデ<br>内:口縁部～体部下位回転ナデ  | H10～J11/遺構面<br>外:口端部灰釉<br>内:口端部灰釉               |
| 46 | 灰釉<br>皿           | 口: 9.1<br>高: 2.5<br>底: 4.5<br>焼: 良好<br>色: 黄緑色      | 極砂粒<br>堅緻<br>1/5    | 口縁部:緩やかに内湾して外方へ立ち<br>上がる/口端部は弱く外反する/口唇<br>部は丸く収める<br>底部:削り出し高台        | 外:口縁部回転ナデ/体部下位回転<br>ヘラケズリ<br>内:口縁部～底部位回転ナデ                                | D15・16/2・3トレンチ<br>外:口縁部～高台灰釉<br>/底部トチン痕<br>内:灰釉 |
| 47 | 灰釉<br>碗           | 高: 2.2<br>底: 6.2<br>焼: 良好<br>色: 透緑黄色               | 極砂粒<br>精緻<br>1/8    | 底部:貼付け高台/高台端面は平坦/端<br>面で接地  | 外:体部下位回転ナデ<br>内:体部下位回転ナデ  | D～M13～16/遺構面<br>外:口縁部～高台灰釉<br>/底部トチン痕<br>内:灰釉   |
| 48 | 灰釉<br>碗           | 高: 2.3<br>底: 5.4<br>焼: 良好<br>色: 透緑黄色               | 極砂粒<br>精緻<br>1/8    | 底部:削り出し高台/高台端面は平坦/<br>端面で接地   | 外:体部下位回転ヘラケズリ/底部<br>回転系切り痕<br>内:体部下位回転ナデ                                  | G15/H15遺構面<br>内:灰釉                              |
| 49 | 灰釉<br>碗           | 高: 2.3<br>底: 5.0<br>焼: 良好<br>色: 透淡緑色               | 極砂粒<br>精緻<br>1/10以下 | 底部:削り出し高台/高台端面は平坦/<br>端面で接地   | 外:体部下位回転ヘラケズリ/底部<br>回転系切り痕<br>内:体部下位回転ナデ                                  | 遺構面<br>内:灰釉                                     |
| 50 | 灰釉<br>壺           | 高: 2.7<br>底: 3.0<br>最: 5.8<br>焼: 良好<br>色: 透淡緑色     | 極砂粒<br>精緻<br>1/4    | 胴部:扁球形<br>底部:平坦   | 外:胴部回転ナデ/底部回転系切り<br>痕<br>内:胴部回転ナデ   | H～J6/遺構面<br>外:胴部下位灰釉<br>内:灰釉                    |
| 51 | 灰釉<br>香炉          | 口: 6.1<br>高: 4.5<br>底: 5.0<br>焼: 良好<br>色: 淡リーブ灰色   | 極砂粒<br>精緻<br>4/5以下  | 口縁部:やや外反して立ち上がる/口<br>端面は平坦/口端部内側突出<br>体部:円筒形/最下位で屈曲<br>底部:舌状の脚が3方向に付く | 外:口縁部～体部下位回転ナデ/底<br>部回転ヘラケズリ/口端部・体部中<br>位・体部最下位に2～3条の条線<br>内:口縁部～体部下位回転ナデ | 遺構面<br>外:灰釉<br>内:灰釉                             |

## 2. 遺物

単位: cm

| No | 器種       | 法量/焼成/色調                                       | 胎土<br>残存                    | 形 状   | 調整 / 文様                                     | 出土地点<br>備 考                                |
|----|----------|--|-----------------------------|---|---|--|
| 52 | 灰釉<br>卸皿 | 口: 11.8<br>高: 2.0<br>底: 5.0<br>焼: 良好<br>色: 灰緑色 | 極砂粒<br>堅緻<br>1/5            | 口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/<br>口端面は浅く凹む                 | 外:口縁部回転ナデ後回転ヘラケズリ/<br>底部回転糸切り痕<br>内:口縁部回転ナデ | 遺構面<br>外:口縁部灰釉<br>内:口縁部灰釉                  |
| 53 | 灰釉<br>卸皿 | 口: 20.0<br>高: 3.3<br>底: 良好<br>色: 透緑黄色          | 極砂粒<br>精緻<br>1/10以下         | 口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/<br>口端面は受口状に浅く凹む             | 外:口縁部回転ナデ<br>内:口縁部回転ナデ                      | H10~J11/遺構面<br>外:口縁部~体部中位<br>灰釉<br>内:口縁部灰釉 |
| 54 | 須恵器<br>杯 | 口: 10.0<br>高: 2.6<br>底: 良好<br>色: 灰色            | 極砂粒<br>白色粒子<br>精緻<br>1/10以下 | 口縁部:内湾して短く上方へ立ち上がる/<br>口唇部は丸く収める/受部は平滑          | 外:口縁部~体部回転ナデ<br>内:口縁部~体部回転ナデ                | 耕作土  |
| 55 | 須恵器<br>蓋 | 口: 20.2<br>高: 2.0<br>底: 良好<br>色: 暗灰色           | 極砂粒<br>堅緻<br>1/5            | 天井部:直線状に外方へのびる/<br>口唇部は下方へ屈曲/口唇部は丸く収める          | 外:口縁部回転ナデ<br>内:口縁部回転ナデ                      | 表土   |
| 56 | 青磁<br>碗  | 口: 10.0<br>高: 5.0<br>底: 良好<br>色: 透オリブ青色        | 精緻<br>1/10以下                | 口縁部:内湾して上方へ立ち上がる/<br>口唇部は丸く収める                  | 外:体部に蓮華文                                    | I9/遺構面<br>J9/遺構面                           |
| 57 | 青磁<br>碗  | 口: 11.8<br>高: 4.3<br>底: 良好<br>色: 透オリブ青色        | 精緻<br>1/10以下                | 口縁部:内湾して上方へ立ち上がる/<br>口唇部は丸く収める                  | 外:体部に蓮華文                                    | 遺構面  |
| 58 | 青磁<br>碗  | 口: 13.0<br>高: 4.0<br>底: 良好<br>色: 透オリブ青色        | 精緻<br>1/10以下                | 口縁部:内湾して上方へ立ち上がる/<br>口唇部は丸く収める                  | 外:体部に蓮華文                                    | 遺構面  |
| 59 | 青磁<br>皿  | 高: 2.0<br>底: 6.6<br>底: 良好<br>色: 透オリブ青色         | 精緻<br>1/8                   | 口縁部:内湾して外方へ立ち上がる<br>底部:高台端面は鋭角                  | 外:体部に蓮華文陽刻<br>内:体部に蓮華文陰刻                    | D15・16/2・3トレンチ<br>外:高台端面釉ハゲ                |
| 60 | 青磁<br>碗  | 高: 3.5<br>底: 5.6<br>底: 良好<br>色: 透オリブ灰色         | 精緻<br>1/6                   | 口縁部:内湾して外方へ立ち上がる<br>底部:高台端面は平坦/端面内側で接地          | 外:体部に蓮華文<br>内:底部中央に圏線1・陰刻花文                 | 耕作土<br>外:底部トチン痕/釉ハゲ                        |
| 61 | 青磁<br>碗  | 高: 5.0<br>底: 4.6<br>底: 良好<br>色: 透オリブ青色         | 精緻<br>1/8                   | 口縁部:内湾して上方へ立ち上がる<br>底部:高台端面は丸く収める               | 外:無文<br>内:無文                                | 遺構面<br>外:底面釉ハゲ                             |
| 62 | 青磁<br>碗  | 高: 3.0<br>底: 4.8<br>底: 良好<br>色: 透オリブ灰色         | 精緻<br>1/10以下                | 底部:高台は高い/端面は鋭角                                  | 内:放射状に陰刻                                    | 遺構面<br>外:底面釉ハゲ                             |
| 63 | 青磁<br>碗  | 口: 13.8<br>高: 2.7<br>底: 良好<br>色: 透オリブ灰色        | 精緻<br>1/10以下                | 口縁部:内湾して外方へ立ち上がる/<br>口端部で外反する/口唇部はやや平坦          | 外:無文<br>内:無文                                | 遺構面  |
| 64 | 青磁<br>碗  | 口: 15.4<br>高: 4.6<br>底: 良好<br>色: 透オリブ灰色        | 精緻<br>1/10以下                | 口縁部:内湾して外方へ立ち上がる/<br>口端部で外傾する/口唇部は丸く収める         | 外:無文<br>内:無文                                | 遺構面  |
| 65 | 青磁<br>碗  | 口: 14.0<br>高: 2.5<br>底: 良好<br>色: 透オリブ灰色        | 精緻<br>1/10以下                | 口縁部:内湾して外方へ立ち上がる/<br>口唇部は丸く収める                  | 外:陰刻文<br>内:体部中位に条線1                         | D~M13~16/遺構面                               |
| 66 | 青磁<br>碗  | 口: 13.9<br>高: 3.0<br>底: 良好<br>色: 透オリブ青色        | 精緻<br>1/10以下                | 口縁部:内湾して外方へ立ち上がる/<br>口唇部は丸く収める                  | 外:陰刻花文<br>内:無文                              | G15/遺構面<br>H15/遺構面                         |
| 67 | 青磁<br>碗  | 口: 13.9<br>高: 3.5<br>底: 良好<br>色: 透オリブ灰色        | 精緻<br>1/10以下                | 口縁部:内湾して外方へ立ち上がる/<br>口唇部は丸く収める                  | 外:蓮華文陰刻<br>内:無文                             | H10~J11/遺構面                                |
| 68 | 青磁<br>碗  | 口: 13.8<br>高: 4.4<br>底: 良好<br>色: 透オリブ青色        | 精緻<br>1/10以下                | 口縁部:内湾して上方へ立ち上がる/<br>口端部は外反/口唇部は丸く収める           | 外:無文<br>内:無文                                | G15/遺構面<br>H15/遺構面                         |
| 69 | 青磁<br>碗  | 口: 14.0<br>高: 2.2<br>底: 良好<br>色: 透オリブ灰色        | 精緻<br>1/10以下                | 口縁部:内湾して外方へ立ち上がる/<br>口端部は外傾/口唇部は丸く収める           | 外:無文<br>内:無文                                | 遺構面  |
| 70 | 青磁<br>香炉 | 口: 13.6<br>高: 2.6<br>底: 良好<br>色: 透オリブ青色        | 精緻<br>1/10以下                | 口縁部:直線状に上方へ立ち上がる/<br>口端面は浅く凹む/口端部内側突出<br>体部:円筒形 | 外:口縁部回転ナデ<br>内:口縁部回転ナデ                      | 遺構面  |



Ⅶ. 第109次調査

単位: cm

| No | 器種  | 法量/焼成/色調  | 胎土<br>残存     | 形 状  | 調整 / 文様  | 出土地点<br>備 考                       |
|----|-----|---|--------------|--|--|-----------------------------------|
| 71 | 白磁碗 | 口: 9.2<br>高: 4.0<br>焼: 良好<br>色: 透白色             | 精緻<br>1/8    | 口縁部:内湾して外方へ立ち上がる/<br>口端部は外傾/口唇部は丸く収める                          | 外:口縁部回転ナデ<br>内:口縁部回転ナデ                                   | H~J14/遺構面                         |
| 72 | 白磁皿 | 口: 10.0<br>高: 1.6<br>焼: 良好<br>色: 透白色            | 精緻<br>1/10以下 | 口縁部:やや内湾して外方へ開く/口<br>唇部は丸く収める                                  |  | I9/遺構面<br>J9/遺構面<br>外:体部下位軸ハゲ     |
| 73 | 白磁皿 | 口: 10.1<br>高: 2.1<br>焼: 良好<br>色: 灰白褐色           | 堅緻<br>1/10以下 | 口縁部:やや内湾して外方へ開く/口<br>唇部は丸く収める                                  |  | H~J14/遺構面<br>外:体部下位軸ハゲ            |
| 74 | 白磁皿 | 口: 10.4<br>高: 2.5<br>底: 4.0<br>焼: 不良<br>色: 灰茶色  | 堅緻<br>1/2    | 口縁部:やや内湾して外方へ開く/口<br>唇部は丸く収める<br>底部:削り出し高台/高台端面は平坦/<br>端面内側で接地 | 外:口縁部回転ナデ/体部下位回転<br>ヘラケズリ<br>内:口縁部回転ナデ                   | H~J14/遺構面<br>外:体部下位軸ハゲ            |
| 75 | 白磁皿 | 高: 3.0<br>底: 4.8<br>焼: 良好<br>色: 白色              | 精緻<br>1/8    | 口縁部:やや内湾して外方へ開く<br>底部:削り出し高台/高台端面は平坦/<br>端面外側は面取り/端面で接地        | 外:口縁部回転ナデ<br>内:口縁部回転ナデ                                   | SA4952埋土<br>外:高台軸ハゲ               |
| 76 | 白磁皿 | 口: 15.4<br>高: 2.6<br>焼: 良好<br>色: 白色             | 精緻<br>1/10以下 | 口縁部:内湾して外方へ開く/口端部<br>で外反/口唇部は丸く収める                             | 外:口縁部回転ナデ<br>内:口縁部回転ナデ                                   | 遺構面                               |
| 77 | 白磁皿 | 高: 1.5<br>底: 4.0<br>焼: 良好<br>色: 透白色             | 堅緻<br>1/10以下 | 底部:削り出し高台/高台端面5分割の<br>割高台                                      |  | H~J6/遺構面<br>外:底部に文字1<br>内:底部にトチン痕 |
| 78 | 白磁皿 | 高: 1.5<br>底: 4.0<br>焼: 良好<br>色: 透白色             | 堅緻<br>1/10以下 | 底部:削り出し高台/高台端面割高台  |  | 不明                                |
| 79 | 白磁皿 | 高: 1.2<br>底: 4.0<br>焼: 良好<br>色: 透白色             | 堅緻<br>1/10以下 | 底部:削り出し高台/高台端面平坦/端<br>面で接地                                     |  | 遺構面<br>外:高台軸ハゲ<br>内:底面軸ハゲ         |
| 80 | 白磁皿 | 口: 10.6<br>高: 2.6<br>焼: 良好<br>色: 白色             | 精緻<br>1/10以下 | 口縁部:内湾して外方へ立ち上がる/<br>口端部でやや外反/口唇部は丸く収め<br>る                    | 外:無文<br>内:呉須で底部に2重圏線内に斜行<br>文を充填/圏線内にさらに圏線を描<br>き、文様を入れる | 耕作土<br>外:高台軸ハゲ                    |
| 81 | 白磁皿 | 口: 21.0<br>高: 3.0<br>焼: 良好<br>色: 透灰白色           | 精緻<br>1/10以下 | 口縁部:緩やかに内湾して外方へ立ち<br>上がる/口唇部は丸く収める                             | 外:無文<br>内:無文   | D15・16/2・3トレンチ                    |
| 82 | 白磁皿 | 口: 14.0<br>高: 2.8<br>底: 8.8<br>焼: 良好<br>色: 透白色  | 精緻<br>1/10以下 | 口縁部:内湾して外方へ立ち上がる/<br>口端部で強く外反/口唇部は丸く収め<br>る<br>底部:削り出し高台       | 外:無文<br>内:無文   | G15/遺構面<br>H15/遺構面<br>外:高台端面軸ハゲ   |
| 83 | 白磁碗 | 口: 13.6<br>高: 4.8<br>底: 8.0<br>焼: 良好<br>色: 透灰白色 | 精緻<br>1/10以下 | 口縁部:内湾して外方へ立ち上がる/<br>口端部で外反/口唇部は丸く収める<br>底部:削り出し高台             | 外:無文<br>内:無文   | I11/遺構面<br>J11/遺構面<br>外:高台端面軸ハゲ   |
| 84 | 染付碗 | 口: 11.2<br>高: 3.5<br>焼: 良好<br>色: 透青白色           | 精緻<br>1/10以下 | 口縁部:直線状に外傾して立ち上がる<br>/口唇部は丸く収める                                | 外:口縁部に呉須絵<br>内:口端部に呉須圏線2                                 | 遺構面<br>概報                         |
| 85 | 染付碗 | 口: 14.0<br>高: 5.0<br>焼: 良好<br>色: 透灰白色           | 精緻<br>1/10以下 | 口縁部:内湾して上方へ立ち上がる/<br>口唇部は丸く収める                                 | 外:口縁部に呉須絵<br>内:口端部に呉須圏線1                                 | 遺構面                               |
| 86 | 染付碗 | 口: 18.2<br>高: 3.5<br>焼: 良好<br>色: 透青白色           | 精緻<br>1/10以下 | 口縁部:内湾して外方へ立ち上がる/<br>口端部はやや外反/口唇部は丸く収め<br>る                    | 外:口端部に圏線1/口縁部に呉須花<br>文<br>内:口端部に呉須圏線2                    | I11/遺構面<br>J11/遺構面<br>外:高台端面軸ハゲ   |
| 87 | 染付碗 | 口: 15.4<br>高: 4.0<br>焼: 良好<br>色: 透青白色           | 精緻<br>1/10以下 | 口縁部:やや内湾して外方へ立ち上<br>がる/口唇部は丸く収める                               | 外:口縁部に呉須絵<br>内:口端部に呉須圏線1                                 | I・J11/遺構面<br>G・H14/遺構面            |
| 88 | 染付皿 | 高: 1.6<br>底: 3.0<br>焼: 良好<br>色: 透青白色            | 精緻<br>1/5    | 底部:中央凹む  | 外:体部下位に鋸歯文<br>内:底部中央に圏線2・呉須草花文                           | 不明<br>外:底部軸ハゲ                     |

2. 遺物

単位:cm

| No | 器種            | 法量/焼成/色調                                       | 胎土<br>残存     | 形状   | 調整 / 文様   | 出土地点<br>備考               |
|----|---------------|--|--------------|--|---|--------------------------|
| 89 | 染付皿           | 高: 1.5<br>底: 3.6<br>焼: 良好<br>色: 透青白色           | 精緻<br>1/4    | 底部:中央凹む  | 外:体部下位に鋸歯文<br>内:底部中央に圏線2・呉須絵                                | 不明<br>外:底部釉ハゲ            |
| 90 | 染付皿           | 高: 2.5<br>底: 4.8<br>焼: 良好<br>色: 透青白色           | 精緻<br>1/8    | 口縁部:やや内湾して外方へ開く<br>底部:削り出し高台/高台端面は平坦/<br>端面で接地           | 外:体部下位に呉須絵・高台に圏線3<br>内:底部に圏線2・呉須絵                           | D15・16/2・3トレンチ           |
| 91 | 染付碗           | 高: 2.5<br>底: 6.0<br>焼: 良好<br>色: 透青白色           | 精緻<br>1/4    | 口縁部:やや内湾して外方へ開く<br>底部:削り出し高台/高台端面は平面<br>取り/端面内側で接地       | 外:体部下位に呉須絵・高台に圏線1<br>内:底部に圏線2・呉須絵                           | 遺構面<br>外:高台端面部~底部釉<br>ハゲ |
| 92 | 染付皿           | 口: 7.2<br>高: 2.0<br>底: 5.0<br>焼: 良好<br>色: 透青白色 | 精緻<br>1/2    | 口縁部:内湾して外方へ立ち上がる/<br>口端部はやや外反し口唇部は丸く収<br>める<br>底部:削り出し高台 | 外:口縁部上位に圏線1、呉須花文/<br>高台に圏線1<br>内:口端部に圏線1/底部に呉須圏線<br>2・呉須蓮華文 | 耕作土<br>外:高台端面部釉ハゲ        |
| 93 | 朝鮮<br>白磁<br>碗 | 口: 15.0<br>高: 2.5<br>焼: 良好<br>色: 灰色            | 精緻<br>1/10以下 | 口縁部:やや内湾して外方へ立ち上<br>がる/口唇部は丸く収める                         | 外:無文<br>内:無文  | 耕作土                      |

遺構出土陶磁器類(PL. 33 第54~56図)

単位:cm

| No  | 器種        | 法量/焼成/色調  | 胎土<br>残存                    | 形状  | 調整 / 文様   | 出土地点<br>備考                                |
|-----|-----------|---|-----------------------------|---|---|---|
| 94  | 越前焼<br>甕  | 焼:良好/土師質<br>色: 橙褐色                                  | 極砂粒<br>白色粒子<br>軟質<br>1/10以下 | 口縁部:短く外傾して立ち上がる/口<br>端面は平坦/口縁部中央に突帯状の段<br>をもつ/シャープなつくり  | 外:口縁部ヨコナデ/胴部上位ナデ/<br>胴部上位にヘラ記号「大」<br>内:口縁部ヨコナデ/胴部上位指頭<br>痕                              | D~H10~12/SK4967                           |
| 95  | 越前焼<br>捏鉢 | 口: 34.5<br>高: 11.5<br>焼: 良好<br>色: 暗灰色               | 極砂粒<br>白色粒子<br>精緻<br>1/10以下 | 口縁部:内湾して上方へ立ち上がる/<br>口唇部は平坦                             | 外:口縁部~体部ナデ<br>内:口縁部~体部回転ナデ後ハゲ   | D~H10~12/SK4967                           |
| 96  | 越前焼<br>捏鉢 | 口: 32.0<br>高: 9.5<br>焼: 良好<br>色: 赤茶色                | 極砂粒<br>白色粒子<br>堅緻<br>1/10以下 | 口縁部:内湾して上方へ立ち上がる/<br>口端部は平坦/口端部外側はやや括れ<br>る             | 外:口縁部回転ナデ/体部上位~下<br>位回転ヘラケズリ<br>内:口縁部回転ナデ   | D~H10~12/SK4967<br>外:口端部降灰                |
| 97  | 越前焼<br>捏鉢 | 口: 22.4<br>高: 4.8<br>焼:良好/土師質<br>色: 淡茶灰色            | 極砂粒<br>白色粒子<br>軟質<br>1/10以下 | 口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/<br>口唇部はやや凹む                           | 外:口縁部~体部回転ナデ<br>内:口縁部ヨコナデ   | D~H10~12/SK4967                           |
| 98  | 越前焼<br>搦鉢 | 口: 23.6<br>高: 8.3<br>底: 11.0<br>焼: 良好<br>色: 橙灰色     | 微砂粒<br>白色粒子<br>軟質<br>1/4    | 口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上<br>がる/口端部でやや上方へ立ち上がる/<br>口唇部は丸く収める     | 外:口縁部~体部中位回転ヘラケズ<br>リ/体部下位回転ナデ/底部周縁凹<br>む/底部未調整・ヘラ記号<br>内:口縁部~体部回転ナデ<br>内面に幅2.5cm・9条の卸目 | D~H10~12/SK4967<br>外:ヤキムラ                 |
| 99  | 越前焼<br>搦鉢 | 焼:良好/土師質<br>色: 橙褐色                                  | 極砂粒<br>白色粒子<br>軟質<br>1/10以下 | 口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上<br>がる/口端部でやや外反/口唇部は丸く<br>収める/口端部内側に沈線1 | 外:口縁部~体部回転ナデ<br>内:口縁部~体部回転ナデ<br>内面に幅3.6cm・12条の卸目  | D~H10~12/SK4967                           |
| 100 | 越前焼<br>搦鉢 | 口: 32.6<br>高: 10.5<br>底: 16.0<br>焼:良好/土師質<br>色: 橙褐色 | 極砂粒<br>白色粒子<br>軟質<br>2/3    | 口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上<br>がる/口端面浅く凹む/口端部内側に段<br>をもつ           | 外:口縁部~体部回転ナデ/底部未<br>調整/底部周縁に縄目痕<br>内:口縁部~体部回転ナデ/底部に<br>卸目<br>内面に幅3.2cm・10条の卸目           | D~H10~12/SK4967<br>外:体部ヤキムラ<br>内:底部中央ヤキムラ |
| 101 | 越前焼<br>搦鉢 | 口: 43.4<br>高: 15.8<br>底: 18.0<br>焼:良好/土師質<br>色: 橙褐色 | 極砂粒<br>白色粒子<br>軟質<br>1/3    | 口縁部:やや内湾して斜め外方へ立ち<br>上がる/口端部内側に口端面をもつ/<br>口端部内側に凹線が入る   | 外:口縁部~体部回転ナデ/底部未<br>調整/底部周縁に縄目痕<br>内:口縁部回転ナデ/体部~底部摩<br>耗/底面にも卸目<br>内面に幅3.3cm・8条の卸目      | D~H10~12/SK4967                           |
| 102 | 土師器<br>小皿 | 口: 5.3<br>高: 1.5<br>底: 3.3<br>焼: 良好<br>色: 白色        | 極砂粒<br>軟質<br>1/1            | 口縁部:内湾して上方へ立ち上がる/<br>口唇部は丸く収める<br>底部:丸底                 | 外:口縁部~底部ナデ<br>内:口縁部~底部ナデ  | D~H10~12/SK4967                           |
| 103 | 土師器<br>小皿 | 口: 6.6<br>高: 1.3<br>底: 2.5<br>焼: 良好<br>色: 灰白色       | 極砂粒<br>軟質<br>3/4            | 口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/<br>口唇部は丸く収める<br>底部:凹底                 | 外:口縁部~底部ナデ<br>内:口縁部~底部ナデ  | D~H10~12/SK4967                           |
| 104 | 土師器<br>小皿 | 口: 7.0<br>高: 1.2<br>底: 3.0<br>焼: 良好<br>色: 白褐色       | 極砂粒<br>軟質<br>1/2            | 口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/<br>口唇部は丸く収める<br>底部:凹底                 | 外:口縁部ナデ/底部無調整<br>内:口縁部~底部ナデ<br>型作り  | D~H10~12/SK4967                           |

## VII. 第109次調査

単位: cm

| No  | 器種         | 法量/焼成/色調                                       | 胎土<br>残存         | 形 状  | 調整 / 文様  | 出土地点  |
|-----|------------|--|------------------|--|--|---|
|     |            |  |                  |  |  | 備 考   |
| 105 | 土師器<br>小皿  | 口: 6.6<br>高: 1.7<br>底: 3.0<br>焼: 良好<br>色: 橙褐色  | 極砂粒<br>軟質<br>2/3 | 口縁部: やや内湾して外方へ立ち上がる/<br>口唇部は丸く収める<br>底部: 丸底        | 外: 口縁部～底部指頭痕<br>内: 口縁部～底部ナデ                                    | D～H10～12/SK4967<br>歪む                       |
| 106 | 土師器<br>小皿  | 口: 8.6<br>高: 2.2<br>底: 3.5<br>焼: 良好<br>色: 橙褐色  | 極砂粒<br>軟質<br>1/2 | 口縁部: 直線状に外方へ立ち上がる/<br>口唇部は上方へツマミ出し丸く収める<br>底部: 丸底  | 外: 口縁部ナデ・指頭痕/底部無調整<br>内: 口縁部～底部ナデ<br>型作り                       | D～H10～12/SK4967                             |
| 107 | 土師器<br>小皿  | 口: 7.2<br>高: 2.0<br>底: 2.5<br>焼: 良好<br>色: 橙褐色  | 極砂粒<br>軟質<br>4/5 | 口縁部: 内湾して上方へ立ち上がる/<br>口唇部は丸く収める<br>底部: 丸底          | 外: 口縁部～底部ナデ・指頭痕<br>内: 口縁部～底部ナデ・指頭痕<br>型作り                      | D～H10～12/SK4967<br>外: 口縁部スス付着<br>内: 口縁部スス付着 |
| 108 | 土師器<br>小皿  | 口: 8.0<br>高: 2.0<br>底: 4.0<br>焼: 良好<br>色: 橙褐色  | 極砂粒<br>軟質<br>1/2 | 口縁部: 内湾して外方へ立ち上がる/<br>口唇部は丸く収める<br>底部: 丸底          | 外: 口縁部～底部ナデ・指頭痕<br>内: 口縁部～底部ナデ<br>型作り                          | D～H10～12/SK4967                             |
| 109 | 土師器<br>小皿  | 口: 8.0<br>高: 1.8<br>底: 4.0<br>焼: 良好<br>色: 橙褐色  | 極砂粒<br>軟質<br>1/1 | 口縁部: 内湾して外方へ立ち上がる/<br>口唇部は丸く収める<br>底部: 丸底          | 外: 口縁部～底部ナデ・指頭痕<br>内: 口縁部～底部ナデ<br>型作り                          | D～H10～12/SK4967                             |
| 110 | 土師器<br>耳皿  | 口: 8.4<br>高: 1.7<br>底: 6.0<br>焼: 良好<br>色: 橙褐色  | 極砂粒<br>軟質<br>1/2 | 口縁部: 内湾して外方へ立ち上がる/<br>口唇部は丸く収める<br>底部: 丸底          | 外: 口縁部～底部ナデ・指頭痕<br>内: 口縁部～底部ナデ<br>型作り                          | D～H10～12/SK4967<br>片口状に至む                   |
| 111 | 土師器<br>短頸壺 | 口: 8.8<br>高: 1.9<br>底: 4.0<br>焼: 良好<br>色: 橙褐色  | 極砂粒<br>軟質<br>4/5 | 口縁部: 内湾して外方へ立ち上がる/<br>口端部内側に浅く凹む口端面をもつ<br>底部: 丸底   | 外: 口縁部ヨコナデ/底部ナデ<br>内: 口縁部ヨコナデ/底部ナデ                             | D～H10～12/SK4967                             |
| 112 | 土師器<br>小皿  | 口: 8.9<br>高: 2.5<br>底: 4.5<br>焼: 良好<br>色: 橙褐色  | 極砂粒<br>軟質<br>2/3 | 口縁部: 内湾して外方へ立ち上がる/<br>口唇部は丸く収める<br>底部: 丸底          | 外: 口縁部～底部ナデ・指頭痕<br>内: 口縁部～底部ナデ<br>型作り                          | D～H10～12/SK4967<br>外: 口縁部スス付着<br>歪む         |
| 113 | 土師器<br>小皿  | 口: 9.0<br>高: 1.9<br>底: 4.0<br>焼: 良好<br>色: 橙褐色  | 極砂粒<br>軟質<br>1/2 | 口縁部: やや内湾して外方へ立ち上がる/<br>口唇部は丸く収める<br>底部: 凹底        | 外: 口縁部ヨコナデ/底部無調整<br>内: 口縁部～底部ナデ<br>型作り                         | D～H10～12/SK4967                             |
| 114 | 土師器<br>小皿  | 口: 9.0<br>高: 1.4<br>底: 4.0<br>焼: 良好<br>色: 白褐色  | 極砂粒<br>軟質<br>1/5 | 口縁部: 内湾して外方へ立ち上がる/<br>口端部内側に浅く凹む口端面をもつ<br>底部: 丸底   | 外: 口縁部ヨコナデ・体部指頭痕/底<br>部無調整<br>内: 口縁部～底部ナデ<br>型作り               | D～H10～12/SK4967                             |
| 115 | 土師器<br>小皿  | 口: 9.4<br>高: 2.2<br>底: 4.3<br>焼: 良好<br>色: 橙褐色  | 極砂粒<br>軟質<br>1/2 | 口縁部: 内湾して上方へ立ち上がる/<br>口唇部は丸く収める<br>底部: 丸底          | 外: 口縁部ヨコナデ・体部指頭痕/底<br>部無調整<br>内: 口縁部ヨコナデ/体部指頭痕/底<br>部ナデ<br>型作り | D～H10～12/SK4967                             |
| 116 | 土師器<br>小皿  | 口: 10.2<br>高: 1.8<br>底: 4.0<br>焼: 良好<br>色: 橙褐色 | 極砂粒<br>軟質<br>1/2 | 口縁部: 直線状に外方へ立ち上がる/<br>口唇部は上方へツマミ出し丸く収める<br>底部: 平底  | 外: 口縁部～底部ナデ・指頭痕<br>内: 口縁部～底部ナデ<br>型作り                          | D～H10～12/SK4967                             |
| 117 | 土師器<br>小皿  | 口: 9.0<br>高: 1.9<br>底: 2.6<br>焼: 良好<br>色: 橙褐色  | 極砂粒<br>軟質<br>1/2 | 口縁部: 直線状に外方へ立ち上がる/<br>口端部はやや外反/口唇部は丸く収める<br>底部: 丸底 | 外: 口縁部ヨコナデ/底部無調整<br>内: 口縁部ヨコナデ/底部ナデ<br>型作り                     | D～H10～12/SK4967<br>外: ヤキムラ                  |
| 118 | 土師器<br>小皿  | 口: 8.4<br>高: 2.0<br>底: 3.8<br>焼: 良好<br>色: 橙褐色  | 極砂粒<br>軟質<br>1/2 | 口縁部: 直線状に外方へ立ち上がる/<br>口唇部は丸く収める<br>底部: 丸底          | 外: 口縁部ヨコナデ/底部ナデ<br>内: 口縁部ヨコナデ/底部ナデ<br>型作り                      | D～H10～12/SK4967                             |
| 119 | 土師器<br>小皿  | 口: 8.8<br>高: 1.6<br>底: 4.4<br>焼: 良好<br>色: 橙褐色  | 極砂粒<br>軟質<br>1/4 | 口縁部: 直線状に外方へ立ち上がる/<br>口端部でやや外反/口唇部は丸く収める<br>底部: 平底 | 外: 口縁部ヨコナデ/底部無調整<br>内: 口縁部～底部ナデ<br>型作り                         | D～H10～12/SK4967<br>外: 口縁部スス付着<br>内: 口縁部スス付着 |

## 2. 遺物

単位: cm

| No  | 器種        | 法量/焼成/色調                                       | 胎土<br>残存         | 形状   | 調整 / 文様  | 出土地点<br>備考                                |
|-----|-----------|--|------------------|--|--|---|
| 120 | 土師器<br>小皿 | 口: 9.0<br>高: 1.7<br>底: 5.0<br>焼: 良好<br>色: 橙褐色  | 極砂粒<br>軟質<br>1/3 | 口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/<br>口唇部は丸く収める<br>底部:平底                        | 外:口縁部ヨコナデ/底部無調整<br>内:口縁部ヨコナデ/底部ナデ<br>型作り           | D~H10~12/SK4967                           |
| 121 | 土師器<br>小皿 | 口: 8.4<br>高: 1.9<br>最: 4.9<br>焼: 良好<br>色: 淡褐色  | 極砂粒<br>軟質<br>1/2 | 口縁部:やや外反して外方へ立ち上がる/<br>口唇部は上方へツマミ出し丸く収める<br>底部:平底              | 外:口縁部~底部ナデ・指頭痕<br>内:口縁部~底部ナデ<br>型作り                | D~H10~12/SK4967                           |
| 122 | 土師器<br>小皿 | 口: 9.2<br>高: 1.8<br>底: 4.0<br>焼: 良好<br>色: 橙褐色  | 極砂粒<br>軟質<br>1/4 | 口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/<br>口端部内側に浅く凹む口端をもつ<br>底部:凹底                  | 外:口縁部~底部無調整<br>内:口縁部~底部ナデ<br>型作り                   | D~H10~12/SK4967                           |
| 123 | 土師器<br>小皿 | 口: 9.6<br>高: 2.1<br>底: 4.0<br>焼: 良好<br>色: 橙褐色  | 極砂粒<br>軟質<br>1/4 | 口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/<br>口端部はやや外反/口唇部は丸く収める<br>底部:平底               | 外:口縁部ヨコナデ/底部ナデ<br>内:口縁部ヨコナデ/底部ナデ                   | D~H10~12/SK4967                           |
| 124 | 土師器<br>小皿 | 長: 9.4<br>幅: 2.0<br>高: 4.0<br>焼: 良好<br>色: 橙褐色  | 極砂粒<br>軟質<br>2/3 | 口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/<br>口唇部は丸く収める<br>底部:平底                        | 外:口縁部ヨコナデ/体部指頭痕/底<br>部無調整<br>内:口縁部~底部ナデ<br>型作り     | D~H10~12/SK4967                           |
| 125 | 土師器<br>小皿 | 口: 10.5<br>高: 2.3<br>最: 4.4<br>焼: 良好<br>色: 橙褐色 | 極砂粒<br>軟質<br>4/5 | 口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/<br>口唇部は丸く収める/体部中位に段を<br>もつ<br>底部:平底          | 外:口縁部ヨコナデ/体部指頭痕/底<br>部無調整<br>内:口縁部~底部ナデ<br>型作り     | D~H10~12/SK4967<br>外:口縁部スス付着<br>内:口縁部スス付着 |
| 126 | 土師器<br>小皿 | 口: 11.0<br>高: 2.2<br>底: 5.4<br>焼: 良好<br>色: 橙褐色 | 極砂粒<br>軟質<br>2/3 | 口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/<br>口端部でやや外反/口唇部は丸く収める/<br>体部中位に段をもつ<br>底部:平底 | 外:口縁部ヨコナデ/体部指頭痕/底<br>部無調整<br>内:口縁部~底部ナデ・指頭痕<br>型作り | D~H10~12/SK4967<br>外:口縁部スス付着<br>内:口縁部スス付着 |
| 127 | 土師器<br>小皿 | 口: 10.0<br>高: 2.3<br>底: 4.6<br>焼: 良好<br>色: 橙褐色 | 極砂粒<br>軟質<br>1/3 | 口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/<br>口唇部は丸く収める/体部中位に段を<br>もつ<br>底部:平底          | 外:口縁部ヨコナデ/底部ナデ<br>内:口縁部ヨコナデ/底部ナデ<br>型作り            | D~H10~12/SK4967<br>外:口縁部スス付着<br>内:口縁部スス付着 |
| 128 | 土師器<br>小皿 | 口: 10.2<br>高: 2.0<br>底: 5.0<br>焼: 良好<br>色: 橙褐色 | 極砂粒<br>軟質<br>1/3 | 口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/<br>口唇部は丸く収める<br>底部:凹底                        | 外:口縁部ナデ/底部無調整<br>内:口縁部~底部ナデ<br>型作り                 | D~H10~12/SK4967<br>外:口縁部スス付着<br>内:口縁部スス付着 |
| 129 | 土師器<br>小皿 | 口: 10.8<br>高: 2.0<br>底: 4.6<br>焼: 良好<br>色: 橙褐色 | 極砂粒<br>軟質<br>1/4 | 口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/<br>口唇部は上方へツマミ出し丸く収める/<br>体部中位に段をもつ<br>底部:平底  | 外:口縁部ヨコナデ/底部無調整<br>内:口縁部ヨコナデ/底部ナデ<br>型作り           | D~H10~12/SK4967<br>外:口縁部スス付着              |
| 130 | 土師器<br>小皿 | 口: 11.2<br>高: 2.3<br>底: 5.0<br>焼: 良好<br>色: 橙褐色 | 極砂粒<br>軟質<br>1/4 | 口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/<br>口唇部は上方へツマミ出し丸く収める<br>底部:平底                | 外:口縁部ヨコナデ/底部ナデ<br>内:口縁部~底部ナデ                       | D~H10~12/SK4967<br>外:口縁部スス付着<br>内:口縁部スス付着 |
| 131 | 土師器<br>小皿 | 口: 11.0<br>高: 2.1<br>底: 6.0<br>焼: 良好<br>色: 橙褐色 | 極砂粒<br>軟質<br>1/2 | 口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/<br>口唇部は丸く収める/体部中位に段を<br>もつ<br>底部:平底          | 外:口縁部ヨコナデ/体部ナデ/底部<br>無調整<br>内:口縁部ヨコナデ/底部ナデ<br>型作り  | D~H10~12/SK4967<br>外:口縁部スス付着<br>内:口縁部スス付着 |
| 132 | 土師器<br>小皿 | 口: 10.0<br>高: 2.0<br>底: 6.0<br>焼: 良好<br>色: 橙褐色 | 極砂粒<br>軟質<br>2/3 | 口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/<br>口端部でやや外反/口唇部は丸く収める<br>底部:平底               | 外:口縁部ヨコナデ/底部無調整<br>内:口縁部~底部ナデ<br>型作り               | D~H10~12/SK4967<br>外:口縁部スス付着<br>内:口縁部スス付着 |
| 133 | 土師器<br>小皿 | 口: 10.2<br>高: 2.2<br>底: 6.0<br>焼: 良好<br>色: 橙褐色 | 極砂粒<br>軟質<br>1/2 | 口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/<br>口唇部は丸く収める<br>底部:丸底                        | 外:口縁部ヨコナデ/体部指頭痕/底<br>部無調整<br>内:口縁部ヨコナデ/底部ナデ<br>型作り | D~H10~12/SK4967<br>外:口縁部スス付着<br>内:口縁部スス付着 |
| 134 | 土師器<br>耳皿 | 長: 11.0<br>幅: 2.1<br>高: 5.0<br>焼: 良好<br>色: 橙褐色 | 極砂粒<br>軟質<br>1/2 | 口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/<br>口端部でやや外反/口唇部は丸く収める<br>底部:平底               | 外:口縁部ヨコナデ/底部無調整<br>内:口縁部ヨコナデ/底部ナデ<br>型作り           | D~H10~12/SK4967                           |

## VII. 第109次調査

単位: cm

| No  | 器種                | 法量/焼成/色調                                       | 胎土<br>残存         | 形状   | 調整 / 文様                                | 出土地点<br>備考                                |
|-----|-------------------|--|------------------|--|--|---|
| 135 | 土師器<br>小皿         | 口: 10.8<br>高: 2.3<br>最: 5.2<br>焼: 良好<br>色: 橙褐色 | 極砂粒<br>軟質<br>1/4 | 口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/<br>口端部でやや外反/口唇部は丸く収める<br>底部:平底           | 外:口縁部ヨコナデ/体部指頭痕/底部無調整<br>内:口縁部~底部ナデ型作り | D~H10~12/SK4967                           |
| 136 | 土師器<br>耳皿         | 口: 12.0<br>高: 2.2<br>底: 7.0<br>焼: 良好<br>色: 橙褐色 | 極砂粒<br>軟質<br>1/2 | 口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/<br>口唇部は丸く収める/口端部内側に浅く凹む口端面をもつ<br>底部:平底   | 外:口縁部ヨコナデ/底部無調整<br>内:口縁部ヨコナデ/底部ナデ型作り   | D~H10~12/SK4967                           |
| 137 | 土師器<br>小皿         | 口: 12.0<br>高: 2.2<br>底: 5.4<br>焼: 良好<br>色: 橙褐色 | 極砂粒<br>軟質<br>1/3 | 口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/<br>口唇部は上方へツマミ出し丸く収める<br>底部:平底            | 外:口縁部ヨコナデ/底部無調整<br>内:口縁部ヨコナデ/底部摩耗型作り   | D~H10~12/SK4967                           |
| 138 | 土師器<br>小皿         | 口: 12.0<br>高: 2.0<br>底: 6.6<br>焼: 良好<br>色: 橙褐色 | 極砂粒<br>軟質<br>1/2 | 口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/<br>口唇部は上方へツマミ出し丸く収める/体部中位に段をもつ<br>底部:平底  | 外:口縁部ヨコナデ/底部無調整<br>内:口縁部~底部ナデ型作り       | D~H10~12/SK4967                           |
| 139 | 土師器<br>小皿         | 口: 13.4<br>高: 2.3<br>底: 8.0<br>焼: 良好<br>色: 橙褐色 | 極砂粒<br>軟質<br>1/3 | 口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/<br>口唇部は上方へツマミ出し丸く収める<br>底部:平底            | 外:口縁部ヨコナデ/底部無調整<br>内:口縁部ヨコナデ/底部ナデ型作り   | D~H10~12/SK4967<br>外:口縁部スス附着<br>内:底部スス附着  |
| 140 | 土師器<br>小皿         | 口: 13.2<br>高: 2.3<br>底: 8.0<br>焼: 良好<br>色: 橙褐色 | 極砂粒<br>軟質<br>1/2 | 口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/<br>口端部でやや外傾/口唇部は丸く収める/体部中位に段をもつ<br>底部:平底 | 外:口縁部ヨコナデ/底部無調整<br>内:口縁部ヨコナデ/底部ナデ型作り   | D~H10~12/SK4967<br>外:口縁部スス附着<br>内:口縁部スス附着 |
| 141 | 土師器<br>小皿         | 口: 12.6<br>高: 2.0<br>底: 7.0<br>焼: 良好<br>色: 橙褐色 | 極砂粒<br>軟質<br>1/3 | 口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/<br>口唇部は丸く収める/体部中位に段をもつ<br>底部:平底          | 外:口縁部ヨコナデ/底部無調整<br>内:口縁部ヨコナデ/底部ナデ型作り   | D~H10~12/SK4967<br>外:口縁部スス附着<br>内:口縁部スス附着 |
| 142 | 土師器<br>小皿         | 口: 15.0<br>高: 2.0<br>底: 9.0<br>焼: 良好<br>色: 橙褐色 | 極砂粒<br>軟質<br>1/4 | 口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/<br>口唇部は丸く収める<br>底部:平底                    | 外:口縁部~底部ナデ<br>内:口縁部~底部ナデ               | D~H10~12/SK4967<br>外:底部スス附着<br>内:底部スス附着   |
| 143 | 土師器<br>耳皿         | 長: 5.3<br>幅: 4.0<br>高: 1.3<br>焼: 良好<br>色: 橙褐色  | 極砂粒<br>軟質<br>2/3 | 口縁部:左右口縁部を内側に曲げる/<br>口唇部は丸く収める<br>底部:平坦                    | 外:口縁部~底部ナデ<br>内:口縁部~底部ナデ               | D~H10~12/SK4967                           |
| 144 | 瀬戸美濃<br>鉄釉<br>天目碗 | 口: 11.2<br>高: 5.0<br>焼: 良好<br>色: 濃黒茶色          | 軟質<br>1/8        | 口縁部:やや内湾して外方へ立ち上がる/<br>口端部で上方へ屈曲/口唇部は短く外傾し丸く収める            | 外:口縁部~体部下位回転ナデ<br>内:口縁部~体部下位回転ナデ       | D~H10~12/SK4967<br>外:体部下位鬼板               |
| 145 | 瀬戸美濃<br>鉄釉<br>天目碗 | 口: 11.0<br>高: 4.9<br>焼: 良好<br>色: 濃茶色           | 精緻<br>1/6        | 口縁部:やや内湾して外方へ立ち上がる/<br>口端部で上方へ屈曲/口唇部は短く外傾し丸く収める            | 外:口縁部~体部下位回転ナデ<br>内:口縁部~体部下位回転ナデ       | D~H10~12/SK4967<br>外:体部下位鉄釉無し             |
| 146 | 瀬戸美濃<br>鉄釉<br>天目碗 | 口: 11.6<br>高: 5.9<br>焼: 良好<br>色: 濃茶褐色          | 精緻<br>1/4        | 口縁部:やや内湾して外方へ立ち上がる/<br>口端部でやや外傾して屈曲/口唇部は丸く収める              | 外:口縁部~体部下位回転ナデ<br>内:口縁部~体部下位回転ナデ       | D~H10~12/SK4967<br>外:体部中位鉄釉一部剥離/体部下位鬼板    |
| 147 | 瀬戸美濃<br>鉄釉<br>天目碗 | 口: 12.0<br>高: 5.3<br>焼: 良好<br>色: 淡茶色           | 堅緻<br>1/8        | 口縁部:内湾して上方へ立ち上がる/<br>口唇部は外傾して丸く収める                         | 外:口縁部~体部下位回転ナデ<br>内:口縁部~体部下位回転ナデ       | D~H10~12/SK4967<br>外:体部下位鉄釉無し             |
| 148 | 瀬戸美濃<br>鉄釉<br>天目碗 | 口: 12.0<br>高: 5.8<br>焼: 良好<br>色: 淡黒茶色          | 堅緻<br>1/8        | 口縁部:やや内湾して外方へ立ち上がる/<br>口端部で上方へ屈曲/口唇部は短く外傾し丸く収める            | 外:口縁部~体部下位回転ナデ<br>内:口縁部~体部下位回転ナデ       | D~H10~12/SK4967<br>外:体部下位鬼板               |
| 149 | 瀬戸美濃<br>鉄釉<br>天目碗 | 口: 11.8<br>高: 6.1<br>焼: 良好<br>色: 黒茶色           | 堅緻<br>1/4        | 口縁部:内湾して外方へ立ち上がる/<br>口端部で上方へ屈曲/口唇部は短く外傾し丸く収める              | 外:口縁部~体部下位回転ナデ<br>内:口縁部~体部下位回転ナデ       | D~H10~12/SK4967<br>外:体部下位鬼板               |
| 150 | 瀬戸美濃<br>鉄釉<br>水滴  | 口: 12.2<br>高: 5.5<br>焼: 良好<br>色: 黒色            | 堅緻<br>1/6        | 口縁部は直線状に斜め外方へ立ち上がる/<br>口縁部上位で上方へ屈曲/口唇部は短く外傾し丸く収める          | 外:口縁部~体部下位回転ナデ<br>内:口縁部~体部下位回転ナデ       | D~H10~12/SK4967<br>外:体部下位鉄釉無し             |

## 2. 遺物

単位: cm

| No  | 器種                | 法量/焼成/色調   | 胎土<br>残存         | 形 状   | 調整 / 文様  | 出土地点<br>備 考                           |
|-----|-------------------|--|------------------|---|--|---------------------------------------|
| 151 | 瀬戸美濃<br>鉄釉<br>天目碗 | 口: 12.2<br>高: 5.6<br>焼: 良好<br>色: 濃黒褐色            | 精緻<br>1/8        | 口縁部: やや内湾して外方へ立ち上がる/口端部で上方へ屈曲/口唇部は短く外傾し丸く収める              | 外: 口縁部～体部下位回転ナデ<br>内: 口縁部～体部下位回転ナデ                                 | D～H10～12/SK4967<br>外: 体部下位釉無し         |
| 152 | 瀬戸美濃<br>鉄釉<br>水滴  | 口: 13.2<br>高: 4.6<br>焼: 良好<br>色: 黒茶色             | 精緻<br>1/8        | 口縁部: 内湾して上方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める                               | 外: 口縁部～体部下位回転ナデ<br>内: 口縁部～体部下位回転ナデ                                 | D～H10～12/SK4967<br>外: 体部下位釉無し         |
| 153 | 瀬戸美濃<br>鉄釉<br>天目碗 | 口: 9.0<br>高: 4.2<br>焼: 良好<br>色: 褐色               | 軟質<br>1/8        | 口縁部は直線状に斜め外方へ立ち上がる/口端部で上方へ屈曲。口唇部は短く外反して丸く収める              | 外: 口縁部～体部下位回転ナデ<br>内: 口縁部～体部下位回転ナデ                                 | D～H10～12/SK4967<br>外: 体部下位鬼板          |
| 154 | 瀬戸美濃<br>鉄釉<br>天目碗 | 口: 8.8<br>高: 4.7<br>底: 3.1<br>焼: 良好<br>色: 濃黒茶色   | 精緻<br>1/4        | 口縁部: やや内湾して外方へ立ち上がる/口端部で上方へ屈曲/口唇部は外反して丸く収める<br>底部: 削り出し高台 | 外: 口縁部～体部中位回転ナデ/体部下位回転ヘラケズリ<br>内: 口縁部～体部下位回転ナデ                     | D～H10～12/SK4967<br>外: 体部下位釉無し         |
| 155 | 瀬戸美濃<br>鉄釉<br>茶入れ | 高: 2.2<br>底: 3.0<br>焼: 良好<br>色: 茶色               | 精緻<br>1/4        | 胴部: 寸胴形<br>底部: 平坦   | 外: 口縁部～胴部下位回転ナデ/底部回転糸切り痕<br>内: 口縁部～胴部下位回転ナデ                        | D～H10～12/SK4967<br>外: 体部下位釉無し         |
| 156 | 灰釉<br>碗           | 口: 11.4<br>高: 3.5<br>焼: 良好<br>色: 灰緑色             | 精緻<br>1/8        | 口縁部: 直線状に外方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める                               | 外: 口縁部回転ナデ<br>内: 口縁部回転ナデ   | D～H10～12/SK4967                       |
| 157 | 灰釉<br>碗           | 口: 16.0<br>高: 4.3<br>焼: 良好<br>色: 淡緑黄色            | 精緻<br>1/10以下     | 口縁部: 緩やかに内湾して外方へ立ち上がる/口端部は弱く外反する/口唇部は丸く収める                | 外: 口縁部回転ナデ<br>内: 口縁部回転ナデ   | D～H10～12/SK4967                       |
| 158 | 染付<br>皿           | 口: 12.4<br>高: 2.2<br>底: 7.0<br>焼: 良好<br>色: 透青灰色  | 精緻<br>1/6        | 口縁部: 緩やかに内湾して外方へ立ち上がる/口端部は外反し口唇部は丸く収める<br>底部: 削り出し高台      | 外: 口縁部上位に呉須圏線1・呉須絵<br>内: 口縁部上位に圏線1/底部中央に呉須絵                        | D～H10～12/SK4967                       |
| 159 | 染付<br>碗           | 口: 13.2<br>高: 6.0<br>焼: 良好<br>色: 透白灰色            | 精緻<br>1/8        | 口縁部: 内湾して外方へ立ち上がる/口端部は丸く収める<br>底部: 削り出し高台                 | 外: 口端部に圏線2/体部に呉須絵<br>内: 口端部に圏線2/底部に呉須絵                             | D～H10～12/SK4967                       |
| 160 | 染付<br>碗           | 高: 2.2<br>底: 4.2<br>焼: 良好<br>色: 透青白色             | 精緻<br>1/3        | 底部: 削り出し高台  | 外: 体部下位に呉須絵・圏線1/高台に圏線1/底部に圏線2「長命富貴」<br>内: 底部に圏線2・呉須絵               | D～H10～12/SK4967<br>内: 底部降灰            |
| 161 | 青磁<br>香炉          | 口: 8.1<br>高: 3.0<br>焼: 良好<br>色: 透オリーブ青色          | 精緻<br>1/10以下     | 口縁部: 直線状に上方へ立ち上がる/口端面は平坦/口端部内側突出<br>体部: 円筒形               | 外: 口縁部回転ナデ<br>内: 口縁部回転ナデ   | D～H10～12/SK4967                       |
| 162 | 白磁<br>皿           | 口: 9.4<br>高: 2.0<br>焼: 良好<br>色: 透白色              | 精緻<br>1/8        | 口縁部: 内湾して外方へ立ち上がる/口端部は丸く収める                               | 外: 口縁部回転ナデ<br>内: 口縁部回転ナデ   | D～H10～12/SK4967                       |
| 163 | 越前焼<br>播鉢         | 口: 34.0<br>高: 10.6<br>底: 16.0<br>焼: 良好<br>色: 赤茶色 | 極砂粒<br>堅緻<br>1/8 | 口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/口端部でやや上方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める//口端部内側に浅い凹線  | 外: 口縁部～体部下位回転ナデ/底部周縁縄目痕/底部未調整<br>内: 口縁部～体部回転ナデ<br>内面に幅3.1cm・11条の卸目 | L5/SE4955                             |
| 164 | 土師器<br>小皿         | 口: 9.0<br>高: 2.2<br>底: 4.0<br>焼: 良好<br>色: 橙褐色    | 極砂粒<br>軟質<br>4/5 | 口縁部: 直線状に外方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める<br>底部: 平底                     | 外: 口縁部ナデ/底部無調整<br>内: 口縁部～底部ナデ<br>型作り                               | L5/SE4955<br>外: 口縁部スス付着<br>内: 口縁部スス付着 |
| 165 | 土師器<br>小皿         | 口: 8.4<br>高: 2.2<br>底: 4.0<br>焼: 良好<br>色: 橙褐色    | 極砂粒<br>軟質<br>4/5 | 口縁部: 直線状に外方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める<br>底部: 平底                     | 外: 口縁部～底部ナデ<br>内: 口縁部～底部ナデ   | L5/SE4955<br>外: 口縁部スス付着<br>内: 口縁部スス付着 |
| 166 | 土師器<br>羽釜         | 高: 12.0<br>最: 5.4<br>焼: 良好<br>色: 橙褐色             | 極砂粒<br>軟質<br>1/2 | 口縁部: 短く上方へ立ち上がる/受部は平滑                                     | 外: 口縁部～受部ヨコナデ/体部ナデ<br>内: 口縁部～体部ナデ                                  | L5/SE4955<br>外: 口縁部スス付着<br>内: 口縁部スス付着 |

## VII. 第109次調査

## 土製品(PL. 34 第56図)

単位: cm/g

| No  | 器種 | 法量(最大値) |     |     |     | 残存  | 色調  | 調整・特徴                  | 備考 | 出土地点 |
|-----|----|---------|-----|-----|-----|-----|-----|------------------------|----|------|
|     |    | 長       | 幅   | 上径  | 下径  |     |     |                        |    |      |
| 167 | 土錘 | 3.3     | 1.4 | 0.7 | 0.8 | 1/1 | 橙褐色 | 形状:円筒形/孔径0.5cm/棒巻き付け技法 |    | 遺構面  |

## 金属器(PL. 34 第56図)

単位: cm/g

| No  | 器種   | 法量(最大値) |     |      |      | 残存  | 材質<br>色調   | 調整・特徴  | 備考   | 出土地点           |
|-----|------|---------|-----|------|------|-----|------------|--|------|----------------|
|     |      | 径       | 高   | 厚    | 重    |     |            |  |      |                |
| 168 | 銅製碗  | 7.2     | 3.0 | 0.1  | -    | 1/6 | 銅製品<br>青銅色 | 口縁部:内湾して外方へ立ち上がる/<br>口端部は外反/口唇部は丸く収める<br>底部:高台熨付け    |      | 遺構面            |
| 169 | 銅製燭台 | 5.6     | 1.8 | 0.12 | 34.1 | 1/1 | 銅製品<br>青銅色 | 口縁部:内湾して外方へ立ち上がる/<br>口端部は外反/口唇部は丸く収める<br>底部:径0.5cmの孔 |      | 遺構面            |
| No  | 器種   | 法量(最大値) |     |      |      | 残存  | 材質<br>色調   | 調整・特徴  | 備考   | 出土地点           |
| 長   | 幅    | 厚       | 重   |      |      |     |            |  |      |                |
| 170 | 鉄製小柄 | 5.0     | 1.4 | 0.2  | -    | -   | 鉄製品<br>錆色  | 形状:板状  | 木質付着 | G・H15/遺構面      |
| 171 | 鉄製小柄 | 7.5     | 1.1 | 0.3  | -    | -   | 鉄製品<br>錆色  | 形状:板状/端部は鉤状  | 木質付着 | D15・16/2・3トレンチ |
| 172 | 鉄釘   | 4.0     | 1.0 | 0.3  | 1.6  | 1/1 | 鉄製品<br>錆色  | 釘頭は折り曲げた後平坦  |      | 表土             |
| 173 | 鉄釘   | 2.8     | 0.5 | 0.2  | 1.4  | 1/1 | 鉄製品<br>錆色  | 釘頭は折り曲げた後平坦  |      | H~J6/遺構面       |
| 174 | 鉄釘   | 4.3     | 0.6 | 0.4  | 3.7  | 2/3 | 鉄製品<br>錆色  | 釘頭欠損   |      | H~J6/遺構面       |

## 石製品(PL. 34 第56図)

単位: cm/g

| No  | 器種 | 法量(最大値) |     |     |       | 残存  | 石材<br>色調<br>材質   | 調整・特徴   | 備考                       | 出土地点            |
|-----|----|---------|-----|-----|-------|-----|------------------|---|--------------------------|-----------------|
|     |    | 長       | 幅   | 厚   | 重     |     |                  |   |                          |                 |
| 175 | 石硯 | 8.6     | 3.5 | 2.2 | -     | 1/8 | 粘板岩<br>黒色<br>硬質  | 形状:板状/周縁幅1.3cm×高さ2.0cm/<br>草花文陽刻              | 全体平滑                     | 不明              |
| 176 | 石硯 | 7.5     | 4.6 | 1.1 | -     | 4/5 | 粘板岩<br>暗灰色<br>硬質 | 形状:板状/周縁幅0.3cm×高さ0.1cm/<br>上端部左隅欠損            | 全体平滑                     | 耕作土             |
| 177 | 石硯 | 9.3     | 6.1 | 1.1 | -     | 1/2 | 粘板岩<br>明灰色<br>硬質 | 形状:板状/周縁幅0.7cm×高さ0.3cm/<br>上下端部・右側辺欠損         | 全体平滑                     | D15・16/2・3トレンチ  |
| 178 | 砥石 | 6.6     | 6.4 | 1.8 | 106.3 | 4/5 | 凝灰岩<br>白褐色<br>硬質 | 形状:板状直方体/上端部一部欠損<br>砥面:表面・裏面下端部・左側辺<br>敲打:右側辺 | 砥面3<br>粒度:密<br>中砥(浄教寺砥石) | D~H10~12/SK4967 |
| 179 | 砥石 | 8.3     | 4.7 | 2.3 | 113.5 | 4/5 | 凝灰岩<br>白褐色<br>硬質 | 形状:板状直方体/上下端部一部欠損<br>砥面:表裏面・左右側辺              | 砥面4<br>粒度:密<br>中砥(浄教寺砥石) | 遺構面             |

## 銭貨(PL. 34 第56図)

単位: cm/g

| No  | 種類<br>台帳番号   | 法量(最大値) |     |     | 残存  | 時期            | 出土地点<br>備考 | No  | 種類<br>台帳番号     | 法量(最大値) |     |     | 残存  | 時期                  | 出土地点<br>備考  |
|-----|--------------|---------|-----|-----|-----|---------------|------------|-----|----------------|---------|-----|-----|-----|---------------------|-------------|
|     |              | 径       | 厚   | 重   |     |               |            |     |                | 径       | 厚   | 重   |     |                     |             |
| 180 | 淳熙元寶<br>3279 | 2.3     | 1.2 | 2.9 | 1/1 | 北宋<br>初鑄1174年 | 遺構面        | 186 | 元豐通寶<br>3283   | 2.2     | 1.0 | 2.9 | 1/1 | 北宋<br>初鑄1078年       | 遺構面         |
| 181 | 洪武通寶<br>3282 | 2.1     | 1.8 | 3.6 | 1/1 | 明<br>初鑄1368年  | 遺構面        | 187 | 元豐通寶<br>3283-2 | 2.2     | 1.0 | 2.2 | 1/1 | 模鑄銭<br>中世末~近世初      | 遺構面         |
| 182 | 洪武通寶<br>3280 | 2.1     | 1.2 | 3.2 | 1/1 | 明<br>初鑄1368年  | 遺構面        | 188 | 元豐通寶<br>16600  | 2.3     | 3.2 | 4.5 | 1/3 | 北宋<br>初鑄1078年       | 遺構面<br>2枚密着 |
| 183 | 洪武通寶<br>3281 | 2.5     | 1.4 | 3.4 | 1/1 | 明<br>初鑄1368年  | 遺構面        | 189 | 寛永通寶<br>16107  | 2.3     | 1.2 | 2.9 | 1/1 | 1636~<br>1655年      | 遺構面<br>古寛永  |
| 184 | 永楽通寶<br>3278 | 2.4     | 1.4 | 3.0 | 4/5 | 明<br>初鑄1408年  | 遺構面        | 190 | 寛永通寶<br>16108  | 2.1     | 1.0 | 2.0 | 1/1 | 1697~1781年<br>3期新寛永 | 遺構面<br>歪む   |
| 185 | 永楽通寶<br>3277 | 2.3     | 1.2 | 2.7 | 1/1 | 明<br>初鑄1408年  | 遺構面        | 191 | 寛永通寶<br>1169   | 2.3     | 1.0 | 2.8 | 1/1 | 1739年~              | 遺構面         |

## VIII. ま と め

**第60次調査** 諏訪館は、本来、土塁石垣で区画した館であったが、その後、庭園を作庭する際に土塁石垣を完全に埋め、築山の中を暗渠で導水したとことがあきらかになった。土塁石垣が諏訪館の区画に伴うものとした場合、館跡の区画の一部を改変して導水路を通していたことになる。

まず、上下2段で構成される諏訪館跡の地形をみると、南北70m、東西25mを測る山林中腹の段差をもつ平坦地に、北に下段庭園、南に上段庭園が配置されている。西側は崖面となり、東側は北に向かって舌状に等高線が伸びてゆく。この等高線部分が下段庭園の築山となっているが、今回の調査によって、下層に館構築時の土塁石垣が同方向に存在している可能性が強まった。導水路は標高75~77m付近の等高線沿って東に向かい、谷の水を分水して引き込んでいたと考える。館の構築時には、土塁石垣を東側に配置し、上段・下段に屋敷を構え、上段にも小規模な庭園が存在したのかもしれないが、下段に本格的な庭園を築く段階になると、かつての屋敷を廃し、土塁石垣を盛土して築山にしたと考える。その際、上段の庭園も下段に水が流れるように、石の配置等を、一部改変したのではないかと考える。

**第67次調査** 朝倉館跡の外濠は、既に昭和48年(1973)の第9次調査によって、北濠の断面規模については上幅8.5m、底幅3.6m、深さ3.4mを測ることが判明し、館跡の土塁石垣の一部と全長8.7m、幅0.7m、高さ0.7mの暗渠が確認されている。第67次調査は、さらなる外濠の規模を把握するために実施し、外濠の四隅と唐門前に1~5区の調査区を設定した。第9次調査では北濠中層の腐植土層から将棋の駒をはじめとする多種多様な遺物が出土したが、第67次調査は外濠規模を確認することを目的としたため、濠内の包含層中心部の掘削は避けて行った。第9次調査区の東に隣接する1区では北門付近で館跡の土塁石垣を検出した。3区では西濠外側の岸を部分的に確認できたが、整備工事中、西濠外側断面で一乗谷川に向かって幅5.0mの濠が確認され、外濠の導水路が確認できたことは大きな成果だった。4区では館跡南門前の土塁石垣と南門に架かる橋脚柱を2本検出し、橋脚は6.0m以上の規模と想定できた。5区では底面で館跡西門(御門)に対応する橋脚の石列らしき遺構を確認し、外濠幅は8.0mと推定された。

**第100次調査** 北から土塁石垣で区画された武家屋敷A~C群が確認され、第31次調査の成果と照合すると、武家屋敷A・B群門外の屋敷跡についての状況も把握することができた。A群は全体的に大きな削平を受けていたため、屋敷内の建物構造や配置に不明な部分を残すが、屋敷内において5間×3間の掘立柱建物1と門跡1、石積遺構7、井戸3、石敷遺構7等が検出された。また屋敷外では門跡から川に向かう道路を検出し、道路を境に北側屋敷跡、南側屋敷跡が下層に配置されていることが明らかになった。B群は、比較的遺構の残存状況が良く、礎石建物3が検出され、1つは土蔵と考えられる。その他、石積遺構3、井戸1、石敷遺構5が検出され、南越前焼大甕を複数データ埋甕遺構が検出された。C群は第31次調査で検出した土塁石垣が東西に延び、B群との境になると考えた。この土塁石垣に並行する石垣は東西道路に相当する可能性がある。遺構は、5間×3間以上の礎石建物1、石積遺構1、井戸1、石敷遺構2が検出され、遺構の配置方向は地形の制約を受け、A・B群より10°南東へ傾いていた。遺構はほぼ石組で構成されているため、切り合い関係が明瞭であり、上層を朝倉滅亡期とすると、下層に遺構面が2時期存在することが明らかになった。

**第106次調査** 南陽寺関連、瓜割清水関連の遺構が想定されたが、一面に大きく攪乱を受けていた。礎石建物をはじめ検出された遺構は、検出状況から近世~近代に属するが、朝倉期の遺物も出土し、屋敷跡や清水に関連する施設が存在した可能性は否定できない。



**第109次調査** 北に朝倉館跡、東の段丘上に中の御殿跡が存在し、検出された西側の土塁石垣の規模から朝倉家の中枢部にふさわしい、大型の武家屋敷跡が存在したことが想定されるが、畑地として大きく削れており、屋敷の規模や建物配置は確認できなかった。炭化物を多く含む不定形の大型土坑からは土師器小皿を主体とした大量の陶磁器類やサザエの貝殻が検出され、屋敷跡に関連する遺構と見れば、宴席もしくは火災後の片付けに伴う廃棄土坑と考える。北東側に位置する朝倉館跡に接続する門跡については確認できなかった。

今回の報告書は、遺構については事実記載を重視し、遺物も未発表となっている資料をなるべく掲載するようにした。これは、既に発掘調査から20～30年以上経過した、大量の遺物や未整理の遺構図を眼前にして、最初に決めた方針である。ただ、遺構図は全体測量図のみで、検出した井戸、石積遺構、土塁の実測図等は皆無に等しく、戦国期の遺構を研究する資料として、本書でその責務を果たせていない点があれば、関係者は批判を受けねばならない。第100次調査では、一乗谷川左岸の武家屋敷の全貌を示したが、調査の成果を踏まえた考察や展望については今後の研究で輪郭を与えていきたい。

## 参考文献

## III. 第60次調査関連

- 1 福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館『特別展 戦国城下町研究の最前線』福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館 平成13年7月
- 2 朝倉氏遺跡調査研究所編『特別史跡一乗谷 朝倉氏遺跡発掘調査報告』I 一朝倉館跡の調査一 福井県教育委員会 昭和59年3月
- 3 福井県立朝倉氏遺跡資料館編『特別史跡 一乗谷朝倉氏遺跡』XIX 一昭和62年度発掘調査整備事業概報一 福井県立朝倉氏遺跡資料館 昭和63年3月
- 4 福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館編『第19回特別展 戦国一乗谷の庭園』一伝統と革新の庭園デザイン一 福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館 平成24年8月
- 5 朝倉氏遺跡調査研究所編『特別史跡一乗谷朝倉氏遺跡』I 一発掘整備10周年記念展一 岡島美術記念館 昭和51年10月

## IV. 第67次関連

- 6 朝倉氏遺跡調査研究所編『特別史跡一乗谷朝倉氏遺跡』V 一昭和48年度発掘調査整備事業概報一 昭和49年3月
- 7 福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館編『特別史跡一乗谷朝倉氏遺跡発掘調査報告』IV 一第15・25・24次調査一 福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館 平成5年3月

## V. 第100次関連

- 8 福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館編『特別史跡 一乗谷朝倉氏遺跡』一平成9年度発掘調査環境整備事業概要(29)一 福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館 平成10年3月
- 9 福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館編『発掘調査開始30周年 特別史跡指定25周年記念特別展 眠りからさめた戦国の城下町』福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館 平成9年7月
- 10 福井県立朝倉氏遺跡資料館編『特別史跡一乗谷朝倉氏遺跡 県道鯖江・美山線改良工事に伴う発掘調査報告』福井県教育委員会 昭和58年3月
- 11 福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館編『特別史跡 一乗谷朝倉氏遺跡発掘調査報告』VI 一第29・30次 第57・58次 第83次一福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館 平成9年3月

## VI. 第106次関連

- 12 福井県教育庁埋蔵文化財調査センター編『特別史跡一乗谷朝倉氏遺跡発掘調査報告』12 第64・65次調査(南陽寺) 福井県教育庁埋蔵文化財調査センター 平成28年3月
- 13 福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館編『特別史跡一乗谷朝倉氏遺跡』平成11年度発掘調査環境整備事業概報(31) 福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館 平成12年3月
- 14 福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館編『特別史跡一乗谷朝倉氏遺跡』33 平成13年度発掘調査・環境整備事業概報 福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館 平成14年3月

## VII. 第109次関連

- 15 福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館編『特別史跡一乗谷朝倉氏遺跡』32 平成12年度発掘調査・環境整備事業概報 福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館 平成13年3月

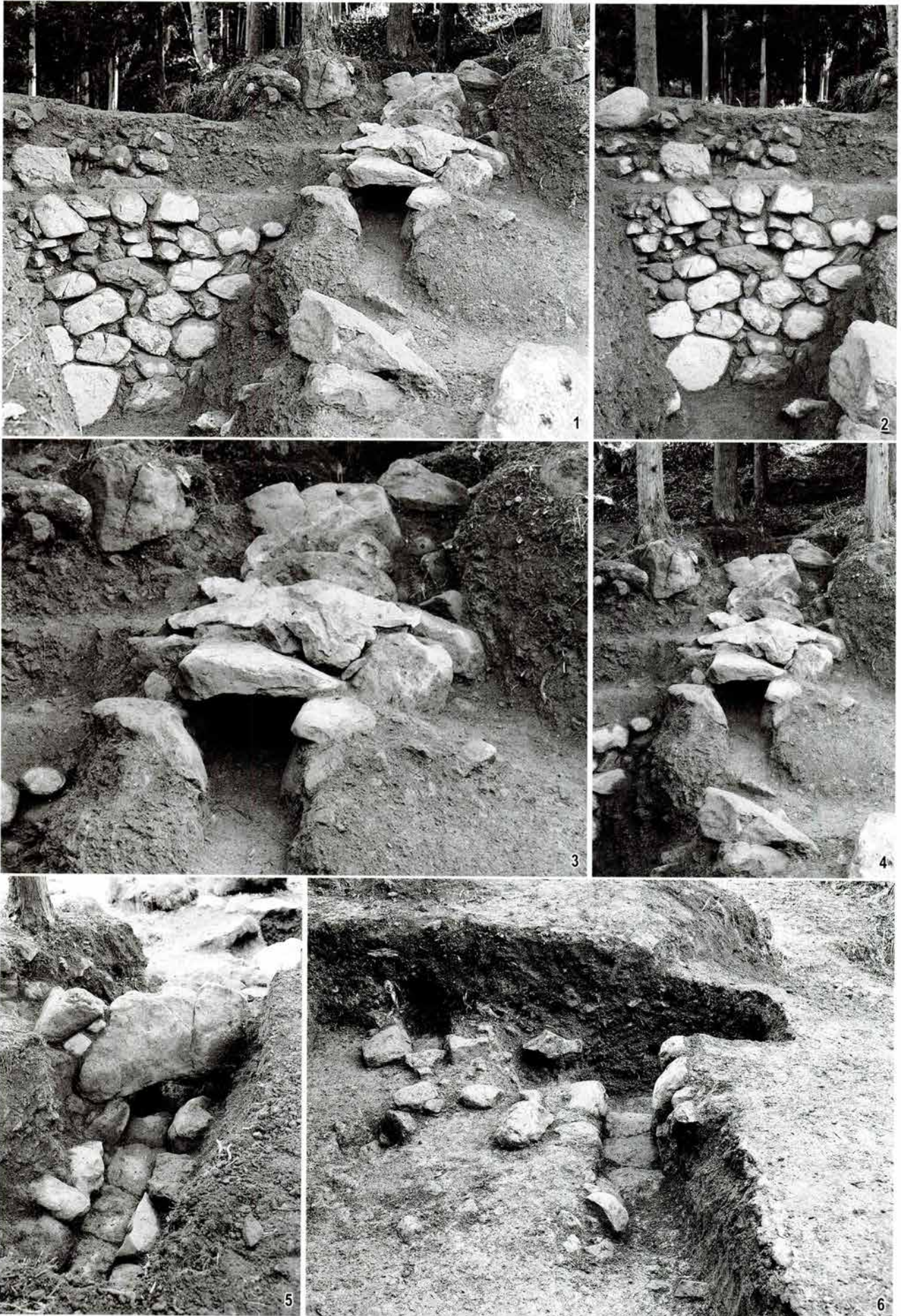
# 写 真 图 版



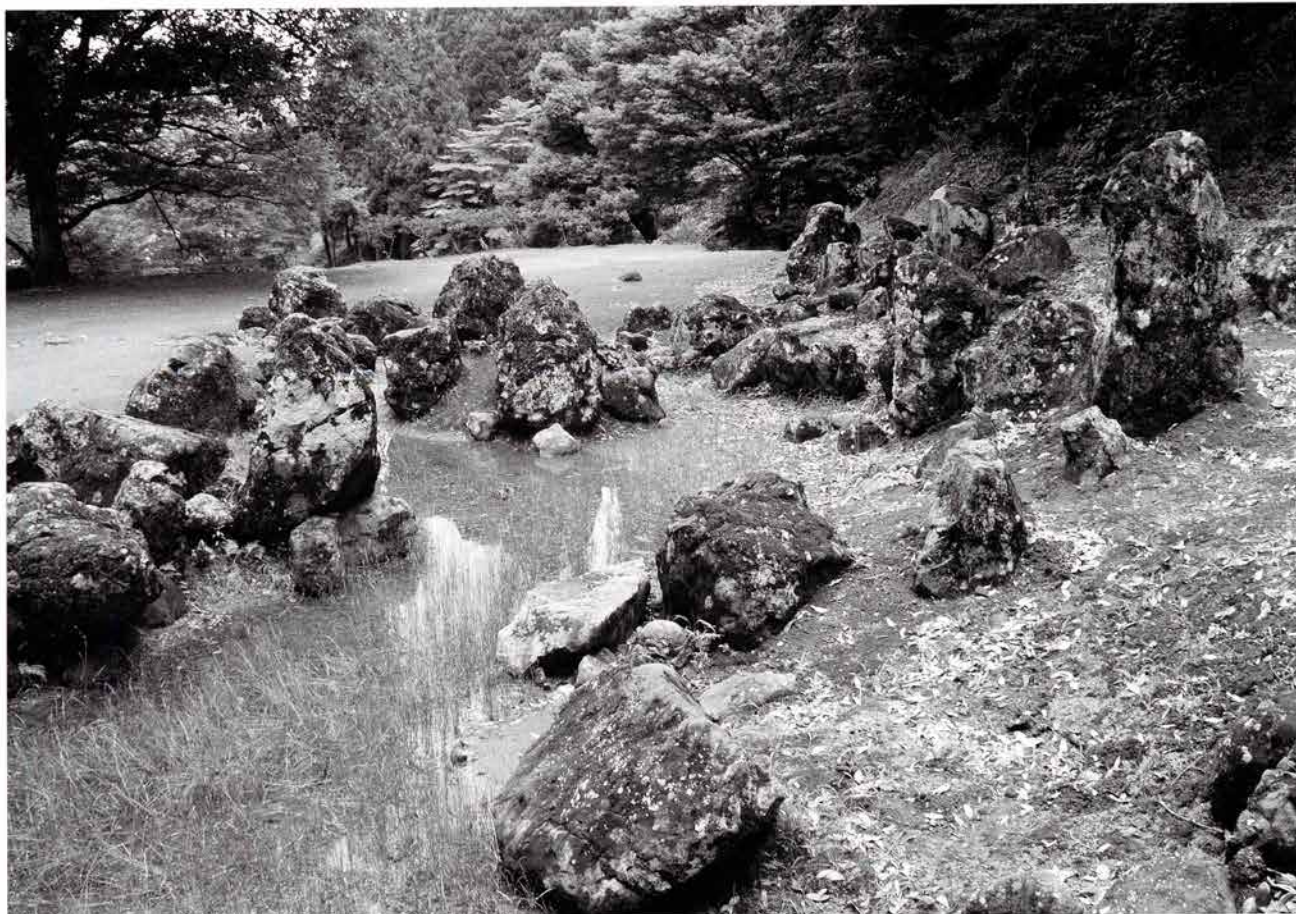
(1) 第60次調査1区 諏訪館跡庭園下段(北東から)



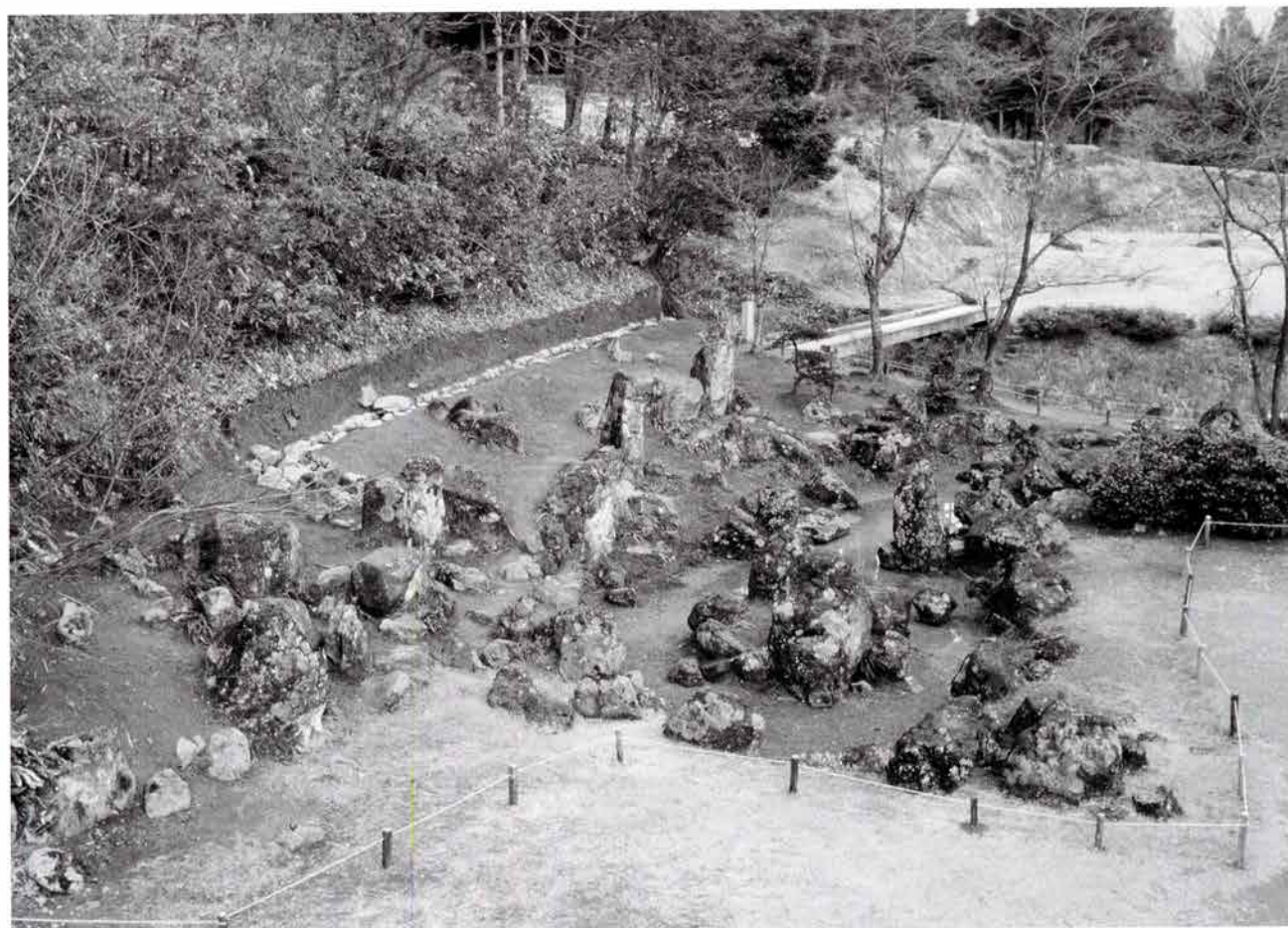
(2) 第60次調査1区 諏訪館跡庭園上段(東から)



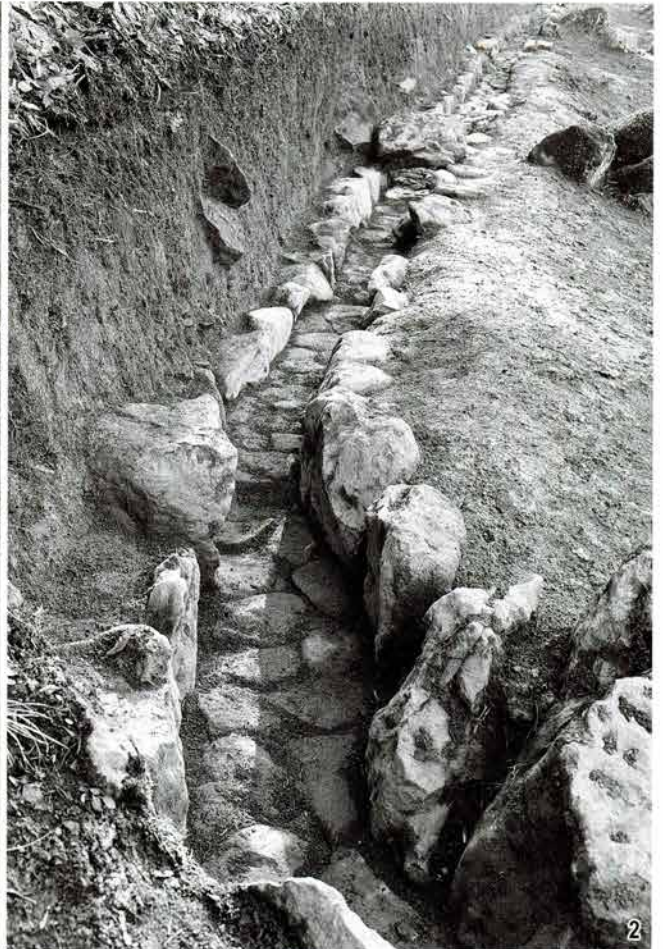
(1)庭園上段導水路(北東から) (2)庭園上段土墨石垣(西から) (3)庭園上段導水路(北西から)  
(4)庭園上段導水路(北西から) (5)庭園上段導水路(南東から) (6)庭園上段導水路(南東から)



(1) 第60次調査2区 湯殿跡庭園(南から)



(2) 第60次調査2区遺構全景(北東から)



(1)庭園導水路(北から) (2)庭園導水路(北東から) (3)庭園導水路(北東から)  
(4)庭園導水路口手前屈曲部(東から) (5)庭園導水路口(北東から)



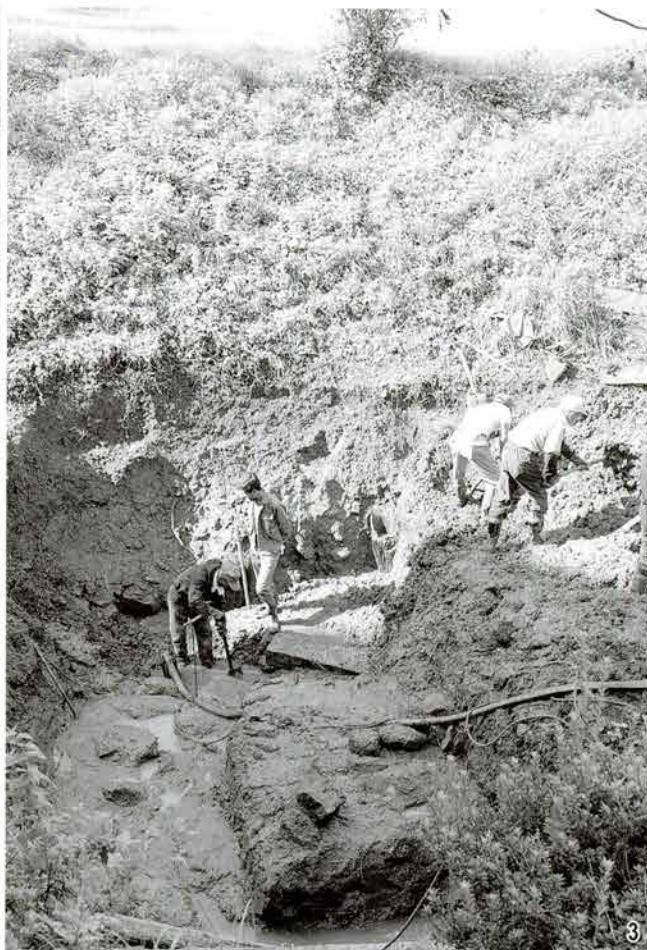
(1) 第67次調査区 朝倉館跡外濠遠景(北西から)



(2) 館跡外濠1区(南東から)



(3) 館跡外濠1区(南東から)



(1)館跡外濠2区(北東から) (2)館跡外濠3区石垣(北東から) (3)館跡外濠4区(東から)  
 (4)館跡外濠4区石垣(南西から) (5)館跡外濠4区出土笏谷石(南から) (6)館跡外濠5区唐門前石垣(北西から)  
 (7)館跡外濠5区唐門前石垣(北から)





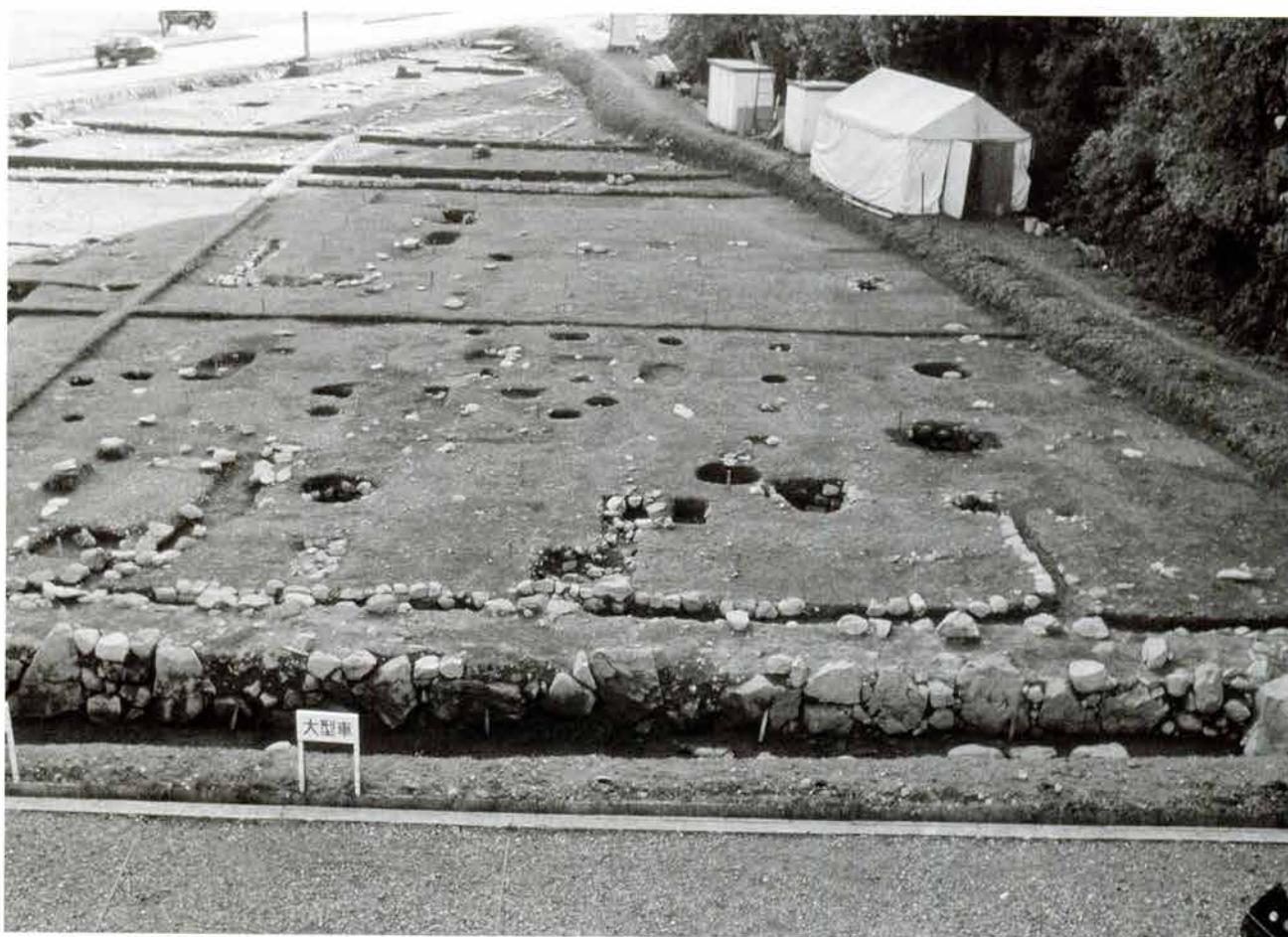
(1) 第100次調査区遠景(北東から)



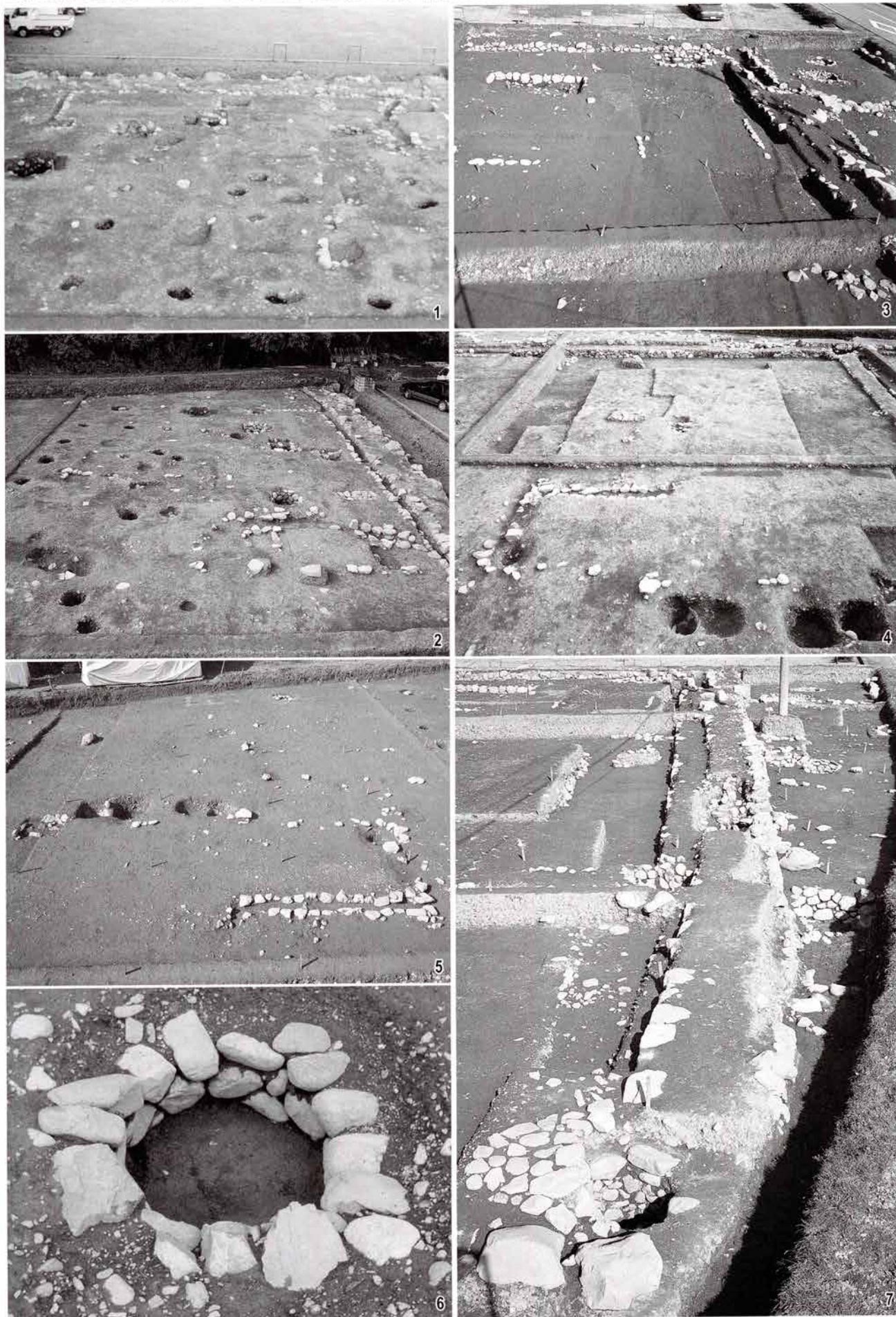
(2) 第100次調査区遺構全景(南東から)



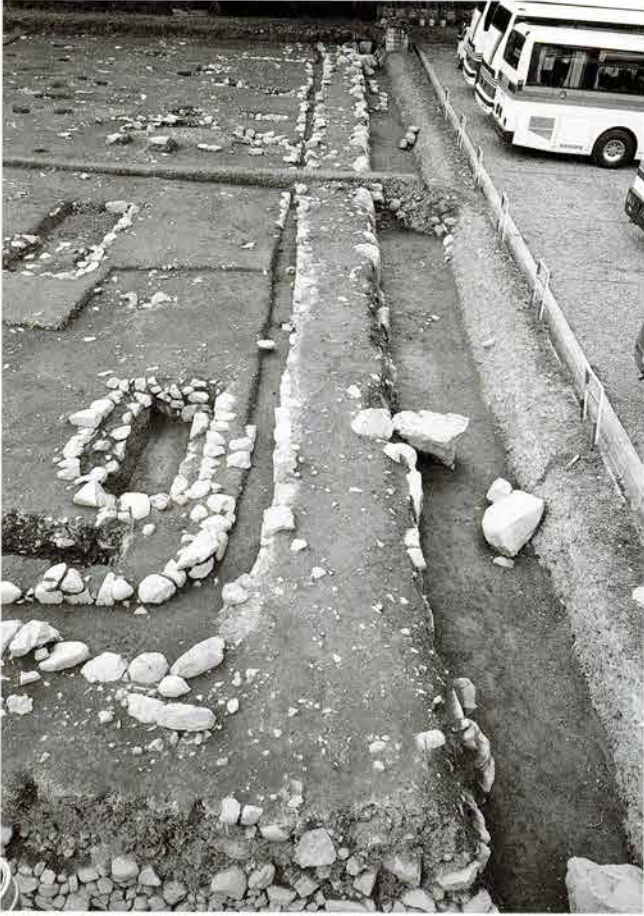
(1) 第100次調査区東側遺構全景(北東から)



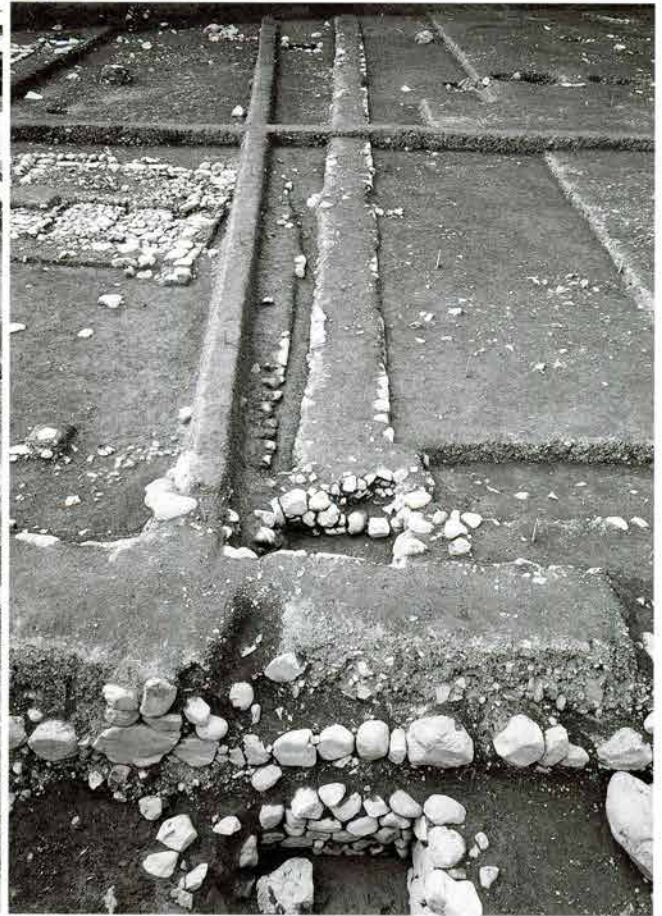
(2) 第100次調査区西側遺構全景(北東から)



(1)SB4634(南西から) (2)武家屋敷A群北端遺構全景(南東から) (3)武家屋敷A群北東隅遺構全景(南西から)  
(4)武家屋敷A群南東側遺構全景(北西から) (5)SD4644、SS4684、SX4692(南東から) (6)SE4648(南東から)  
城戸ノ内町字川合殿・藤兵衛川原 武家屋敷A群



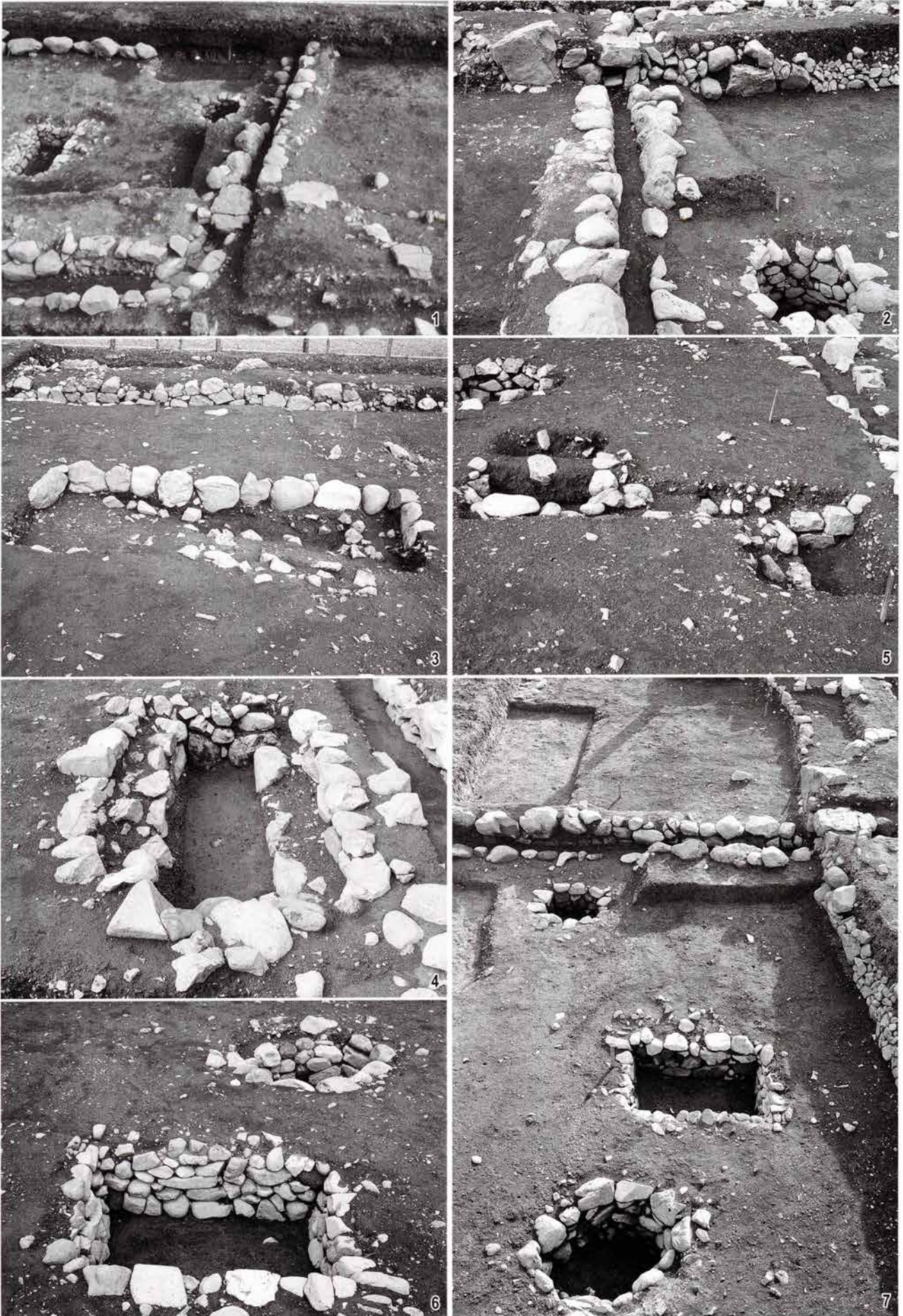
(1)北側土塁石垣SA4631(南東から)



(2)南側土塁石垣SA4633(南東から)



(3)東側土塁石垣SA4632内SI4668(北西から)



(1)東側土塁石垣SA4633、SD1439(北西から) (2)SD1439(南東から) (3)SF4652(南西から) (4)SF4653(南東から)  
(5)SF4654・4656(南東から) (6)SE4651、SF4657(南西から) (7)SS1425、SD1439、SE1455・4651、SF4657(北東から)



(1) 東側土塁石垣SA4632下層遺構SF4662・1474(南から)



(3) SF4658~4661(南から)



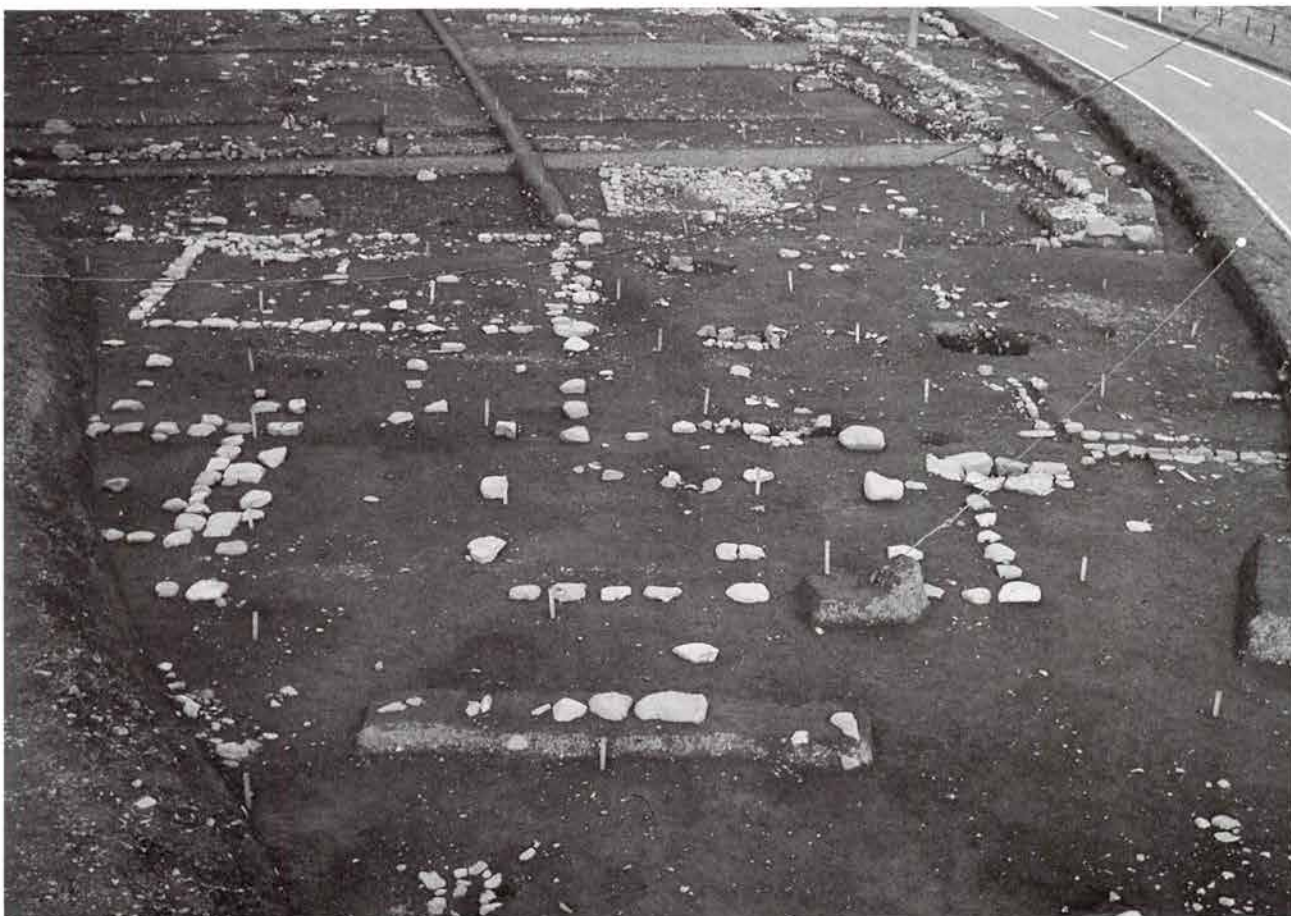
(2) 東側土塁石垣SA4632下層遺構SF4663(南西から)



(4) 東側土塁石垣SA4632下層遺構SF4663・1475(南東から)



(1) 武家屋敷B群遺構全景(北東から)



(2) 武家屋敷B群遺構全景(南西から)



(1)SB4635、SX4697(南東から)



(2)SB4636、SX4699(南東から)

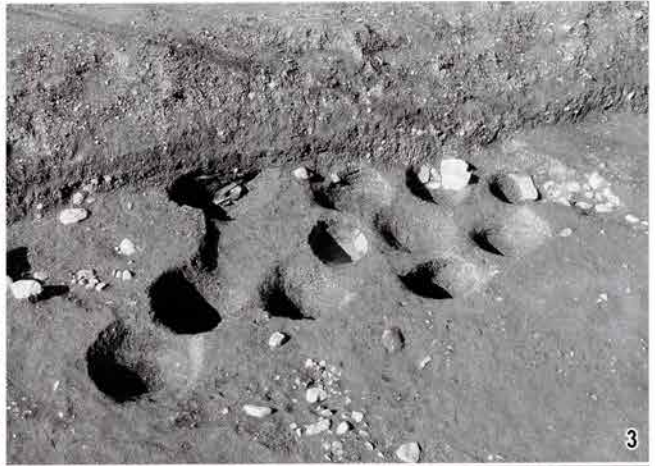




(1)SB4637、SE4649(南東から)



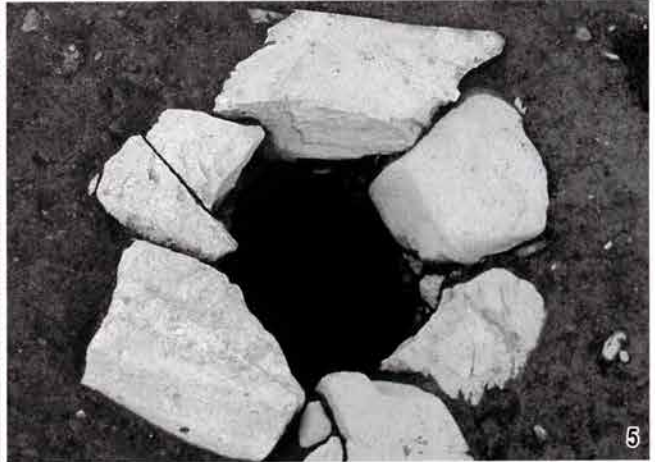
2



3



4



5

(2)SB4637、SF4666、SX4708(北東から) (3)SK4672(東から) (4)SF4666(北東から) (5)SE4649(南東から)



(1) 武家屋敷C群遺構全景(南西から)



(2) SE4650(南東から) (3) SX4707(南東から) (4) SX4706(南東から)



(1) 第106次調査区遺構全景(北西から)



2

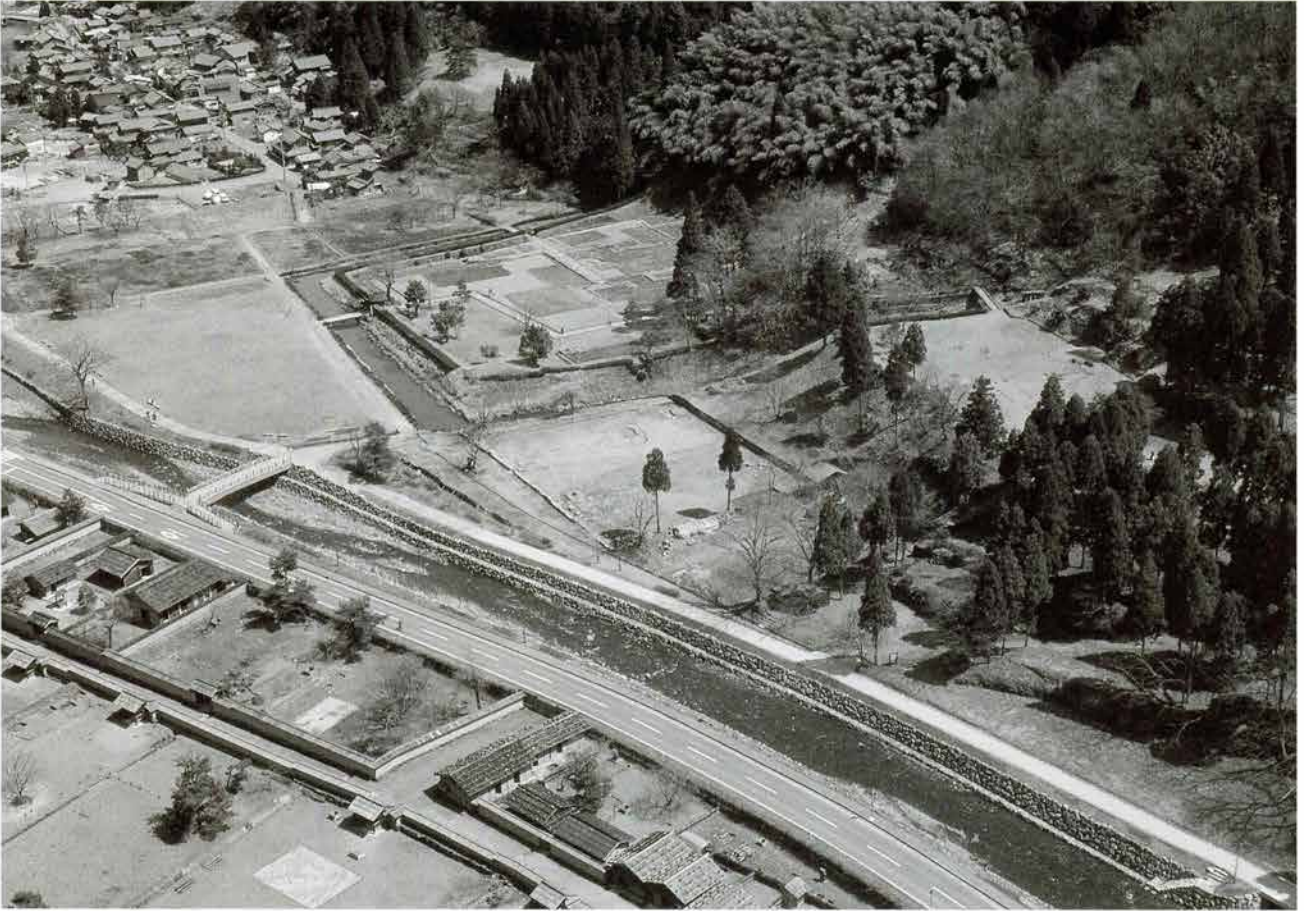


3



4

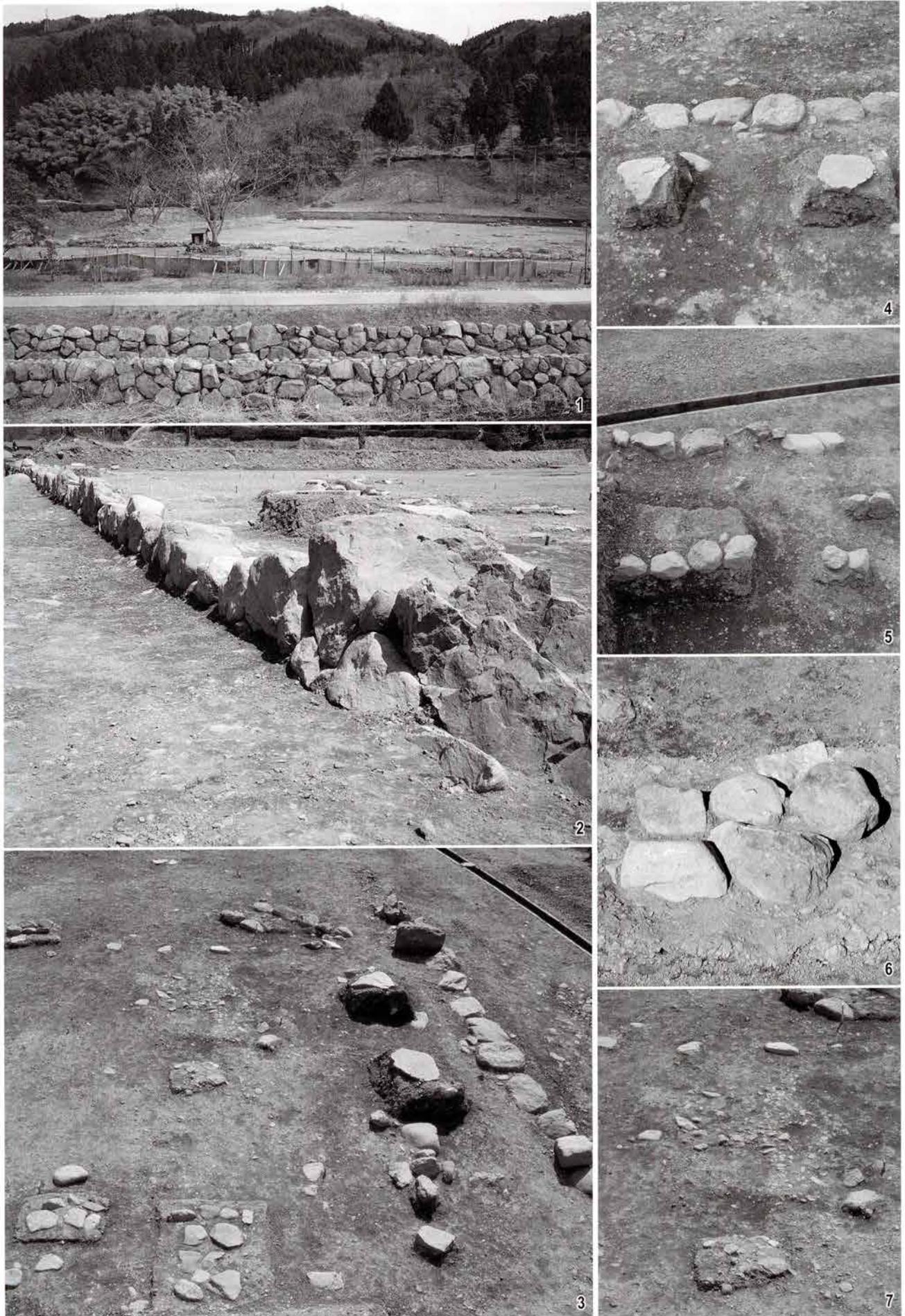
(2) 調査区遺構全景(南から) (3) 調査区北東隅遺構全景(西から) (4) 調査区南西隅遺構全景(西から)



(1) 第109次調査区遠景(南西から)



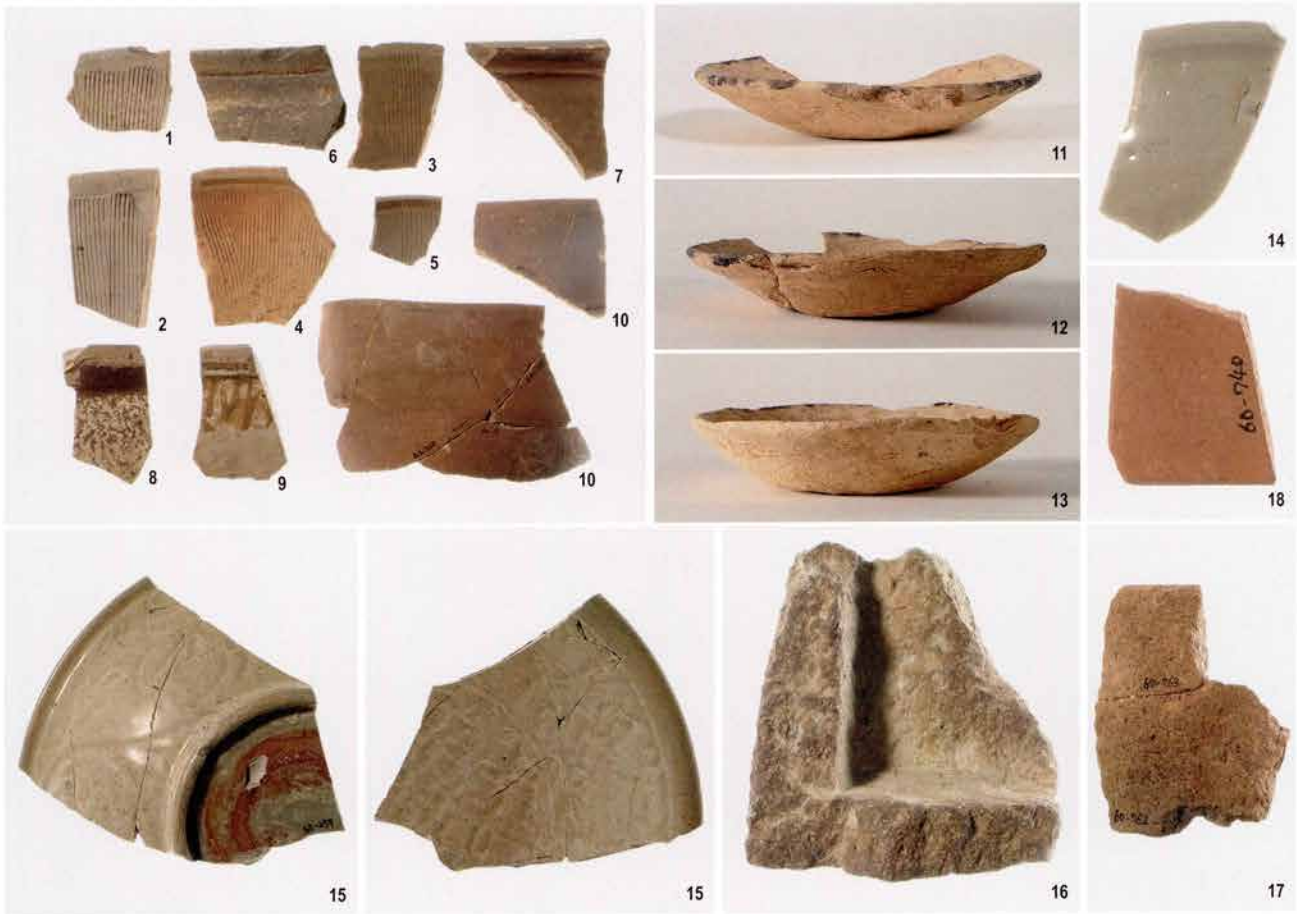
(2) 第109次調査区遺構全景(南東から)



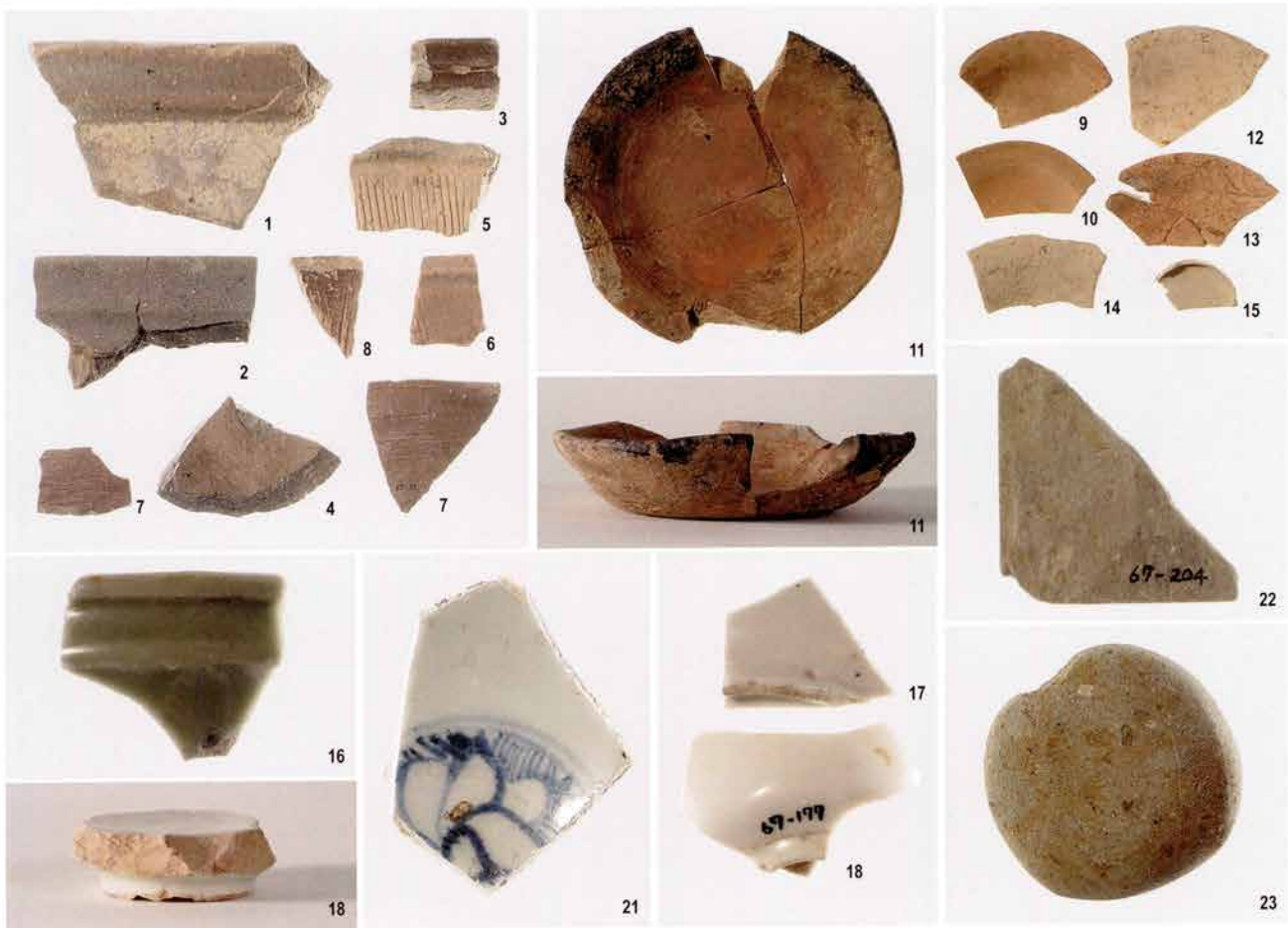
(1) 第109次調査区遺構遠景(北西から) (2) SA4952(南西から) (3) 調査区南西側遺構全景(南東から)  
(4) SI4953(南東から) (5) SA4954(南東から) (6) SX4958(北東から) (7) SX4959(北東から)



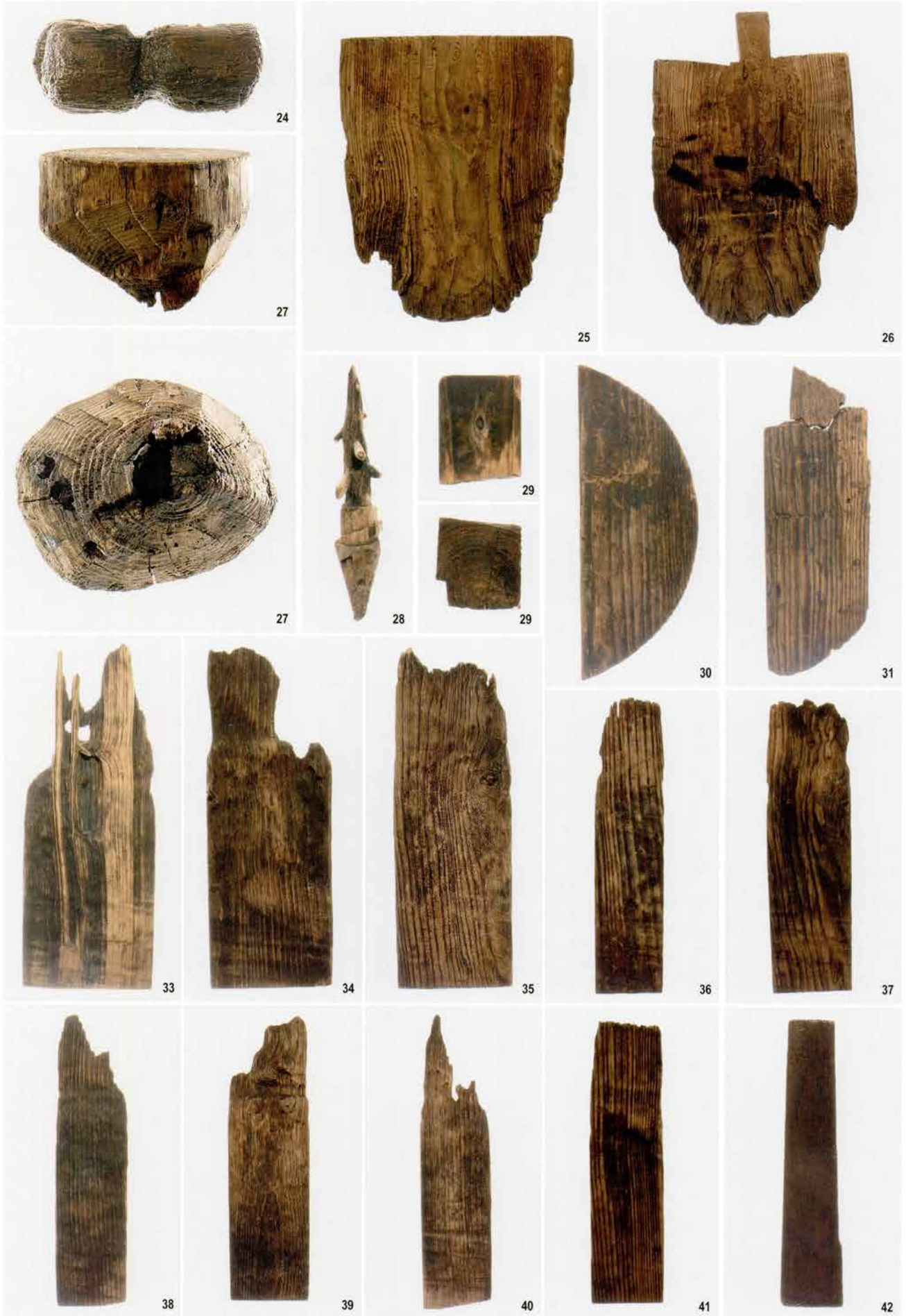
(1)SX4956・4957(北東から) (2)SA4960(西から) (3)SF4961(北東から) (4)SF4962(北東から)  
 (5)SF4963(南東から) (6)SK4967(北西から) (7)SE4955(南東から)



(1) 第60次調査出土陶磁器類、石製品

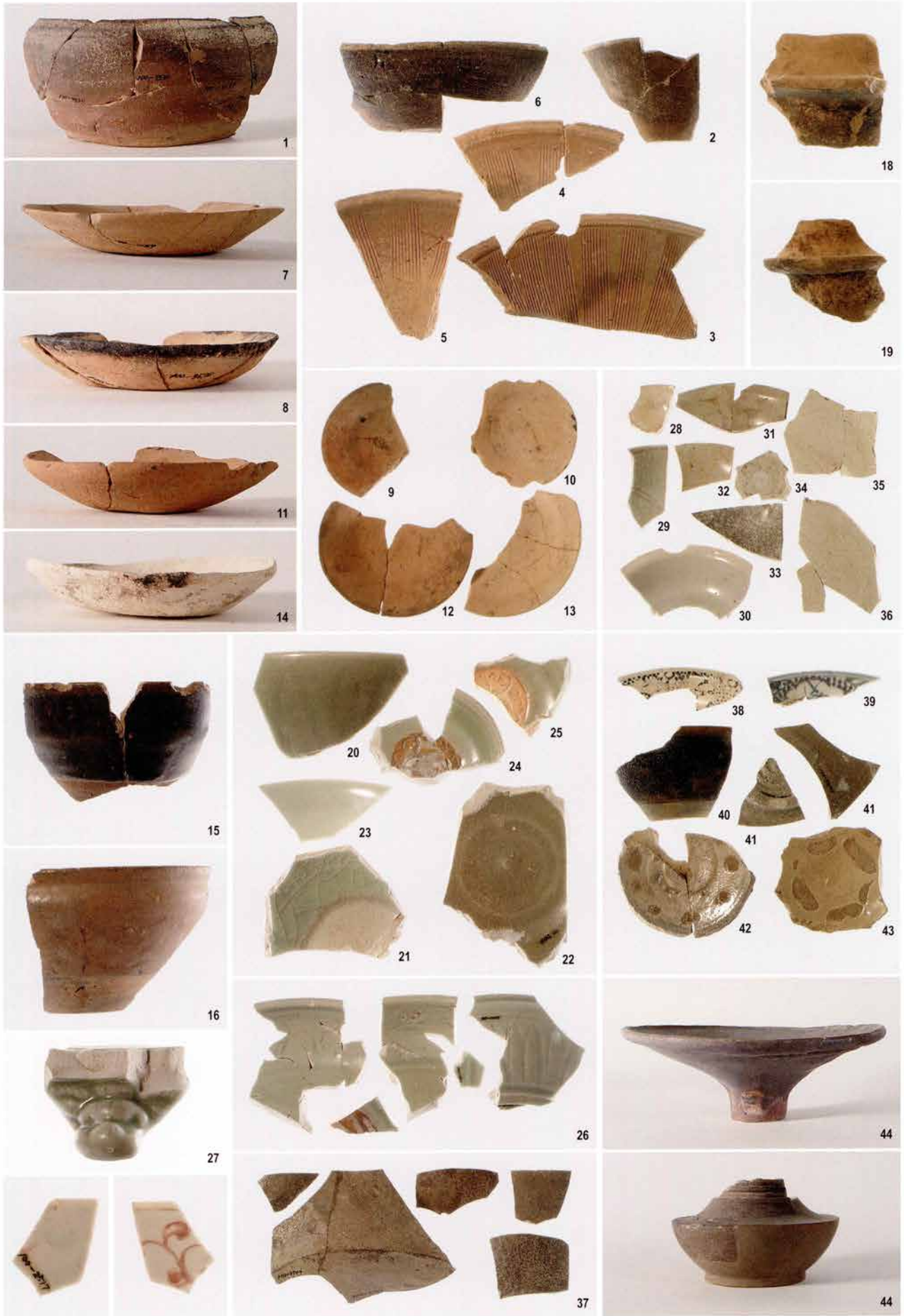


(2) 第67次調査出土陶磁器類、石製品

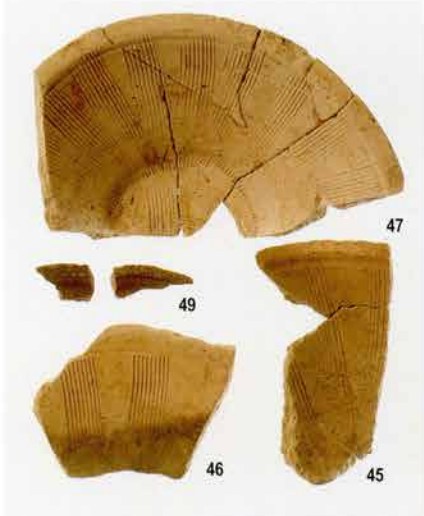


(1) 第67次調査出土木製品





(1) 武家屋敷A群包含層出土陶磁器類



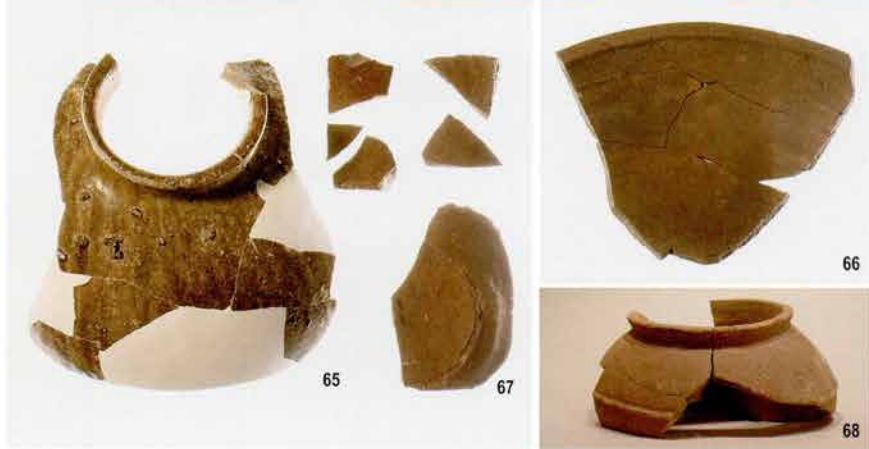
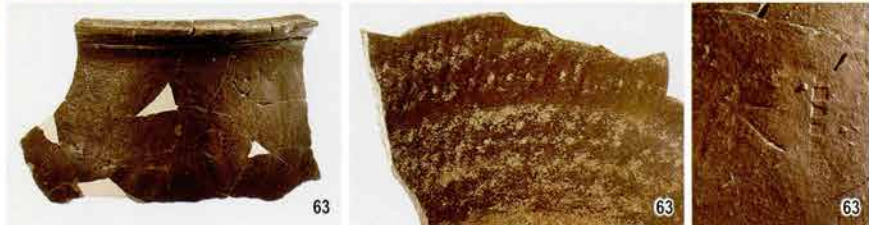
(1)SA4631出土越前焼播鉢他



(4)SS4684出土土師器小皿

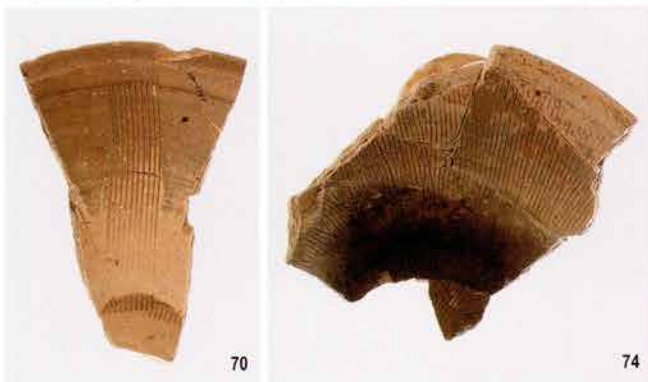


(2)SA4632出土陶磁器類



(3)SF4653・4658出土陶磁器類

(5)SK4669出土越前焼大甕・壺・捏鉢



(1)SF4660出土  
越前焼播鉢

(4)武家屋敷B郡SE4649出土  
越前焼播鉢



75



(2)SK4683出土越前焼大甕



76

76



76

76



72

73

74



77

78

77

78



80



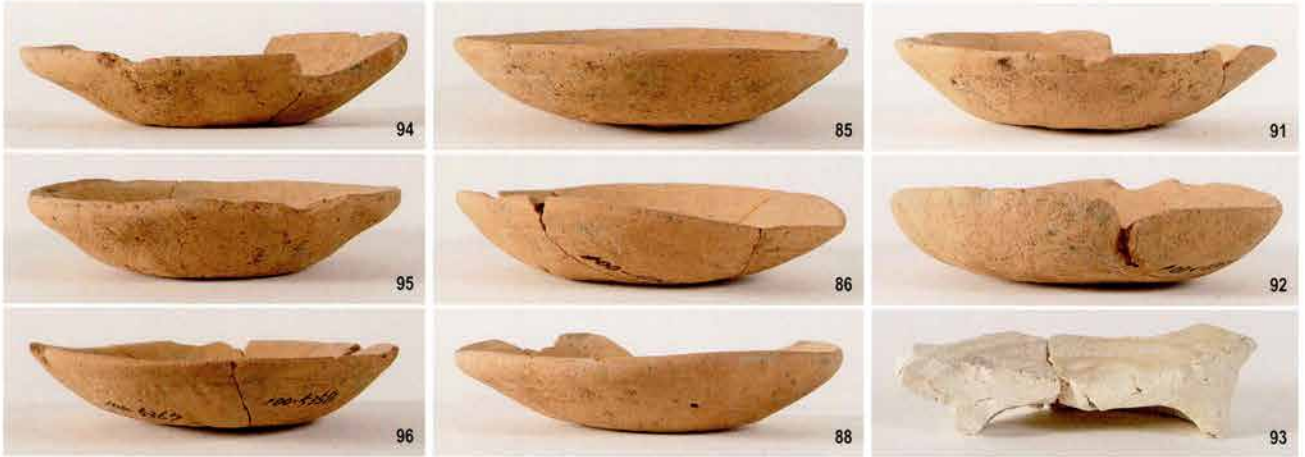
79

(3)SK4678出土陶磁器類

(5)武家屋敷B郡SK4672出土陶磁器類

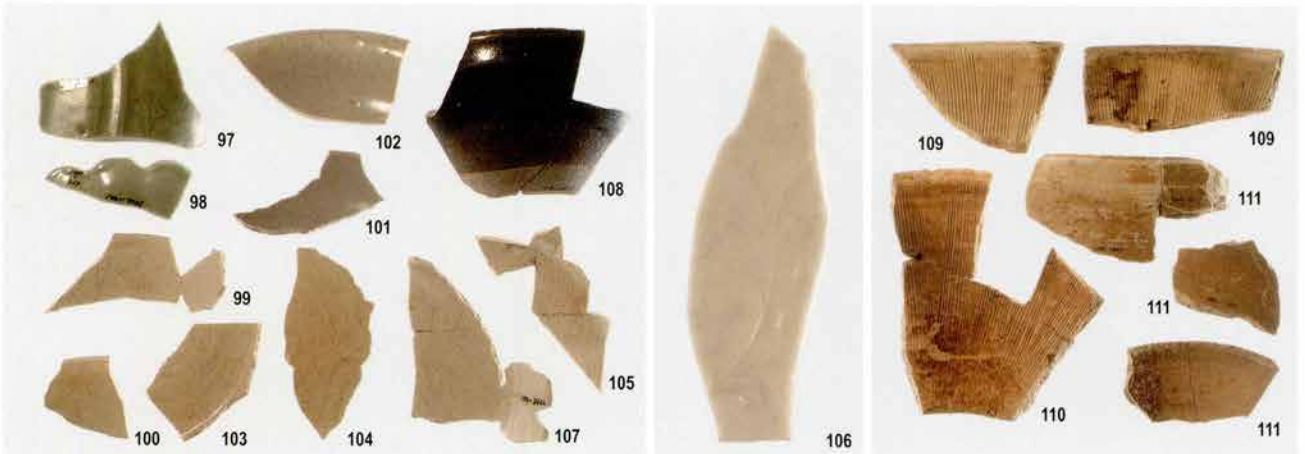


(1)SE4646出土青磁輪花皿



(2)SD4644出土土師器小皿

(4)SX4692出土土師器小皿・4695出土朝鮮白磁碗



(3)SD4642出土青磁盤・輪花皿、白磁碗・皿・中国製天目碗

(5)武家屋敷B群包含層出土越前焼鉢類



(6)武家屋敷B群包含層出土土師器小皿



(1) 武家屋敷B群包含層出土陶磁器類



(1) 武家屋敷B群包含層出土陶磁器類



200



204

205

206



207



208

(3) SA4632出土染付皿

(4) SF4663出土土師器小皿



200



200



209



212



210



211



201

202



203

(2) SB4635出土越前焼大甕、白磁皿、染付皿

(5) SF4664出土陶磁器類

(6) SK4671出土灰釉小皿



(1)SK4672出土越前焼大甕



(1)SK4672出土越前焼大甕



(3)SK4672出土越前焼壺、武家屋敷C群出土陶磁器類、土製品

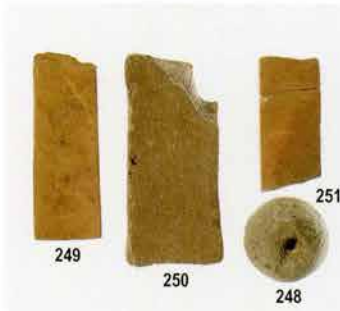


(2)224押印文

(5)第100次調査出土勾玉

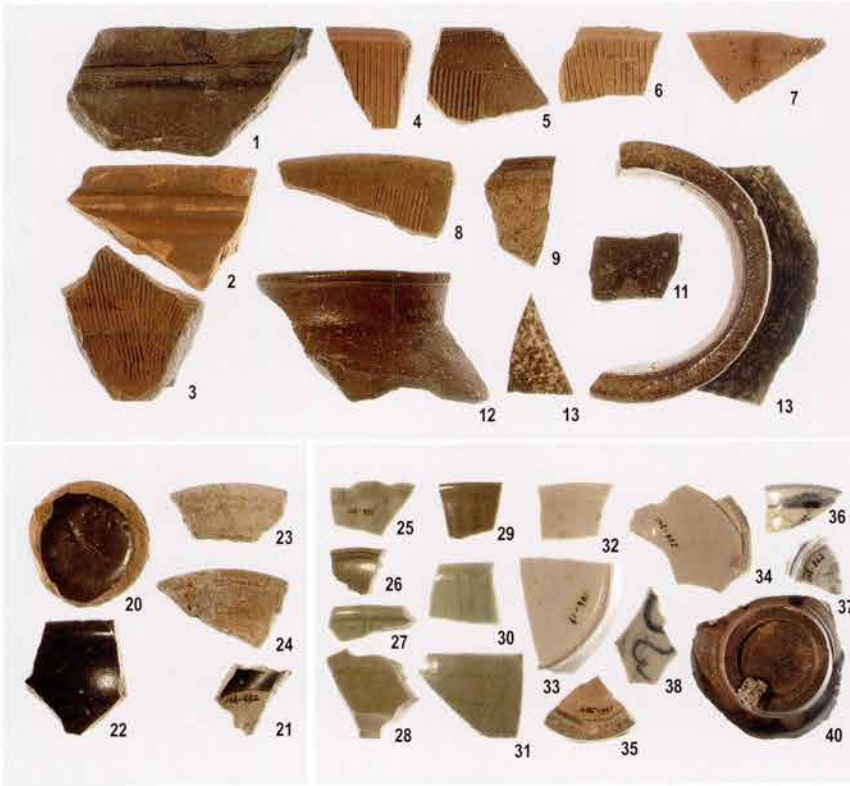


(4)第100次調査出土金属器



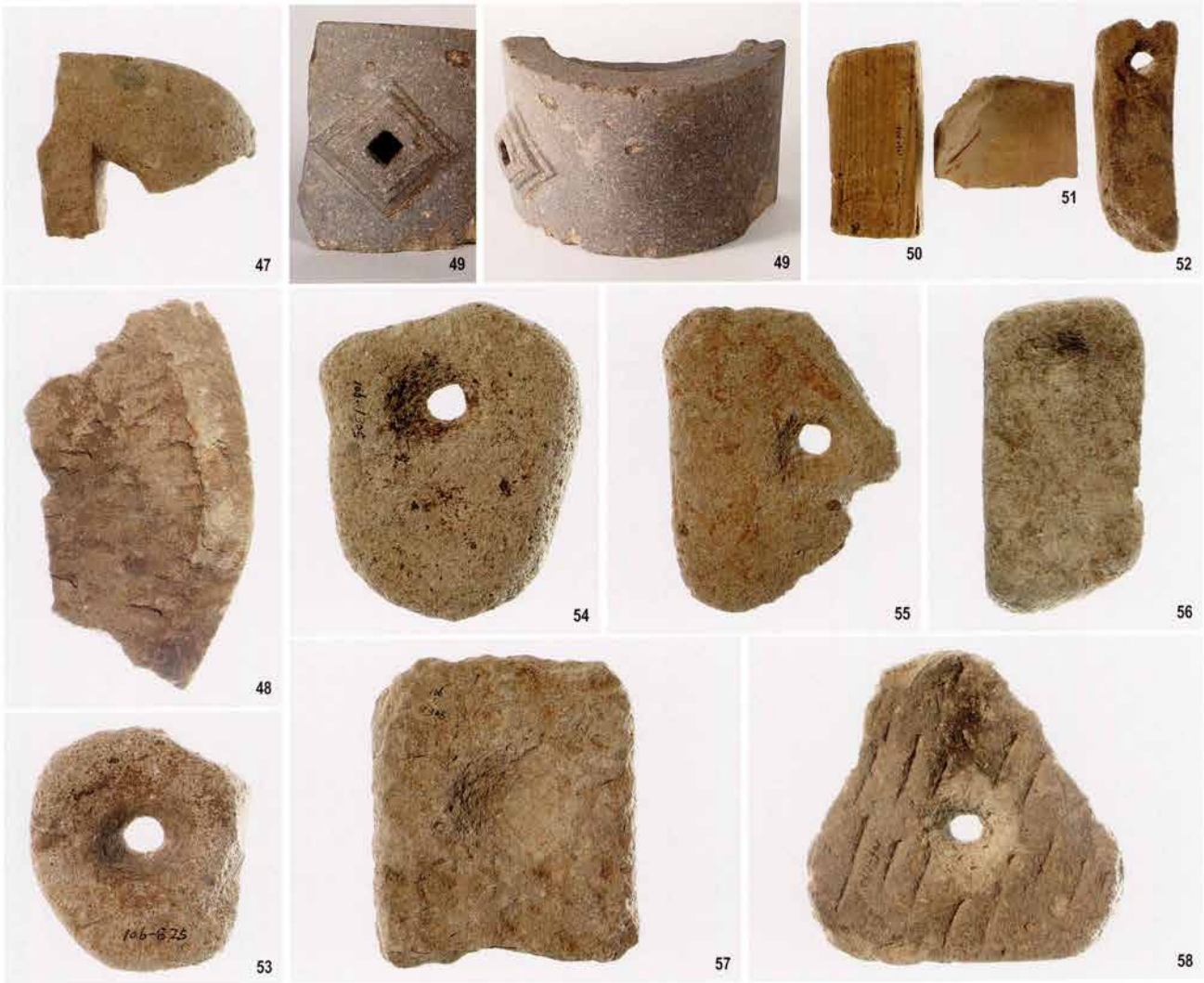
(6)第100次調査出土石製品





(1) 第106次調査出土陶磁器類土器

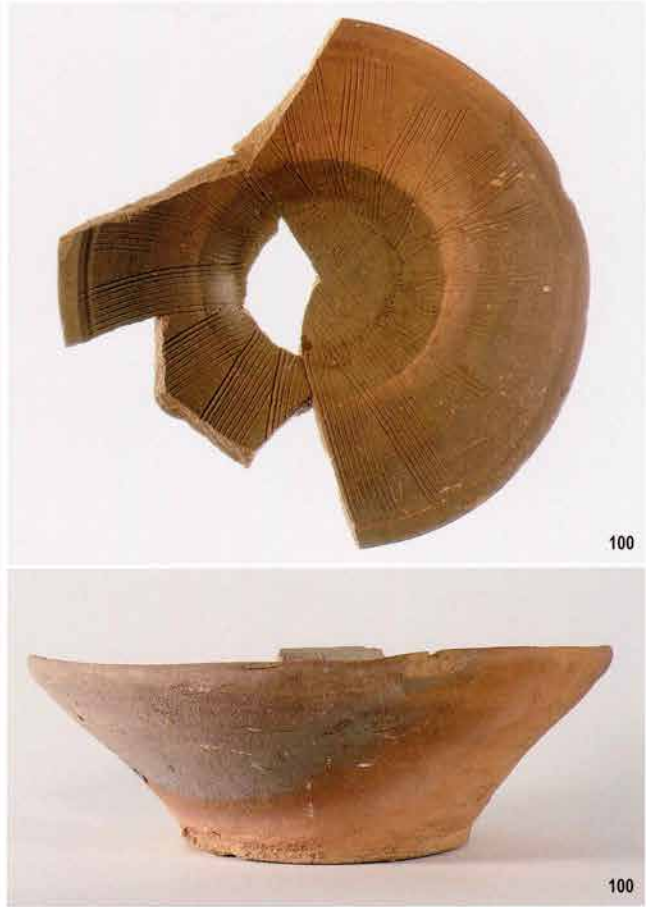
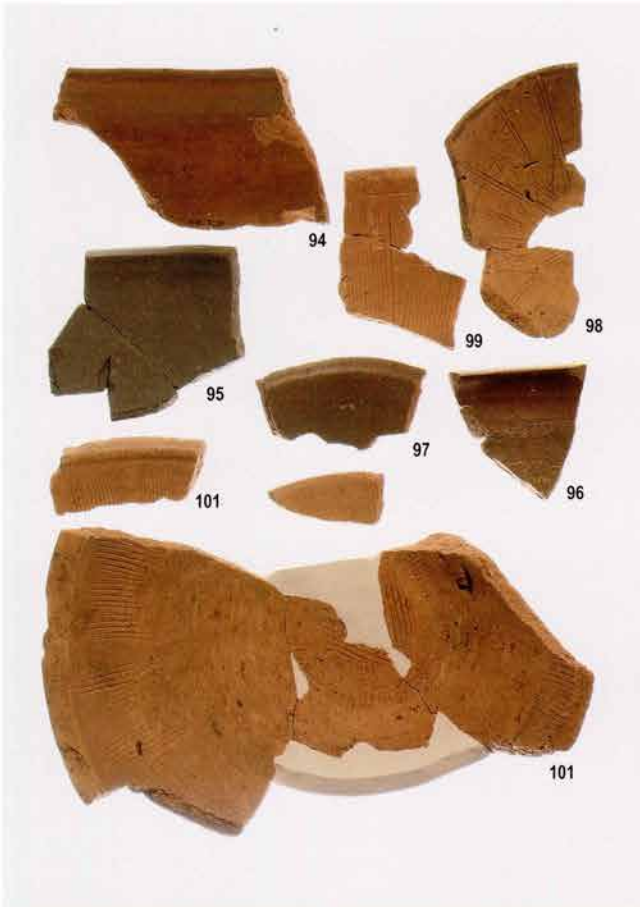
(2) 第106次調査出土金属器



(3) 第106次調査出土石製品



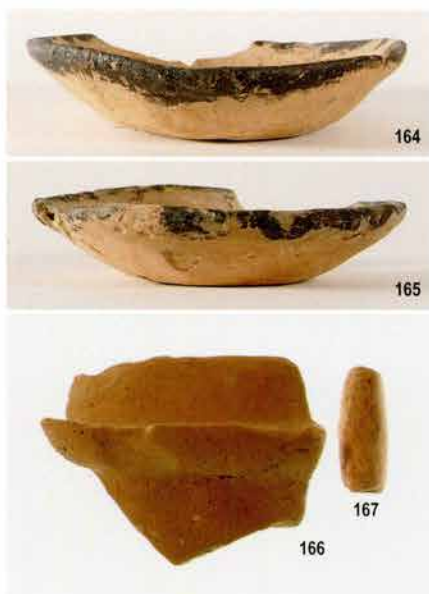
(1) 包含層出土陶磁器類



(1)SK4967出土越前焼甕・鉢類・土師器小皿



(1)SK4967出土陶磁器類



(2)SF4955出土土師器小皿・羽釜



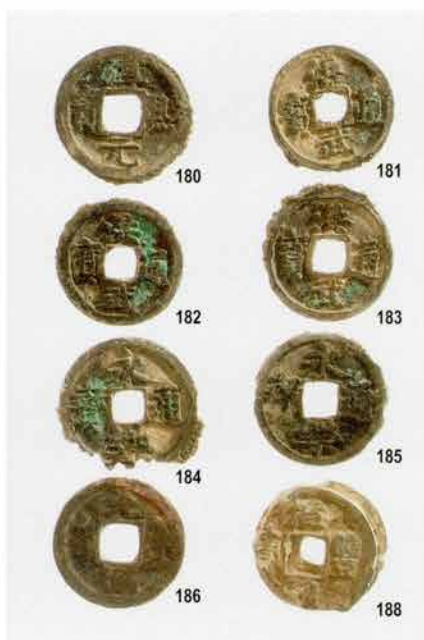
(3)SK4967出土貝殻



(4)第109次調査出土石製品



(5)第109次調査出土金属器



(6)第109次調査出土銭貨

## 報告書抄録

|        |   |
|--------|---|
| ふりがな   | とくべつしせき いちじょうだにあさくらしいせきはつかつちようさほうこく       |
| 書名     | 特別史跡 一乗谷朝倉氏遺跡発掘調査報告 18                    |
| 副書名    | 第60・67・100・106・109次発掘調査                   |
| シリーズ番号 | 18  |
| 編著者名   | 鈴木篤英 川越光洋                                 |
| 編集機関   | 福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館                           |
| 所在地    | 〒910-2152 福井県福井市安波賀町4-10 TEL.0776-41-2301 |
| 発行年月日  | 令和2年3月25日                                 |

| 調査地区         | 所在地                             | コード   |      | 北緯                | 東経                 | 調査期間   | 調査面積  | 調査原因            |
|--------------|---------------------------------|-------|------|-------------------|--------------------|--|---|-----------------|
|              |                                 | 市町村   | 遺跡番号 |                   |                    |  |   |                 |
| 第60次<br>1区   | 福井県福井市城戸ノ内町<br>【諏訪館跡庭園】         | 18210 | 史—31 | 36度<br>00分<br>07秒 | 136度<br>17分<br>50秒 | 19871208～<br>19871224<br>(1・2区)                | 70 m <sup>2</sup><br>(1・2区)                               | 環境整備に伴う<br>発掘調査 |
| 〃<br>2区      | 福井県福井市城戸ノ内町<br>【湯殿跡庭園】          | 〃     | 〃    | 36度<br>00分<br>07秒 | 136度<br>00分<br>07秒 | 〃  | 〃   | 〃               |
| 第67次<br>1～5区 | 福井県福井市城戸ノ内町<br>【宇新御殿<br>朝倉館跡外濠】 | 〃     | 〃    | 35度<br>59分<br>58秒 | 136度<br>17分<br>42秒 | 19890908～<br>19891007<br>19900110～<br>19900111 | 300 m <sup>2</sup><br>(1～4区)<br>30 m <sup>2</sup><br>(5区) | 〃               |
| 第100次        | 福井県福井市城戸ノ内町<br>【宇川合殿、藤兵衛河原】     | 〃     | 〃    | 36度<br>59分<br>37秒 | 136度<br>17分<br>44秒 | 19970401～<br>19971221                          | 2,600 m <sup>2</sup>                                      | 〃               |
| 第106次        | 福井県福井市城戸ノ内町<br>【宇瓜割流】           | 〃     | 〃    | 36度<br>00分<br>03秒 | 136度<br>17分<br>48秒 | 19991102～<br>19991201                          | 225 m <sup>2</sup>  | 〃               |
| 第109次        | 福井県福井市城戸ノ内町<br>【宇新御殿】           | 〃     | 〃    | 35度<br>56分<br>40秒 | 136度<br>17分<br>42秒 | 20000815～<br>20001220                          | 2,000 m <sup>2</sup>                                      | 〃               |

| 調査地区               | 種別       | 主な時代             | 主な遺構  | 主な遺物                                    | 特記事項  |
|--------------------|----------|------------------|---|---|---|
| 第60次<br>第1区<br>第2区 | 庭園跡<br>〃 | 室町・戦国<br>15・16世紀 | 庭園導水路、石垣<br>庭園導水路 排水路                             | 第1区…越前焼、土師質皿、青磁盤、白磁皿、石盤、バンドコ            | 1区…諏訪館庭園作庭以前の石垣確認<br>2区…導水路確認<br>概報：『特別史跡一乗谷朝倉氏遺跡』XIX 昭和63年3月 |
| 第67次<br>第1～5区      | 館跡       | 〃                | 外濠、土塁石垣   | 越前焼、土師質皿、青磁、染付、朝鮮陶磁器、砥石、不明石製品、木錘、部材、桶材  | 概報：『特別史跡一乗谷朝倉氏遺跡』21 平成2年3月                                    |
| 第100次              | 武家屋敷跡    | 〃                | 土塁石垣4、礎石建物5、掘立柱建物1、門1、道路2、埋甕遺構2、溝6、井戸7、石積遺構13、土蔵1 | 越前焼、土師質皿、瀬戸美濃焼、青磁、白磁、染付、外国産陶磁器、土鈴、硬玉製勾玉 | 3区画の武家屋敷A～C群を確認。<br>概報：『特別史跡一乗谷朝倉氏遺跡』29 平成10年3月               |
| 第106次              | 屋敷跡      | 〃                | 礎石建物2、石敷遺構1、道路1、溝1                                | 越前焼、土師質皿、青磁、染付、朝鮮陶磁器、砥石、不明石製品           | 概報：『特別史跡一乗谷朝倉氏遺跡』31 平成12年3月                                   |
| 第109次              | 武家屋敷跡    | 〃                | 土塁石垣2、門1、道路1、井戸1、廃棄土坑1                            | 越前焼、土師質皿、瀬戸美濃焼、青磁、白磁、染付                 | 大型の土坑を確認。<br>概報：『特別史跡一乗谷朝倉氏遺跡』32 平成13年3月                      |

令和2年3月18日 印刷

令和2年3月25日 発行

特別史跡

## 一乗谷朝倉氏遺跡発掘調査報告 18

第60・67・100・106・109次調査

編集 福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館  
発行 福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館  
〒910-2152 福井市安波賀町4-10  
印刷 白崎印刷株式会社